

授業に関すること

I	単位制度と履修	2
II	授 業	3
III	履修登録	4
IV	特別な履修登録手続きを必要とする授業科目	5
V	履修登録の日程と流れ	10
VI	試験・レポート	11
VII	成 績	14
VIII	GPA制度	15
IX	卒業研究	16
X	他学部聴講制度	17
XI	オフィスアワー	18
XII	卒業延期制度	19
XIII	秋卒業制度	20
XIV	転学部・転学科	20

I 単位制度と履修

A 単位制度

1 単位制度

本学における学修は単位制度によって行われる。単位制度とは、所定の授業科目を履修することによって、4年以上の在学期間中に卒業に必要な総単位数を修得する制度である。

2 単位数

- ① 学年の学修期間は定期試験等の日を含めて35週であるが、これを2期に分ける（大学学則第11条・第13条参照）。授業科目は1か年35週または半期をもって完結する。
- ② 授業の単位は、45時間の学修（教室における授業時間と予習・復習等の教室外における学修時間とを含む）を必要とする内容をもって1単位とすることを標準とする。
- ③ 単位数はそれぞれの科目によって異なり、授業科目による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して計算される。

授業科目	授業期間	週回数	単位数	説明
講義科目・演習科目（ゼミナール）	半 期	1回	2	週1回、半期の科目を2単位とする。
		2回	4	週2回、半期の科目を4単位とする。
	通 年	1回	4	週1回、通年の科目を4単位とする。
外国語科目	半 期	1回	1	週1回、半期の科目を1単位とする。
		2回	2	週2回、半期の科目を2単位とする。
		4回	4	週4回、半期の科目を4単位とする。
		6回	6	週6回、半期の科目を6単位とする。
		8回	8	週8回、半期の科目を8単位とする。
	通 年	1回	2	週1回、通年の科目を2単位とする。
その他	—	2	「資格英語」を2単位とする。	
スポーツ・ウエルネス実技科目	半 期	1回	1	週1回、半期の科目を1単位とする。
	集 中	—	1	週1回、半期に相応する授業時間数によって編成される科目を1単位とする。
卒業研究	—	—	4	「卒業研究」を4単位とする。

3 卒業要件単位数

卒業に必要な単位数（卒業要件単位数）は、【履修規定】I 総説 A 科目区分および卒業要件単位数】を参照のこと。

4 余 剰 単 位

卒業要件単位数を超えて修得した単位は余剰単位とも称される。なお、その単位も付与され、成績も認定されてCampus Square for Webの個人成績参照および成績証明書に記載される。

B 履 修

1 学 年 配 当

授業科目には配当学年が指定されている。在学年次よりも上の年次に配当されている授業科目は原則として履修することができない。

2 再 履 修

単位が認定されなかった授業科目を再び履修することを再履修と呼ぶ。必修科目が不合格となった場合は、必ず再履修しなければならない。

3 反 復 履 修 の 禁 止

すでに単位を修得した授業科目を再び履修することを反復履修と呼ぶ。反復履修は、特に認められた場合を除いて禁止されている。

4 重 複 履 修 の 禁 止

同一年度に同一名称の授業科目を複数履修することを重複履修と呼ぶ。重複履修は、特に認められた場合を除いて禁止されている。なお、授業科目の名称には副題（〈 〉で囲まれている部分）は含まれない。

※授業科目名称の例

- ・「プロジェクト演習〈企業提案〉」と「プロジェクト演習〈企業との協働〉」は同一名称の授業科目として扱う。
- ・「基礎ゼミナール（政策）」と「基礎ゼミナール（戦略）」は別の名称の授業科目として扱う。

5 成 績 評 価 の 前 提 条 件

当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席した者は、当該授業科目修了の認定を受けることができない（大学学則第23条第1項）。

Ⅱ 授 業

A 学期と授業期間

本学の授業は1年を前期・後期の2学期に分けて行われ、授業期間は下記の3つに分かれる。

通 年	1年間
半 期	半年間（前期または後期）
集 中	夏季、冬季、春季休業中等の一定期間

B 時限と授業時間

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限※
9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	18:00～19:30

※6時限は補講時間帯（通常授業は行われない。）

なお、土曜日は通常授業は行われない。（一部、資格科目等を除く。）

C 休 講

大学行事が行われたり、各授業科目担当者にやむを得ない事情が発生した場合に、授業を休講することがある。

D 補 講

休日、休講、日程等の都合により、授業の進行が予定より遅れた際に、臨時の授業を行うことがある。これを補講という。

補講は、原則として月～金曜日の6時限に行う。

E 教室変更

都合により、授業の教室を変更する場合がある。

履修中の授業科目情報（休講・補講・教室変更等）は、Campus Square for Web（キャンパススクエアフォーウェブ）で確認ができ、メールアドレスを登録しておくことで、その情報が自動配信される。また、1号館1階の掲示板でも授業科目の情報を確認することができる。なお、電話での問い合わせは受け付けていない。

※ Campus Square for Webでは、教員から届出があり次第、随時情報を更新している。

急病等事前に告知ができないときは、授業当日の掲載になる場合がある。

【Campus Square for Web】

Campus Square for Webは学生生活に必要な情報等をインターネットから閲覧・登録できるシステムで、大学ホームページよりアクセスできる。「ユーザ名・パスワード」を忘れてしまった場合などは、メディアネットワークセンター・教務部のいずれかの窓口まで申し出ること。

大学ホームページ

PC : <http://www.seijo.ac.jp>

mobile : <http://www.seijo.ac.jp/i/>

Campus Square for Web

PC・スマートフォン : <https://cs.seijo.ac.jp/campusweb/>

mobile : <https://cs.seijo.ac.jp/campusmobile/>

III

履修登録

1 履修登録とは

履修登録は、その年度に自分が履修しようとする授業科目を、必修科目を含めて全て登録する手続きである。この手続きがされていなければ、授業科目の履修はできず、また単位も認定されない。

なお、後期科目についても、前期・通年科目と同様4月に登録する必要がある（p.9 [C] の7の科目を除く）。

2 Web履修登録

履修登録はWeb上で行う。Campus Square for Webを利用した履修登録の方法の詳細については、Web履修登録マニュアル（大学ホームページ、または、Campus Square for Webよりダウンロード可）を参照すること。

3 登録期間

【Web履修登録期間】

4月9日（月）8：30～4月18日（水）18：00【3・4年次】

19日（木）18：00【1・2年次】

ただし、4月13日（金）18：00～4月14日（土）8：30の期間は、全学共通教育科目の受講者数調整のため、全ての授業科目の履修登録ができない。

4 登録時の注意点

- 履修の手引、シラバス等をよく読み、履修する授業科目を決定した後に履修登録（Web履修登録）をすること。
- 各学年の必修科目は教務部で事前登録を行っている（再履修を除く）。これらの授業科目は原則として取り消すことができない。
なお、2年次必修の「基礎ゼミナール」について、Campus Square for Webの履修状況メニュー上に登録されている授業科目の担当教員名は「教務部」になっているが、配属ゼミナールの発表後に、教務部が各ゼミナールへの登録変更を行う。
- 登録の締切日時を厳守すること。登録締切後は、授業科目の追加や、登録した授業科目の訂正・取り消しを行うことはできない。なお、履修方法上の誤り等により教務部から訂正を指示する場合があるが、この場合はその指示に従うこと。
- 病気等、やむを得ない理由により締切日時までに登録を完了できない場合は、事前に教務部に相談し、手続きに関する指示を受けること。

【前期開講1週目の授業について】

- 必修科目、クラス指定の授業科目、予備申請で受講が決定した授業科目については、1週目の授業から出席すること。
- 選択科目は、原則として1週目の授業では、授業概要の説明が行われる。いろいろな授業に出席し、本年度履修する授業科目を計画的に選択すること。この期間中は、授業途中で教室の出入りをしても構わない。

5 履修登録の注意点

- 履修登録のできない授業科目
 - 在学年次よりも上の年次に担当された授業科目
 - クラス指定の科目で自分のクラス以外の授業科目
 - すでに単位を修得した授業科目（例外もあるので、詳細は【履修規定】を参照のこと）
- 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目
Web履修登録の前に特別な履修登録手続きを必要とする授業科目がある。詳細については、【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- 履修科目登録上限単位数
履修登録することのできる単位数には上限が定められているので、上限の単位数を超えないよう十分留意して登録すること。詳細については【履修規定】Ⅰ総説 Ⅱ履修科目登録上限単位数】を参照すること。
- 本年度登録する授業科目がない場合
4年次生で本年度登録する授業科目がない場合でも、必ずCampus Square for Webの履修状況メニューにある「登録・自己判定」ボタンを押下すること。

6 履修相談

履修相談は、1号館1階教務部で随時行っている。

（月～金 8：30～18：00、土 8：30～13：00、予約不要）

その他、ガイダンス等を行うが、その場合はCampus Square for Web等で周知する。

IV

特別な履修登録手続きを必要とする授業科目

A Web予備申請を必要とする授業科目

- 1 Web予備申請

授業の性質や使用する機材の台数の関係上、受講者数に定員を設ける授業科目がある。これらについては、Web履修登録の前にWeb上での予備申請が必要である。
Web予備申請の要領は以下のとおりだが、申請方法の詳細については、Web履修登録マニュアル（大学ホームページ、または、Campus Square for Webよりダウンロード可）を参照すること。予備申請期間中は、申請した授業科目を何度でも変更・削除することができる。
- 2 予備申請期間

【予備申請期間】4月2日（月）9：00～4月7日（土）13：00
- 3 申請結果の発表

予備申請を行った授業科目で、抽選により履修が許可されたものは、自動的にWeb履修登録が行われ、不許可となったものは自動的に削除される。申請結果については、Campus Square for Webの履修状況メニューで確認すること。
【申請結果発表（自動登録）日時】4月7日（土）18：00（予定）
- 4 予備申請を必要とする授業科目

Web予備申請を必要とする授業科目は、以下のとおりである。

分野・区分	授 業 科 目	
基礎科目必修 【再履修者のみ】	イノベーション概論	情報リテラシー
	科学技術と社会	データ分析入門
基礎科目選択B	社会調査法	市場調査法
	心理実験法	心理研究法【2016年度以降入学者】
専門科目	日本経済論	消費行動論
	マーケティング論	社会調査専門演習【2016年度以降入学者】
総合教養科目	教養演習	生命科学の世界 a・b
	心理学研究法【2015年度以前入学者】	数理・自然科学演習 a・b
	社会調査演習【2015年度以前入学者】	心身論演習 a・b
	社会構造論演習 a・b	データサイエンス入門Ⅰ・Ⅱ
	思想・人間論演習 a・b	データサイエンス概論
	表現文化論演習 a・b	データサイエンス応用
	歴史文化論演習 a・b	データサイエンス・スキルアップ・プログラム
学部共通科目	地域空間論演習 a・b	データサイエンス・アドバンスド・プログラム※
	English for International Communication【2016年度以降入学者】	仏会話選択 a・b
	English for Academic Settings【2016年度以降入学者】	仏語選択（初級Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb、中級 a・b、上級 a・b）
	TOEIC（ベーシック）【2015年度以前入学者】	スペイン語選択（初級 a・b、中級・ディプロム a・b）
	TOEIC（アドヴァンスト）【2015年度以前入学者】	中国語選択（初級Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb、中級 a・b、上級 a・b）
	TOEFL（アドヴァンスト）【2015年度以前入学者】	韓国語選択（初級 a・b、中級・ディプロム a・b）
一般共通科目	独会話選択 a・b	ディプロム・コース（独語 a・b、仏語 a・b）
	独語選択（初級Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb、中級 a・b、上級 a・b）	
	スポーツ・スタディーズⅠ～Ⅳ	図書館活用法
	ウエルネス・スタディーズⅠ～Ⅳ	WRD
	身体表現・スタディーズⅠ～Ⅳ	キャリア形成Ⅰ～Ⅳ【2017年度以降入学者】
	スポーツ・ウエルネス実技科目（サイクルスポーツ・スキーを除く）	キャリア形成概論Ⅰ・Ⅱ【2016年度以前入学者】
卒業要件単位に算入されない授業科目	コンピュータ・リテラシー A1・A2、B～E	プロジェクト演習【2017年度以降入学者】
	英語リスニング&スピーキング（初級 a・b、中級 a・b、上級 a・b）	英文多読 a・b
	英語リーディング&ライティング（初級 a・b、中級 a・b、上級 a・b）	スタート・プログラムⅠ～Ⅲ【2016年度以前入学者】※
	英会話選択 a・b	時事英語Ⅰ・Ⅱ

注）本年度の休講科目については学科ごとの【履修規定Ⅱ】科目区分別履修方法を参照すること。

※「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」および「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」の申請は、後期に行う。p. 9 Cの7を参照すること。

- 5 申請上の注意
- ①「コンピュータ・リテラシー A 1・A 2」は複数コマ開講されており、全てセットで履修することになっている。シラバスで確認すること。
 - ②「WRD」は科目の性質上、申請者数が受講者定員を上回った場合、受講者の決定については、1年次生を優先する。
- 6 定員に余裕がある授業科目の履修登録
- 抽選の結果、定員に余裕がある授業科目については、下記の期間において先着順で本登録を受け付ける。
- 【定員に余裕がある授業科目の履修登録期間（Web上の履修登録）】**
 4月9日（月）8：30～4月18日（水）18：00【3・4年次】
 19日（木）18：00【1・2年次】
- ただし、4月13日（金）18：00～4月14日（土）8：30の期間は、下記⑥の抽選処理のため、全ての授業科目について履修登録ができない。

B 履修登録期間中に受講者数の調整を行う全学共通教育科目

- 1 対象科目
- 全学共通教育科目（「Web予備申請科目」および「選考または抽選を行う授業科目（p.6④の1）」を除く）
- 2 抽選対象科目の決定と抽選結果の発表
- 4月13日（金）18：00の時点で、登録者が多数にのぼり、教室の収容定員を超えるなどの理由により授業環境が整わないと大学で判断した授業科目は、受講者数の調整のため抽選を行い、受講者を決定する。対象科目については、4月13日（金）18：00までに履修登録を行うこと。
- 登録した授業科目が抽選の対象となり、**その科目の履修が不許可となった場合は、自動的に削除される。**抽選結果については、Campus Square for Webの履修状況メニューで確認すること。
- 抽選対象とならなかった授業科目については、各学年の履修登録締切日時まで先着順で登録を受け付ける。
- なお、下記の期間は抽選処理のため、全学共通教育科目以外の授業科目を含む、全ての授業科目について履修登録ができない。
- 【抽選処理期間】**
 4月13日（金）18：00～4月14日（土）8：30
- 3 申請上の注意
- 履修登録期間中は、登録した授業科目を何度でも変更・削除することができるが、**受講者数調整の対象となり、抽選により履修が許可された授業科目は取り消しができないので、登録に当たっては、履修の手引、シラバス等をよく読んでおくこと。**

C その他の手続きを必要とする授業科目

- 1 選考または抽選を行う授業科目
- 下記の授業科目は、受講者数に定員を設けているため、開講前または開講1週目の授業で選考または抽選を行う。詳細については掲示を確認すること。
- ・「Academic Communication a・b」
 - ・「Advanced Oral Interaction in English」
 - ・「Critical Reading in English [a]・[b]」
 - ・「English for Practical Proficiency」
 - ・「Innovation Studies in English [a]・[b]」
 - ・「Research Writing Skills in English [a]・[b]」
 - ・「Thesis Writing Skills in English [a]・[b]」
 - ・「応用英語研究」
 - ・「言語コミュニケーション演習」
 - ・「ビジネス英語a・b」
 - ・国際交流科目のうち「留学対策科目」、「英語等による地域研究科目」、「留学準備演習」
- なお、履修が許可された者は、教務部が履修登録を行う。登録された授業科目は取り消すことができない。

<p>2 OCA</p>	<p>「OCA」を受講する場合は、前期に「OCA事前講義」（授業コード 5698）を登録すること。インターンシップ終了後に単位修得を希望する場合の、履修登録方法については後日掲示する。成績は学年末に認定される。最初の講義時に詳細についてガイダンスを行うので、受講希望者は必ず出席すること。</p>
<p>3 短期学外演習 〈自然〉</p>	<p>① この授業科目は、Webでの履修登録の前に、事前申し込みが必要である。 ② 履修希望者は、以下の説明会に出席するなどして内容をよく理解し、事前申し込みを当日会場（あるいは後日、社会イノベーション学部研究事務室）ですること。詳細はシラバスと配付資料を参照すること。 【説明会】 4月10日（火） 12：20～12：50、18：00～18：30 32A教室 4月12日（木） 12：20～12：50、18：00～18：30 32A教室</p>
<p>4 資格英語</p>	<p>① 社会イノベーション学部では、TOEICまたはTOEFLの受験を推奨し、その成績優秀者に対して面接を行い、単位認定を行う。ただし、申請は在学中1回に限る。 なお、1年次から3年次までの全学部生に対して年1回、合計3回のTOEIC受験を義務づけており、この成績による申請も可能である。 ② 申請有資格者 TOEIC（TOEIC - IP含む）650点、TOEFL - iBT68点（PBT520点、CBT190点）以上取得した者 ③ 申請方法 前年度から申請時まで取得した成績表を持参して、社会イノベーション学部研究事務室（3号館4階）において申請すること。詳細については、別途掲示する。履修登録は必要ない。</p>
<p>5 スポーツ・ウェルネス実技科目 【集中コース】</p>	<p>スポーツ・ウェルネス実技科目のうち、集中コースの科目は、<u>履修登録をする前に必ずスポーツ・ウェルネス科で履修申し込みの手続きを行わなければならない</u>。授業内容を参照の上、以下に示すとおり履修手続きを行うこと。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">申し込み日・場所</p> <p>スキー：4月11日(水) 12:15～12:50 312教室</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0; display: inline-block;"> <p style="text-align: center;">【取消・定員に空きがある場合の追加】</p> <p>1号館2階の共通教育研究センターで取り消し・追加の手続きを行うこと。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p>スポーツ・ウェルネス科で履修が許可された科目を教務部が履修登録（本登録）する。</p> </div>

6 海外短期
語学研修・
海外短期研修

「海外短期語学研修」および「海外短期研修」の履修登録や参加申し込み等の詳細については、
掲示等で周知する。
また、履修登録方法については、下記のとおりである。研修内容等については、シラバスを
参照のこと。

海外短期語学研修 (英語・夏季)	2単位	【実施大学】 アルバータ州立大学 (カナダ) 【期 間】 2018年8月〔25日間〕 【履修登録】 研修への参加が認められた者の履修登録は、教務部 が行う。 【単位認定】 2018年度後期科目として単位を認定する。	
海外短期語学研修 (英語・夏季)	2単位	【実施大学】 リムリック大学 (アイルランド) 【期 間】 2018年8月〔約3週間〕 【履修登録】 研修への参加が認められた者の履修登録は、教務部 が行う。 【単位認定】 2018年度後期科目として単位を認定する。	
海外短期語学研修 (英語・春季)	2単位	【実施大学】 ニューカッスル大学 (オーストラリア) 【期 間】 2019年2月～3月〔約4週間〕 【履修登録】 研修への参加が認められた者の履修登録は、教務部 が行う。 【単位認定】 2019年度前期科目として単位を認定する。	
海外短期語学研修 (英語・春季)	2単位	【実施大学】 コロラド大学ボルダー校 (アメリカ合衆国) 【期 間】 2019年2月～3月〔約3週間〕 【履修登録】 研修への参加が認められた者の履修登録は、教務部 が行う。 【単位認定】 2019年度前期科目として単位を認定する。	
海外短期語学研修 (独語・春季)	2単位	【実施大学】 ドレスデン工科大学 (ドイツ) 【期 間】 2019年2月～3月〔約4週間〕 【履修登録】 研修への参加が認められた者の履修登録は、教務部 が行う。 【単位認定】 2019年度前期科目として単位を認定する。	
海外短期語学研修 (仏語・春季)	2単位	【実施大学】 西部カトリック大学 (フランス) 【期 間】 2019年2月〔約3週間〕 【履修登録】 研修への参加が認められた者の履修登録は、教務部 が行う。 【単位認定】 2019年度前期科目として単位を認定する。	
海外短期語学研修 (中国語・夏季)	2単位	【実施大学】 北京大学 (中国・北京) 【期 間】 2018年8月～9月〔約4週間〕 【履修登録】 研修への参加が認められた者の履修登録は、教務部 が行う。 【単位認定】 2018年度後期科目として単位を認定する。	
セット履修	海外短期語学研修 (英語・ 就業体験準備)	1単位	【実施大学】 マレーシア工科大学 (予定) (マレーシア) 【期 間】 2018年8月〔就業体験研修と合わせて約3週間〕 【履修登録】 研修への参加が認められた者の履修登録は、教務部 が行う。 【単位認定】 2018年度後期科目として単位を認定する。
	海外短期研修 (マレーシア・ 就業体験研修)	2単位	【実施企業】 現地企業 【期 間】 2018年8月〔就業体験準備と合わせて約3週間〕 【履修登録】 研修への参加が認められた者の履修登録は、教務部 が行う。 【単位認定】 2018年度通年科目として単位を認定する。

※1 「海外短期語学研修 (英語・就業体験準備)【1単位】」と「海外短期研修 (マレーシア・就業体験研修)【2
単位】」は、セットで履修すること。

※2 特別な履修登録手続きを行うこと、また、やむを得ない理由により研修が中止となる場合があることを考
慮し、履修科目登録上限単位数や卒業・進級要件単位数に注意して学修計画を立てておくこと。

履修上の注意については、下記を併せて参照すること。

- 2016年度以降入学者は、【履修規定】E学部共通科目 1 規定単位数 ⑨「海外短期
語学研修」「海外短期研修」】
- 2015年度以前入学者は、【履修規定】E学部共通科目 1 規定単位数 ⑩「海外短期
語学研修」「海外短期研修」】

7 後期に履修登録
を行う科目

全学共通教育科目「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」および「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」の履修登録は以下のとおり、後期開講前に行う。

【後期開講「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」および「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」履修登録日程】

	期 間	方 法
Web予備申請	9月17日(月) 9:00 } 9月20日(木) 13:00	Campus Square for Webにて予備申請を行う。 ※予備申請期間中は申請内容を何度でも修正可能。
抽選結果発表	9月20日(木) 18:00 (予定)	履修が許可された科目は自動的に登録される。 Campus Square for Webの履修状況メニューで確認すること。
定員に余裕がある授業科目については、下記の期間において先着順で本登録を受け付ける。 9月21日(金) 8:30～9月27日(木) 18:00		

V

履修登録の日程と流れ

授業に関するしごと

1 履修登録日程

Web予備申請期間	4月 2日 (月) 9:00~4月 7日 (土) 13:00
抽選結果発表	4月 7日 (土) 18:00 (予定)
Web履修登録期間	4月 9日 (月) 8:30~4月18日 (水) 18:00 【3・4年次】 19日 (木) 18:00 【1・2年次】 ただし、4月13日 (金) 18:00~4月14日 (土) 8:30の期間は、全学共通教育科目の受講者数調整のため、全ての授業科目の履修登録ができない。

2 履修登録の流れ

日 時	4月2日 9:00	4月7日 13:00	4月9日 8:30	4月13日 18:00	4月14日 8:30	Web履修登録 期限
事前登録科目	必修科目など、その年度に履修しなければならない授業科目が該当し、原則として取り消すことができない。					
(p.5) A Web予備申請を必要とする授業科目	Web予備申請を行う。Web予備申請期間中は何度でも申請内容の変更が可能である。	※1 抽選結果確認	定員に余裕がある授業科目は先着順でWeb履修登録を行う。			定員に余裕がある授業科目は先着順でWeb履修登録を行う。
(p.6) B 履修登録期間中に受講者数の調整を行う全学共通教育科目			Web履修登録を行う。	※2 抽選結果確認		定員に余裕がある授業科目は先着順でWeb履修登録を行う。
(p.6) C その他の手続きを必要とする授業科目 1 選考または抽選を行う授業科目	開講前または開講1週目の授業で選考または抽選を行う。詳細は掲示を確認すること。履修が許可された者は教務部がWeb履修登録を行う。					
特別な履修登録手続きを必要としない授業科目			Web履修登録を行う。			Web履修登録を行う。
日 時	4月2日 9:00	4月7日 13:00	4月9日 8:30	4月13日 18:00	4月14日 8:30	Web履修登録 期限

※1 抽選の結果、履修が許可された授業科目は自動的にWeb履修登録される。

※2 登録者が多数のため抽選対象となり、履修が不許可となった授業科目は自動的にWeb履修削除される。

VI 試験・レポート

A 試験

1 試験と単位授与

履修登録をしている授業科目の成績は、学期末、学年末に実施される定期試験および授業への参加度等も総合した成績により評価され、授業科目担当者により合格と判定された者は、単位が授与される。

2 試験の種類

① 定期試験

- 学期末定期試験…前期授業終了後の定期試験期間内に行われる試験
- 学年末定期試験…後期授業終了後の定期試験期間内に行われる試験

② 期前試験…定期試験期間前の授業時間中に実施される試験

③ 定期試験に代わるレポート…定期試験の代わりに、レポートで実施される試験。

提出日・提出先（教務部、授業時間内、各学部研究事務室など）等は授業科目担当者により異なる。

④ 追試験…病気その他のやむを得ない事由により、定期試験または期前試験を受験できなかった場合に授業科目担当者の判断により実施される試験（要手続）

※「定期試験に代わるレポート」は、追試験の対象にはならない。

3 試験についての連絡

定期試験（筆記試験またはレポート）、期前試験の連絡は、Campus Square for Webおよび1号館1階エントランスホールのガラスの掲示板にて発表する。

その他、中間テスト、小テスト、小レポート等について授業科目担当者から指示があった場合には、Campus Square for Webにて発表する。

【学籍番号およびクラス番号について】

- **学籍番号**は各学生固有の番号で、入学と同時に与えられる。その番号は、在学中はもとより卒業後も変わらない。
- **クラス番号**はクラス内の個人番号である。4月開講時にCampus Square for Webで今年度のクラス番号を各自確認すること（この**クラス番号は年度により変わるの**で注意すること）。
- 定期試験、レポート提出、事務手続き等の際には、「学籍番号+クラス番号」が必要になるので、正確に記憶し、省略せずに記入すること。

学籍番号とクラス番号のしくみ

[学籍番号] [クラス番号]
18N1001- 1 A 001
 ↑ ↑ ↑
 学 出
 年 席
 ク 番
 ラ 号
 ス

B 定期試験

1 注意事項

- 履修登録がなされていない授業科目の受験は認めない。
- 不正行為は学則に基づき処分される。

2 試験期間

【学期末定期試験】7月23日(月)～7月31日(火)
【学年末定期試験】1月21日(月)～1月31日(木)

3 試験時間

原則60分とする。

4 試験時間割の発表

試験時間割は、原則として定期試験期間の約1週間前にCampus Square for Webおよび1号館1階エントランスホールのガラスの掲示板にて発表する。

5 持ち込みを許可する参照物等

試験の際に持ち込みを許可する参照物等がある場合には、Campus Square for Webおよび1号館1階エントランスホールのガラスの掲示板にて発表する。

6 受験心得

- 学生証を必ず持参すること。
※ 学生証を忘れた場合は、事前に学生課で受験許可証の交付を受けること。
- 試験場には、**定刻までに入室**すること。ただし、試験開始後20分までは遅刻者の入室を認める。
- 試験開始後30分以内は退室できない。
- 答案の氏名欄(学籍番号、クラス番号、氏名)と出席カードは、**ペン(鉛筆以外)**で記入すること。
- 答案用紙を試験場から持ち出すことは一切認めない。**また、**無記名答案は無効**となる場合があるので注意すること。

7 試験開始時間の変更および中止

天候不良、災害、交通障害等により、小田急線(新宿～相模大野)が運行を停止した場合、試験開始時刻の変更(繰り下げ実施等)または中止することがある。

C 定期試験に代わるレポート

レポートは原則として本人が提出し、**提出期限を厳守**すること。

また、提出先によって提出要領が異なるので、以下の指示に従って提出すること。

1 教務部に提出する場合

表紙

- 教務部で配付する「**指定の表紙**」を使用する。
- 表紙には必ず「**整理番号**」(Campus Square for Webまたは1号館1階エントランスホールのガラスの掲示板のレポート科目一覧表を参照のこと)を記入する。

提出要領

- 提出レポートは、必ずペン(鉛筆以外)書きとする。
- 用紙の種類について
〈パソコンを使用する場合〉A4判(横書き)
〈手書きの場合〉
 - 原稿用紙指定の場合
横書きの場合…A4判400字詰め/縦書きの場合…B4判400字詰め
 - レポート用紙の場合…A4判(横書き)※ 授業科目担当者から指示がある場合はそれに従うこと。

2 教務部以外に提出する場合

表紙

教務部で配付する「指定の表紙」は使用せず、1号館1階エントランスホールのガラスの掲示板に掲示している記入例を参考に授業科目名・担当者名・題目・学部・学籍番号・学年・クラス・出席番号・氏名等を記入した表紙をつけること。なお、ホームページ上からも表紙フォームを印刷できるので必要に応じて使用すること。

※ ホームページ→在学生の方へ→授業・履修・試験・成績・資格取得→授業関係書類ダウンロード

提出要領

用紙等提出要領は、授業科目担当者の指示に従うこと。

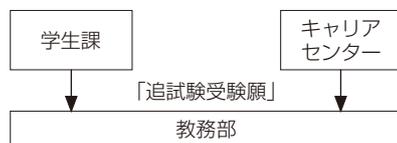
D 追試験

病気その他のやむを得ない理由により、定期試験または期前試験を受験できなかった場合、「追試験受験願」を提出することができる（定期試験に代わるレポートは除く）。ただし、以下の理由によるもの以外は「追試験受験願」の提出は認められない。また、提出に係る締切日時等の注意事項はCampus Square for Webおよび1号館1階教務関係掲示板で発表する。

1 「追試験受験願」の提出資格

- ① 病気およびケガ
（医療機関が発行した診断書、または、これに準ずるものを添付 *当日受験できないことが確認できること。また、医療機関への受診日、病名および加療（療養）期間等が明記されていること。）
- ② 忌引（会葬礼状または死亡診断書添付）
- ③ 交通機関の遅れ
（遅延証明書添付 *試験日当日に提出すること。遠距離通学など当日の来校が難しい場合は、当日中に学生課に電話にて仮申請し、翌日、手続きをすること。なお、受付時間は平日17:00、土曜日12:45まで。）
- ④ 就職試験当日
（就職にかかわる資格試験、教育実習期間および館園実習期間との重複を含む。出席証明書添付。）
- ⑤ その他、教務委員会および厚生補導委員会の審議で正当と認められた事項

2 提出要領



- ① 学生課またはキャリアセンターから「追試験受験願」の用紙を受け取る。
- ② 必要事項を記入後、学生課またはキャリアセンターに提出し、承認印を受ける。
- ③ 教務部に「追試験受験願」を提出する。

※ 教務部から授業科目担当者に追試験実施有無を問い合わせ、実施の回答のあった授業科目についてのみ試験を実施する。なお、追試験がレポートに代わる場合もある。また、追試験受験願提出の理由が正当なものであっても、平常の授業において欠席が多い場合などは、追試験を実施しないことがある。

VII 成績

1 成績評価

成績評価は、前期・後期に実施される定期試験等の他、授業への参加度等も総合して行われる。成績評価基準は授業科目によって異なるので詳細はシラバスを参照すること。なお、成績評価は以下のように表示される。

【2014年度以降入学者】

	合 格				不合格	
素 点	100~90	89~80	79~70	69~60	59~0	評価不能
成績評価	秀	優	良	可	不可	/
成績証明書						

【2013年度以前入学者】

	合 格						不合格	
素 点	100~90	89~80	79~75	74~70	69~65	64~60	59~0	評価不能
成績評価	AA	A	BB	B	B-	C	D	/
成績証明書	優		良			可	表記せず	

※/（スラッシュ）は、評価不能な場合、即ち出席不良・定期試験等未受験・レポート未提出等で評価できない場合に表示される。

2 成績評価の開示

成績評価は、Campus Square for Webで開示する。前期成績開示日は9月上旬頃、前期成績表交付期間は9月中旬頃、学年（後期）成績開示日は3月下旬頃、学年（後期）成績表交付期間は4月上旬を予定しているが、詳細については、後日Campus Square for Web等で周知する。

また、学生の学修状況把握のため、4月初旬には、学生の同意が得られた2～4年次生の保証人に対し、前年度学年（後期）までの成績表を送付する。

なお、上記以外でも、保証人から成績の開示を求められた場合、事情を確認した上で、開示する場合がある。

3 成績評価 問い合わせ制度

本制度は、本人の成績評価に疑問がある場合、授業科目担当者に問い合わせの申請をすることができ、その回答および結果を申請者本人に開示する制度である。

なお、申請条件・手続き等は以下のとおりである。

■ 申請および回答窓口

1号館1階 教務部

■ 申請の条件

- ① 当該科目の授業に3分の1以上欠席していないこと（大学学則第23条第1項）。
- ② 当該科目の定期試験、定期試験に代わるレポートを全て受験・提出していること。
- ③ 成績評価の基準（授業科目担当者がシラバスの「成績評価の方法」に記載している条件）を満たしていること。

■ 申請の手続き

申請者本人が「成績評価問い合わせ書」を受け取り、申請理由を詳細に記入し、下記の受付期間内に提出すること。この期間を過ぎたものは一切受け付けないので注意すること。

■ 「成績評価問い合わせ書」の受付期間

- ・ 2018年度前期成績：6月に掲示等で発表する。
- ・ 2018年度学年（後期）成績：12月に掲示等で発表する。

■ 回答方法

申請者には受付時に指定した期間内に、成績評価問い合わせに関する回答および成績結果を開示する。

1 制度の概要と目的

2014年度学年成績から、成績評価の方法として、GPA (grade point average) 制度を実施している。

GPAは、単なる成績評価の平均ではなく、授業科目ごとの単位数の違い (=学修に要した時間の差異) が反映された、単位修得に向けた努力や学修計画の確さ等を映し出す総合的な成績評価の指標である。この制度を通じて、学生自身が、自分にとって必要とする授業科目が何であるかを考え、履修を自己管理し、学修成果がどのレベルに位置するかを把握し、さらなる勉学意欲を高めるための指標とすることが重要である。なお、今後、GPAは、学修状況に関する総合的な判断等にも活用される見込みである。

2 GPと成績評価との対応およびGPA値の算定方法

GPA値は、以下のとおり、履修した個々の授業科目の成績評価に対応したGP (grade point) に基づいて算定する。

【2014年度以降入学者】

素点	合 格				不合格	
	100~90	89~80	79~70	69~60	59~0	評価不能
成績評価	秀	優	良	可	不可	/
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0	

$$\text{GPA値} = \frac{4.0 \times \text{「秀」の総修得単位数} + 3.0 \times \text{「優」の総修得単位数} + 2.0 \times \text{「良」の総修得単位数} + 1.0 \times \text{「可」の総修得単位数}}{\text{総履修登録単位数 (「不可」および「/」の単位数を含む)}}$$

【2013年度以前入学者】

素点	合 格						不合格	
	100~90	89~80	79~75	74~70	69~65	64~60	59~0	評価不能
成績評価	AA	A	BB	B	B-	C	D	/
GP	4.0	3.0	2.0		1.0		0.0	

$$\text{GPA値} = \frac{4.0 \times \text{「AA」の総修得単位数} + 3.0 \times \text{「A」の総修得単位数} + 2.0 \times \text{「BB」および「B」の総修得単位数} + 1.0 \times \text{「B-」および「C」の総修得単位数}}{\text{総履修登録単位数 (「D」および「/」の単位数を含む)}}$$

※GPA値は、小数第3位を四捨五入し、小数第2位まで表示する。

※GP (grade point) は「成績評定点」を、GPA (grade point average) は「成績評定点平均」をそれぞれ意味する。

3 GPA値算定から除外する授業科目

- ① 卒業要件単位として認められていない授業科目
- ② 成績評価を合否によって行う授業科目。ただし、この授業科目が不合格の場合、その単位数は総履修登録単位数に含まれる。
- ③ 認定によって単位修得が認められた授業科目

4 GPA値の表示

各年度および通算のGPA値をCampus Square for Webの成績閲覧画面に表示し、成績表(保証人宛含む)および成績証明書(2013年度以前入学者を除く)に記載する。

5 留意事項

不合格科目の履修登録単位数はGPA値の算定に含まれる。従って、いったん履修登録した授業科目を途中で放棄するなど不合格科目が増えるとGPA値は低くなる。よって、履修登録に当たっては、むやみに行うことなく、よく考えた上で履修する授業科目を決めることが肝要である。

Ⅸ 卒業研究

A 中間発表会

卒業研究を提出しようとする学生は、その作成に当たり、中間発表会で研究のテーマ、問題意識、構成等について途中経過を報告しなければならない。中間発表会は6月初旬～7月中旬を予定しているが、詳細については別途掲示する。

B 卒業研究題目届

卒業研究を提出するためには、あらかじめ以下の期間に卒業研究題目届を提出しなければならない。

提出期間 10月15日(月)～11月14日(水) 16:30

提出場所 3号館4階 社会イノベーション学部研究事務室

用紙配付 掲示にて指示する。

C 卒業研究提出要領

1 提出期間

12月1日(土)～12月17日(月) 16:30

※ 卒業研究は必ず本人が提出し、提出期限を厳守すること(郵送不可)。

2 最終試問

1月中下旬に面接試問を行う。期日、時間等、詳細については、1月に別途掲示する。

3 提出部数・提出場所

正本 1部…1号館1階 教務部
副本(正本と同一内容の写し) 指導教員の指示に従うこと。

4 原稿用紙

① パソコンを使用する場合

- 用紙はA4判のものを使用(感熱紙は不可)すること。
- 配字は原則として、各ページ1行40字×30行とする。
- 目次末尾に字詰を注記する(例、横40字×縦30行)。

② 原稿用紙を使用する場合

- 横書きでA4判400字詰の原稿用紙を使用すること。
 - 使用する筆記具は、黒または青のペンまたは万年筆とする。
- ※ 指導教員の指示がある場合はその指示に従うこと。

5 表紙

正本は厚紙総クロスの黒表紙(表表紙だけでなく裏表紙も含む)をつけ、その表表紙上に「必要事項」を記入した用紙(15cm×10cm程度)を貼付すること。

※ 原稿用紙、黒表紙、とじひもは大学食堂棟売店で販売している。

【表表紙上に貼付する用紙への書き方】

2018年度卒業 〇〇ゼミ 題目 社会イノベーション学部 4年〇組〇〇〇番 学籍番号 氏名

【必要事項】

- ① 卒業年度(本年度は、2018年度)
- ② 所属ゼミ名(ゼミナール担当教員名)
- ③ 題目
- ④ 学部・学年・クラス・出席番号
- ⑤ 学籍番号
- ⑥ 氏名

6 とびら(中表紙)

とびら(中表紙)にも表表紙と同じ事項を記入する。

D**卒業研究の開示**

提出された卒業研究は、本学部の教員や学生、および社会イノベーション学部長が許可する者であれば、誰でも閲覧可能とする。

X**他学部聴講制度****1 制度の概要**

所定の手続きを行うことにより、他学部の授業科目を聴講することができる。ただし、試験等は受けることができない。また、単位は授与しない。聴講科目は、履修科目登録上限単位数には含まれない。

2 聴講可能科目

Campus Square for Webおよび1号館1階エントランスホールの掲示板にて発表する。

3 聴講可能科目数

年間2科目まで

4 手続き方法

教務部で「他学部聴講願」を受け取り、必要事項を記入の上、教務部に提出すること。

① 通年および前期開講科目

提出期間 4月20日(金)～4月26日(木) 18:00

② 後期開講科目

提出期間 9月21日(金)～9月27日(木) 18:00

5 注意事項

- ① 聴講可能な科目であっても、受講者数が教室の収容人数を超えている場合は申込みを受け付けないので、教務部で確認すること。
- ② 他学部聴講は、教授会での審議によっては、認められない場合がある。

XI オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が週のある曜日・時間を決めて研究室に在室し、学生はその時間帯に自由に教員を訪ね、質問・相談できる制度である。なお、オフィスアワー以外の時間帯でも質問・相談ができるが、その際は、予め予約を取っておくとよい。

教員名	曜日・時間	研究室	
		校舎名	部屋番号
青山 征彦	金曜日 13:00～14:30	3号館	3703
石井 康毅	火曜日 13:00～14:30	3号館	3814
磯野 達也	水曜日 13:00～14:30	3号館	3816
伊地知 寛博	火曜日 12:15～13:00	3号館	学部長室
内田 真人	火曜日 12:20～12:50 木曜日 15:00～16:00	3号館	3809
遠藤 健哉	木曜日 10:40～12:10	3号館	3710
大家 亮子	月曜日 12:10～13:00	3号館	3802
加藤 敦宣	木曜日 13:00～14:30	3号館	3714
川村 晶彦	木曜日 14:30～15:30	3号館	3812
久保田 達也	金曜日 16:20～17:00	3号館	3707
國寶 真美	月曜日 15:00～16:00	3号館	3702
後藤 康雄	木曜日 13:45～14:30	3号館	3810
櫻井 一彦	木曜日 12:30～13:30 金曜日 16:40～17:20	3号館	3803
篠原 光伸	木曜日 12:30～13:30	3号館	3712
新垣 紀子	火曜日 10:40～11:40	3号館	3808
中馬 宏之	火曜日 12:15～13:00	3号館	3713
都築 幸恵	火曜日 12:15～13:00	3号館	3807
手塚 公登	火曜日 11:00～12:00	3号館	3815
デニス・リチェズ	水曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10	3号館	3813
中村 國則	金曜日 13:00～14:30	3号館	3704
西原 和久	月曜日 12:15～12:45 水曜日 12:15～12:45	3号館	3709
平井 康大	木曜日 12:00～13:00	3号館	3805
古川 良治	火曜日 13:00～14:30	3号館	3804
南山 浩二	木曜日 12:15～13:00	3号館	3711
村田 光二	火曜日 13:00～14:30	3号館	3701
村田 裕志	金曜日 14:40～16:10	3号館	3801
山本 敦久	木曜日 15:00～16:30	3号館	3708

※非常勤講師については、授業前後に教室や非常勤講師控室で質問・相談を受け付ける。メールアドレスを公開している場合はメールでも可能である。なお、シラバスや授業中に教員から別途指示があった場合はそれに従うこと。

1 制度の概要
(目的)

卒業の要件を満たす学生で、国家試験や資格試験の受験、または、就職活動等の理由により、自らの学修計画に沿って勉学を継続する目的で本学に引き続き在学を希望する場合、卒業を延期し在学することを認める制度である。

卒業を延期することができる期間は、1年(※)ないし半年とする。ただし、卒業延期制度の適用を受けた学生(以下、「卒業延期適用者」)が引き続き当該制度の適用を希望する場合は、1回を限度に、再度卒業の延期を申請することができる。

※ 1年の卒業延期を許可された卒業延期適用者は、所定の手続きを経た上で、当該年度の前期末をもって繰り上げて卒業(以下「繰上卒業」)することができる。

2 対象者
(資格要件)

卒業延期制度を希望する学生は、次の各号に全て該当しなければならない。

- ① 大学学則第27条に規定する卒業の要件を満たすこと。
- ② 引き続き在学することにより、在学期間が大学学則第5条第2項に規定する年数(8年)を超えないこと。
- ③ 当該年度において授業料等の納付金を滞納していないこと。

3 申請手続き

- ① 制度の適用を希望する学生は、本来卒業すべき年度(卒業延期適用者にあつては、延期後の在学期間が終了する年度。以下同じ)の以下の期日までに卒業延期願を提出し、2月下旬ないし9月上旬の教授会で審議の上、許可を受けなければならない。
 - ・ 学年末をもって卒業要件を満たす者 2019年2月15日(金)
 - ・ 前期末をもって卒業要件を満たす者 2018年7月31日(火)
- ② 前項により卒業の延期を許可された学生(以下「卒業延期者」)に対しては、卒業延期許可通知を本人および保証人に交付する。
- ③ 卒業延期者が、事情変更により、本来卒業すべき年度での卒業を希望する場合は、3月9日(土)までに卒業延期許可取消願を提出した場合に限り、教授会で審議の上、認められる。ただし、前期末をもって卒業要件を満たす卒業延期者は、取消しはできない。
- ④ 卒業延期者が、延期期間に係る授業料等の納付金を、以下の期日までに納入しなかった場合は、卒業延期の許可を取り消し、当該年度末または前期末での卒業とする。
 - ・ 学年末をもって卒業要件を満たす者 2019年3月20日(水)
 - ・ 前期末をもって卒業要件を満たす者 2018年9月19日(水)
- ⑤ 繰上卒業を希望する学生は、7月31日(火)までに繰上卒業願を提出し、9月上旬の教授会で審議の上、許可を受けなければならない。許可が得られた場合、後述する納付金の後期分を返還する。

4 申請窓口および提出先

1号館1階 教務部

5 申請期間

学年末をもって卒業要件を満たす者
2018年12月1日(土)～2019年2月15日(金) 12:00
前期末をもって卒業要件を満たす者
2018年7月2日(月)～2018年7月31日(火) 12:00

6 その他

- ・ 卒業延期者は、履修科目登録上限単位数の範囲内で授業科目を履修することができる。
- ・ 卒業延期期間中は、病気の理由を除き、休学は認められない。なお、休学期間中の学費の減額は認められない。
- ・ 卒業延期者の延期期間に係る授業料等の納付金については、以下のとおりとする。
 - 学年末をもって卒業要件を満たす者
授業料・施設費・学習図書整備費・教育充実費に限り年額の7割
 - 前期末をもって卒業要件を満たす者
授業料・施設費・学習図書整備費・教育充実費に限り年額の3割5分
- ※ その他の納付金である父母の会費、校友会費、学会費については、減額の対象とはならない。教育充実費は2015年度以降入学者のみが対象となる。

XIII

秋卒業制度

1 制度の概要・対象者

前年度以前に卒業年次に在学し、卒業要件である大学学則第18条に規定する単位を修得することができず、3月に行われた卒業判定の結果、再び同年次に原級留置（留年）となった者が前期末に卒業要件を満たした場合は、秋（9月）に卒業となる。*

* 1年間の卒業延期制度の適用を受けた者が、前期末をもって卒業することを希望する場合については、繰上卒業願の提出が必要となる。詳しくは、【[XIII 卒業延期制度](#)】を参照すること。

2 制度の注意点

① 秋（9月）で自動的に卒業となる。

本制度の対象者（留年者）が前期末に卒業要件を満たした場合、秋（9月20日付）で自動的に卒業となるので十分注意すること。

※履修科目登録上限単位数、卒業確定者発表日等は別途案内する。

② 年度末（3月）まで在学を希望する場合、卒業延期制度適用申請を行う必要がある。

本制度の対象者で前期末に卒業要件を満たす見込みの者が、秋（9月）に卒業せず、今年度の3月まで在学を希望する場合は、7月末日までに卒業延期制度適用申請を行う必要がある。申請を行わない場合は自動的に秋卒業となるので注意すること。

※「卒業延期制度」の説明会は別途実施する。

③ 「卒業見込証明書」には「9月卒業見込」と記載される。

本制度の対象者で前期末に卒業要件を満たす見込みの者が、「卒業見込証明書」を発行した場合、証明書には「9月卒業見込」と記載される。

④ 秋卒業者を対象とした「学位記授与式」は実施しない。

「学位記」等の交付方法については別途案内する。なお、年度末（3月）に実施される「学位記授与式」に参加することは可能である。

⑤ 校納金納付方法は前期・後期2回「分納」となり、1年間分「全納」はできない。

また、秋（9月）卒業した者は後期の校納金が不要となる。

※本制度における校納金の詳細については学生課まで問い合わせること。

⑥ 秋卒業は就職（活動）に重大な影響を及ぼす可能性がある。

就職内定者および就職活動中の者が本制度の対象者となった場合は、必ずキャリアセンターに相談すること。

その他、不明点については1号館1階教務部まで問い合わせること。

XIV

転学部・転学科

他学部・他学科への転入は、各学部学科にて実施される「転学部・転学科審査」（筆記試験、外国語試験、面接試験等）を受け、転入が許可された場合に限り認められる。ただし、転学部・転学科が認められ、他学部・他学科に編入された場合は、在学期間4年で卒業できない場合がある。

各学部学科において「転学部・転学科審査」が実施される場合は、Campus Square for Webや1号館1階教務関係掲示板にて案内するので、各自確認すること。なお、「転学部・転学科審査」は毎年実施されるとは限らない。

また、転学部・転学科を希望する者は、大学ホームページに掲載されている転入希望先の「履修の手引」等を読み、教育課程を理解しておくことが望ましい。

社会イノベーション学部の人材育成の目的と3つの方針

I 人材育成の目的

社会イノベーション学部は、社会に持続した発展をもたらす人間の創造活動であるイノベーションについて学問横断的に理解し、社会に貢献する意欲をもって、自らそれらに関する問題を発見・設定・解決し、その成果を論理的また実践的な言語能力を活用して伝達することができる、社会に有為な人材を育成することを目的とする。

II 卒業の認定に 関する方針 (ディプロマ・ポリシー)

社会イノベーション学部において学んだ学生は、本学部の人材育成の目的に照らして、卒業に際して以下のとおりに能力を身につけていることとする：

- A. イノベーションに関する基礎知識を活用する能力を身につけている；
- B. 日本語を用いて論理的に表現する能力及び英語を用いて実践的にコミュニケーションする能力を身につけている；
- C. 社会に貢献できるよう、実際上の問題に取り組む能力を身につけている；
- D. 自律的に問題を発見・設定・解決し、その成果を伝達する能力を身につけている。

III 教育課程の編成及び 実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)

社会イノベーション学部は、その人材育成の目的を達成するために、以下のように教育課程を編成し実施する。

- 1. 教授する内容に応じて、「専門科目」(必修科目)、「専門科目」(選択科目)、「基礎科目」、「外国語科目」、「学部共通科目」、「一般共通科目」、及び「総合教養科目」という科目群を配置する。
 - A. イノベーションに関する基礎知識を活用する能力の涵養に主として関連する科目群：
 - (1) 「専門科目」(選択科目)
イノベーションに関して現在発展している分野の科目を配置する。イノベーションを政策、戦略、心理、社会という4つの視点から捉えるために、「政策系科目」、「戦略系科目」、「心理系科目」、「社会系科目」を配置する；
 - (2) 「基礎科目」
イノベーションに密接に関連する既存学問領域の基礎的な科目を配置する；
 - B. 日本語を用いて論理的に表現する能力及び英語を用いて実践的にコミュニケーションする能力の涵養に主として関連する科目群：
 - (3) 「外国語科目」
実践的英語活用能力(“使える英語力”)を涵養する科目を配置する。世界共通言語(リンガフランカ)としての英語について、コミュニケーション手段としてのみならず、生活習慣や文化様式といった言語で表象される社会・文化的背景をも踏まえて理解できるように履修させる；
 - (4) 「学部共通科目」
英語力のさらなる向上及び英語以外の外国語の能力を涵養する科目を配置する；
 - (5) 「一般共通科目」
情報リテラシー、身体スキル、キャリア形成技能を涵養する科目を配置する；

- C. 社会に貢献できるよう、実際上の問題に取り組む能力の涵養に主として関連する科目群：
 (6)「総合教養科目」
 専門能力を適切に発揮させる基盤として、健全な懐疑の精神と幅広い視野をもった洗練された教養を高める科目を配置する；
- D. 自律的に問題を発見・設定・解決し、その成果を伝達する能力の涵養に主として関連する科目群：
 (7)「専門科目」(必修科目)
 総合的に知識・技能を発揮させて、問題を発見・設定・解決し、その成果を伝達する能力を涵養する科目(ゼミナール)、及び、その能力を活用して、自律的な取り組みにより研究成果を取り纏める能力を涵養する科目(卒業研究)を配置する。

Ⅳ 入学者の受入れに 関する方針 (アドミッション・ポリシー)

社会イノベーション学部は、その人材育成の目的を達成するために、入学者には、以下のような学力、関心等を有することを求める：

- (a) イノベーションに関する知識を修得するために必要な基礎的学力；
- (b) 日本語及び英語の基礎的活用能力；
- (c) 自己を成長させることにより社会に貢献しようとする意欲；
- (d) イノベーションに関する興味と、関連する問題の発見・解決に自律的に取り組む関心。

※今後、3つの方針が改定された場合には、大学ホームページに公表するので確認してください。

社会イノベーション学部 政策イノベーション学科の 人材育成の目的と3つの方針

I 人材育成の目的

政策イノベーション学科は、社会に持続可能な発展をもたらすイノベーションの創出・推進について学問横断的に理解し、社会に貢献する意欲をもって、自らそれらに関連する問題を発見・設定・解決し、その成果を論理的に日本語で表現する能力及び実践的に英語でコミュニケーションする能力を活用して伝達することができる、社会に有為な人材を育成することを目的とする。

II 卒業の認定に 関する方針 (ディプロマ・ポリシー)

政策イノベーション学科において学んだ学生は、本学科の人材育成の目的に照らして、卒業に際して以下のとおりに能力を身につけていることとする：

- A. イノベーションの創出・推進に関する学術的知識を中心とするイノベーションに関する基礎知識を活用する能力を身につけている；
- B. 日本語を用いて論理的に表現する能力及び英語を用いて実践的にコミュニケーションする能力を身につけている；
- C. 社会に貢献できるよう、実際上の問題に取り組む能力を身につけている；
- D. 自律的に問題を発見・設定・解決し、その成果を伝達する能力を身につけている。

III 教育課程の編成及び 実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)

政策イノベーション学科は、その人材育成の目的を達成するために、以下のように教育課程を編成し実施する。

1. 教授する内容に応じて、「専門科目」（必修科目）、「専門科目」（選択科目）、「基礎科目」、「外国語科目」、「学部共通科目」、「一般共通科目」、及び「総合教養科目」という科目群を配置する。
 - A. イノベーションに関する基礎知識を活用する能力の涵養に主として関連する科目群：
 - (1) 「専門科目」（選択科目）
イノベーションに関して現在発展している分野の科目を配置する。イノベーションを政策、戦略、心理、社会という4つの視点から捉えるために、「政策系科目」、「戦略系科目」、「心理系科目」、「社会系科目」を配置し、「政策系科目」と「戦略系科目」の科目を重点的に履修させる；
 - (2) 「基礎科目」
イノベーションに密接に関連する既存学問領域の基礎的な科目を配置する；
 - B. 日本語を用いて論理的に表現する能力及び英語を用いて実践的にコミュニケーションする能力の涵養に主として関連する科目群：
 - (3) 「外国語科目」
実践的英語活用能力（“使える英語力”）を涵養する科目を配置する。世界共通言語（リンガフランカ）としての英語について、コミュニケーション手段としてのみならず、生活習慣や文化様式といった言語で表象される社会・文化的背景をも踏まえて理解できるように履修させる；

(4)「学部共通科目」

英語力のさらなる向上及び英語以外の外国語の能力を涵養する科目を配置する；

(5)「一般共通科目」

情報リテラシー、身体スキル、キャリア形成技能を涵養する科目を配置する；

C. 社会に貢献できるよう、実際上の問題に取り組む能力の涵養に主として関連する科目群：

(6)「総合教養科目」

専門能力を適切に発揮させる基盤として、健全な懐疑の精神と幅広い視野をもった洗練された教養を高める科目を配置する；

D. 自律的に問題を発見・設定・解決し、その成果を伝達する能力の涵養に主として関連する科目群：

(7)「専門科目」(必修科目)

総合的に知識・技能を発揮させて、問題を発見・設定・解決し、その成果を伝達する能力を涵養する科目(ゼミナール)、及び、その能力を活用して、自律的な取り組みにより研究成果を取り纏める能力を涵養する科目(卒業研究)を配置する。

IV

入学者の受入れに関する方針

(アドミッション・ポリシー)

政策イノベーション学科は、その人材育成の目的を達成するために、入学者には、以下のような学力、関心等を有することを求める：

- (a) イノベーションに関する知識を修得するために必要な基礎的学力；
- (b) 日本語及び英語の基礎的活用能力；
- (c) 自己を成長させることにより社会に貢献しようとする意欲；
- (d) イノベーションに関する興味と、関連する問題発見・解決に自律的に取り組む関心。

※今後、3つの方針が改定された場合には、大学ホームページに公表するので確認してください。

社会イノベーション学部 心理社会学科の 人材育成の目的と3つの方針

I 人材育成の目的

心理社会学科は、社会に持続可能な発展をもたらすイノベーションの生成・普及・受容・社会や文化への影響について学問横断的に理解し、社会に貢献する意欲をもって、自らそれらに関連する問題を発見・設定・解決し、その成果を論理的に日本語で表現する能力及び実践的に英語でコミュニケーションする能力を活用して伝達することができる、社会に有為な人材を育成することを目的とする。

II 卒業の認定に 関する方針 (ディプロマ・ポリシー)

心理社会学科において学んだ学生は、本学科の人材育成の目的に照らして、卒業に際して以下のとおりに能力を身につけていることとする：

- A. イノベーションの生成・普及・受容・社会や文化への影響に関する学術的知識を中心とするイノベーションに関する基礎知識を活用する能力を身につけている；
- B. 日本語を用いて論理的に表現する能力及び英語を用いて実践的にコミュニケーションする能力を身につけている；
- C. 社会に貢献できるよう、実際上の問題に取り組む能力を身につけている；
- D. 自律的に問題を発見・設定・解決し、その成果を伝達する能力を身につけている。

III 教育課程の編成及び 実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)

心理社会学科は、その人材育成の目的を達成するために、以下のように教育課程を編成し実施する。

1. 教授する内容に応じて、「専門科目」(必修科目)、「専門科目」(選択科目)、「基礎科目」、「外国語科目」、「学部共通科目」、「一般共通科目」、及び「総合教養科目」という科目群を配置する。
 - A. イノベーションに関する基礎知識を活用する能力の涵養に主として関連する科目群：
 - (1) 「専門科目」(選択科目)
イノベーションに関して現在発展している分野の科目を配置する。イノベーションを政策、戦略、心理、社会という4つの視点から捉えるために、「政策系科目」、「戦略系科目」、「心理系科目」、「社会系科目」を配置し、「心理系科目」と「社会系科目」の科目を重点的に履修させる；
 - (2) 「基礎科目」
イノベーションに密接に関連する既存学問領域の基礎的な科目を配置する；
 - B. 日本語を用いて論理的に表現する能力及び英語を用いて実践的にコミュニケーションする能力の涵養に主として関連する科目群：
 - (3) 「外国語科目」
実践的英語活用能力(“使える英語力”)を涵養する科目を配置する。世界共通言語(リンガフランカ)としての英語について、コミュニケーション手段としてのみならず、生活習慣や文化様式といった言語で表象される社会・文化的背景をも踏まえて理解できるように履修させる；

(4)「学部共通科目」

英語力のさらなる向上及び英語以外の外国語の能力を涵養する科目を配置する；

(5)「一般共通科目」

情報リテラシー、身体スキル、キャリア形成技能を涵養する科目を配置する；

C. 社会に貢献できるよう、実際上の問題に取り組む能力の涵養に主として関連する科目群：

(6)「総合教養科目」

専門能力を適切に発揮させる基盤として、健全な懐疑の精神と幅広い視野をもった洗練された教養を高める科目を配置する；

D. 自律的に問題を発見・設定・解決し、その成果を伝達する能力の涵養に主として関連する科目群：

(7)「専門科目」(必修科目)

総合的に知識・技能を発揮させて、問題を発見・設定・解決し、その成果を伝達する能力を涵養する科目(ゼミナール)、及び、その能力を活用して、自律的な取り組みにより研究成果を取り纏める能力を涵養する科目(卒業研究)を配置する。

IV

入学者の受入れに関する方針

(アドミッション・ポリシー)

心理社会学科は、その人材育成の目的を達成するために、入学者には、以下のような学力、関心等を有することを求める：

- (a) イノベーションに関する知識を修得するために必要な基礎的学力；
- (b) 日本語及び英語の基礎的活用能力；
- (c) 自己を成長させることにより社会に貢献しようとする意欲；
- (d) イノベーションに関する興味と、関連する問題発見・解決に自律的に取り組む関心。

※今後、3つの方針が改定された場合には、大学ホームページに公表するので確認してください。

教育理念と教育の特徴

教育理念と教育目的

成城学園は、1917（大正6）年、澤柳政太郎博士による成城小学校の創設をもってその起源としている。文部次官、東北帝国大学総長、京都帝国大学総長を歴任し、当時の教育界において指導的役割を果たしていた澤柳政太郎がこの小学校創設で目指したのは、画一的教育を排した「生きた教育」であり、創設にあたっては自ら次の4つの「希望理想」を掲げた。

- (ア) 個性尊重の教育
- (イ) 自然と親しむ教育
- (ウ) 心情の教育
- (エ) 科学的研究を基とする教育

この考え方は、当初、もっぱら児童への教育を念頭において掲げられたものであるが、当時としては革新的な内容であり、しかも現在の教育界においても十分に通用する普遍的内容を有している。この4つの目標を貫くのは、上からの「注入教育、詰め込み教育」、頭だけの知識を偏重する教育を退け、学生生徒の個性と自発性を重んじた自由な教育を実践することにより、柔軟な思考、豊かな人間性、そして高度な学識を兼ね備えた社会人を養成していくという教育理念である。成城大学では学園創設以来の個性と自発性を重んじた自由な教育という教育理念を、「全人教育」、「少数者教育」という具体的な形で終始一貫して実践してきている。

このような教育理念を持つ成城大学が、21世紀の社会のあり方を決定づける最重要な要因であるイノベーションの発生から普及までのメカニズムを分析し、広く高等教育として提供することを目的として設置したのが、社会イノベーション学部である。

成城大学では社会イノベーション学部の設置を国のイノベーション・システムの一翼を担う大学としての大きな責務であると同時に、成城大学がこれまで培ってきた教育理念が如何なく発揮される場とも考える。それはイノベーションという問題を教育研究対象として取り上げるためには、多くの学問分野から多角的に検討し、問題点を発見し、分析し、そして解決策を見出すという問題発見から問題解決までを一連のプロセスとして教育する問題志向型の教育が求められるからである。このような問題志向型の教育というのは、「頭だけの知識を偏重する教育を退け、学生生徒の個性と自発性を重んじた自由な教育を実践することにより、柔軟な思考、豊かな人間性、そして高度な学識を兼ね備えた社会人を養成する」という教育理念なくしては達成できないからである。

成城大学社会イノベーション学部では、イノベーションを科学的発見や技術的発明という次元からだけではなく、イノベーションを社会的行為として社会科学の視点からとらえ、その知識創造、知識活用プロセスに参画する国や企業の側面（政策・戦略の側面）と、イノベーションの遂行や普及を個人や社会の側面（心理・社会の側面）の両面から教育研究することをその教育目的とする。

社会イノベーション学部の教育は、自ら問題を見つけ出し、分析し、解決策を考えるという問題志向型の教育であるために、4年次のゼミナールⅡでの卒業研究指導、またそれによりどのような卒業研究が行われたかということが、最終的な学部教育での成果となる。

そのために、1、2年次では語学力、分析力、そしてイノベーションに密接に関連する既存学問領域の学習を通じて基礎学力の養成を目的としたカリキュラムとする。

語学力という点では、特に「使える英語力」の養成に努める。英語は現在、コミュニケーション手段として世界共通言語になっているが、社会イノベーション学部では英語をコミュニケーション手段としてだけでなく、生活習慣、文化様式といった言葉として表現されているものの社会・文化的背景をも踏まえて理解できる水準に達するまでの教育を行う。分析力の養成については1年次のデータ分析、2年次からの社会調査、市場調査に関する各種講義を通じて調査理論と分析手法の両方について学ぶ。また政策、戦略、心理、社会という4つの視点からイノベーションを考えるという学部の基本コンセプトから、イノベーションに関係する基礎的な既存学問領域として、経済学、政策学、行政学、国際関係学、経営学、心理学、社会学、社会心理学を配置し、履修させる。

2年次から開始される各学科の専門科目においては、現在行われている先端的な分野についての教育が中心となる。国のイノベーション政策、イノベーションの経済的分析、イノベーションを支える金融システム、グローバルガバナンスといったイノベーションに関する国レベルと国際レベルの政策問題を取り扱う「政策系科目」、現代企業の特長、企業のイノベーション戦略、組織変革、企業評価、研究開発戦略といったイノベーションの実行主体である企業の戦略行動に焦点を当てる「戦略系科目」、イノベーションの普及過程、認知心理、パーソナリティ、メディアイノベーションといったイノベーションが人間個人の心理と行動に及ぼす影響を考える「心理系科目」、イノベーションが普及することにより社会や文化が受ける影響を社会システム、社会変動、人間生活、文化、宗教、社会慣習といったそれぞれの観点から考える「社会系科目」とから構成する。

また高度に科学が細分化された21世紀に生きる人間にとって、その専門能力の養成は必要不可欠であるが、その専門能力も洗練された教養人としての健全な懐疑の精神と幅広い視野があってこそ十分正しい方向に発揮される。この認識の下に、1年次からテーマ別に教養教育科目を配置することにより広く興味を持って教養関連科目を履修できるように工夫し、また少人数教育という成城大学の特徴を1年次から活かすためにゼミナール形式の授業である教養演習の充実も図り、情報発信できる日本語能力の向上にも配慮している。

政策イノベーション学科では、国や企業がその行動主体となり、知識創造、知識活用を行い、最終的には産業創造や、市場創造に結びつくイノベーションの持つ「創造」の側面に教育の重点が置かれる。すなわち、イノベーションに関する政策や戦略の問題について教育を行う。

政策に関してはまず科学技術政策、および金融政策、公共政策などの経済政策をはじめとする国の政策や法律等のイノベーション創出のためのインフラにあたる国や国際レベルの問題が取り扱われる。企業レベルの問題ではイノベーションを生み出すための企業の経営戦略の策定とその遂行を中心とした問題が取り扱われる。

心理社会学科では、個人の創造性開発を始め、イノベーションが認知、採用され、最終的に社会全体にどのように普及し、どのような社会的変容をもたらすかという、イノベーションが人間の心理や行動、そして社会や文化へ与える影響、すなわち「支援・普及」の側面に焦点を当てた教育を行う。

人間心理に関しては、イノベーションがどのように個人に認知され、普及するのか、また個人における創造性の開発などの問題が取り扱われる。社会レベルではメディア等を通じて伝播されたイノベーションが社会のあり方をどのように変化させるか、またインターネット等の普及が地域の社会意識、社会構造、ひいては文化にどのような影響を及ぼしているのか、また逆に宗教や文化がイノベーションに与える影響といった問題が取り扱われる。

また、イノベーションに関する効果的な政策や戦略という問題を考えるには、イノベーションの人間心理に与える影響、さらにイノベーションの社会全体や文化に及ぼす影響といった社会・文化に根ざす問題の考察を抜きにしては考えることはできないし、逆にイノベーションの人間心理や社会に与える影響を考察するためには、国や企業といった活動主体の政策や戦略の理解が必要不可欠であることから、両学科とも、いずれの領域の専門科目とも一定単位以上履修することを義務づけている。

履修規定

政策イノベーション学科

[2016年度以降入学者用]

I	総説	32				
A.	科目区分および卒業要件単位数	32				
	1) 科目区分					
	2) 卒業要件単位数					
B.	履修科目登録上限単位数	32				
	1) 履修科目登録上限単位数制度					
	2) 履修科目登録上限単位数					
C.	コース認定制度	33				
D.	2年次から3年次への進級基準	33				
			2) 必修			
			3) 選択A・B			
			4) OCA			
			5) コース制度			
				D.	総合教養科目	38
					1) 規定単位数	
					2) 教養演習	
				E.	学部共通科目	43
					1) 規定単位数	
				F.	一般共通科目	46
					1) 規定単位数	
					2) スポーツ・ウエルネス教育科目	
					3) IT科目	
					4) WRD	
					5) キャリアデザイン科目	
II	科目区分別履修方法	34	III	政策イノベーション学科		
A.	外国語科目	34		授業科目一覧	48	
	1) 規定単位数					
	2) 必修					
	3) TOEIC IPテスト					
	4) 未修得科目の再履修					
B.	基礎科目	35	IV	卒業要件単位に算入されない		
	1) 規定単位数			授業科目	52	
	2) 必修					
	3) 選択					
C.	専門科目	36				
	1) 規定単位数					

I 総説

A 科目区分および卒業要件単位数

1 科目区分

授業科目は、**外国語科目**、**基礎科目**、**専門科目**、**総合教養科目**、**学部共通科目**、**一般共通科目**の6つの科目区分から構成されている。

2 卒業要件単位数

卒業に必要な単位数は**126単位**であり、**第1表**に示す規定の単位数を修得しなければならない。

第1表 政策イノベーション学科 卒業要件科目および単位数

科目区分		規定単位数	
外国語科目	必修	14	14
基礎科目	必修	8	28
	選択A	12	
	選択B	4	
専門科目	必修	16	62
	選択A (注1)	32	
	選択B	14	
総合教養科目		12	12
学部共通科目		6	(注2) 6
一般共通科目		4	4
合計		126	

(注1) **学部共通科目**の卒業要件単位6単位は、**学部共通科目**の中に配置されている授業科目のほか、**基礎科目**の選択A、選択B及び選択C、並びに**専門科目**の選択A及び選択Bに配置されている授業科目の中から、それぞれ卒業要件単位数を超えて修得した単位によっても充当することができる。

(注2) **一般共通科目**の卒業要件単位4単位は、**一般共通科目**の中に配置されている授業科目のほか、**総合教養科目**に配置されている授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位によっても充当することができる。

B 履修科目登録上限単位数

1 履修科目登録上限単位数制度

この制度は、各自が履修登録するに当たり、学問上の興味や知的関心、さらには時間的制約などを十分考慮して授業科目を選択し、いったん登録した科目は途中で放棄することなく最後まで単位の修得を目指して努力するように設けられたものである。

2 履修科目登録上限単位数

各学年毎の履修科目登録上限単位数は**47単位**とする。

※ 2年次は、後期に「English II : Presentation and Discussion」を履修するため、教務部で事前に仮置きで1単位分について履修登録してある。

- ① 「資格英語」の2単位は履修科目登録上限単位数（47単位）に含まれない。
- ② 2年次以降より、学部を設置する審査委員会において、成績資料を個別に審査（審査基準：前年度修得単位数40単位以上かつGPA値2.8以上）し、履修科目登録上限単位数を52単位まで認めることがある。希望者はWeb履修登録期限までに教務部で申請すること。
- ③ 以下に挙げる科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については【履修規定Ⅳ 卒業要件単位に算入されない授業科目】を参照すること。

- ・ キャリアデザイン科目のうち卒業要件単位として認められない科目
- ・ 国際交流科目のうち卒業要件単位として認められない科目

C コース認定制度

本学部学生は、2年次進級時に、政策、戦略、心理、社会のいずれの領域を自分の今後の専門領域とするかを申告する。この専門領域のことを本学部では「コース」と呼ぶ。

コース認定制度は、科目区分の「専門科目」の「選択A」及び「選択B」の中から、コース認定要件に示される所定の単位数を修得した場合に、卒業時に当該コースの修了を認定する制度である。各コースの認定要件は第2表のとおりである。また、認定要件を満たしていれば、申告によらず複数のコースについて認定する。

このコース認定制度は、学生諸君が自らの学習目標を明確に意識することにより、自己の学習意欲向上を図ることを目的としたものである。また、コース毎に収容定員が設定されるものではない。なお、ゼミナールへの配属は、申告したコースの別に関わらずに、学科別に選考を通じて行われる。

コース申告の手続きなどについては、1年次終了時までにはガイダンスを行う。

第2表 コース認定要件

コース	認定要件
政策コース	専門科目選択科目の政策系科目から20単位以上
戦略コース	専門科目選択科目の戦略系科目から20単位以上
心理コース	専門科目選択科目の心理系科目から20単位以上
社会コース	専門科目選択科目の社会系科目から20単位以上

D 2年次から3年次への進級基準

2年次から3年次へ進級するには、2年次終了までに第3表に示す所定の単位を修得していなければならない。

第3表 進級基準

授業科目		単位数	
1年次必修科目	外国語科目	English I : Skills for Learning [a]	1
		English I : Skills for Learning [b]	1
		English I : Social Interaction	2
		English I : Academic Interaction	2
		English I : Reading and Writing [a]	1
		English I : Reading and Writing [b]	1
	基礎科目	イノベーション概論	2
		科学技術と社会	2
		情報リテラシー	2
		データ分析入門	2
2年次必修科目	専門科目	基礎ゼミナール（政策）	いずれか 2
		基礎ゼミナール（戦略）	
上記必修科目以外の1・2年次配当科目		15	
合計		33	

II

科目区分別履修方法

A

外国語科目

1 規定単位数

社会イノベーション学部では、英語が必修科目となっており、聞く、話す、読む、書くの4つのスキルをバランスよく身につけることができるようなカリキュラムが組まれている。卒業に必要な単位数は第4表のとおりである。

第4表 外国語科目規定単位数

区分	授業科目	学年配当	規定単位数	主な技能
必修	English I: Skills for Learning [a]	1	1	基本技能
	English I: Skills for Learning [b]		1	
	English I: Social Interaction		2	リスニング スピーキング
	English I: Academic Interaction		2	
	English I: Reading and Writing [a]		1	リーディング ライティング
	English I: Reading and Writing [b]		1	
	English II: Public Speaking	2	1	リスニング スピーキング
	English II: Presentation and Discussion		1	
	English II: Academic Reading and Writing [a]		1	リーディング ライティング
	English II: Academic Reading and Writing [b]		1	
	English II: Business Reading and Writing [a]		1	
	English II: Business Reading and Writing [b]		1	
計			14	

※ クラス分けについて

2年次必修の英語は、入学時に決められたクラスとは異なる英語専用のクラス [(1) ~ (14)] で受講する。教務部で事前登録を行うので、各自のクラスを、Campus Square for Webの履修状況メニューで確認すること。

2 必修

1年次には、「English I: Skills for Learning [a]/[b]」で高校までに学習した知識とスキルの総復習に加え、レファレンススキルなどの大学レベルでの英語学習の基礎となるスキルを身につける。「English I: Reading and Writing [a]/[b]」では、読み書きの基礎を固める。主にネイティブ・スピーカーの講師による「English I: Social Interaction」と「English I: Academic Interaction」では、それぞれ日常生活とアカデミックな場面におけるコミュニケーション能力を身につける。

2年次の「English II: Business Reading and Writing [a]/[b]」と「English II: Academic Reading and Writing [a]/[b]」では、それぞれビジネスとアカデミックな場面に特化して読み書きのスキルを磨く。前期の「English II: Public Speaking」では、英語によるディスカッションやプレゼンテーション能力の基礎を学び、後期の「English II: Presentation and Discussion」では、前期に学んだスキルを繰り返してトレーニングし、場面に応じた英語コミュニケーション能力を身につける。

なお、外国語科目のうち1年次必修科目の単位は、3年次への進級基準にも含まれており、3年次進級のためには同授業科目の単位を修得している必要がある。

2年次後期の「English II: Presentation and Discussion」は、前期の「English II: Public Speaking」が合格または認定の場合に限り履修可能である。Campus Square for Webの履修状況メニュー上には事前にダミー科目が登録されているが、前期の成績確定後に、教務部が登録変更を行う。また、「English II: Business Reading and Writing [b]」は、TOEICスコアが450点に満たない場合は授業内の成果にかかわらず不可とする。

3 TOEIC IP
テスト

1年次から3年次までの各年次において、本学部学生には、年1回学内において実施するTOEIC IPテストの受験を義務づけている。これは学生諸君が自らの英語力を継続的にチェックすることにより、学習意欲の向上を図り、さらに社会に対して自らの英語力を広くアピールすることを目的として行われる。

また、外国語科目（英語）必修科目の授業科目であるEnglishⅡ：Business Reading and Writing [b] については、TOEICテストにおいて一定の水準に到達することを単位修得の条件としており、ひいては、本学部卒業の要件ともなっている。

なお、TOEIC IPテストの受験に代えて、学外で実施されるTOEIC Listening & Reading Testを受験することができる。その場合には、別途掲示する所定期日までに、テストのスコアカードを3号館4階社会イノベーション学部研究事務室に持参して申告する必要がある。TOEIC IPテストの受験手続きに関する情報は、別途掲示して通知する。また、TOEIC IPテスト等の受験手続きに関する問い合わせは、3号館4階社会イノベーション学部研究事務室にて受け付ける。

4 未修得科目の
再履修

① 1年次の必修科目

再履修者対象の授業科目（1年次配当）を履修すること。

② 2年次の必修科目

再履修者対象の授業科目（2年次配当）を履修すること。

B 基礎科目

1 規定単位数

基礎科目は、必修、選択A、選択B、選択Cの4区分から構成されている。それぞれの科目区分で卒業に必要な単位数は第5表のとおりである。

第5表 基礎科目規定単位数

科目区分		規定単位数
基礎科目	必修	8
	選択A	12
	選択B	4
	選択C	4
計		28

2 必修

基礎科目必修の授業科目は、第6表のとおりである。これらの授業科目は、イノベーションについてどのように考えるかということを理解すると同時に、必要な情報をどのように獲得し、加工するかという基礎的分析能力を身につけることを目的とする。なお、基礎科目の必修科目の単位は、3年次への進級基準にも含まれており、3年次進級のためには必ず同授業科目の単位を修得している必要がある。

第6表 基礎科目必修科目

授業科目	学年配当	単位
イノベーション概論	1	2
科学技術と社会	1	2
情報リテラシー	1	2
データ分析入門	1	2

《履修上の注意》

- ① 基礎科目必修科目が不合格の場合は、翌年度に再履修すること。
- ② 上記科目を再履修する場合は、特別な手続きが必要である。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

3 選択

基礎科目における選択科目は、第7表に示されており、選択A、選択B、選択Cの3つに分けられている。選択Aには、4年間のイノベーションに関する学修の基礎となる授業科目が、選択Bには、分析方法に関する授業科目が配置されている。また、選択Cには、イノベーションを推進するに当たり、その社会的な影響面をより広い視野から検討し、イノベーションのもたらす便益とその問題点を深く考察する授業科目が配置されている。

3 選 択
(続き)

第7表 基礎科目選択科目

区 分	授 業 科 目	学 年 配 当	単 位	備 考
選択A	経済学*	1～2	4	この区分内の授業科目から、12単位以上を選択すること。 なお、*印のついた科目から8単位以上を必ず選択すること。
	国際関係学*	1～2	4	
	政策学*	1～2	2	
	行政学*	1～2	2	
	経営学*	1～2	4	
	統計学*	1～2	4	
	心理学	1～2	4	
	社会学	1～2	4	
選択B	社会心理学	1～2	4	この区分内の授業科目から、4単位以上を選択すること。
	社会調査法	2～4	4	
	心理実験法	2～4	4	
	メッセージ分析法	2～4	4	
	市場調査法	2～4	4	
選択C	心理研究法	2～4	4	この区分内の授業科目から、4単位以上を選択すること。
	*エコロジー論	1～4	4	
	生命倫理論	1～4	4	
	比較文化論	1～4	4	
	生命の科学	1～4	4	
	文明と社会	1～4	4	
	家族と社会の変動	1～4	4	
地域と文化	1～4	4		

注) *印の授業科目は本年度休講である。

《履修上の注意》

- ① 「社会調査法」、「心理実験法」、「市場調査法」および「心理研究法」は、機材の関係上、履修者数について制限が行われる。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② 選択A、選択B、選択Cに属する授業科目の中から、卒業要件単位数を超過して修得した単位は、**学部共通科目**の卒業要件単位として充当することができる。

C 専門科目

1 規定単位数

専門科目は、必修、選択A、選択Bの3区分から構成されている。それぞれの科目区分で卒業に必要な単位数は第8表のとおりである。

第8表 専門科目規定単位数

科 目 区 分		規 定 単 位 数
専 門 科 目	必 修	16
	選 択 A	32
	選 択 B	14
計		62

2 必 修

専門科目の授業科目は、第9表のとおりである。

第9表 専門科目必修科目

授 業 科 目	学 年 配 当	単 位
基礎ゼミナール（政策）	2	2
基礎ゼミナール（戦略）	2	2
ゼミナールⅠ	3	4
ゼミナールⅡ	4	4
卒 業 研 究	4	4

《履修上の注意》

- ① 「ゼミナールⅠ」、「ゼミナールⅡ」および「卒業研究」は、原則として同一担当教員の指導の下で履修しなければならない。
- ② 「ゼミナールⅠ」が不合格の者は、「ゼミナールⅡ」および「卒業研究」を履修することができない。
- ③ 卒業研究の提出要領については、【[授業に関すること](#)】[Ⅹ卒業研究](#)】を参照すること。

3 選択 A・B

専門科目における選択科目は、選択Aと選択Bに分けられる。

選択Aは、科学技術政策や産業政策をはじめとするイノベーション促進のための国の政策や法制度のあり方を考える政策系科目、研究開発戦略、新ビジネスモデルの構築、新製品開発活動など企業戦略のあり方に迫る戦略系科目、および学科共通科目に分かれる。

選択Bは、新製品やブランドを受け入れる消費者心理、イノベーションを生み出す個人の創造力とコミュニケーションの可能性を探る心理系科目、イノベーションと社会の関わり、宗教・文化・環境とイノベーションの関係など、社会的な問題を扱う社会系科目、および学科共通科目に分かれる。

選択Aおよび選択Bの授業科目は、第10表のとおりである。

第10表 専門科目選択科目

区分	授業科目	学年配当	単位	授業科目	学年配当	単位	
選択A	政策系科目	イノベーション政策論	2~4	4	イノベーション経済論	3・4	4
		経済政策	2~4	2	※公共政策論	3・4	2
		公共経済学	2~4	2	知的財産法	3・4	2
		科学技術論	2~4	2	リテールファイナンス論	3・4	2
		金融システム論	2~4	2	金融イノベーション論Ⅱ	3・4	2
		金融イノベーション論Ⅰ	2~4	2	比較イノベーション論	3・4	2
		日本経済論	2~4	2	グローバルガバナンス論	3・4	2
		日本金融論	2~4	2	国際機構論	3・4	4
		開発政策論	2~4	2	不動産開発論	3・4	2
		開発支援論	2~4	2	都市開発論	3・4	2
		国際法	2~4	4			
		地域政策論	2~4	4			
	戦略系科目	イノベーション戦略論	2~4	4	人的資源論	3・4	4
		戦略論	2~4	2	新商品開発論	3・4	2
		組織論	2~4	2	ベンチャービジネス論	3・4	2
		マーケティング論	2~4	2	研究開発管理論	3・4	2
		現代企業論	2~4	4	消費行動論	3・4	2
		企業家史	2~4	4	※トップマネジメント論	3・4	2
		組織イノベーション論	2~4	4	※ロジスティクス論	3・4	2
	科目 学科共通	OCA	2~4	2	企業評価論	3・4	4
社会イノベーション特殊演習		2~4	2	政策イノベーション特殊講義	3・4	2	
選択B	心理系科目	イノベーション心理論	2~4	4	組織心理学	3・4	2
		認知心理学	2~4	4	意思決定論	3・4	2
		パーソナリティ心理学	2~4	2	経済心理学	3・4	2
		メディア心理学	2~4	4	ワークプレイス論	3・4	2
		異文化間心理学	2~4	2	対人コミュニケーション論	3・4	4
					認知言語学	3・4	4
					ヒューマンインターフェイス論	3・4	4
	社会系科目	イノベーション社会論	2~4	4	産業カウンセリング	3・4	4
		社会システム論	2~4	4	宗教社会論	3・4	4
		日本社会文化論	2~4	4	※生活福祉論	3・4	4
		※アジア社会文化論	2~4	4	社会人類学	3・4	2
		アメリカ社会文化論	2~4	4	環境社会論	3・4	2
		現代国際社会学	2~4	4	NGO・NPO論	3・4	2
		異文化間コミュニケーション論Ⅰ	2~4	2	社会調査専門演習	3・4	4
		異文化間コミュニケーション論Ⅱ	2~4	2			
科目 学科共通				※心理社会学特殊講義	3・4	2	

注) ※印の授業科目は本年度休講である。

3 選択A・B (続き)

《履修上の注意》

- ① 卒業に必要な単位数は、選択Aが32単位、選択Bが14単位である。
- ② 選択Aおよび選択Bに属する授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位は、**学部共通科目**の卒業要件単位として充当することができる。
- ③ 2016年度をもって「金融イノベーション論」は廃講となり、「金融イノベーション論Ⅰ」、「金融イノベーション論Ⅱ」が新設された。2016年度までに「金融イノベーション論」の単位を修得している場合、「金融イノベーション論Ⅰ」、「金融イノベーション論Ⅱ」を履修することはできない。
- ④ 2016年度をもって「異文化コミュニケーション論」は廃講となり、「異文化間コミュニケーション論Ⅰ」、「異文化間コミュニケーション論Ⅱ」が新設された。2016年度までに「異文化コミュニケーション論」の単位を修得している場合、「異文化間コミュニケーション論Ⅰ」、「異文化間コミュニケーション論Ⅱ」を履修することはできない。
- ⑤ 以下の科目は、特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については、【**授業に関すること**】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

日本経済論	マーケティング論	消費行動論	社会調査専門演習
-------	----------	-------	----------

4 OCA

選択A 学部共通科目で2年次より開講される「OCA」とは、オフ・キャンパス・アクティビティの略語であり、企業や政府、地方公共団体、NPO / NGOなどの諸組織・諸機関において、就業体験（インターンシップ）を積むことにより、実社会への理解、社会において必要な能力・スキルへの理解を深めるとともに、将来のキャリア形成に役立つ実践的な経験を積むことを目的として置かれている科目である。

※ 登録方法については、【**授業に関すること**】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

5 コース制度

専門科目の選択Aおよび選択Bの中から所定の単位を修得した場合、卒業時にコース修了の認定が与えられる。詳細については、【**履修規定**】Ⅰ総説 Ⅲコース認定制度】および【**履修モデル**】を参照すること。

D 総合教養科目

1 規定単位数

高度に科学が細分化された21世紀に生きる人間にとって、その専門能力の養成は必要不可欠であるが、その専門能力も洗練された教養人としての健全な懐疑の精神と幅広い視野があってこそ正しい方向に発揮される。この認識の下に、多様な分野の授業科目が開設されているのが**総合教養科目**である。この科目区分の授業科目は**第11表**のとおりである。卒業に必要な単位数は12単位である。

なお、授業科目名の前に「全」と付いた科目は全学共通教育科目である。全学共通教育科目の詳しい説明は、【**全学共通教育科目**】の項に記載されている。

第11表 総合教養科目

授業科目	学年配当	単位	授業科目	学年配当	単位
短期学外演習〈自然〉	1~4	2	法学(含む日本国憲法) b	1~4	2
教養演習	1~4	4	社会構造論 I a〈自由と平等〉	1~4	2
応用英語研究	3・4	4	社会構造論 I b〈自由と平等〉	1~4	2
言語コミュニケーション演習	3・4	4	社会構造論 II a〈社会と組織〉	1~4	2
全 ※ 総合講座 I	1~4	2	社会構造論 II b〈ネットワークと組織〉	1~4	2
全 総合講座 II〈アート・プロデュース/感動と価値の創造〉	1~4	2	全 ※ 社会構造論 III a	1~4	2
全 総合講座 III〈環境〉	1~4	2	全 ※ 社会構造論 III b	1~4	2
全 ※ 総合講座 IV	1~4	2	全 社会構造論 IV a〈日常生活と社会経済〉	1~4	2
全 総合講座 V〈余暇学(世田谷6大学コンソーシアム連携授業)〉	1~4	2	全 社会構造論 IV b〈日常生活と社会経済〉	1~4	2
全 総合講座 VI〈中国文学入門(世田谷6大学コンソーシアム連携授業)〉	1~4	2	全 ※ 社会構造論 V a	1~4	2
全 ※ 特別講座 I	1~4	2	全 ※ 社会構造論 V b	1~4	2
全 ※ 特別講座 II	1~4	2	全 社会構造論 VI a〈現代日本と政治〉	1~4	2
全 成城学園を知る	1~4	2	全 ※ 社会構造論 VI b	1~4	2
全 成城学 I〈柳田國男と民俗学〉	1~4	2	全 社会構造論演習 a	1~4	2
全 ※ 成城学 II	1~4	2	全 社会構造論演習 b	1~4	2
全 ※ 成城学 III	1~4	2	全 哲学入門 a	1~4	2
全 ※ 成城学 IV	1~4	2	全 哲学入門 b	1~4	2
全 成城学 V〈成城と自然〉	1~4	2	全 宗教学入門 a	1~4	2
全 社会学入門 a	1~4	2	全 宗教学入門 b	1~4	2
全 社会学入門 b	1~4	2	全 倫理学入門 a	1~4	2
全 メディア論入門 a	1~4	2	全 倫理学入門 b	1~4	2
全 メディア論入門 b	1~4	2	全 西洋思想入門 a	1~4	2
全 現代社会論 I a〈現代の宗教と国家〉	1~4	2	全 西洋思想入門 b	1~4	2
全 現代社会論 I b〈現代の宗教と社会〉	1~4	2	全 東洋思想入門 a	1~4	2
全 現代社会論 II a〈サブカルチャー史〉	1~4	2	全 東洋思想入門 b	1~4	2
全 現代社会論 II b〈サブカルチャー論〉	1~4	2	全 日本思想入門 a	1~4	2
全 ※ 現代社会論 III a	1~4	2	全 日本思想入門 b	1~4	2
全 ※ 現代社会論 III b	1~4	2	全 ※ 思想・人間論 I a	1~4	2
全 現代社会論 IV a〈戦後日本文化論〉	1~4	2	全 ※ 思想・人間論 I b	1~4	2
全 現代社会論 IV b〈戦後日本文化論〉	1~4	2	全 思想・人間論 II a〈イメージを“よむ”〉	1~4	2
全 ※ 現代社会論 V a	1~4	2	全 思想・人間論 II b〈イメージを“よむ”〉	1~4	2
全 ※ 現代社会論 V b	1~4	2	全 ※ 思想・人間論 III a	1~4	2
全 現代社会論 VI a〈平和論〉	1~4	2	全 ※ 思想・人間論 III b	1~4	2
全 現代社会論 VI b〈平和論〉	1~4	2	全 思想・人間論演習 a	1~4	2
全 現代社会論 VII a〈カルチュラル・スタディーズ〉	1~4	2	全 思想・人間論演習 b	1~4	2
全 現代社会論 VII b〈カルチュラル・スタディーズ〉	1~4	2	全 文学入門 a	1~4	2
全 ※ 現代社会論 VIII a	1~4	2	全 文学入門 b	1~4	2
全 ※ 現代社会論 VIII b	1~4	2	全 言語学入門 a	1~4	2
全 ※ 現代社会論演習 a	1~4	2	全 言語学入門 b	1~4	2
全 ※ 現代社会論演習 b	1~4	2	全 音楽入門 a	1~4	2
全 国際関係論入門 a	1~4	2	全 音楽入門 b	1~4	2
全 国際関係論入門 b	1~4	2	全 ※ 表象文化論入門 a	1~4	2
全 経済学入門 a	1~4	2	全 ※ 表象文化論入門 b	1~4	2
全 経済学入門 b	1~4	2	全 ※ 表現文化論 I a	1~4	2
全 政治学入門 a	1~4	2	全 ※ 表現文化論 I b	1~4	2
全 政治学入門 b	1~4	2	全 ※ 表現文化論 II a	1~4	2
全 情報社会論入門 a	1~4	2	全 ※ 表現文化論 II b	1~4	2
全 情報社会論入門 b	1~4	2	全 表現文化論 III a〈映画の“いま”〉	1~4	2
全 法学(含む日本国憲法) a	1~4	2	全 表現文化論 III b〈映画の“いま”〉	1~4	2

履修規定

政策イノベーション学科

2016年度以降入学者用

第11表 総合教養科目（つづき）

	授 業 科 目	学年配当	単位		授 業 科 目	学年配当	単位
全	表現文化論Ⅳa〈民俗と作法の表現文化論〉	1～4	2	全	地域空間論Ⅶb〈日本と東アジアの社会と文化〉	1～4	2
全	表現文化論Ⅳb〈伝統芸術文化論〉	1～4	2	全	地域空間論Ⅶa〈中東の社会と文化〉	1～4	2
全	※ 表現文化論Ⅴa	1～4	2	全	地域空間論Ⅶb〈中東の社会と文化〉	1～4	2
全	※ 表現文化論Ⅴb	1～4	2	全	※ 地域空間論演習 a	1～4	2
全	表現文化論Ⅵa〈文学と地域文化〉	1～4	2	全	※ 地域空間論演習 b	1～4	2
全	表現文化論Ⅵb〈文学と地域文化〉	1～4	2	全	※ 数理の世界 a	1～4	2
全	表現文化論演習 a	1～4	2	全	※ 数理の世界 b	1～4	2
全	表現文化論演習 b	1～4	2	全	数理科学Ⅰa〈情報と論理〉	1～4	2
全	歴史学入門 a	1～4	2	全	数理科学Ⅰb〈情報と論理〉	1～4	2
全	歴史学入門 b	1～4	2	全	※ 数理科学Ⅱa	1～4	2
全	日本近現代史 a	1～4	2	全	※ 数理科学Ⅱb	1～4	2
全	日本近現代史 b	1～4	2	全	物理の世界 a	1～4	2
全	ヨーロッパ近現代史 a	1～4	2	全	物理の世界 b	1～4	2
全	ヨーロッパ近現代史 b	1～4	2	全	化学の世界 a	1～4	2
全	アジア近現代史 a	1～4	2	全	化学の世界 b	1～4	2
全	アジア近現代史 b	1～4	2	全	生命科学の世界 a	1～4	2
全	アメリカ近現代史 a	1～4	2	全	生命科学の世界 b	1～4	2
全	アメリカ近現代史 b	1～4	2	全	科学史 a	1～4	2
全	※ 歴史文化論Ⅰa	1～4	2	全	科学史 b	1～4	2
全	※ 歴史文化論Ⅰb	1～4	2	全	※ 自然科学Ⅰa	1～4	2
全	歴史文化論Ⅱa〈江戸の文化〉	1～4	2	全	自然科学Ⅰb〈自然と漁業・林業〉	1～4	2
全	歴史文化論Ⅱb〈江戸の文化〉	1～4	2	全	自然科学Ⅱa〈地球と環境〉	1～4	2
全	歴史文化論Ⅲa〈グローバル・ヒストリーと西欧〉	1～4	2	全	自然科学Ⅱb〈地域と環境〉	1～4	2
全	歴史文化論Ⅲb〈グローバル・ヒストリーと非西欧〉	1～4	2	全	自然科学Ⅲa〈地球科学〉	1～4	2
全	※ 歴史文化論Ⅳa	1～4	2	全	自然科学Ⅲb〈地球科学〉	1～4	2
全	※ 歴史文化論Ⅳb	1～4	2	全	※ 自然科学Ⅳa	1～4	2
全	※ 歴史文化論Ⅴa	1～4	2	全	※ 自然科学Ⅳb	1～4	2
全	※ 歴史文化論Ⅴb	1～4	2	全	自然科学Ⅴa〈比較行動学〉	1～4	2
全	※ 歴史文化論演習 a	1～4	2	全	自然科学Ⅴb〈比較行動学〉	1～4	2
全	※ 歴史文化論演習 b	1～4	2	全	数理・自然科学演習 a	1～4	2
全	文化人類学入門 a	1～4	2	全	数理・自然科学演習 b	1～4	2
全	文化人類学入門 b	1～4	2	全	こころと身体 a	1～4	2
全	空間システム論入門 a	1～4	2	全	こころと身体 b	1～4	2
全	空間システム論入門 b	1～4	2	全	※ 身体と運動・スポーツ a	1～4	2
全	地域空間論Ⅰa〈EU論〉	1～4	2	全	※ 身体と運動・スポーツ b	1～4	2
全	地域空間論Ⅰb〈EU論〉	1～4	2	全	心身論Ⅰa〈脳の機能と心の機能〉	1～4	2
全	※ 地域空間論Ⅱa	1～4	2	全	心身論Ⅰb〈精神疾患と脳〉	1～4	2
全	※ 地域空間論Ⅱb	1～4	2	全	心身論Ⅱa〈こころと発達〉	1～4	2
全	地域空間論Ⅲa〈東南アジアの社会と文化〉	1～4	2	全	心身論Ⅱb〈こころと社会〉	1～4	2
全	地域空間論Ⅲb〈東南アジアの社会と文化〉	1～4	2	全	心身論Ⅲa〈運動・スポーツと心のしくみ〉	1～4	2
全	※ 地域空間論Ⅳa	1～4	2	全	心身論Ⅲb〈運動・スポーツと身体のしくみ〉	1～4	2
全	※ 地域空間論Ⅳb	1～4	2	全	心身論Ⅳa〈食と健康〉	1～4	2
全	※ 地域空間論Ⅴa	1～4	2	全	心身論Ⅳb〈食と環境〉	1～4	2
全	※ 地域空間論Ⅴb	1～4	2	全	※ 心身論Ⅴa	1～4	2
全	地域空間論Ⅵa〈アフリカの社会と文化〉	1～4	2	全	※ 心身論Ⅴb	1～4	2
全	地域空間論Ⅵb〈アフリカの社会と文化〉	1～4	2	全	心身論演習 a	1～4	2
全	地域空間論Ⅶa〈日本と東アジアの社会と文化〉	1～4	2	全	心身論演習 b	1～4	2

履修規定

政策イノベーション学部

2016年度以降入学者用

第11表 総合教養科目（つづき）

国際交流科目				
区分		授業科目	学年配当	単位
英語等による 日本事情関係科目	全	Japan Studies I A 〈Introduction to Japanese Economy and Management〉	1～4	2
	全	Japan Studies I B 〈Introduction to Japanese Economy and Management〉	1～4	2
	全	※Japan Studies II A	1～4	2
	全	Japan Studies II B 〈Introduction to Japanese Society〉	1～4	2
	全	Japan Studies III A 〈Introduction to Anthropology of Japan〉	1～4	2
	全	Japan Studies III B 〈Introduction to Anthropology of Japan〉	1～4	2
	全	Japan Studies IV A 〈Introduction to Gender and Law in Japan〉	1～4	2
	全	Japan Studies IV B 〈Introduction to Gender and Law in Japan〉	1～4	2
	全	Japan Studies V A 〈Introduction to Japanese Literature〉	1～4	2
	全	Japan Studies V B 〈Introduction to Japanese Literature〉	1～4	2
	全	Japan Studies VI A 〈Introduction to Japanese Folklore〉	1～4	2
	全	Japan Studies VI B 〈Introduction to Japanese Folklore〉	1～4	2
	全	※Japan Studies VII A	1～4	2
	全	※Japan Studies VII B	1～4	2
	全	Japan Studies VIII A 〈Introduction to Japanese Cinema〉	1～4	2
	全	Japan Studies VIII B 〈Introduction to Japanese Cinema〉	1～4	2
英語等による 特定のテーマを 扱った科目	全	Special Topics I A 〈Cold Wars Old and New〉	1～4	2
	全	Special Topics I B 〈Cold Wars Old and New〉	1～4	2
	全	Special Topics II A 〈Gender Studies〉	1～4	2
	全	Special Topics II B 〈Gender Studies〉	1～4	2
	全	※Special Topics III A	1～4	2
	全	※Special Topics III B	1～4	2
	全	Special Topics IV A 〈Language, Culture and Communication〉	1～4	2
	全	Special Topics IV B 〈Language, Culture and Communication〉	1～4	2
データサイエンス科目				
		授業科目	学年配当	単位
基礎科目	全	データサイエンス入門Ⅰ	1～4	2
	全	データサイエンス概論	1～4	2
	全	データサイエンス入門Ⅱ	2～4	2
	全	データサイエンス応用	2～4	2
発展科目	全	データサイエンス・スキルアップ・プログラム	2～4	2
	全	データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2～4	2

注1) 各授業科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、授業科目名称には含まれない。

注2) ※印の授業科目は本年度休講である。

履修規定

政策イノベーション学科

2016年度以降入学者用

1 規定単位数 (続き)

《履修上の注意》

- ①「短期学外演習〈自然〉」は、反復して履修することができる。ただし、卒業要件単位として認められるのは2単位までである。
- ②2017年度から、全学共通教育科目として通年(4単位)で開講していた授業科目は、前期a(2単位)、後期b(2単位)に分割して開講している。なお、2016年度までに通年科目の単位を修得している場合、同一名称のaまたはbの授業科目は履修できない。
(例:2016年度までに「社会学入門」の単位を修得している場合、「社会学入門a」または「社会学入門b」を履修できない)
- ③「総合講座V」および「総合講座VI」は、年度をかえて同一名称の授業科目を反復履修できる。ただし、反復履修して修得した単位は卒業要件単位として認めない。
- ④「成城学Ⅲ」と「成城学Ⅳ」は、セットで履修することになっている。なお、「成城学Ⅲ」または「成城学Ⅳ」のいずれかの単位をすでに修得している者で、本年度にもう一方の授業科目の履修を希望する場合は、Web履修登録期間締切日までに教務部に申し出ること。
- ⑤「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」は、「データサイエンス入門Ⅰ」「データサイエンス概論」の2科目を修得済みであり、かつ「データサイエンス入門Ⅱ」を修得済みであるか、同時履修(「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」が前期開講科目あるいは夏季集中講義である場合は、「データサイエンス入門Ⅱ」を前期に履修)していることが履修の条件となる。
- ⑥「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」は、「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」を修得済みであり、かつ「データサイエンス応用」を修得済みであるか、同時履修していることが履修の条件となる。
- ⑦2018年度に「Special Topics IVA」、「Special Topics IVB」が新設された。
- ⑧「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」及び「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」は、2018年度から学年配当が「3・4年」から「2~4年」に変更となった。
- ⑨全学共通教育科目の中には特別な履修登録手続きが必要な授業科目があるので、【授業に関することⅣ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を必ず参照すること。
- ⑩総合教養科目に属する授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位は、一般共通科目の卒業要件単位として充当することができる。

2 教養演習

総合教養科目の1つとして少人数のゼミナール形式の授業として開講されるのが「教養演習」である。この授業科目は1~4年次までに開かれているが、主な対象として1年次生を設定している。クラスサイズは原則20人以下とし、少人数教育の利点を活かした教員と学生間、さらに学生相互間での議論を重視した授業を行う。学生一人ひとりの個性を育みながら、テーマに沿って学生の知的関心を広め、さらに深めることをねらいとしている。あわせて、議論とレポートの作成を通して、論理的な思考と日本語表現力を育成する。

「教養演習」は反復・重複して履修することができるが、卒業要件単位として認められるのは4単位までである。

なお、履修に際しては特別な手続きが必要である。登録方法については、【授業に関することⅣ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

1 規定単位数

学部共通科目には、英語力のブラッシュアップが図れるような各種の英語科目、および英語以外の外国語科目が配置されている。

学部共通科目で卒業に必要な単位数は6単位であり、授業科目は第12表のとおりである。授業科目名の前に「全」と付いた科目は全学共通教育科目であり、詳しい説明は、【全学共通教育科目】の項に記載されている。

なお、学部共通科目の卒業要件6単位は、学部共通科目の中に配置されている授業科目のほか、基礎科目の選択A、選択B、選択C、および専門科目の選択A、選択Bに属する授業科目の中から、それぞれ卒業要件単位数を超えて修得した単位によっても充当することができる。

第12表 学部共通科目

	授 業 科 目	学年配当	単 位		授 業 科 目	学年配当	単 位
	English for International Communication	2～4	2	全	中国語選択 (初級) II b	1～4	1
	English for Academic Settings	2～4	2	全	中国語選択 (中級) a	1～4	1
	English for Practical Proficiency	2～4	2	全	中国語選択 (中級) b	1～4	1
	Innovation Studies in English [a]	2～4	1	全	中国語選択 (上級) a	1～4	1
	Innovation Studies in English [b]	2～4	1	全	中国語選択 (上級) b	1～4	1
	Advanced Oral Interaction in English	2～4	2	全	韓国語選択 (初級) a	1～4	1
	Critical Reading in English [a]	2～4	1	全	韓国語選択 (初級) b	1～4	1
	Critical Reading in English [b]	2～4	1	全	韓国語選択 (中級・ディプロム) a	1～4	1
	Research Writing Skills in English [a]	2～4	1	全	韓国語選択 (中級・ディプロム) b	1～4	1
	Research Writing Skills in English [b]	2～4	1	全	ディプロム・コース中級 (独語) a	1～4	1
	Thesis Writing Skills in English [a]	3～4	1	全	ディプロム・コース中級 (独語) b	1～4	1
	Thesis Writing Skills in English [b]	3～4	1	全	ディプロム・コース上級 (独語) a	1～4	1
	資格英語	2～4	2	全	ディプロム・コース上級 (独語) b	1～4	1
全	ビジネス英語 a	1～4	1	全	ディプロム・コース中級 (仏語) a	1～4	1
全	ビジネス英語 b	1～4	1	全	ディプロム・コース中級 (仏語) b	1～4	1
全	独会話選択 a	1～4	1	全	ディプロム・コース上級 (仏語) a	1～4	1
全	独会話選択 b	1～4	1	全	ディプロム・コース上級 (仏語) b	1～4	1
全	独語選択 (初級) I a	1～4	1	全	海外短期語学研修 (英語・春季)	*	2
全	独語選択 (初級) I b	1～4	1	全	海外短期語学研修 (英語・夏季)	1～4	2
全	独語選択 (初級) II a	1～4	1	全	海外短期語学研修 (独語・春季)	*	2
全	独語選択 (初級) II b	1～4	1	全	海外短期語学研修 (仏語・春季)	*	2
全	独語選択 (中級) a	1～4	1	全	海外短期語学研修 (中国語・夏季)	1～4	2
全	独語選択 (中級) b	1～4	1	全	海外短期語学研修 (英語・就業体験準備)	1～4	1
全	独語選択 (上級) a	1～4	1	全	海外短期研修 (マレーシア・就業体験研修)	1～4	2
全	独語選択 (上級) b	1～4	1	全	日本語 A (上級・会話)	1～4	2
全	仏会話選択 a	1～4	1	全	日本語 A (上級・読解)	1～4	2
全	仏会話選択 b	1～4	1	全	日本語 A (上級・表現文型と語彙)	1～4	2
全	仏語選択 (初級) I a	1～4	1	全	日本語 A (上級・特別講座)	1～4	2
全	仏語選択 (初級) I b	1～4	1	全	日本語 A (中級・総合日本語)	1～4	6
全	仏語選択 (初級) II a	1～4	1	全	日本語 A (中級・特別講座)	1～4	2
全	仏語選択 (初級) II b	1～4	1	全	日本語 A (初級)	1～4	8
全	仏語選択 (中級) a	1～4	1	全	日本語 B (上級・日本語聴読解)	1～4	1
全	仏語選択 (中級) b	1～4	1	全	日本語 B (上級・日本語文章表現)	1～4	1
全	仏語選択 (上級) a	1～4	1	全	日本語 B (上級・日本語会話)	1～4	2
全	仏語選択 (上級) b	1～4	1	全	日本語 B (上級・日本語文法と漢字)	1～4	2
全	スペイン語選択 (初級) a	1～4	1	全	日本語 B (上級・総合日本語)	1～4	2
全	スペイン語選択 (初級) b	1～4	1	全	日本語 B (中級・日本語聴読解作文)	1～4	2
全	スペイン語選択 (中級・ディプロム) a	1～4	1	全	日本語 B (中級・日本語会話)	1～4	2
全	スペイン語選択 (中級・ディプロム) b	1～4	1	全	日本語 B (中級・日本語文法と漢字)	1～4	2
全	中国語選択 (初級) I a	1～4	1	全	日本語 B (中級・総合日本語)	1～4	2
全	中国語選択 (初級) I b	1～4	1	全	日本語 B (初級)	1～4	8
全	中国語選択 (初級) II a	1～4	1				

注1) ※印の授業科目は本年度休講である。

注2) 海外短期語学研修のうち、学年配当が*印になっているものは、1～3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位認定がされる科目である。

1 規定単位数
(続き)

《履修上の注意》

- ① 卒業に必要な単位数は、6単位である。
- ② 学部共通科目は、特別な履修手続きが必要である。登録方法については、【授業に関すること】
【IV】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ③ 「資格英語」は、TOEFLまたはTOEICの成績優秀者に対して単位認定を行う授業科目である。
- ④ 2018年度から、通年（2単位）で開講していた全学共通外国語科目は、前期a（1単位）、後期b（1単位）に分割して開講する。2017年度までに通年科目の単位を修得している場合、同一名称のaまたはbの授業科目は履修できない。
(例：2017年度までに「ビジネス英語」の単位を修得している場合、「ビジネス英語a」および「ビジネス英語b」を履修できない。)
- ⑤ 2018年度から全学共通教育科目の英語科目の一部（例：「英語リスニング&スピーキング（初級）a」等）は、卒業要件単位数に含まれない科目となった。該当科目は【履修規定】
【IV】卒業要件単位に算入されない授業科目】の「外国語科目」を参照のこと。
- ⑥ 2018年度に以下のように授業科目が変更された。なお、旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することができない。

旧 授 業 科 目	新 授 業 科 目
独語選択（初級）A	独語選択（初級）I a
	独語選択（初級）I b
独語選択（初級）B	独語選択（初級）II a
	独語選択（初級）II b
仏語選択（初級）A	仏語選択（初級）I a
	仏語選択（初級）I b
仏語選択（初級）B	仏語選択（初級）II a
	仏語選択（初級）II b
中国語選択（初級）A	中国語選択（初級）I a
	中国語選択（初級）I b
中国語選択（初級）B	中国語選択（初級）II a
	中国語選択（初級）II b

- ⑦ 独語選択、仏語選択、中国語選択の履修に際しては、以下の条件を満たさなければならない。

授業科目（グレード）	履修の条件 (同一言語において1つ以上の条件を) 満たすこと	備 考
独語選択（初級）I a・I b・II a・II b 仏語選択（初級）I a・I b・II a・II b 中国語選択（初級）I a・I b・II a・II b	・全学生履修可	教育上の効果を高めるために、I a・I b・II a・II bの同学年での履修を強く勧める。
独語選択（中級）a・b 仏語選択（中級）a・b 中国語選択（中級）a・b	・上記「選択（初級）I a」、「選択（初級）I b」、「選択（初級）II a」、「選択（初級）II b」の計4単位を修得した者 ・その他、一定の語学能力があると認められた者	左記履修の条件を満たしていれば、a・bどちらかだけの履修も可。
独語選択（上級）a・b 仏語選択（上級）a・b 中国語選択（上級）a・b	・上記「選択（中級）a」および「選択（中級）b」の計2単位を修得した者 ・その他、一定の語学能力があると認められた者	左記履修の条件を満たしていれば、a・bどちらかだけの履修も可。

※上記の履修の条件については、2017年度以前に「選択（初級）A」を修得していた場合は、「選択（初級）I a」と「選択（初級）I b」を、「選択（初級）B」を修得していた場合は、「選択（初級）II a」、「選択（初級）II b」を修得しているものとみなす。
同様に、「選択（中級）」を修得していた場合は、「選択（中級）a」および「選択（中級）b」を修得しているものとみなす。

1 規定単位数
(続き)

⑧ 2018年度に以下のように授業科目の名称が変更された。なお、旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することができない。

旧 授 業 科 目	新 授 業 科 目
ディプロム・コース中級(独語)A	ディプロム・コース中級(独語)a
ディプロム・コース中級(独語)B	ディプロム・コース中級(独語)b
ディプロム・コース上級(独語)A	ディプロム・コース上級(独語)a
ディプロム・コース上級(独語)B	ディプロム・コース上級(独語)b
ディプロム・コース中級(仏語)A	ディプロム・コース中級(仏語)a
ディプロム・コース中級(仏語)B	ディプロム・コース中級(仏語)b
ディプロム・コース上級(仏語)A	ディプロム・コース上級(仏語)a
ディプロム・コース上級(仏語)B	ディプロム・コース上級(仏語)b

⑨ 「海外短期語学研修」、「海外短期研修」については以下のとおりである。

	授 業 科 目	学年配当	単位	備 考
全	海外短期語学研修(英語・春季)	*	2	研修内容等については、シラバスを参照のこと。 また、履修登録の方法については、 【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録 手続きを必要とする授業科目】を参照 すること。
全	海外短期語学研修(英語・夏季)	1~4	2	
全	海外短期語学研修(独語・春季)	*	2	
全	海外短期語学研修(仏語・春季)	*	2	
全	海外短期語学研修(中国語・夏季)	1~4	2	
全	海外短期語学研修 (英語・就業体験準備)	1~4	1	
全	海外短期研修 (マレーシア・就業体験研修)	1~4	2	

- 一度単位の認定を受けた授業科目も再度履修することができ、同一年度に複数の授業科目を履修することもできる。ただし、認定された単位のうち卒業要件単位に算入することができるのはあわせて2単位までである。
 - 海外短期語学研修のうち、学年配当が*印になっているものは、1~3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位認定がされる科目である。研修への参加申し込みをもって、該当する授業科目への履修登録とする。なお、Campus Square for Web上では、研修に参加する年度は単位数が0の仮置き科目、その翌年度に2単位の科目を履修登録する。これらのCampus Square for Web上の履修登録はいずれも教務部が行う。履修登録された2単位は、研修の翌年度の履修科目登録上限単位数に含まれる。研修参加申し込み後は、研修自体がやむを得ず中止となった場合を除き、研修への実際の参加の可否にかかわらず、履修登録を取り消すことができないので注意すること。
 - やむを得ない理由により研修が中止となる場合があることを考慮し、履修科目登録上限単位数や卒業・進級要件単位数に注意して学修計画を立てておくこと。
 - 「海外短期語学研修(英語・就業体験準備)【1単位】」と「海外短期研修(マレーシア・就業体験研修)【2単位】」はセットで履修することになっている。
 - 「海外短期語学研修」および「海外短期研修」の成績評価は、他の授業科目とは異なり、合格であれば「合」(英文の成績証明書は「P」)と表示される。
- ⑩ 「日本語A」、「日本語B」は、交換留学協定校からの受入交換留学生である者または、外国人留学生のうち所定の要件に該当する者のみ履修できる。
- ⑪ 2017年度をもって「選択英語」、「選択英語a」、「選択英語b」、「日本語コミュニケーションA」、「日本語コミュニケーションB」は廃講となった。なお、修得した単位は学部共通科目の単位として認められる。

1 規定単位数

一般共通科目で卒業に必要な単位数は4単位であり、授業科目は第13表～第16表のとおりである。

なお、一般共通科目の卒業要件単位4単位は、一般共通科目の中に配置されている授業科目のほか、総合教養科目に属する授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位を充当することができる。

2 スポーツ・ウエルネス教育科目

スポーツ・ウエルネス教育科目の授業科目は、第13表のとおりである。

第13表 スポーツ・ウエルネス教育科目（学年配当：1～4年次）

カテゴリー	系列	授業科目・種目、コース	
スポーツ・ウエルネス講義・演習科目（半期2単位）	スポーツ文化	スポーツ・スタディーズⅠ〈身体と用具の変遷〉 ※スポーツ・スタディーズⅡ スポーツ・スタディーズⅢ〈スポーツのグローカリゼーション〉 ※スポーツ・スタディーズⅣ	
	ウエルネス文化	ウエルネス・スタディーズⅠ〈健康スポーツへの誘い〉 ウエルネス・スタディーズⅡ〈健康スポーツの心理〉 ウエルネス・スタディーズⅢ〈身体のリテラシー〉 ウエルネス・スタディーズⅣ〈健康スポーツの科学〉	
	身体表現文化	身体表現・スタディーズⅠ〈アスリートと身体表現〉 身体表現・スタディーズⅡ〈武道とジャパノロジー〉 身体表現・スタディーズⅢ〈身体コーディネーション論〉 身体表現・スタディーズⅣ〈舞踊と身体表現〉	
スポーツ・ウエルネス実技科目（半期または集中1単位）	スポーツ文化	※オルタナティブスポーツ ゴルフ サッカー&フットサル ソフトボール 卓球 テニス バスケットボール バドミントン バレーボール フットサル	定時コース
		※サイクル・スポーツ スキー	集中コース
	ウエルネス文化	アクアエクササイズ エアロビクス&コンディショニング エアロビクス&ピラティス コンディショニング 水泳 ※トレーニング フィットネス ヨガ&ピラティス レクリエーション・スポーツ	定時コース
		剣道（古武道） ダンスパフォーマンス	

注1) 各授業科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、授業科目名称には含まれない。

注2) ※印の授業科目は本年度休講である。

《履修上の注意》

- ① スポーツ・ウエルネス教育科目は、特別な履修登録手続きが必要となるので【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② スポーツ・ウエルネス講義・演習科目の第1回目の授業は、第1体育館1階講義室または指定された教室でガイダンスを行う。
- ③ スポーツ・ウエルネス実技科目の第1回目の授業は、前期・後期ともに、第1体育館Aフロアでガイダンスを行う。なお、ガイダンスに出席するにあたり着替えは不要である。
- ④ スポーツ・ウエルネス実技科目は、前期・後期の半期開講科目である。後期開講科目についても前期開講科目と同様に4月の履修申し込み日および履修登録期間に手続きを終えなければならない。
- ⑤ 健康上の問題および心身に障がいのある履修希望者には、個別に対応する。希望者は履修登録期間内に教務部または科目担当専任教員まで申し出ること。
- ⑥ スポーツ・ウエルネス実技科目は一度単位を修得した種目も再履修することができ、同一種目が複数開講されている場合は複数の履修も可能である。

3 IT科目

IT科目の授業科目は、第14表のとおりである。授業科目の説明は【全学共通教育科目 Cリテラシー科目群 3 IT科目】の項、登録方法などについては、【授業に関すること IV 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

第14表 IT科目 (学年配当：1～4年次)

授業科目	単位	授業科目	単位
コンピュータ・リテラシーA1	2	コンピュータ・リテラシーD	2
コンピュータ・リテラシーA2	2	コンピュータ・リテラシーE	2
コンピュータ・リテラシーB	2	※図書館活用法	2
※コンピュータ・リテラシーC	2		

注) ※印の授業科目は本年度休講である。

4 WRD

WRDの授業科目「WRD」は第15表のとおりである。授業科目の説明は【全学共通教育科目 Cリテラシー科目群 1 WRD】の項、登録方法などについては、【授業に関すること IV 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

第15表 WRD (学年配当：1～4年次)

授業科目	単位
WRD	4

5 キャリアデザイン科目

キャリアデザイン科目の授業科目は、第16表または第16表の2のとおりである。授業科目の説明は【全学共通教育科目 Eキャリアデザイン科目群】の項、登録方法などについては、特別な履修登録手続きが必要であるため、【授業に関すること IV 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

第16表 キャリアデザイン科目【2017年度以降入学者用】

授業科目	学年配当	単位
☆キャリア形成Ⅰ〈コミュニケーション〉	1～4	2
☆キャリア形成Ⅱ〈リーダーシップ〉	1～4	2
☆キャリア形成Ⅲ〈ワークライフバランス〉	1～4	2
☆キャリア形成Ⅳ〈チームワーク・協働〉	1～4	2
★プロジェクト演習〈ホスピタリティとサービス〉	1・2	2
★プロジェクト演習〈企業提案〉	1・2	2
★プロジェクト演習〈企業との協働〉	1・2	2

注1) 各授業科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、授業科目名称には含まれない。

注2) ※印の授業科目は本年度休講である。

《第16表【2017年度以降入学者用】の履修上の注意》

- ① キャリアデザイン科目の修得単位のうち、☆の付いた授業科目から2単位、★の付いた授業科目から2単位の計4単位を限度として卒業要件単位に算入することができる。
- ② 「プロジェクト演習」のうち、修得できる単位数は、1科目2単位までとする。
- ③ 「プロジェクト演習」は、3年次以降は履修することができない。

第16表の2 キャリアデザイン科目【2016年度入学者用】

授業科目	学年配当	単位
キャリア形成概論Ⅰ	1・2	2
キャリア形成概論Ⅱ	1・2	2

注) ※印の授業科目は本年度休講である。

《第16表の2【2016年度入学者用】の履修上の注意》

「キャリア形成概論Ⅰ・Ⅱ」は3年次以降は履修することができない。

Ⅲ

政策イノベーション学科授業科目一覧

第17表 政策イノベーション学科授業科目一覧

分野・区分		学年配当	1 年			
外国語科目	必修	English I: Skills for Learning [a] ① English I: Skills for Learning [b] ① English I: Social Interaction② English I: Academic Interaction② English I: Reading and Writing [a] ① English I: Reading and Writing [b] ①				
基礎科目	必修	イノベーション概論② 科学技術と社会② 情報リテラシー② データ分析入門②				
	選択 A	経済学④* 国際関係学④*	政策学②* 行政学②*	経営学④* 統計学④*	心理学④ 社会学④	社会心理学④
	選択 B					
選択 C	※エコロジー論④ 生命倫理論④	比較文化論④ 生命の科学④	文明と社会④ 家族と社会の変動④	地域と文化④		
専門科目	必修					
	選択 A	政策系科目				
		戦略系科目				
		学科共通科目				
	選択 B	心理系科目				
社会系科目						
学科共通科目						

注1) ○で囲まれた数字は単位数を表す。
 注2) *印の授業科目は本年度休講である。
 注3) 基礎科目選択Aの卒業要件単位数12単位のうち、*印のついた授業科目から8単位以上を選択すること。

履修規定

政策イノベーション学科

2016年度以降入学者用

2年	3年	4年	卒業要件 単位数
English II: Public Speaking① English II: Presentation and Discussion① English II: Academic Reading and Writing [a] ① English II: Academic Reading and Writing [b] ① English II: Business Reading and Writing [a] ① English II: Business Reading and Writing [b] ①			14
			8
			12
社会調査法④ 心理実験法④	メッセージ分析法④ 市場調査法④	心理研究法④	4
			4
基礎ゼミナール(政策)② 基礎ゼミナール(戦略)②	ゼミナールI④	ゼミナールII④ 卒業研究④	16
イノベーション政策論④ 経済政策② 公共経済学② 科学技術論②	金融システム論② 金融イノベーション論I② 日本経済論② 日本金融論②	開発政策論② 開発支援論② 国際法④ 地域政策論④	32
	イノベーション経済論④ ※公共政策論② 知的財産法② リテールファイナンス論②	金融イノベーション論II② 比較イノベーション論② グローバルガバナンス論② 国際機構論④	
イノベーション戦略論④ 戦略論② 組織論② マーケティング論②	現代企業論④ 企業家史④ 組織イノベーション論④		
	人的資源論④ 新商品開発論② ベンチャービジネス論② 研究開発管理論②	消費行動論② ※トップマネジメント論② ※ロジスティクス論② 企業評価論④	
OCA②	社会イノベーション特殊演習②	政策イノベーション特殊講義②	
イノベーション心理論④ 認知心理学④ パーソナリティ心理学②	メディア心理学④ 異文化間心理学②	組織心理学② 意思決定論② 経済心理学② ワークプレイス論②	14
		対人コミュニケーション論④ 認知言語学④ ヒューマンインターフェイス論④ 産業カウンセリング④	
イノベーション社会論④ 社会システム論④ 日本社会文化論④	※アジア社会文化論④ アメリカ社会文化論④ 現代国際社会学④	異文化間コミュニケーション論I② 異文化間コミュニケーション論II②	
		宗教社会論④ ※生活福祉論④ NGO・NPO論②	
		社会人類学② 環境社会論② 社会調査専門演習④	
		※心理社会学特殊講義②	

第17表 政策イノベーション学科授業科目一覧（つづき）

学年配当 分野・区分	1 年		
総合教養科目	短期学外演習〈自然〉②	教養演習④	
	※総合講座Ⅰ② 総合講座Ⅱ〈アート・プロデュース／感動と価値の創造〉② 総合講座Ⅲ〈環境〉② ※総合講座Ⅳ② 総合講座Ⅴ〈余暇学（世田谷6大学コンソーシアム連携授業）〉② 総合講座Ⅵ〈中国文学入門（世田谷6大学コンソーシアム連携授業）〉② ※特別講座Ⅰ② ※特別講座Ⅱ② 成城学園を知る② 成城学Ⅰ〈柳田國男と民俗学〉② ※成城学Ⅱ② ※成城学Ⅲ② ※成城学Ⅳ② 成城学Ⅴ〈成城と自然〉② 社会学入門a② 社会学入門b② メディア論入門a② メディア論入門b② 現代社会論Ⅰa〈現代の宗教と国家〉② 現代社会論Ⅰb〈現代の宗教と社会〉② 現代社会論Ⅱa〈サブカルチャー史〉② 現代社会論Ⅱb〈サブカルチャー論〉② ※現代社会論Ⅲa② ※現代社会論Ⅲb② 現代社会論Ⅳa〈戦後日本文化論〉② 現代社会論Ⅳb〈戦後日本文化論〉② ※現代社会論Ⅴa② ※現代社会論Ⅴb② 現代社会論Ⅵa〈平和論〉② 現代社会論Ⅵb〈平和論〉②	現代社会論Ⅶa〈カルチュラル・スタディーズ〉② 現代社会論Ⅶb〈カルチュラル・スタディーズ〉② ※現代社会論Ⅷa② ※現代社会論Ⅷb② ※現代社会論演習a② ※現代社会論演習b② 国際関係論入門a② 国際関係論入門b② 経済学入門a② 経済学入門b② 政治学入門a② 政治学入門b② 情報社会論入門a② 情報社会論入門b② 法学（含む日本国憲法）a② 法学（含む日本国憲法）b② 社会構造論Ⅰa〈自由と平等〉② 社会構造論Ⅰb〈自由と平等〉② 社会構造論Ⅱa〈社会と組織〉② 社会構造論Ⅱb〈ネットワークと組織〉② ※社会構造論Ⅲa② ※社会構造論Ⅲb② 社会構造論Ⅳa〈日常生活と社会経済〉② 社会構造論Ⅳb〈日常生活と社会経済〉② ※社会構造論Ⅴa② ※社会構造論Ⅴb② 社会構造論Ⅵa〈現代日本と政治〉② ※社会構造論Ⅵb② 社会構造論演習a② 社会構造論演習b② 哲学入門a② 哲学入門b②	宗教学入門a② 宗教学入門b② 倫理学入門a② 倫理学入門b② 西洋思想入門a② 西洋思想入門b② 東洋思想入門a② 東洋思想入門b② 日本思想入門a② 日本思想入門b② ※思想・人間論Ⅰa② ※思想・人間論Ⅰb② 思想・人間論Ⅱa〈イメージを“よむ”〉② 思想・人間論Ⅱb〈イメージを“よむ”〉② ※思想・人間論Ⅲa② ※思想・人間論Ⅲb② 思想・人間論演習a② 思想・人間論演習b② 文学入門a② 文学入門b② 言語学入門a② 言語学入門b② 音楽入門a② 音楽入門b② ※表象文化論入門a② ※表象文化論入門b② ※表現文化論Ⅰa② ※表現文化論Ⅰb② ※表現文化論Ⅱa② ※表現文化論Ⅱb② 表現文化論Ⅲa〈映画の“いま”〉② 表現文化論Ⅲb〈映画の“いま”〉② 表現文化論Ⅳa〈民俗と作法の表現文化論〉② 表現文化論Ⅳb〈伝統芸術文化論〉②
学部共通科目	ビジネス英語a① ビジネス英語b① 独会話選択a① 独会話選択b① 独語選択（初級）Ⅰa① 独語選択（初級）Ⅰb① 独語選択（初級）Ⅱa① 独語選択（初級）Ⅱb① 独語選択（中級）a① 独語選択（中級）b① 独語選択（上級）a① 独語選択（上級）b① 仏会話選択a① 仏会話選択b① 仏語選択（初級）Ⅰa① 仏語選択（初級）Ⅰb① 仏語選択（初級）Ⅱa① 仏語選択（初級）Ⅱb① 仏語選択（中級）a① 仏語選択（中級）b① 仏語選択（上級）a① 仏語選択（上級）b① スペイン語選択（初級）a① スペイン語選択（初級）b①	スペイン語選択（中級・ディプロム）a① スペイン語選択（中級・ディプロム）b① 中国語選択（初級）Ⅰa① 中国語選択（初級）Ⅰb① 中国語選択（初級）Ⅱa① 中国語選択（初級）Ⅱb① 中国語選択（中級）a① 中国語選択（中級）b① 中国語選択（上級）a① 中国語選択（上級）b① 韓国語選択（初級）a① 韓国語選択（初級）b① 韓国語選択（中級・ディプロム）a① 韓国語選択（中級・ディプロム）b① ディプロム・コース中級（独語）a① ディプロム・コース中級（独語）b① ディプロム・コース上級（独語）a① ディプロム・コース上級（独語）b① ディプロム・コース中級（仏語）a① ディプロム・コース中級（仏語）b① ディプロム・コース上級（仏語）a① ディプロム・コース上級（仏語）b① 海外短期語学研修（英語・春季）② 海外短期語学研修（英語・夏季）②	海外短期語学研修（独語・春季）② 海外短期語学研修（仏語・春季）② 海外短期語学研修（中国語・夏季）② 海外短期語学研修（英語・就業体験準備）① 海外短期研修（マレーシア・就業体験研修）② 日本語A〈上級・会話〉② 日本語A〈上級・読解〉② 日本語A〈上級・表現文型と語彙〉② 日本語A〈上級・特別講座〉② 日本語A〈中級・総合日本語〉⑥ 日本語A〈中級・特別講座〉② 日本語A〈初級〉⑧ 日本語B〈上級・日本語聴読解〉① 日本語B〈上級・日本語文章表現〉① 日本語B〈上級・日本語会話〉② 日本語B〈上級・日本語文法と漢字〉② 日本語B〈上級・総合日本語〉② 日本語B〈中級・日本語聴読解作文〉② 日本語B〈中級・日本語会話〉② 日本語B〈中級・日本語文法と漢字〉② 日本語B〈中級・総合日本語〉② 日本語B〈初級〉⑧
一般共通科目	【スポーツ・ウエルネス教育科目は、Ⅲ科目区分別履修方法 [F] 一般共通科目 2 スポーツ・ウエルネス教育科目 を参照】 コンピュータ・リテラシー A1② ※コンピュータ・リテラシー C② ※図書館活用法② コンピュータ・リテラシー A2② コンピュータ・リテラシー D② WRD④ コンピュータ・リテラシー B② コンピュータ・リテラシー E② 【キャリアデザイン科目は、Ⅳ科目区分別履修方法 [F] 一般共通科目 5 キャリアデザイン科目 を参照】 【国際交流科目は、Ⅳ卒業要件単位に算入されない授業科目を参照】		

注1) ○で囲まれた数字は単位数を表す。
 注2) ※印の授業科目は本年度休講である。

履修規定
政策イノベーション学科
2016年度以降入学者用

2 年	3 年	4 年	卒業要件 単位数
	応用英語研究④	言語コミュニケーション演習④	
※表現文化論Va② ※表現文化論Vb② 表現文化論VIa〈文学と地域文化〉② 表現文化論VIb〈文学と地域文化〉② 表現文化論演習a② 表現文化論演習b② 歴史学入門a② 歴史学入門b② 日本近現代史a② 日本近現代史b② ヨーロッパ近現代史a② ヨーロッパ近現代史b② アジア近現代史a② アジア近現代史b② アメリカ近現代史a② アメリカ近現代史b② ※歴史文化論Ia② ※歴史文化論Ib② 歴史文化論IIa〈江戸の文化〉② 歴史文化論IIb〈江戸の文化〉② 歴史文化論IIIa〈グローバル・ ヒストリーと西欧〉② 歴史文化論IIIb〈グローバル・ ヒストリーと非西欧〉② ※歴史文化論IVa② ※歴史文化論IVb② ※歴史文化論Va② ※歴史文化論Vb② ※歴史文化論演習a② ※歴史文化論演習b② 文化人類学入門a② 文化人類学入門b② 空間システム論入門a② 空間システム論入門b②	地域空間論Ia〈EU論〉② 地域空間論Ib〈EU論〉② ※地域空間論IIa② ※地域空間論IIb② 地域空間論IIIa〈東南アジアの社会と文化〉② 地域空間論IIIb〈東南アジアの社会と文化〉② ※地域空間論IVa② ※地域空間論IVb② ※地域空間論Va② ※地域空間論Vb② 地域空間論VIa〈アフリカの社会と文化〉② 地域空間論VIb〈アフリカの社会と文化〉② 地域空間論VIIa〈日本と 東アジアの社会と文化〉② 地域空間論VIIb〈日本と 東アジアの社会と文化〉② 地域空間論VIIIa〈中東の社会と文化〉② 地域空間論VIIIb〈中東の社会と文化〉② ※地域空間論演習a② ※地域空間論演習b② ※数理の世界a② ※数理の世界b② 数理学Ia〈情報と論理〉② 数理学Ib〈情報と論理〉② ※数理学IIa② ※数理学IIb② 物理の世界a② 物理の世界b② 化学の世界a② 化学の世界b② 生命科学の世界a② 生命科学の世界b② 科学史a② 科学史b②	※自然科学Ia② 自然科学Ib〈自然と漁業・林業〉② 自然科学IIa〈地球と環境〉② 自然科学IIb〈地域と環境〉② 自然科学IIIa〈地球科学〉② 自然科学IIIb〈地球科学〉② ※自然科学IVa② ※自然科学IVb② 自然科学Va〈比較行動学〉② 自然科学Vb〈比較行動学〉② 数理・自然科学演習a② 数理・自然科学演習b② 心身論Ia〈脳の機能と心の機能〉② 心身論Ib〈精神疾患と脳〉② 心身論IIa〈心身と発達〉② 心身論IIb〈心身と社会〉② 心身論IIIa〈運動・スポーツと心のしくみ〉② 心身論IIIb〈運動・スポーツと身体のしくみ〉② 心身論IVa〈食と健康〉② 心身論IVb〈食と環境〉② ※心身論Va② ※心身論Vb② 心身論演習a② 心身論演習b②	12
資格英語② English for International Communication② English for Academic Settings② English for Practical Proficiency② Innovation Studies in English [a]① Innovation Studies in English [b]① Advanced Oral Interaction in English② Critical Reading in English [a]① Critical Reading in English [b]① Research Writing Skills in English [a]① Research Writing Skills in English [b]①	Thesis Writing Skills in English [a]① Thesis Writing Skills in English [b]①		6
			4
合 計			126

IV

卒業要件単位に算入されない授業科目

以下の授業科目は、履修することが可能であるが、修得しても卒業要件単位には含まれないので注意すること。
各授業科目に関する説明は、【**全学共通教育科目**】の項を参照すること。

分野・区分	授 業 科 目	学年配当	単 位	授 業 科 目	学年配当	単 位
外国語科目	英語リスニング&スピーキング(初級) a	1~4	1	英語リーディング&ライティング(中級) b	1~4	1
	英語リスニング&スピーキング(初級) b	1~4	1	英語リーディング&ライティング(上級) a	1~4	1
	英語リスニング&スピーキング(中級) a	1~4	1	英語リーディング&ライティング(上級) b	1~4	1
	英語リスニング&スピーキング(中級) b	1~4	1	英会話選択a	1~4	1
	英語リスニング&スピーキング(上級) a	1~4	1	英会話選択b	1~4	1
	英語リスニング&スピーキング(上級) b	1~4	1	英文多読a	1~4	1
	英語リーディング&ライティング(初級) a	1~4	1	英文多読b	1~4	1
	英語リーディング&ライティング(初級) b	1~4	1	Academic Communication a	1~4	1
	英語リーディング&ライティング(中級) a	1~4	1	Academic Communication b	1~4	1
キャリアデザイン科目 【2017年度以降 入学者】	業界企業分析	2~4	2	時事英語 I	1~4	2
	職業選択	2~4	2	時事英語 II	1~4	2
	※キャリア・プランニング・プログラム I	3・4	2	時事問題研究	2~4	2
	※キャリア・プランニング・プログラム II	3・4	2			
キャリアデザイン科目 【2016年度入学者】	スタート・プログラム I 〈ホスピタリティとサービス〉	1・2	2	※グローバルビジネス論	3・4	2
	スタート・プログラム II 〈企業提案〉	1・2	2	チャレンジ・プログラム	3・4	2
	スタート・プログラム III 〈企業との協働〉	1・2	2	時事英語 I	1~4	2
	ワークライフバランス論	2~4	2	時事英語 II	1~4	2
	※キャリアモデル・ケーススタディ	2~4	2	時事問題研究	2~4	2
	アドバンス・プログラム	2・3	2	※就業力実践 I	2~4	2
	業界企業分析論	2~4	2	※就業力実践 II	2~4	2
	職業選択論	2~4	2	※就業力実践 III	2~4	2
国際交流科目 【留学対策科目】	Academic Skills I A 〈English Reading〉	1~4	1	Academic Skills IV A 〈English Speaking/Discussion〉	1~4	1
	Academic Skills I B 〈English Reading〉	1~4	1	Academic Skills IV B 〈English Speaking/Discussion〉	1~4	1
	Academic Skills II A 〈English Listening〉	1~4	1	Academic Skills V A 〈English Presentation〉	2~4	1
	Academic Skills II B 〈English Listening〉	1~4	1	Academic Skills V B 〈English Presentation〉	2~4	1
	Academic Skills III A 〈English Writing〉	1~4	1	※Academic Skills VI A	2~4	1
	Academic Skills III B 〈English Writing〉	1~4	1	Academic Skills VI B 〈English Research〉	2~4	1
国際交流科目 【英語等による 地域研究科目】	European Studies A 〈Collections and Entertainment in Modern Europe〉	1~4	2	※Oceanian Studies A	1~4	2
	※European Studies B	1~4	2	※Oceanian Studies B	1~4	2
	North American Studies A 〈Immigration and Refugees in the United States, Past and Present〉	1~4	2	※Asian Studies A	1~4	2
	※North American Studies B	1~4	2	Asian Studies B 〈Exploring Contemporary Cultures and Societies in Asia〉	1~4	2
国際交流科目 【留学準備演習】	留学準備演習	1~4	2			

※印の科目は本年度休講である。

《履修上の注意》

- ① 外国語科目、キャリアデザイン科目のうち「スタート・プログラム I~III」および「時事英語 I・II」、国際交流科目は、特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については、【**授業に関すること**】IV 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

- ② 2018年度から、通年（2単位）で開講していた全学共通教育科目の外国語科目は、前期a（1単位）、後期b（1単位）に分割して開講する。2017年度までに通年科目の単位を修得している場合、同一名称のaまたはbの科目は履修できない。
（例：2017年度までに「英語リスニング&スピーキング（初級）」の単位を修得している場合、「英語リスニング&スピーキング（初級）a」および「英語リスニング&スピーキング（初級）b」を履修できない。）
- ③ 【2016年度入学者】「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」は、「キャリア形成概論Ⅰ・Ⅱ」（【履修規定F】一般共通科目）の項を参照）2科目4単位の修得が履修の条件となる。
- ④ 【2016年度入学者】「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」のうち、修得できる単位数は、1科目2単位までとする。
- ⑤ 【2016年度入学者】「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」は3年次以降は履修することができない。
- ⑥ 【2016年度入学者】「チャレンジ・プログラム」の履修を希望する者は、キャリアセンターへ申し出ること。
- ⑦ 【2016年度入学者】「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」について、「キャリア形成概論Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得した学生は、履修科目登録上限単位数を2単位を超えて履修登録することができる。
- ⑧ キャリアデザイン科目の履修について、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が以下のとおり設けられている。
- ・「成城大学就業力育成・認定プログラム」（詳細は【全学共通教育科目E】キャリアデザイン科目群）の項を参照）の受講申請をした学生は、前年までの成績（GPA等）が一定の基準を満たしている場合（1年次はキャリアセンターが行う学力考査等で一定の基準を満たしている場合）、1年次は2単位、2年次は8単位、3年次は4単位まで履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。
- ただし、他の特例措置（【履修規定I】総説 B 履修科目登録上限単位数 2 履修科目登録上限単位数）を参照）も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。
- ⑨ 国際交流科目の履修について、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が以下のとおり設けられている。
- ・国際交流科目のうち、「留学対策科目」、「英語等による地域研究科目」および「留学準備演習」の履修については、前年までの成績（GPA等）が一定の基準を満たしている場合（1年次は国際センターが行う学力考査等で一定の基準を満たしている場合）、各年次4単位まで履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。
- ただし、他の特例措置（【履修規定I】総説 B 履修科目登録上限単位数 2 履修科目登録上限単位数）を参照）も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。
- ⑩ 2018年度に「Academic Skills VA」、「Academic Skills VB」、「Academic Skills VIA」、「Academic Skills VIB」の学年配当は「1～4」から「2～4」に変更された。

履修規定

心理社会学科

[2016年度以降入学者用]

I 総説	56	2) 必修	
A. 科目区分および卒業要件単位数	56	3) 選択A・B	
1) 科目区分		4) OCA	
2) 卒業要件単位数		5) コース制度	
B. 履修科目登録上限単位数	56	D. 総合教養科目	62
1) 履修科目登録上限単位数制度		1) 規定単位数	
2) 履修科目登録上限単位数		2) 教養演習	
C. コース認定制度	57	E. 学部共通科目	67
D. 2年次から3年次への進級基準	57	1) 規定単位数	
		F. 一般共通科目	70
		1) 規定単位数	
		2) スポーツ・ウエルネス教育科目	
		3) IT科目	
		4) WRD	
		5) キャリアデザイン科目	
II 科目区分別履修方法	58	III 心理社会学科授業科目一覧	72
A. 外国語科目	58		
1) 規定単位数			
2) 必修			
3) TOEIC IPテスト			
4) 未修得科目の再履修			
B. 基礎科目	59	IV 卒業要件単位に算入されない	
1) 規定単位数		授業科目	76
2) 必修			
3) 選択			
C. 専門科目	60		
1) 規定単位数			

I 総説

A 科目区分および卒業要件単位数

1 科目区分

授業科目は、**外国語科目**、**基礎科目**、**専門科目**、**総合教養科目**、**学部共通科目**、**一般共通科目**の6つの科目区分から構成されている。

2 卒業要件単位数

卒業に必要な単位数は**126単位**であり、**第1表**に示す規定の単位数を修得しなければならない。

第1表 心理社会学科 卒業要件科目および単位数

科目区分		規定単位数	
外国語科目	必修	14	14
基礎科目	必修	8	28
	選択A	12	
	選択B	4	
	選択C	4	
専門科目	必修	16	62
	選択A (注1)	32	
	選択B	14	
総合教養科目		12	12
学部共通科目		6	(注2) 6
一般共通科目		4	4
合計		126	

(注1) **学部共通科目**の卒業要件単位6単位は、**学部共通科目**の中に配置されている授業科目のほか、**基礎科目**の選択A、選択B及び選択C、並びに**専門科目**の選択A及び選択Bに配置されている授業科目の中から、それぞれ卒業要件単位数を超えて修得した単位によっても充当することができる。

(注2) **一般共通科目**の卒業要件単位4単位は、**一般共通科目**の中に配置されている授業科目のほか、**総合教養科目**に配置されている授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位によっても充当することができる。

B 履修科目登録上限単位数

1 履修科目登録上限単位数制度

この制度は、各自が履修登録するに当たり、学問上の興味や知的関心、さらには時間的制約などを十分考慮して授業科目を選択し、いったん登録した科目は途中で放棄することなく最後まで単位の修得を目指して努力するように設けられたものである。

2 履修科目登録上限単位数

各学年毎の履修科目登録上限単位数は**47単位**とする。

※ 2年次は、後期に「English II : Presentation and Discussion」を履修するため、教務部で事前に仮置きで1単位分について履修登録してある。

- ① 「資格英語」の2単位は履修科目登録上限単位数（47単位）に含まれない。
- ② 2年次以降より、学部を設置する審査委員会において、成績資料を個別に審査（審査基準：前年度修得単位数40単位以上かつGPA値2.8以上）し、履修科目登録上限単位数を52単位まで認めることがある。希望者はWeb履修登録期限までに教務部で申請すること。
- ③ 以下に挙げる科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については【**履修規定**Ⅳ**卒業要件単位に算入されない授業科目**】を参照すること。
 - ・キャリアデザイン科目のうち卒業要件単位として認められない科目
 - ・国際交流科目のうち卒業要件単位として認められない科目

C コース認定制度

本学部学生は、2年次進級時に、政策、戦略、心理、社会のいずれの領域を自分の今後の専門領域とするかを申告する。この専門領域のことを本学部では「コース」と呼ぶ。

コース認定制度は、科目区分の「専門科目」の「選択A」及び「選択B」の中から、コース認定要件に示される所定の単位数を修得した場合に、卒業時に当該コースの修了を認定する制度である。各コースの認定要件は第2表のとおりである。また、認定要件を満たしていれば、申告によらず複数のコースについて認定する。

このコース認定制度は、学生諸君が自らの学習目標を明確に意識することにより、自己の学習意欲向上を図ることを目的としたものである。また、コース毎に収容定員が設定されるものではない。なお、ゼミナールへの配属は、申告したコースの別に関わらずに、学科別に選考を通じて行われる。

コース申告の手続きなどについては、1年次終了時までにはガイダンスを行う。

第2表 コース認定要件

コース	認定要件
心理コース	専門科目選択科目の心理系科目から20単位以上
社会コース	専門科目選択科目の社会系科目から20単位以上
政策コース	専門科目選択科目の政策系科目から20単位以上
戦略コース	専門科目選択科目の戦略系科目から20単位以上

D 2年次から3年次への進級基準

2年次から3年次へ進級するには、2年次終了までに第3表に示す所定の単位を修得していなければならない。

第3表 進級基準

授業科目		単位数	
1年次必修科目	外国語科目	English I : Skills for Learning [a]	1
		English I : Skills for Learning [b]	1
		English I : Social Interaction	2
		English I : Academic Interaction	2
		English I : Reading and Writing [a]	1
		English I : Reading and Writing [b]	1
	基礎科目	イノベーション概論	2
		科学技術と社会	2
		情報リテラシー	2
		データ分析入門	2
2年次必修科目	専門科目	基礎ゼミナール (心理)	いずれか 2
		基礎ゼミナール (社会)	
上記必修科目以外の1・2年次配当科目		15	
合 計		33	

II

科目区分別履修方法

A

外国語科目

1 規定単位数

社会イノベーション学部では、英語が必修科目となっており、聞く、話す、読む、書くの4つのスキルをバランスよく身につけることができるようなカリキュラムが組まれている。卒業に必要な単位数は第4表のとおりである。

第4表 外国語科目規定単位数

区分	授 業 科 目	学年配当	規定単位数	主な技能
必修	English I : Skills for Learning [a]	1	1	基本技能
	English I : Skills for Learning [b]		1	
	English I : Social Interaction		2	リスニング スピーキング
	English I : Academic Interaction		2	
	English I : Reading and Writing [a]		1	リーディング ライティング
	English I : Reading and Writing [b]		1	
	English II : Public Speaking	2	1	リスニング スピーキング
	English II : Presentation and Discussion		1	
	English II : Academic Reading and Writing [a]		1	リーディング ライティング
	English II : Academic Reading and Writing [b]		1	
	English II : Business Reading and Writing [a]		1	
	English II : Business Reading and Writing [b]		1	
計			14	

※ クラス分けについて

2年次必修の英語は、入学時に決められたクラスとは異なる英語専用のクラス [(1) ~ (14)] で受講する。教務部で事前登録を行うので、各自のクラスを、Campus Square for Webの履修状況メニューで確認すること。

2 必 修

1年次には、「English I : Skills for Learning [a]/[b]」で高校までに学習した知識とスキルの総復習に加え、レファレンススキルなどの大学レベルでの英語学習の基礎となるスキルを身につける。「English I : Reading and Writing [a]/[b]」では、読み書きの基礎を固める。主にネイティブ・スピーカーの講師による「English I : Social Interaction」と「English I : Academic Interaction」では、それぞれ日常生活とアカデミックな場面におけるコミュニケーション能力を身につける。

2年次の「English II : Business Reading and Writing [a]/[b]」と「English II : Academic Reading and Writing [a]/[b]」では、それぞれビジネスとアカデミックな場面に特化して読み書きのスキルを磨く。前期の「English II : Public Speaking」では、英語によるディスカッションやプレゼンテーション能力の基礎を学び、後期の「English II : Presentation and Discussion」では、前期に学んだスキルを繰り返しトレーニングし、場面に応じた英語コミュニケーション能力を身につける。

なお、外国語科目のうち1年次必修科目の単位は、3年次への進級基準にも含まれており、3年次進級のためには同授業科目の単位を修得している必要がある。

2年次後期の「English II : Presentation and Discussion」は、前期の「English II : Public Speaking」が合格または認定の場合に限り履修可能である。Campus Square for Webの履修状況メニュー上には事前にダミー科目が登録されているが、前期の成績確定後に、教務部が登録変更を行う。また、「English II : Business Reading and Writing [b]」は、TOEICスコアが450点に満たない場合は授業内の成果にかかわらず不可とする。

3 TOEIC IP
テスト

1年次から3年次までの各年次において、本学部学生には年1回学内において実施するTOEIC IPテストの受験を義務づけている。これは学生諸君が自らの英語力を継続的にチェックすることにより、学習意欲の向上を図り、さらに社会に対して自らの英語力を広くアピールすることを目的として行われる。

また、外国語科目（英語）必修科目の授業科目であるEnglish II : Business Reading and Writing [b] については、TOEICテストにおいて一定の水準に到達することを単位修得の条件としており、ひいては、本学部卒業の要件ともなっている。

なお、TOEIC IPテストの受験に代えて、学外で実施されるTOEIC Listening & Reading Testを受験することができる。その場合には、別途掲示する所定期日までに、テストのスコアカードを3号館4階社会イノベーション学部研究事務室に持参して申告する必要がある。TOEIC IPテストの受験手続きに関する情報は、別途掲示して通知する。また、TOEIC IPテスト等の受験手続きに関する問い合わせは、3号館4階社会イノベーション学部研究事務室にて受け付ける。

4 未修得科目の
再履修

① 1年次の必修科目

再履修者対象の授業科目（1年次担当）を履修すること。

② 2年次の必修科目

再履修者対象の授業科目（2年次担当）を履修すること。

B 基礎科目

1 規定単位数

基礎科目は、必修、選択A、選択B、選択Cの4区分から構成されている。それぞれの科目区分で卒業に必要な単位数は第5表のとおりである。

第5表 基礎科目規定単位数

科目区分		規定単位数
基礎科目	必修	8
	選択A	12
	選択B	4
	選択C	4
計		28

2 必修

基礎科目必修の授業科目は、第6表のとおりである。これらの授業科目は、イノベーションについてどのように考えるかということを理解すると同時に、必要な情報をどのように獲得し、加工するかという基礎的分析能力を身につけることを目的とする。なお、基礎科目の必修科目の単位は、3年次への進級基準にも含まれており、3年次進級のためには必ず同授業科目の単位を修得している必要がある。

第6表 基礎科目必修科目

授業科目	学年担当	単位数
イノベーション概論	1	2
科学技術と社会	1	2
情報リテラシー	1	2
データ分析入門	1	2

《履修上の注意》

- ① 基礎科目必修科目が不合格の場合は、翌年度に再履修すること。
- ② 上記科目を再履修する場合は、特別な手続きが必要である。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

3 選択

基礎科目における選択科目は、第7表に示されており、選択A、選択B、選択Cの3つに分けられている。選択Aには、4年間のイノベーションに関する学修の基礎となるような授業科目が、選択Bには、分析方法に関する授業科目が配置されている。また、選択Cには、イノベーションを推進するに当たり、その社会的な影響面をより広い視野から検討し、イノベーションのもたらす便益とその問題点を深く考察する授業科目が配置されている。

3 選 択
(続き)

第7表 基礎科目選択科目

区 分	授 業 科 目	学 年 配 当	単 位	備 考
選択A	心理学*	1～2	4	この区分内の授業科目から、12単位以上を選択すること。 なお、*印のついた科目から8単位以上を必ず選択すること。
	社会学*	1～2	4	
	社会心理学*	1～2	4	
	統計学*	1～2	4	
	経済学	1～2	4	
	国際関係学	1～2	4	
	政策学	1～2	2	
	行政学	1～2	2	
選択B	経営学	1～2	4	この区分内の授業科目から、4単位以上を選択すること。
	社会調査法	2～4	4	
	心理実験法	2～4	4	
	メッセージ分析法	2～4	4	
	市場調査法	2～4	4	
選択C	心理研究法	2～4	4	この区分内の授業科目から、4単位以上を選択すること。
	*エコロジー論	1～4	4	
	生命倫理論	1～4	4	
	比較文化論	1～4	4	
	生命の科学	1～4	4	
	文明と社会	1～4	4	
	家族と社会の変動	1～4	4	
地域と文化	1～4	4		

注) *印の授業科目は本年度休講である。

《履修上の注意》

- ① 「社会調査法」、「心理実験法」、「市場調査法」および「心理研究法」は、機材の関係上、履修者数について制限が行われる。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② 選択A、選択B、選択Cに属する授業科目の中から、卒業要件単位数を超過して修得した単位は、学部共通科目の卒業要件単位として充当することができる。

C 専門科目

1 規定単位数

専門科目は、必修、選択A、選択Bの3区分から構成されている。それぞれの科目区分で卒業に必要な単位数は第8表のとおりである。

第8表 専門科目規定単位数

科 目 区 分		規 定 単 位 数
専 門 科 目	必 修	16
	選 択 A	32
	選 択 B	14
計		62

2 必 修

専門科目の授業科目は、第9表のとおりである。

第9表 専門科目必修科目

授 業 科 目	学 年 配 当	単 位
基礎ゼミナール (心理)	2	2
基礎ゼミナール (社会)	2	2
ゼミナール I	3	4
ゼミナール II	4	4
卒 業 研 究	4	4

《履修上の注意》

- ① 「ゼミナールⅠ」、「ゼミナールⅡ」および「卒業研究」は、原則として同一担当教員の指導の下で履修しなければならない。
- ② 「ゼミナールⅠ」が不合格の者は、「ゼミナールⅡ」および「卒業研究」を履修することができない。
- ③ 卒業研究の提出要領については、【[授業に関すること](#)】[区](#)卒業研究】を参照すること。

3 選択 A・B

専門科目における選択科目は、選択Aと選択Bに分けられる。

選択Aは、新製品やブランドを受け入れる消費者心理、イノベーションを生み出す個人の創造力とコミュニケーションの可能性を探る心理系科目、イノベーションと社会の関わり、宗教・文化・環境とイノベーションの関係など、社会的な問題を扱う社会系科目、および学科共通科目に分かれる。

選択Bは、科学技術政策や産業政策をはじめとするイノベーション促進のための国の政策や法制度のあり方を考える政策系科目、研究開発戦略、新ビジネスモデルの構築、新製品開発活動など企業戦略のあり方に迫る戦略系科目、および学科共通科目に分かれる。

選択Aおよび選択Bの授業科目は、第10表のとおりである。

第10表 専門科目選択科目

区分	授業科目	学年配当	単位	授業科目	学年配当	単位	
選択 A	心理系科目	イノベーション心理論	2~4	4	組織心理学	3・4	2
		認知心理学	2~4	4	意思決定論	3・4	2
		パーソナリティ心理学	2~4	2	経済心理学	3・4	2
		メディア心理学	2~4	4	ワークプレイス論	3・4	2
		異文化間心理学	2~4	2	対人コミュニケーション論	3・4	4
					認知言語学	3・4	4
				ヒューマンインターフェイス論	3・4	4	
				産業カウンセリング	3・4	4	
	社会系科目	イノベーション社会論	2~4	4	宗教社会論	3・4	4
		社会システム論	2~4	4	※生活福祉論	3・4	4
		日本社会文化論	2~4	4	社会人類学	3・4	2
		※アジア社会文化論	2~4	4	環境社会論	3・4	2
		アメリカ社会文化論	2~4	4	NGO・NPO論	3・4	2
		現代国際社会学	2~4	4	社会調査専門演習	3・4	4
	科目 学科共通	OCA	2~4	2	※心理社会学特殊講義	3・4	2
		社会イノベーション特殊演習	2~4	2			
	選択 B	政策系科目	イノベーション政策論	2~4	4	イノベーション経済論	3・4
経済政策			2~4	2	※公共政策論	3・4	2
公共経済学			2~4	2	知的財産法	3・4	2
科学技術論			2~4	2	リテールファイナンス論	3・4	2
金融システム論			2~4	2	金融イノベーション論Ⅱ	3・4	2
金融イノベーション論Ⅰ			2~4	2	比較イノベーション論	3・4	2
日本経済論			2~4	2	グローバルガバナンス論	3・4	2
日本金融論			2~4	2	国際機構論	3・4	4
開発政策論			2~4	2	不動産開発論	3・4	2
開発支援論			2~4	2	都市開発論	3・4	2
戦略系科目		イノベーション戦略論	2~4	4	人的資源論	3・4	4
		戦略論	2~4	2	新商品開発論	3・4	2
		組織論	2~4	2	ベンチャービジネス論	3・4	2
		マーケティング論	2~4	2	研究開発管理論	3・4	2
		現代企業論	2~4	4	消費行動論	3・4	2
		企業家史	2~4	4	※トップマネジメント論	3・4	2
		組織イノベーション論	2~4	4	※ロジスティクス論	3・4	2
			企業評価論	3・4	4		
科目 学科共通				政策イノベーション特殊講義	3・4	2	

注) ※印の授業科目は本年度休講である。

3 選択A・B (続き)

《履修上の注意》

- ① 卒業に必要な単位数は、選択Aが32単位、選択Bが14単位である。
- ② 選択Aおよび選択Bに属する授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位は、**学部共通科目**の卒業要件単位として充当することができる。
- ③ 2016年度をもって「異文化コミュニケーション論」は廃講となり、「異文化間コミュニケーション論Ⅰ」、「異文化間コミュニケーション論Ⅱ」が新設された。2016年度までに「異文化コミュニケーション論」の単位を修得している場合、「異文化間コミュニケーション論Ⅰ」、「異文化間コミュニケーション論Ⅱ」を履修することはできない。
- ④ 2016年度をもって「金融イノベーション論」は廃講となり、「金融イノベーション論Ⅰ」、「金融イノベーション論Ⅱ」が新設された。2016年度までに「金融イノベーション論」の単位を修得している場合、「金融イノベーション論Ⅰ」、「金融イノベーション論Ⅱ」を履修することはできない。
- ⑤ 以下の科目は、特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については、【**授業に関すること**】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

社会調査専門演習	日本経済論	マーケティング論	消費行動論
----------	-------	----------	-------

4 OCA

選択A学科共通科目で2年次より開講される「OCA」とは、オフ・キャンパス・アクティビティの略語であり、企業や政府、地方公共団体、NPO / NGOなどの諸組織・諸機関において、就業体験（インターンシップ）を積むことにより、実社会への理解、社会において必要な能力・スキルへの理解を深めるとともに、将来のキャリア形成に役立つ実践的な経験を積むことを目的として置かれている科目である。

※ 登録方法については、【**授業に関すること**】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

5 コース制度

専門科目の選択Aおよび選択Bの中から所定の単位を修得した場合、卒業時にコース修了の認定が与えられる。詳細については、【**履修規定**】Ⅰ総説【**C**コース認定制度】および【**履修モデル**】を参照すること。

D 総合教養科目

1 規定単位数

高度に科学が細分化された21世紀に生きる人間にとって、その専門能力の養成は必要不可欠であるが、その専門能力も洗練された教養人としての健全な懐疑の精神と幅広い視野があってこそ正しい方向に発揮される。この認識の下に、多様な分野の授業科目が開設されているのが**総合教養科目**である。この科目区分の授業科目は**第11表**のとおりである。卒業に必要な単位数は12単位である。

なお、授業科目名の前に「全」と付いた科目は全学共通教育科目である。全学共通教育科目の詳しい説明は、【**全学共通教育科目**】の項に記載されている。

第11表 総合教養科目

授業科目	学年配当	単位	授業科目	学年配当	単位
短期学外演習〈自然〉	1~4	2	法学(含む日本国憲法) b	1~4	2
教養演習	1~4	4	社会構造論 I a〈自由と平等〉	1~4	2
応用英語研究	3・4	4	社会構造論 I b〈自由と平等〉	1~4	2
言語コミュニケーション演習	3・4	4	社会構造論 II a〈社会と組織〉	1~4	2
全 ※ 総合講座 I	1~4	2	社会構造論 II b〈ネットワークと組織〉	1~4	2
全 総合講座 II〈アート・プロデュース/感動と価値の創造〉	1~4	2	全 ※ 社会構造論 III a	1~4	2
全 総合講座 III〈環境〉	1~4	2	全 ※ 社会構造論 III b	1~4	2
全 ※ 総合講座 IV	1~4	2	全 社会構造論 IV a〈日常生活と社会経済〉	1~4	2
全 総合講座 V〈余暇学(世田谷6大学コンソーシアム連携授業)〉	1~4	2	全 社会構造論 IV b〈日常生活と社会経済〉	1~4	2
全 総合講座 VI〈中国文学入門(世田谷6大学コンソーシアム連携授業)〉	1~4	2	全 ※ 社会構造論 V a	1~4	2
全 ※ 特別講座 I	1~4	2	全 ※ 社会構造論 V b	1~4	2
全 ※ 特別講座 II	1~4	2	全 社会構造論 VI a〈現代日本と政治〉	1~4	2
全 成城学園を知る	1~4	2	全 ※ 社会構造論 VI b	1~4	2
全 成城学 I〈柳田國男と民俗学〉	1~4	2	全 社会構造論演習 a	1~4	2
全 ※ 成城学 II	1~4	2	全 社会構造論演習 b	1~4	2
全 ※ 成城学 III	1~4	2	全 哲学入門 a	1~4	2
全 ※ 成城学 IV	1~4	2	全 哲学入門 b	1~4	2
全 成城学 V〈成城と自然〉	1~4	2	全 宗教学入門 a	1~4	2
全 社会学入門 a	1~4	2	全 宗教学入門 b	1~4	2
全 社会学入門 b	1~4	2	全 倫理学入門 a	1~4	2
全 メディア論入門 a	1~4	2	全 倫理学入門 b	1~4	2
全 メディア論入門 b	1~4	2	全 西洋思想入門 a	1~4	2
全 現代社会論 I a〈現代の宗教と国家〉	1~4	2	全 西洋思想入門 b	1~4	2
全 現代社会論 I b〈現代の宗教と社会〉	1~4	2	全 東洋思想入門 a	1~4	2
全 現代社会論 II a〈サブカルチャー史〉	1~4	2	全 東洋思想入門 b	1~4	2
全 現代社会論 II b〈サブカルチャー論〉	1~4	2	全 日本思想入門 a	1~4	2
全 ※ 現代社会論 III a	1~4	2	全 日本思想入門 b	1~4	2
全 ※ 現代社会論 III b	1~4	2	全 ※ 思想・人間論 I a	1~4	2
全 現代社会論 IV a〈戦後日本文化論〉	1~4	2	全 ※ 思想・人間論 I b	1~4	2
全 現代社会論 IV b〈戦後日本文化論〉	1~4	2	全 思想・人間論 II a〈イメージを“よむ”〉	1~4	2
全 ※ 現代社会論 V a	1~4	2	全 思想・人間論 II b〈イメージを“よむ”〉	1~4	2
全 ※ 現代社会論 V b	1~4	2	全 ※ 思想・人間論 III a	1~4	2
全 現代社会論 VI a〈平和論〉	1~4	2	全 ※ 思想・人間論 III b	1~4	2
全 現代社会論 VI b〈平和論〉	1~4	2	全 思想・人間論演習 a	1~4	2
全 現代社会論 VII a〈カルチュラル・スタディーズ〉	1~4	2	全 思想・人間論演習 b	1~4	2
全 現代社会論 VII b〈カルチュラル・スタディーズ〉	1~4	2	全 文学入門 a	1~4	2
全 ※ 現代社会論 VIII a	1~4	2	全 文学入門 b	1~4	2
全 ※ 現代社会論 VIII b	1~4	2	全 言語学入門 a	1~4	2
全 ※ 現代社会論演習 a	1~4	2	全 言語学入門 b	1~4	2
全 ※ 現代社会論演習 b	1~4	2	全 音楽入門 a	1~4	2
全 国際関係論入門 a	1~4	2	全 音楽入門 b	1~4	2
全 国際関係論入門 b	1~4	2	全 ※ 表象文化論入門 a	1~4	2
全 経済学入門 a	1~4	2	全 ※ 表象文化論入門 b	1~4	2
全 経済学入門 b	1~4	2	全 ※ 表現文化論 I a	1~4	2
全 政治学入門 a	1~4	2	全 ※ 表現文化論 I b	1~4	2
全 政治学入門 b	1~4	2	全 ※ 表現文化論 II a	1~4	2
全 情報社会論入門 a	1~4	2	全 ※ 表現文化論 II b	1~4	2
全 情報社会論入門 b	1~4	2	全 表現文化論 III a〈映画の“いま”〉	1~4	2
全 法学(含む日本国憲法) a	1~4	2	全 表現文化論 III b〈映画の“いま”〉	1~4	2

履修規定

心理社会学科

2016年度以降入学者用

第11表 総合教養科目 (つづき)

	授 業 科 目	学年配当	単位		授 業 科 目	学年配当	単位
全	表現文化論Ⅳa〈民俗と作法の表現文化論〉	1~4	2	全	地域空間論Ⅶb〈日本と東アジアの社会と文化〉	1~4	2
全	表現文化論Ⅳb〈伝統芸術文化論〉	1~4	2	全	地域空間論Ⅶa〈中東の社会と文化〉	1~4	2
全	※ 表現文化論Ⅴa	1~4	2	全	地域空間論Ⅶb〈中東の社会と文化〉	1~4	2
全	※ 表現文化論Ⅴb	1~4	2	全	※ 地域空間論演習 a	1~4	2
全	表現文化論Ⅵa〈文学と地域文化〉	1~4	2	全	※ 地域空間論演習 b	1~4	2
全	表現文化論Ⅵb〈文学と地域文化〉	1~4	2	全	※ 数理の世界 a	1~4	2
全	表現文化論演習 a	1~4	2	全	※ 数理の世界 b	1~4	2
全	表現文化論演習 b	1~4	2	全	数理科学Ⅰa〈情報と論理〉	1~4	2
全	歴史学入門 a	1~4	2	全	数理科学Ⅰb〈情報と論理〉	1~4	2
全	歴史学入門 b	1~4	2	全	※ 数理科学Ⅱa	1~4	2
全	日本近現代史 a	1~4	2	全	※ 数理科学Ⅱb	1~4	2
全	日本近現代史 b	1~4	2	全	物理の世界 a	1~4	2
全	ヨーロッパ近現代史 a	1~4	2	全	物理の世界 b	1~4	2
全	ヨーロッパ近現代史 b	1~4	2	全	化学の世界 a	1~4	2
全	アジア近現代史 a	1~4	2	全	化学の世界 b	1~4	2
全	アジア近現代史 b	1~4	2	全	生命科学の世界 a	1~4	2
全	アメリカ近現代史 a	1~4	2	全	生命科学の世界 b	1~4	2
全	アメリカ近現代史 b	1~4	2	全	科学史 a	1~4	2
全	※ 歴史文化論Ⅰa	1~4	2	全	科学史 b	1~4	2
全	※ 歴史文化論Ⅰb	1~4	2	全	※ 自然科学Ⅰa	1~4	2
全	歴史文化論Ⅱa〈江戸の文化〉	1~4	2	全	自然科学Ⅰb〈自然と漁業・林業〉	1~4	2
全	歴史文化論Ⅱb〈江戸の文化〉	1~4	2	全	自然科学Ⅱa〈地球と環境〉	1~4	2
全	歴史文化論Ⅲa〈グローバル・ヒストリーと西欧〉	1~4	2	全	自然科学Ⅱb〈地域と環境〉	1~4	2
全	歴史文化論Ⅲb〈グローバル・ヒストリーと非西欧〉	1~4	2	全	自然科学Ⅲa〈地球科学〉	1~4	2
全	※ 歴史文化論Ⅳa	1~4	2	全	自然科学Ⅲb〈地球科学〉	1~4	2
全	※ 歴史文化論Ⅳb	1~4	2	全	※ 自然科学Ⅳa	1~4	2
全	※ 歴史文化論Ⅴa	1~4	2	全	※ 自然科学Ⅳb	1~4	2
全	※ 歴史文化論Ⅴb	1~4	2	全	自然科学Ⅴa〈比較行動学〉	1~4	2
全	※ 歴史文化論演習 a	1~4	2	全	自然科学Ⅴb〈比較行動学〉	1~4	2
全	※ 歴史文化論演習 b	1~4	2	全	数理・自然科学演習 a	1~4	2
全	文化人類学入門 a	1~4	2	全	数理・自然科学演習 b	1~4	2
全	文化人類学入門 b	1~4	2	全	こころと身体 a	1~4	2
全	空間システム論入門 a	1~4	2	全	こころと身体 b	1~4	2
全	空間システム論入門 b	1~4	2	全	※ 身体と運動・スポーツ a	1~4	2
全	地域空間論Ⅰa〈EU論〉	1~4	2	全	※ 身体と運動・スポーツ b	1~4	2
全	地域空間論Ⅰb〈EU論〉	1~4	2	全	心身論Ⅰa〈脳の機能と心の機能〉	1~4	2
全	※ 地域空間論Ⅱa	1~4	2	全	心身論Ⅰb〈精神疾患と脳〉	1~4	2
全	※ 地域空間論Ⅱb	1~4	2	全	心身論Ⅱa〈こころと発達〉	1~4	2
全	地域空間論Ⅲa〈東南アジアの社会と文化〉	1~4	2	全	心身論Ⅱb〈こころと社会〉	1~4	2
全	地域空間論Ⅲb〈東南アジアの社会と文化〉	1~4	2	全	心身論Ⅲa〈運動・スポーツと心のしくみ〉	1~4	2
全	※ 地域空間論Ⅳa	1~4	2	全	心身論Ⅲb〈運動・スポーツと身体のしくみ〉	1~4	2
全	※ 地域空間論Ⅳb	1~4	2	全	心身論Ⅳa〈食と健康〉	1~4	2
全	※ 地域空間論Ⅴa	1~4	2	全	心身論Ⅳb〈食と環境〉	1~4	2
全	※ 地域空間論Ⅴb	1~4	2	全	※ 心身論Ⅴa	1~4	2
全	地域空間論Ⅵa〈アフリカの社会と文化〉	1~4	2	全	※ 心身論Ⅴb	1~4	2
全	地域空間論Ⅵb〈アフリカの社会と文化〉	1~4	2	全	心身論演習 a	1~4	2
全	地域空間論Ⅶa〈日本と東アジアの社会と文化〉	1~4	2	全	心身論演習 b	1~4	2

履修規定

心理社会学科

2016年度以降入学者用

第11表 総合教養科目（つづき）

国際交流科目				
区分		授業科目	学年配当	単位
英語等による 日本事情関係科目	全	Japan Studies I A 〈Introduction to Japanese Economy and Management〉	1～4	2
	全	Japan Studies I B 〈Introduction to Japanese Economy and Management〉	1～4	2
	全	※Japan Studies II A	1～4	2
	全	Japan Studies II B 〈Introduction to Japanese Society〉	1～4	2
	全	Japan Studies III A 〈Introduction to Anthropology of Japan〉	1～4	2
	全	Japan Studies III B 〈Introduction to Anthropology of Japan〉	1～4	2
	全	Japan Studies IV A 〈Introduction to Gender and Law in Japan〉	1～4	2
	全	Japan Studies IV B 〈Introduction to Gender and Law in Japan〉	1～4	2
	全	Japan Studies V A 〈Introduction to Japanese Literature〉	1～4	2
	全	Japan Studies V B 〈Introduction to Japanese Literature〉	1～4	2
	全	Japan Studies VI A 〈Introduction to Japanese Folklore〉	1～4	2
	全	Japan Studies VI B 〈Introduction to Japanese Folklore〉	1～4	2
	全	※Japan Studies VII A	1～4	2
	全	※Japan Studies VII B	1～4	2
	全	Japan Studies VIII A 〈Introduction to Japanese Cinema〉	1～4	2
	全	Japan Studies VIII B 〈Introduction to Japanese Cinema〉	1～4	2
英語等による 特定のテーマを 扱った科目	全	Special Topics I A 〈Cold Wars Old and New〉	1～4	2
	全	Special Topics I B 〈Cold Wars Old and New〉	1～4	2
	全	Special Topics II A 〈Gender Studies〉	1～4	2
	全	Special Topics II B 〈Gender Studies〉	1～4	2
	全	※Special Topics III A	1～4	2
	全	※Special Topics III B	1～4	2
	全	Special Topics IV A 〈Language, Culture and Communication〉	1～4	2
	全	Special Topics IV B 〈Language, Culture and Communication〉	1～4	2
データサイエンス科目				
		授業科目	学年配当	単位
基礎科目	全	データサイエンス入門Ⅰ	1～4	2
	全	データサイエンス概論	1～4	2
	全	データサイエンス入門Ⅱ	2～4	2
	全	データサイエンス応用	2～4	2
発展科目	全	データサイエンス・スキルアップ・プログラム	2～4	2
	全	データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2～4	2

注1) 各授業科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、授業科目名称には含まれない。

注2) ※印の授業科目は本年度休講である。

履修規定

心理社会学科

2016年度以降入学者用

1 規定単位数 (続き)

《履修上の注意》

- ① 「短期学外演習〈自然〉」は、反復して履修することができる。ただし、卒業要件単位として認められるのは2単位までである。
- ② 2017年度から、全学共通教育科目として通年（4単位）で開講していた授業科目は、前期a（2単位）、後期b（2単位）に分割して開講している。なお、2016年度までに通年科目の単位を修得している場合、同一名称のaまたはbの授業科目は履修できない。
(例：2016年度までに「社会学入門」の単位を修得している場合、「社会学入門a」または「社会学入門b」を履修できない)
- ③ 「総合講座V」および「総合講座VI」は、年度をかえて同一名称の授業科目を反復履修できる。ただし、反復履修して修得した単位は卒業要件単位として認めない。
- ④ 「成城学Ⅲ」と「成城学Ⅳ」は、セットで履修することになっている。なお、「成城学Ⅲ」または「成城学Ⅳ」のいずれかの単位をすでに修得している者で、本年度にもう一方の授業科目の履修を希望する場合は、Web履修登録期間締切日までに教務部に申し出ること。
- ⑤ 「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」は、「データサイエンス入門Ⅰ」「データサイエンス概論」の2科目を修得済みであり、かつ「データサイエンス入門Ⅱ」を修得済みであるか、同時履修（「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」が前期開講科目あるいは夏季集中講義である場合は、「データサイエンス入門Ⅱ」を前期に履修）していることが履修の条件となる。
- ⑥ 「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」は、「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」を修得済みであり、かつ「データサイエンス応用」を修得済みであるか、同時履修していることが履修の条件となる。
- ⑦ 2018年度に「Special Topics IVA」、「Special Topics IVB」が新設された。
- ⑧ 「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」及び「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」は、2018年度から学年配当が「3・4年」から「2～4年」に変更となった。
- ⑨ 全学共通教育科目の中には特別な履修登録手続きが必要な授業科目があるので、【授業に関することⅣ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を必ず参照すること。
- ⑩ **総合教養科目**に属する授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位は、**一般共通科目**の卒業要件単位として充当することができる。

2 教養演習

総合教養科目の1つとして少人数のゼミナール形式の授業として開講されるのが「教養演習」である。この授業科目は1～4年次までに開かれているが、主な対象として1年次生を設定している。クラスサイズは原則20人以下とし、少人数教育の利点を活かした教員と学生間、さらに学生相互間での議論を重視した授業を行う。学生一人ひとりの個性を育みながら、テーマに沿って学生の知的関心を広め、さらに深めることをねらいとしている。あわせて、議論とレポートの作成を通して、論理的な思考と日本語表現力を育成する。

「教養演習」は反復・重複して履修することができるが、卒業要件単位として認められるのは4単位までである。

なお、履修に際しては特別な手続きが必要である。登録方法については、【授業に関することⅣ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

1 規定単位数

学部共通科目には、英語力のブラッシュアップが図れるような各種の英語科目、および英語以外の外国語科目が配置されている。

学部共通科目で卒業に必要な単位数は6単位であり、授業科目は第12表のとおりである。授業科目名の前に「全」と付いた科目は全学共通教育科目であり、詳しい説明は、【全学共通教育科目】の項に記載されている。

なお、学部共通科目の卒業要件6単位は、学部共通科目の中に配置されている授業科目のほか、基礎科目の選択A、選択B、選択C、および専門科目の選択A、選択Bに属する授業科目の中から、それぞれ卒業要件単位数を超えて修得した単位によっても充当することができる。

第12表 学部共通科目

	授 業 科 目	学年配当	単位		授 業 科 目	学年配当	単位
	English for International Communication	2~4	2	全	中国語選択 (初級) II b	1~4	1
	English for Academic Settings	2~4	2	全	中国語選択 (中級) a	1~4	1
	English for Practical Proficiency	2~4	2	全	中国語選択 (中級) b	1~4	1
	Innovation Studies in English [a]	2~4	1	全	中国語選択 (上級) a	1~4	1
	Innovation Studies in English [b]	2~4	1	全	中国語選択 (上級) b	1~4	1
	Advanced Oral Interaction in English	2~4	2	全	韓国語選択 (初級) a	1~4	1
	Critical Reading in English [a]	2~4	1	全	韓国語選択 (初級) b	1~4	1
	Critical Reading in English [b]	2~4	1	全	韓国語選択 (中級・ディプロム) a	1~4	1
	Research Writing Skills in English [a]	2~4	1	全	韓国語選択 (中級・ディプロム) b	1~4	1
	Research Writing Skills in English [b]	2~4	1	全	ディプロム・コース中級 (独語) a	1~4	1
	Thesis Writing Skills in English [a]	3~4	1	全	ディプロム・コース中級 (独語) b	1~4	1
	Thesis Writing Skills in English [b]	3~4	1	全	ディプロム・コース上級 (独語) a	1~4	1
	資格英語	2~4	2	全	ディプロム・コース上級 (独語) b	1~4	1
全	ビジネス英語 a	1~4	1	全	ディプロム・コース中級 (仏語) a	1~4	1
全	ビジネス英語 b	1~4	1	全	ディプロム・コース中級 (仏語) b	1~4	1
全	独会話選択 a	1~4	1	全	ディプロム・コース上級 (仏語) a	1~4	1
全	独会話選択 b	1~4	1	全	ディプロム・コース上級 (仏語) b	1~4	1
全	独語選択 (初級) I a	1~4	1	全	海外短期語学研修 (英語・春季)	*	2
全	独語選択 (初級) I b	1~4	1	全	海外短期語学研修 (英語・夏季)	1~4	2
全	独語選択 (初級) II a	1~4	1	全	海外短期語学研修 (独語・春季)	*	2
全	独語選択 (初級) II b	1~4	1	全	海外短期語学研修 (仏語・春季)	*	2
全	独語選択 (中級) a	1~4	1	全	海外短期語学研修 (中国語・夏季)	1~4	2
全	独語選択 (中級) b	1~4	1	全	海外短期語学研修 (英語・就業体験準備)	1~4	1
全	独語選択 (上級) a	1~4	1	全	海外短期研修 (マレーシア・就業体験研修)	1~4	2
全	独語選択 (上級) b	1~4	1	全	日本語 A 〈上級・会話〉	1~4	2
全	仏会話選択 a	1~4	1	全	日本語 A 〈上級・読解〉	1~4	2
全	仏会話選択 b	1~4	1	全	日本語 A 〈上級・表現文型と語彙〉	1~4	2
全	仏語選択 (初級) I a	1~4	1	全	日本語 A 〈上級・特別講座〉	1~4	2
全	仏語選択 (初級) I b	1~4	1	全	日本語 A 〈中級・総合日本語〉	1~4	6
全	仏語選択 (初級) II a	1~4	1	全	日本語 A 〈中級・特別講座〉	1~4	2
全	仏語選択 (初級) II b	1~4	1	全	日本語 A 〈初級〉	1~4	8
全	仏語選択 (中級) a	1~4	1	全	日本語 B 〈上級・日本語聴読解〉	1~4	1
全	仏語選択 (中級) b	1~4	1	全	日本語 B 〈上級・日本語文章表現〉	1~4	1
全	仏語選択 (上級) a	1~4	1	全	日本語 B 〈上級・日本語会話〉	1~4	2
全	仏語選択 (上級) b	1~4	1	全	日本語 B 〈上級・日本語文法と漢字〉	1~4	2
全	スペイン語選択 (初級) a	1~4	1	全	日本語 B 〈上級・総合日本語〉	1~4	2
全	スペイン語選択 (初級) b	1~4	1	全	日本語 B 〈中級・日本語聴読解作文〉	1~4	2
全	スペイン語選択 (中級・ディプロム) a	1~4	1	全	日本語 B 〈中級・日本語会話〉	1~4	2
全	スペイン語選択 (中級・ディプロム) b	1~4	1	全	日本語 B 〈中級・日本語文法と漢字〉	1~4	2
全	中国語選択 (初級) I a	1~4	1	全	日本語 B 〈中級・総合日本語〉	1~4	2
全	中国語選択 (初級) I b	1~4	1	全	日本語 B 〈初級〉	1~4	8
全	中国語選択 (初級) II a	1~4	1				

注1) ※印の授業科目は本年度休講である。

注2) 海外短期語学研修のうち、学年配当が*印になっているものは、1~3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位認定がされる科目である。

1 規定単位数
(続き)

《履修上の注意》

- ① 卒業に必要な単位数は、6単位である。
- ② 学部共通科目は、特別な履修手続きが必要である。登録方法については、【授業に関すること】
【Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ③ 「資格英語」は、TOEFLまたはTOEICの成績優秀者に対して単位認定を行う授業科目である。
- ④ 2018年度から、通年（2単位）で開講していた全学共通外国語科目は、前期a（1単位）、後期b（1単位）に分割して開講する。2017年度までに通年科目の単位を修得している場合、同一名称のaまたはbの授業科目は履修できない。
(例：2017年度までに「ビジネス英語」の単位を修得している場合、「ビジネス英語a」および「ビジネス英語b」を履修できない。)
- ⑤ 2018年度から全学共通教育科目の英語科目の一部（例：「英語リスニング&スピーキング（初級）a」等）は、卒業要件単位数に含まれない科目となった。該当科目は【履修規定】Ⅳ卒業要件単位に算入されない授業科目】の「外国語科目」を参照のこと。
- ⑥ 2018年度に以下のように授業科目が変更された。なお、旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することができない。

旧 授 業 科 目	新 授 業 科 目
独語選択（初級）A	独語選択（初級）I a
	独語選択（初級）I b
独語選択（初級）B	独語選択（初級）II a
	独語選択（初級）II b
仏語選択（初級）A	仏語選択（初級）I a
	仏語選択（初級）I b
仏語選択（初級）B	仏語選択（初級）II a
	仏語選択（初級）II b
中国語選択（初級）A	中国語選択（初級）I a
	中国語選択（初級）I b
中国語選択（初級）B	中国語選択（初級）II a
	中国語選択（初級）II b

- ⑦ 独語選択、仏語選択、中国語選択の履修に際しては、以下の条件を満たさなければならない。

授業科目（グレード）	履修の条件 (同一言語において1つ以上の条件を) 満たすこと	備 考
独語選択（初級）I a・I b・II a・II b 仏語選択（初級）I a・I b・II a・II b 中国語選択（初級）I a・I b・II a・II b	・全学生履修可	教育上の効果を高めるために、I a・I b・II a・II bの同学年での履修を強く勧める。
独語選択（中級）a・b 仏語選択（中級）a・b 中国語選択（中級）a・b	・上記「選択（初級）I a」、「選択（初級）I b」、「選択（初級）II a」、「選択（初級）II b」の計4単位を修得した者 ・その他、一定の語学能力があると認められた者	左記履修の条件を満たしていれば、a・bどちらかだけの履修も可。
独語選択（上級）a・b 仏語選択（上級）a・b 中国語選択（上級）a・b	・上記「選択（中級）a」および「選択（中級）b」の計2単位を修得した者 ・その他、一定の語学能力があると認められた者	左記履修の条件を満たしていれば、a・bどちらかだけの履修も可。

※上記の履修の条件については、2017年度以前に「選択（初級）A」を修得していた場合は、「選択（初級）I a」と「選択（初級）I b」を、「選択（初級）B」を修得していた場合は、「選択（初級）II a」、「選択（初級）II b」を修得しているものとみなす。
同様に、「選択（中級）」を修得していた場合は、「選択（中級）a」および「選択（中級）b」を修得しているものとみなす。

1 規定単位数
(続き)

⑧ 2018年度に以下のように授業科目の名称が変更された。なお、旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することができない。

旧 授 業 科 目	新 授 業 科 目
ディプロム・コース中級(独語)A	ディプロム・コース中級(独語)a
ディプロム・コース中級(独語)B	ディプロム・コース中級(独語)b
ディプロム・コース上級(独語)A	ディプロム・コース上級(独語)a
ディプロム・コース上級(独語)B	ディプロム・コース上級(独語)b
ディプロム・コース中級(仏語)A	ディプロム・コース中級(仏語)a
ディプロム・コース中級(仏語)B	ディプロム・コース中級(仏語)b
ディプロム・コース上級(仏語)A	ディプロム・コース上級(仏語)a
ディプロム・コース上級(仏語)B	ディプロム・コース上級(仏語)b

⑨ 「海外短期語学研修」、「海外短期研修」については以下のとおりである。

	授 業 科 目	学年配当	単位	備 考
全	海外短期語学研修(英語・春季)	*	2	研修内容等については、シラバスを参照のこと。 また、履修登録の方法については、 【 授業に関すること 】Ⅳ特別な履修登録 手続きを必要とする授業科目】を参照 すること。
全	海外短期語学研修(英語・夏季)	1~4	2	
全	海外短期語学研修(独語・春季)	*	2	
全	海外短期語学研修(仏語・春季)	*	2	
全	海外短期語学研修(中国語・夏季)	1~4	2	
全	海外短期語学研修 (英語・就業体験準備)	1~4	1	
全	海外短期研修 (マレーシア・就業体験研修)	1~4	2	

- 一度単位の認定を受けた授業科目も再度履修することができ、同一年度に複数の授業科目を履修することもできる。ただし、認定された単位のうち卒業要件単位に算入することができるのはあわせて2単位までである。
 - 海外短期語学研修のうち、学年配当が*印になっているものは、1~3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位認定がされる科目である。研修への参加申し込みをもって、該当する授業科目への履修登録とする。なお、Campus Square for Web上では、研修に参加する年度は単位数が0の仮置き科目、その翌年度に2単位の科目を履修登録する。これらのCampus Square for Web上の履修登録はいずれも教務部が行う。履修登録された2単位は、研修の翌年度の履修科目登録上限単位数に含まれる。研修参加申し込み後は、研修自体がやむを得ず中止となった場合を除き、研修への実際の参加の可否にかかわらず、履修登録を取り消すことができないので注意すること。
 - やむを得ない理由により研修が中止となる場合があることを考慮し、履修科目登録上限単位数や卒業・進級要件単位数に注意して学修計画を立てておくこと。
 - 「海外短期語学研修(英語・就業体験準備)【1単位】」と「海外短期研修(マレーシア・就業体験研修)【2単位】」はセットで履修することになっている。
 - 「海外短期語学研修」および「海外短期研修」の成績評価は、他の授業科目とは異なり、合格であれば「合」(英文の成績証明書は「P」)と表示される。
- ⑩ 「日本語A」、「日本語B」は、交換留学協定校からの受入交換留学生である者または、外国人留学生のうち所定の要件に該当する者のみ履修できる。
- ⑪ 2017年度をもって「選択英語」、「選択英語a」、「選択英語b」、「日本語コミュニケーションA」、「日本語コミュニケーションB」は廃講となった。なお、修得した単位は学部共通科目の単位として認められる。

1 規定単位数

一般共通科目で卒業に必要な単位数は4単位であり、授業科目は第13表～第16表のとおりである。

なお、一般共通科目の卒業要件単位4単位は、一般共通科目の中に配置されている授業科目のほか、総合教養科目に属する授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位を充当することができる。

2 スポーツ・ウエルネス教育科目

スポーツ・ウエルネス教育科目の授業科目は、第13表のとおりである。

第13表 スポーツ・ウエルネス教育科目（学年配当：1～4年次）

カテゴリー	系列	授業科目・種目、コース	
スポーツ・ウエルネス講義・演習科目（半期2単位）	スポーツ文化	スポーツ・スタディーズⅠ〈身体と用具の変遷〉 ※スポーツ・スタディーズⅡ スポーツ・スタディーズⅢ〈スポーツのグローカリゼーション〉 ※スポーツ・スタディーズⅣ	
	ウエルネス文化	ウエルネス・スタディーズⅠ〈健康スポーツへの誘い〉 ウエルネス・スタディーズⅡ〈健康スポーツの心理〉 ウエルネス・スタディーズⅢ〈身体のリテラシー〉 ウエルネス・スタディーズⅣ〈健康スポーツの科学〉	
	身体表現文化	身体表現・スタディーズⅠ〈アスリートと身体表現〉 身体表現・スタディーズⅡ〈武道とジャパノロジー〉 身体表現・スタディーズⅢ〈身体コーディネーション論〉 身体表現・スタディーズⅣ〈舞踊と身体表現〉	
スポーツ・ウエルネス実技科目（半期または集中1単位）	スポーツ文化	※オルタナティブスポーツ ゴルフ サッカー&フットサル ソフトボール 卓球 テニス バスケットボール バドミントン バレーボール フットサル	定時コース
		※サイクル・スポーツ スキー	集中コース
	ウエルネス文化	アクアエクササイズ エアロビクス&コンディショニング エアロビクス&ピラティス コンディショニング 水泳 ※トレーニング フィットネス ヨガ&ピラティス レクリエーション・スポーツ	定時コース
		剣道（古武道） ダンスパフォーマンス	

注1) 各授業科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、授業科目名称には含まれない。

注2) ※印の授業科目は本年度休講である。

《履修上の注意》

- ① スポーツ・ウエルネス教育科目は、特別な履修登録手続きが必要となるので【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② スポーツ・ウエルネス講義・演習科目の第1回目の授業は、第1体育館1階講義室または指定された教室でガイダンスを行う。
- ③ スポーツ・ウエルネス実技科目の第1回目の授業は、前期・後期ともに、第1体育館Aフロアでガイダンスを行う。なお、ガイダンスに出席するにあたり着替えは不要である。
- ④ スポーツ・ウエルネス実技科目は、前期・後期の半期開講科目である。後期開講科目についても前期開講科目と同様に4月の履修申し込み日および履修登録期間に手続きを終えなければならない。
- ⑤ 健康上の問題および心身に障がいのある履修希望者には、個別に対応する。希望者は履修登録期間内に教務部または科目担当専任教員まで申し出ること。
- ⑥ スポーツ・ウエルネス実技科目は一度単位を修得した種目も再履修することができ、同一種目が複数開講されている場合は複数の履修も可能である。

3 IT科目

IT科目の授業科目は、第14表のとおりである。授業科目の説明は【全学共通教育科目Cリテラシー科目群 3 IT科目】の項、登録方法などについては、【授業に関することIV特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

第14表 IT科目 (学年配当：1～4年次)

授業科目	単位	授業科目	単位
コンピュータ・リテラシーA1	2	コンピュータ・リテラシーD	2
コンピュータ・リテラシーA2	2	コンピュータ・リテラシーE	2
コンピュータ・リテラシーB	2	※図書館活用法	2
※コンピュータ・リテラシーC	2		

注) ※印の授業科目は本年度休講である。

4 WRD

WRDの授業科目「WRD」は第15表のとおりである。授業科目の説明は【全学共通教育科目Cリテラシー科目群 1 WRD】の項、登録方法などについては、【授業に関することIV特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

第15表 WRD (学年配当：1～4年次)

授業科目	単位
WRD	4

5 キャリアデザイン科目

キャリアデザイン科目の授業科目は、第16表または第16表の2のとおりである。授業科目の説明は【全学共通教育科目Eキャリアデザイン科目群】の項、登録方法などについては、特別な履修登録手続きが必要であるため、【授業に関することIV特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

第16表 キャリアデザイン科目【2017年度以降入学者用】

授業科目	学年配当	単位
☆キャリア形成Ⅰ〈コミュニケーション〉	1～4	2
☆キャリア形成Ⅱ〈リーダーシップ〉	1～4	2
☆キャリア形成Ⅲ〈ワークライフバランス〉	1～4	2
☆キャリア形成Ⅳ〈チームワーク・協働〉	1～4	2
★プロジェクト演習〈ホスピタリティとサービス〉	1・2	2
★プロジェクト演習〈企業提案〉	1・2	2
★プロジェクト演習〈企業との協働〉	1・2	2

注1) 各授業科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、授業科目名称には含まれない。
注2) ※印の授業科目は本年度休講である。

【第16表【2017年度以降入学者用】の履修上の注意】

- ① キャリアデザイン科目の修得単位のうち、☆の付いた授業科目から2単位、★の付いた授業科目から2単位の計4単位を限度として卒業要件単位に算入することができる。
- ② 「プロジェクト演習」のうち、修得できる単位数は、1科目2単位までとする。
- ③ 「プロジェクト演習」は、3年次以降は履修することができない。

第16表の2 キャリアデザイン科目【2016年度入学者用】

授業科目	学年配当	単位
キャリア形成概論Ⅰ	1・2	2
キャリア形成概論Ⅱ	1・2	2

注) ※印の授業科目は本年度休講である。

【第16表の2【2016年度入学者用】の履修上の注意】

「キャリア形成概論Ⅰ・Ⅱ」は、3年次以降は履修することができない。

Ⅲ

心理社会学科授業科目一覧

第17表 心理社会学科授業科目一覧

分野・区分		学年配当	1 年			
外国語科目	必修	English I: Skills for Learning [a] ① English I: Skills for Learning [b] ① English I: Social Interaction② English I: Academic Interaction② English I: Reading and Writing [a] ① English I: Reading and Writing [b] ①				
	必修	イノベーション概論② 科学技術と社会② 情報リテラシー② データ分析入門②				
	選択 A	心理学④* 社会学④*	社会心理学④* 統計学④*	経済学④ 国際関係学④	政策学② 行政学②	経営学④
	選択 B					
基礎科目	選択 C	※エコロジー論④ 生命倫理論④	比較文化論④ 生命の科学④	文明と社会④ 家族と社会の変動④	地域と文化④	
	必修					
専門科目	選択 A	心理系科目				
		社会系科目				
		学科共通科目				
	選択 B	政策系科目				
		戦略系科目				
		学科共通科目				

注1) ○で囲まれた数字は単位数を表す。
 注2) *印の授業科目は本年度休講である。
 注3) 基礎科目選択Aの卒業要件単位数12単位のうち、*印のついた授業科目から8単位以上を選択すること。

履修規定

心理社会学科

2016年度以降入学者用

2年	3年		4年	卒業要件 単位数
English II: Public Speaking① English II: Presentation and Discussion① English II: Academic Reading and Writing [a] ① English II: Academic Reading and Writing [b] ① English II: Business Reading and Writing [a] ① English II: Business Reading and Writing [b] ①				14
				8
				12
社会調査法④ 心理実験法④	メッセージ分析法④ 市場調査法④	心理研究法④		4
				4
基礎ゼミナール(心理)② 基礎ゼミナール(社会)②		ゼミナールⅠ④	ゼミナールⅡ④ 卒業研究④	16
イノベーション心理論④ 認知心理学④ パーソナリティ心理学②	メディア心理学④ 異文化間心理学②	組織心理学② 意思決定論② 経済心理学② ワークプレイス論②	対人コミュニケーション論④ 認知言語学④ ヒューマンインターフェイス論④ 産業カウンセリング④	32
イノベーション社会論④ 社会システム論④ 日本社会文化論④	※アジア社会文化論④ アメリカ社会文化論④ 現代国際社会学④	異文化間コミュニケーション論Ⅰ② 異文化間コミュニケーション論Ⅱ②		
		宗教社会論④ ※生活福祉論④ NGO・NPO論②	社会人類学② 環境社会論② 社会調査専門演習④	
OCA②	社会イノベーション特殊演習②	※心理社会学特殊講義②		
イノベーション政策論④ 経済政策② 公共経済学② 科学技術論②	金融システム論② 金融イノベーション論Ⅰ② 日本経済論② 日本金融論②	開発政策論② 開発支援論② 国際法④ 地域政策論④		14
		イノベーション経済論④ ※公共政策論② 知的財産法② リテールファイナンス論②	金融イノベーション論Ⅱ② 比較イノベーション論② グローバルガバナンス論② 国際機構論④	
イノベーション戦略論④ 戦略論② 組織論② マーケティング論②	現代企業論④ 企業家史④ 組織イノベーション論④		不動産開発論② 都市開発論②	
		人的資源論④ 新商品開発論② ベンチャービジネス論② 研究開発管理論②	消費行動論② ※トップマネジメント論② ※ロジスティクス論② 企業評価論④	
		政策イノベーション特殊講義②		

第17表 心理社会学科授業科目一覧（つづき）

学年配当 分野・区分	1 年		
総合教養科目	短期学外演習〈自然〉②	教養演習④	
	※総合講座Ⅰ② 総合講座Ⅱ〈アート・プロデュース／感動と価値の創造〉② 総合講座Ⅲ〈環境〉② ※総合講座Ⅳ② 総合講座Ⅴ〈余暇学（世田谷6大学コンソーシアム連携授業）〉② 総合講座Ⅵ〈中国文学入門（世田谷6大学コンソーシアム連携授業）〉② ※特別講座Ⅰ② ※特別講座Ⅱ② 成城学園を知る② 成城学Ⅰ〈柳田國男と民俗学〉② ※成城学Ⅱ② ※成城学Ⅲ② ※成城学Ⅳ② 成城学Ⅴ〈成城と自然〉② 社会学入門a② 社会学入門b② メディア論入門a② メディア論入門b② 現代社会論Ⅰa〈現代の宗教と国家〉② 現代社会論Ⅰb〈現代の宗教と社会〉② 現代社会論Ⅱa〈サブカルチャー史〉② 現代社会論Ⅱb〈サブカルチャー論〉② ※現代社会論Ⅲa② ※現代社会論Ⅲb② 現代社会論Ⅳa〈戦後日本文化論〉② 現代社会論Ⅳb〈戦後日本文化論〉② ※現代社会論Ⅴa② ※現代社会論Ⅴb② 現代社会論Ⅵa〈平和論〉② 現代社会論Ⅵb〈平和論〉②	現代社会論Ⅶa〈カルチュラル・スタディーズ〉② 現代社会論Ⅶb〈カルチュラル・スタディーズ〉② ※現代社会論Ⅷa② ※現代社会論Ⅷb② ※現代社会論演習a② ※現代社会論演習b② 国際関係論入門a② 国際関係論入門b② 経済学入門a② 経済学入門b② 政治学入門a② 政治学入門b② 情報社会論入門a② 情報社会論入門b② 法学（含む日本国憲法）a② 法学（含む日本国憲法）b② 社会構造論Ⅰa〈自由と平等〉② 社会構造論Ⅰb〈自由と平等〉② 社会構造論Ⅱa〈社会と組織〉② 社会構造論Ⅱb〈ネットワークと組織〉② ※社会構造論Ⅲa② ※社会構造論Ⅲb② 社会構造論Ⅳa〈日常生活と社会経済〉② 社会構造論Ⅳb〈日常生活と社会経済〉② ※社会構造論Ⅴa② ※社会構造論Ⅴb② 社会構造論Ⅵa〈現代日本と政治〉② ※社会構造論Ⅵb② 社会構造論演習a② 社会構造論演習b② 哲学入門a② 哲学入門b②	宗教学入門a② 宗教学入門b② 倫理学入門a② 倫理学入門b② 西洋思想入門a② 西洋思想入門b② 東洋思想入門a② 東洋思想入門b② 日本思想入門a② 日本思想入門b② ※思想・人間論Ⅰa② ※思想・人間論Ⅰb② 思想・人間論Ⅱa〈イメージを“よむ”〉② 思想・人間論Ⅱb〈イメージを“よむ”〉② ※思想・人間論Ⅲa② ※思想・人間論Ⅲb② 思想・人間論演習a② 思想・人間論演習b② 文学入門a② 文学入門b② 言語学入門a② 言語学入門b② 音楽入門a② 音楽入門b② ※表象文化論入門a② ※表象文化論入門b② ※表現文化論Ⅰa② ※表現文化論Ⅰb② ※表現文化論Ⅱa② ※表現文化論Ⅱb② 表現文化論Ⅲa〈映画の“いま”〉② 表現文化論Ⅲb〈映画の“いま”〉② 表現文化論Ⅳa〈民俗と作法の表現文化論〉② 表現文化論Ⅳb〈伝統芸術文化論〉②
学部共通科目	ビジネス英語a① ビジネス英語b① 独会話選択a① 独会話選択b① 独語選択（初級）Ⅰa① 独語選択（初級）Ⅰb① 独語選択（初級）Ⅱa① 独語選択（初級）Ⅱb① 独語選択（中級）a① 独語選択（中級）b① 独語選択（上級）a① 独語選択（上級）b① 仏会話選択a① 仏会話選択b① 仏語選択（初級）Ⅰa① 仏語選択（初級）Ⅰb① 仏語選択（初級）Ⅱa① 仏語選択（初級）Ⅱb① 仏語選択（中級）a① 仏語選択（中級）b① 仏語選択（上級）a① 仏語選択（上級）b① スペイン語選択（初級）a① スペイン語選択（初級）b①	スペイン語選択（中級・ディプロム）a① スペイン語選択（中級・ディプロム）b① 中国語選択（初級）Ⅰa① 中国語選択（初級）Ⅰb① 中国語選択（初級）Ⅱa① 中国語選択（初級）Ⅱb① 中国語選択（中級）a① 中国語選択（中級）b① 中国語選択（上級）a① 中国語選択（上級）b① 韓国語選択（初級）a① 韓国語選択（初級）b① 韓国語選択（中級・ディプロム）a① 韓国語選択（中級・ディプロム）b① ディプロム・コース中級（独語）a① ディプロム・コース中級（独語）b① ディプロム・コース上級（独語）a① ディプロム・コース上級（独語）b① ディプロム・コース中級（仏語）a① ディプロム・コース中級（仏語）b① ディプロム・コース上級（仏語）a① ディプロム・コース上級（仏語）b① 海外短期語学研修（英語・春季）② 海外短期語学研修（英語・夏季）②	海外短期語学研修（独語・春季）② 海外短期語学研修（仏語・春季）② 海外短期語学研修（中国語・夏季）② 海外短期語学研修（英語・就業体験準備）① 海外短期研修（マレーシア・就業体験研修）② 日本語A〈上級・会話〉② 日本語A〈上級・読解〉② 日本語A〈上級・表現文型と語彙〉② 日本語A〈上級・特別講座〉② 日本語A〈中級・総合日本語〉⑥ 日本語A〈中級・特別講座〉② 日本語A〈初級〉⑧ 日本語B〈上級・日本語聴読解〉① 日本語B〈上級・日本語文章表現〉① 日本語B〈上級・日本語会話〉② 日本語B〈上級・日本語文法と漢字〉② 日本語B〈上級・総合日本語〉② 日本語B〈中級・日本語聴読解作文〉② 日本語B〈中級・日本語会話〉② 日本語B〈中級・日本語文法と漢字〉② 日本語B〈中級・総合日本語〉② 日本語B〈初級〉⑧
一般共通科目	【スポーツ・ウエルネス教育科目は、Ⅱ科目区分別履修方法 [F] 一般共通科目 2 スポーツ・ウエルネス教育科目 を参照】 コンピュータ・リテラシー A1② ※コンピュータ・リテラシー C② ※図書館活用法② コンピュータ・リテラシー A2② コンピュータ・リテラシー D② WRD④ コンピュータ・リテラシー B② コンピュータ・リテラシー E② 【キャリアデザイン科目は、Ⅲ科目区分別履修方法 [F] 一般共通科目 5 キャリアデザイン科目 を参照】 【国際交流科目は、Ⅳ卒業要件単位に算入されない授業科目を参照】		

注1) ○で囲まれた数字は単位数を表す。
 注2) ※印の授業科目は本年度休講である。

2 年	3 年	4 年	卒業要件 単位数
	応用英語研究④	言語コミュニケーション演習④	
※表現文化論Va② ※表現文化論Vb② 表現文化論VIa〈文学と地域文化〉② 表現文化論VIb〈文学と地域文化〉② 表現文化論演習a② 表現文化論演習b② 歴史学入門a② 歴史学入門b② 日本近現代史a② 日本近現代史b② ヨーロッパ近現代史a② ヨーロッパ近現代史b② アジア近現代史a② アジア近現代史b② アメリカ近現代史a② アメリカ近現代史b② ※歴史文化論Ia② ※歴史文化論Ib② 歴史文化論IIa〈江戸の文化〉② 歴史文化論IIb〈江戸の文化〉② 歴史文化論IIIa〈グローバル・ ヒストリーと西欧〉② 歴史文化論IIIb〈グローバル・ ヒストリーと非西欧〉② ※歴史文化論IVa② ※歴史文化論IVb② ※歴史文化論Va② ※歴史文化論Vb② ※歴史文化論演習a② ※歴史文化論演習b② 文化人類学入門a② 文化人類学入門b② 空間システム論入門a② 空間システム論入門b②	地域空間論Ia〈EU論〉② 地域空間論Ib〈EU論〉② ※地域空間論IIa② ※地域空間論IIb② 地域空間論IIIa〈東南アジアの社会と文化〉② 地域空間論IIIb〈東南アジアの社会と文化〉② ※地域空間論IVa② ※地域空間論IVb② ※地域空間論Va② ※地域空間論Vb② 地域空間論VIa〈アフリカの社会と文化〉② 地域空間論VIb〈アフリカの社会と文化〉② 地域空間論VIIa〈日本と 東アジアの社会と文化〉② 地域空間論VIIb〈日本と 東アジアの社会と文化〉② 地域空間論VIIIa〈中東の社会と文化〉② 地域空間論VIIIb〈中東の社会と文化〉② ※地域空間論演習a② ※地域空間論演習b② ※数理の世界a② ※数理の世界b② 数理科学Ia〈情報と論理〉② 数理科学Ib〈情報と論理〉② ※数理科学IIa② ※数理科学IIb② 物理の世界a② 物理の世界b② 化学の世界a② 化学の世界b② 生命科学の世界a② 生命科学の世界b② 科学史a② 科学史b②	※自然科学Ia② 自然科学Ib〈自然と漁業・林業〉② 自然科学IIa〈地球と環境〉② 自然科学IIb〈地域と環境〉② 自然科学IIIa〈地球科学〉② 自然科学IIIb〈地球科学〉② ※自然科学IVa② ※自然科学IVb② 自然科学Va〈比較行動学〉② 自然科学Vb〈比較行動学〉② 数理・自然科学演習a② 数理・自然科学演習b② 心身論Ia〈脳の機能と心の機能〉② 心身論Ib〈精神疾患と脳〉② 心身論IIa〈心身と発達〉② 心身論IIb〈心身と社会〉② 心身論IIIa〈運動・スポーツと心のしくみ〉② 心身論IIIb〈運動・スポーツと身体のしくみ〉② 心身論IVa〈食と健康〉② 心身論IVb〈食と環境〉② ※心身論Va② ※心身論Vb② 心身論演習a② 心身論演習b②	12
資格英語② English for International Communication② English for Academic Settings② English for Practical Proficiency② Innovation Studies in English [a]① Innovation Studies in English [b]① Advanced Oral Interaction in English② Critical Reading in English [a]① Critical Reading in English [b]① Research Writing Skills in English [a]① Research Writing Skills in English [b]①	Thesis Writing Skills in English [a]① Thesis Writing Skills in English [b]①		6
			4
合 計			126

IV

卒業要件単位に算入されない授業科目

以下の授業科目は、履修することが可能であるが、修得しても卒業要件単位には含まれないので注意すること。
各授業科目に関する説明は、【[全学共通教育科目](#)】の項を参照すること。

分野・区分	授 業 科 目	学年配当	単 位	授 業 科 目	学年配当	単 位
外国語科目	英語リスニング&スピーキング(初級) a	1~4	1	英語リーディング&ライティング(中級) b	1~4	1
	英語リスニング&スピーキング(初級) b	1~4	1	英語リーディング&ライティング(上級) a	1~4	1
	英語リスニング&スピーキング(中級) a	1~4	1	英語リーディング&ライティング(上級) b	1~4	1
	英語リスニング&スピーキング(中級) b	1~4	1	英会話選択a	1~4	1
	英語リスニング&スピーキング(上級) a	1~4	1	英会話選択b	1~4	1
	英語リスニング&スピーキング(上級) b	1~4	1	英文多読a	1~4	1
	英語リーディング&ライティング(初級) a	1~4	1	英文多読b	1~4	1
	英語リーディング&ライティング(初級) b	1~4	1	Academic Communication a	1~4	1
	英語リーディング&ライティング(中級) a	1~4	1	Academic Communication b	1~4	1
キャリアデザイン科目 【2017年度以降 入学者】	業界企業分析	2~4	2	時事英語 I	1~4	2
	職業選択	2~4	2	時事英語 II	1~4	2
	※キャリア・プランニング・プログラム I	3・4	2	時事問題研究	2~4	2
	※キャリア・プランニング・プログラム II	3・4	2			
キャリアデザイン科目 【2016年度入学者】	スタート・プログラム I 〈ホスピタリティとサービス〉	1・2	2	※グローバルビジネス論	3・4	2
	スタート・プログラム II 〈企業提案〉	1・2	2	チャレンジ・プログラム	3・4	2
	スタート・プログラム III 〈企業との協働〉	1・2	2	時事英語 I	1~4	2
	ワークライフバランス論	2~4	2	時事英語 II	1~4	2
	※キャリアモデル・ケーススタディ	2~4	2	時事問題研究	2~4	2
	アドバンス・プログラム	2・3	2	※就業力実践 I	2~4	2
	業界企業分析論	2~4	2	※就業力実践 II	2~4	2
	職業選択論	2~4	2	※就業力実践 III	2~4	2
国際交流科目 【留学対策科目】	Academic Skills I A 〈English Reading〉	1~4	1	Academic Skills IV A 〈English Speaking/Discussion〉	1~4	1
	Academic Skills I B 〈English Reading〉	1~4	1	Academic Skills IV B 〈English Speaking/Discussion〉	1~4	1
	Academic Skills II A 〈English Listening〉	1~4	1	Academic Skills V A 〈English Presentation〉	2~4	1
	Academic Skills II B 〈English Listening〉	1~4	1	Academic Skills V B 〈English Presentation〉	2~4	1
	Academic Skills III A 〈English Writing〉	1~4	1	※Academic Skills VI A	2~4	1
	Academic Skills III B 〈English Writing〉	1~4	1	Academic Skills VI B 〈English Research〉	2~4	1
国際交流科目 【英語等による 地域研究科目】	European Studies A 〈Collections and Entertainment in Modern Europe〉	1~4	2	※Oceanian Studies A	1~4	2
	※European Studies B	1~4	2	※Oceanian Studies B	1~4	2
	North American Studies A 〈Immigration and Refugees in the United States, Past and Present〉	1~4	2	※Asian Studies A	1~4	2
	※North American Studies B	1~4	2	Asian Studies B 〈Exploring Contemporary Cultures and Societies in Asia〉	1~4	2
国際交流科目 【留学準備演習】	留学準備演習	1~4	2			

※印の科目は本年度休講である。

《履修上の注意》

- ① 外国語科目、キャリアデザイン科目のうち「スタート・プログラム I~III」および「時事英語 I・II」、国際交流科目は、特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については、【[授業に関すること](#)】[IV](#) 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

- ② 2018年度から、通年（2単位）で開講していた全学共通教育科目の外国語科目は、前期a（1単位）、後期b（1単位）に分割して開講する。2017年度までに通年科目の単位を修得している場合、同一名称のaまたはbの科目は履修できない。
（例：2017年度までに「英語リスニング&スピーキング（初級）」の単位を修得している場合、「英語リスニング&スピーキング（初級）a」および「英語リスニング&スピーキング（初級）b」を履修できない。）
- ③ 【2016年度入学者】「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」は、「キャリア形成概論Ⅰ・Ⅱ」（【履修規定F】一般共通科目）の項を参照）2科目4単位の修得が履修の条件となる。
- ④ 【2016年度入学者】「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」のうち、修得できる単位数は、1科目2単位までとする。
- ⑤ 【2016年度入学者】「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」は3年次以降は履修することができない。
- ⑥ 【2016年度入学者】「チャレンジ・プログラム」の履修を希望する者は、キャリアセンターへ申し出ること。
- ⑦ 【2016年度入学者】「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」について、「キャリア形成概論Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得した学生は、履修科目登録上限単位数を2単位を超えて履修登録することができる。
- ⑧ キャリアデザイン科目の履修について、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が以下のとおり設けられている。
- 「成城大学就業力育成・認定プログラム」（詳細は【全学共通教育科目E】キャリアデザイン科目群）の項を参照）の受講申請をした学生は、前年までの成績（GPA等）が一定の基準を満たしている場合（1年次はキャリアセンターが行う学力考査等で一定の基準を満たしている場合）、1年次は2単位、2年次は8単位、3年次は4単位まで履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。
- ただし、他の特例措置（【履修規定I】総説【B】履修科目登録上限単位数 2 履修科目登録上限単位数）を参照）も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。
- ⑨ 国際交流科目の履修について、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が以下のとおり設けられている。
- 国際交流科目のうち、「留学対策科目」、「英語等による地域研究科目」および「留学準備演習」の履修については、前年までの成績（GPA等）が一定の基準を満たしている場合（1年次は国際センターが行う学力考査等で一定の基準を満たしている場合）、各年次4単位まで履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。
- ただし、他の特例措置（【履修規定I】総説【B】履修科目登録上限単位数 2 履修科目登録上限単位数）を参照）も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。
- ⑩ 2018年度に「Academic Skills VA」、「Academic Skills VB」、「Academic Skills VIA」、「Academic Skills VIB」の学年配当は「1～4」から「2～4」に変更された。

2016年度以降 授業科目の新設・名称変更・廃講 一覧表 (2016年度以降入学者用)

授業科目の新設

新設年度	授 業 科 目 名	備 考	
2017年度	金融イノベーション論Ⅰ・Ⅱ	政策イノベーション学科：専門科目 選択A 政策系科目 心理社会学科：専門科目 選択B 政策系科目	
	異文化間コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ	政策イノベーション学科：専門科目 選択B 社会系科目 心理社会学科：専門科目 選択A 社会系科目	
	特別講座Ⅰ・Ⅱ	総合教養科目	
	メディア論入門a・b		社会学入門a・b
	現代社会論演習a・b		現代社会論Ⅰ～Ⅷ a・b
	経済学入門a・b		国際関係論入門a・b
	情報社会論入門a・b		政治学入門a・b
	社会構造論Ⅰ～Ⅵ a・b		法学（含む日本国憲法）a・b
	哲学入門a・b		社会構造論演習a・b
	倫理学入門a・b		宗教学入門a・b
	東洋思想入門a・b		西洋思想入門a・b
	思想・人間論Ⅰ～Ⅲ a・b		日本思想入門a・b
	文学入門a・b		思想・人間論演習a・b
	音楽入門a・b		言語学入門a・b
	表現文化論Ⅰ～Ⅵ a・b		表象文化論入門a・b
	歴史学入門a・b		表現文化論演習a・b
	ヨーロッパ近現代史a・b		日本近現代史a・b
	アメリカ近現代史a・b		アジア近現代史a・b
	歴史文化論演習a・b		歴史文化論Ⅰ～Ⅴ a・b
	空間システム論入門a・b		文化人類学入門a・b
地域空間論演習a・b	地域空間論Ⅰ～Ⅷ a・b		
数理科学Ⅰ～Ⅱ a・b	数理の世界a・b		
化学の世界a・b	物理の世界a・b		
科学史a・b	生命科学の世界a・b		
数理・自然科学演習a・b	自然科学Ⅰ～Ⅴ a・b		
身体と運動・スポーツa・b	心身論Ⅰ～Ⅴ a・b		
心身論演習a・b			
留学準備演習 身体表現・スタディーズⅣ	一般共通科目		
2017年度 (新課程開始に伴う新設)	選択英語a・b	学部共通科目 2017年度以降入学者のみ履修可能	
	キャリア形成Ⅰ～Ⅳ プロジェクト演習 業界企業分析 職業選択 キャリア・プランニング・プログラムⅠ・Ⅱ	一般共通科目 2017年度以降入学者のみ履修可能	
2016年度 (新課程開始に伴う新設)	English I: Skills for Learning [a]・[b] English I: Social Interaction English I: Academic Interaction English I: Reading and Writing [a]・[b] English II: Public Speaking English II: Presentation and Discussion English II: Academic Reading and Writing [a]・[b] English II: Business Reading and Writing [a]・[b]	外国語科目 必修	
	統計学	基礎科目 選択A	
	心理研究法	基礎科目 選択B	
	社会イノベーション特殊演習	専門科目 選択A 学科共通科目	
	イノベーション心理論 経済心理学 産業カウンセリング	政策イノベーション学科：専門科目 選択B 心理系科目 心理社会学科：専門科目 選択A 心理系科目	
	アメリカ社会文化論 現代国際社会学 社会調査専門演習	政策イノベーション学科：専門科目 選択B 社会系科目 心理社会学科：専門科目 選択A 社会系科目	

履修規定

科目新設等一覧表

2016年度以降入学者用

新設年度	授業科目名	備考
2016年度 (新課程開始に伴う新設)	応用英語研究 言語コミュニケーション演習	総合教養科目
	独語選択(上級) a・b 仏語選択(上級) a・b 中国語選択(上級) a・b English for International Communication English for Academic Settings English for Practical Proficiency Innovation Studies in English [a]・[b] Advanced Oral Interaction in English Critical Reading in English [a]・[b] Research Writing Skills in English [a]・[b] Thesis Writing Skills in English [a]・[b]	学部共通科目
	スポーツ・スタディーズⅣ ウエルネス・スタディーズⅢ・Ⅳ 身体表現・スタディーズⅢ	一般共通科目

授業科目の廃講

廃講年度	授業科目名	備考
2016年度	金融イノベーション論	政策イノベーション学科：専門科目 選択A 政策系科目 心理社会学科：専門科目 選択B 政策系科目
	異文化コミュニケーション論	政策イノベーション学科：専門科目 選択B 社会系科目 心理社会学科：専門科目 選択A 社会系科目
	特別講座 メディア論入門 国際関係論入門 政治学入門 法学(含む日本国憲法) 哲学入門 倫理学入門 東洋思想入門 思想・人間論Ⅰ～Ⅲ 言語学入門 表象文化論入門 歴史学入門 ヨーロッパ近現代史 アメリカ近現代史 歴史文化論特別講義Ⅰ・Ⅱ 空間システム論入門 数理の世界 物理の世界 生命科学の世界 自然科学Ⅰ～Ⅴ こころと身体 心身論Ⅰ～Ⅴ	社会学入門 現代社会論Ⅰ～Ⅶ 経済学入門 情報社会論入門 社会構造論Ⅰ～Ⅵ 宗教学入門 西洋思想入門 日本思想入門 文学入門 音楽入門 表現文化論Ⅰ～Ⅵ 日本近現代史 アジア近現代史 歴史文化論Ⅰ～Ⅴ 文化人類学入門 地域空間論Ⅰ～Ⅶ 数理科学Ⅰ・Ⅱ 化学の世界 科学史 数理・自然科学特別講義Ⅰ・Ⅱ 身体と運動・スポーツ 心身論特別講義Ⅰ・Ⅱ

履修規定

政策イノベーション学科

[2015年度以前入学者用]

I	総説	82			
	A. 科目区分および卒業要件単位数	82			
	1) 科目区分				
	2) 卒業要件単位数				
	B. 履修科目登録上限単位数	82			
	1) 履修科目登録上限単位数制度				
	2) 履修科目登録上限単位数				
	C. コース認定制度	83			
	D. 2年次から3年次への進級基準	83			
	2) 必修				
	3) 選択A・B				
	4) OCA				
	5) コース制度				
	D. 総合教養科目	88			
	1) 規定単位数				
	2) 教養演習A				
	3) 教養演習B				
	E. 学部共通科目	93			
	1) 規定単位数				
	F. 一般共通科目	96			
	1) 規定単位数				
	2) スポーツ・ウエルネス教育科目				
	3) IT科目				
	4) WRD				
	5) キャリアデザイン科目				
II	科目区分別履修方法	84			
	A. 外国語科目	84			
	1) 規定単位数				
	2) 必修				
	3) 選択必修				
	4) TOEIC IPテスト				
	5) 未修得科目の再履修				
	B. 基礎科目	85			
	1) 規定単位数				
	2) 必修				
	3) 選択				
	C. 専門科目	86			
	1) 規定単位数				
III	政策イノベーション学科 授業科目一覧	98			
IV	卒業要件単位に算入されない 授業科目	102			

I 総説

A 科目区分および卒業要件単位数

1 科目区分

授業科目は、**外国語科目**、**基礎科目**、**専門科目**、**総合教養科目**、**学部共通科目**、**一般共通科目**の6つの科目区分から構成されている。

2 卒業要件単位数

卒業に必要な単位数は**125単位**であり、**第1表**に示す規定の単位数を修得しなければならない。

第1表 政策イノベーション学科 卒業要件科目および単位数

科目区分		規定単位数	
外国語科目	必修	12	13
	選択必修	1	
基礎科目	必修	8	28
	選択A	12	
	選択B	4	
	選択C	4	
専門科目	必修	16	62
	選択A	32	
	選択B	14	
総合教養科目		12(注2)	12
学部共通科目		6	6(注3)
一般共通科目		4	4
合計		125	

(注1) **学部共通科目**の卒業要件単位6単位は、**学部共通科目**の中に配置されている授業科目のほか、**基礎科目**の選択A、選択B及び選択C、並びに**専門科目**の選択A及び選択Bに配置されている授業科目の中から、それぞれ卒業要件単位数を超えて修得した単位によっても充当することができる。

(注2) **総合教養科目**には、「教養演習B」として、社会調査士・認定心理士資格取得のために必要な科目が開設されているが、そのうち卒業要件単位として認められるのは4単位までである。

(注3) **一般共通科目**の卒業要件単位4単位は、**一般共通科目**の中に配置されている授業科目のほか、**総合教養科目**に配置されている授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位によっても充当することができる。

B 履修科目登録上限単位数

1 履修科目登録上限単位数制度

この制度は、各自が履修登録するに当たり、学問上の興味や知的関心、さらには時間的制約などを十分考慮して授業科目を選択し、いったん登録した科目は途中で放棄することなく最後まで単位の修得を目指して努力するように設けられたものである。

2 履修科目登録上限単位数

各学年毎の履修科目登録上限単位数は**47単位**とする。

- ① 「資格英語」の2単位は履修科目登録上限単位数（47単位）に含まれない。
- ② 学部に設置する審査委員会において、成績資料を個別に審査し、履修科目登録上限単位数を52単位まで認めることがある。希望者はWeb履修登録期限までに教務部で申請すること。
- ③ 以下に挙げる科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については【**履修規定**Ⅳ卒業要件単位に算入されない授業科目】を参照すること。
 - ・ キャリアデザイン科目のうち卒業要件単位として認められない科目
 - ・ 国際交流科目のうち卒業要件単位として認められない科目

C コース認定制度

本学部学生は、2年次進級時に、政策、戦略、心理、社会のいずれの領域を自分の今後の専門領域とするかを申告する。この専門領域のことを本学部では「コース」と呼ぶ。

コース認定制度は、科目区分の「専門科目」の「選択A」及び「選択B」の中から、コース認定要件に示される所定の単位数を修得した場合に、卒業時に当該コースの修了を認定する制度である。各コースの認定要件は第2表のとおりである。また、認定要件を満たしていれば、申告によらず複数のコースについて認定する。

このコース認定制度は、学生諸君が自らの学習目標を明確に意識することにより、自己の学習意欲向上を図ることを目的としたものである。また、コース毎に収容定員が設定されるものではない。なお、ゼミナールへの配属は、申告したコースの別に関わらずに、学科別に選考を通じて行われる。

コース申告の手続きなどについては、1年次終了時までにはガイダンスを行う。

第2表 コース認定要件

コース	認定要件
政策コース	専門科目選択科目の政策系科目から20単位以上
戦略コース	専門科目選択科目の戦略系科目から20単位以上
心理コース	専門科目選択科目の心理系科目から20単位以上
社会コース	専門科目選択科目の社会系科目から20単位以上

D 2年次から3年次への進級基準

2年次から3年次へ進級するには、2年次終了までに第3表に示す所定の単位を修得していなければならない。

第3表 進級基準

授業科目			単位数	
			2014年度以降入学者	2013年度以前入学者
1年次必修科目	外国語科目	英語リーディングI	2	2
		英語ベーシック・スキルズ	2	2
		英語オーラル・コミュニケーション	2	2
	基礎科目	イノベーション概論	2	2
		科学技術と社会	2	2
		情報リテラシー	2	2
		データ分析入門	2	2
上記必修科目以外の1・2年次配当科目			17	7
合計			31	21

II

科目区分別履修方法

A

外国語科目

1 規定単位数

社会イノベーション学部では、英語が必修科目となっており、聞く、話す、読む、書くの4つのスキルをバランスよく身につけることができるようなカリキュラムが組まれている。卒業に必要な単位数は第4表のとおりである。

第4表 外国語科目規定単位数

区分	学年配当	授業科目	規定単位数
必修	1	英語リーディングⅠ	2
		英語ベーシック・スキルズ	2
		英語オーラル・コミュニケーション	2
	2	英語リーディングⅡ	2
		英語スタディー・スキルズ	2
		英語ライティング	2
選択必修	3	英語セミナー A~O	1
計			13

2 必修

1年次には、「英語ベーシック・スキルズ」で、聞く、話す、読む、書くの4つのスキルをバランスよく身につけ、「英語リーディングⅠ」で十分な文法・語法能力に基づくインテンシヴ・リーディング（精読）、エクステンシヴ・リーディング（速読）の技術を学ぶ。さらにネイティブ・スピーカーの講師による「英語オーラル・コミュニケーション」で、本格的なコミュニケーション能力を身につける。

2年次には、「英語リーディングⅡ」で「英語リーディングⅠ」の発展学習を行うほか、ネイティブ・スピーカーの講師による「英語スタディー・スキルズ」では、ノート・テイキング、スピーチ、プレゼンテーション、ディスカッションなど、英米型の学習技法を習得する。また、「英語ライティング」では、さまざまな用途の英語文書の作成を学ぶ。

なお、**外国語科目**のうち1年次必修科目の単位は、3年次への進級基準にも含まれており、3年次進級のためには同授業科目の単位を修得している必要がある。

3 選択必修

3年次には、半期科目である「英語セミナー」が配置されており、ディスカッションから小論文の作成にいたるまで、ほぼすべてが英語で行われる。「英語セミナー」は社会・文化、メディア・イングリッシュ、国際ビジネス入門の大きく3つの特定テーマに、また、それぞれレベル1とレベル2に分けられる。履修登録の手続きなどについては、後日ガイダンスを行う。

4 TOEIC IP テスト

1年次から3年次までの各年次において、本学部学生には、年1回学内において実施するTOEIC IPテストの受験を義務づけている。これは学生諸君が自らの英語力を継続的にチェックすることにより、学習意欲の向上を図り、さらに社会に対して自らの英語力を広くアピールすることを目的として行われる。

なお、TOEIC IPテストの受験に代えて、学外で実施されるTOEIC Listening & Reading Testを受験することができる。その場合には、別途掲示する所定期日までに、テストのスコアカードを3号館4階社会イノベーション学部研究事務室に持参して申告する必要がある。TOEIC IPテストの受験手続きに関する情報は、別途掲示して通知する。また、TOEIC IPテスト等の受験手続きに関する問い合わせは、3号館4階社会イノベーション学部研究事務室にて受け付ける。

5 未修得科目の
再履修

- ① 1年次の必修科目
再履修者対象の授業科目（1年次担当）を教務部で事前登録する。
- ② 2年次の必修科目
再履修者対象の授業科目（2年次担当）を教務部で事前登録する。
- ③ 英語セミナー（3年次）
再履修者対象の英語セミナーを教務部で事前登録する。

B 基礎科目

1 規定単位数

基礎科目は、必修、選択A、選択B、選択Cの4区分から構成されている。それぞれの科目区分で卒業に必要な単位数は第5表のとおりである。

第5表 基礎科目規定単位数

科目区分		規定単位数
基礎科目	必修	8
	選択A	12
	選択B	4
	選択C	4
計		28

2 必修

基礎科目必修の授業科目は、第6表のとおりである。これらの授業科目は、イノベーションについてどのように考えるかということを理解すると同時に、必要な情報をどのように獲得し、加工するかという基礎的分析能力を身につけることを目的とする。なお、基礎科目の必修科目の単位は、3年次への進級基準にも含まれており、3年次進級のためには必ず同授業科目の単位を修得している必要がある。

第6表 基礎科目必修科目

授業科目	学年担当	単位
イノベーション概論	1	2
科学技術と社会	1	2
情報リテラシー	1	2
データ分析入門	1	2

《履修上の注意》

- ① 基礎科目必修科目が不合格の場合は、翌年度に再履修すること。
- ② 上記科目を再履修する場合は、特別な手続きが必要である。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

3 選択

基礎科目における選択科目は、第7表に示されており、選択A、選択B、選択Cの3つに分けられている。選択Aには、4年間のイノベーションに関する学修の基礎となる授業科目が、選択Bには、分析方法に関する授業科目が配置されている。また、選択Cには、イノベーションを推進するに当たり、その社会的な影響面をより広い視野から検討し、イノベーションのもたらす便益とその問題点を深く考察する授業科目が配置されている。

3 選 択 (続き)

第7表 基礎科目選択科目

区 分	授 業 科 目	学年配当	単 位	備 考
選択A	経済学*	1~2	4	この区分内の授業科目から、12単位以上を選択すること。 なお、*印のついた科目から8単位以上を必ず選択すること。
	国際関係学*	1~2	4	
	政策学*	1~2	2	
	行政学*	1~2	2	
	経営学*	1~2	4	
	統計学*	1~2	4	
	心理学	1~2	4	
	社会学	1~2	4	
選択B	社会心理学	1~2	4	この区分内の授業科目から、4単位以上を選択すること。
	社会調査法	2~4	4	
	心理実験法	2~4	4	
	メッセージ分析法	2~4	4	
選択C	市場調査法	2~4	4	この区分内の授業科目から、4単位以上を選択すること。
	※エコロジー論	1~4	4	
	生命倫理論	1~4	4	
	比較文化論	1~4	4	
	生命の科学	1~4	4	
	文明と社会	1~4	4	
	家族と社会の変動	1~4	4	
地域と文化	1~4	4		

注) *印の授業科目は本年度休講である。

《履修上の注意》

- ① 「社会調査法」、「心理実験法」および「市場調査法」は、機材の関係上、履修者数について制限が行われる。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② 選択A、選択B、選択Cに属する授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位は、**学部共通科目**の卒業要件単位として充当することができる。

C 専門科目

1 規定単位数

専門科目は、必修、選択A、選択Bの3区分から構成されている。それぞれの科目区分で卒業に必要な単位数は第8表のとおりである。

第8表 専門科目規定単位数

科 目 区 分		規定単位数
専 門 科 目	必 修	16
	選 択 A	32
	選 択 B	14
計		62

2 必 修

専門科目必修の授業科目は、第9表のとおりである。

第9表 専門科目必修科目

授 業 科 目	学年配当	単 位
基礎ゼミナール (政策)	2	2
基礎ゼミナール (戦略)	2	2
ゼミナール I	3	4
ゼミナール II	4	4
卒 業 研 究	4	4

《履修上の注意》

- ①「基礎ゼミナール」は2015年度から、「基礎ゼミナール（政策）」と「基礎ゼミナール（戦略）」に変更された。卒業要件単位数を満たすためには、それぞれの科目を修得しなければならない（ただし、2014年度以前に「基礎ゼミナール」（4単位）を修得済の者は除く）。
- ②「ゼミナールⅠ」、「ゼミナールⅡ」および「卒業研究」は、原則として同一担当教員の指導の下で履修しなければならない。
- ③「ゼミナールⅠ」が不合格の者は、「ゼミナールⅡ」および「卒業研究」を履修することができない。
- ④ 卒業研究の提出要領については、【授業に関すること卒業研究】を参照すること。

3 選択 A・B

専門科目における選択科目は、選択Aと選択Bに分けられる。

選択Aは、科学技術政策や産業政策をはじめとするイノベーション促進のための国の政策や法制度のあり方を考える政策系科目、研究開発戦略、新ビジネスモデルの構築、新製品開発活動など企業戦略のあり方に迫る戦略系科目、および学科共通科目に分かれる。

選択Bは、新製品やブランドを受け入れる消費者心理、イノベーションを生み出す個人の創造力とコミュニケーションの可能性を探る心理系科目、イノベーションと社会の関わり、宗教・文化・環境とイノベーションの関係など、社会的な問題を扱う社会系科目、および学科共通科目に分かれる。

選択Aおよび選択Bの授業科目は、第10表のとおりである。

第10表 専門科目選択科目

区分	授業科目	学年配当	単位	授業科目	学年配当	単位	
選択 A	政策系科目	イノベーション政策論	2~4	4	イノベーション経済論	3・4	4
		経済政策	2~4	2	※公共政策論	3・4	2
		公共経済学	2~4	2	知的財産法	3・4	2
		科学技術論	2~4	2	リテールファイナンス論	3・4	2
		金融システム論	2~4	2	金融イノベーション論Ⅱ	3・4	2
		金融イノベーション論Ⅰ	2~4	2	比較イノベーション論	3・4	2
		日本経済論	2~4	2	グローバルガバナンス論	3・4	2
		日本金融論	2~4	2	国際機構論	3・4	4
		開発政策論	2~4	2	不動産開発論	3・4	2
		開発支援論	2~4	2	都市開発論	3・4	2
		国際法	2~4	4			
	地域政策論	2~4	4				
	戦略系科目	イノベーション戦略論	2~4	4	人的資源論	3・4	4
		戦略論	2~4	2	新商品開発論	3・4	2
		組織論	2~4	2	ベンチャービジネス論	3・4	2
		マーケティング論	2~4	2	研究開発管理論	3・4	2
		現代企業論	2~4	4	消費行動論	3・4	2
企業家史		2~4	4	※トップマネジメント論	3・4	2	
科目 学科共通	組織イノベーション論	2~4	4	※ロジスティクス論	3・4	2	
				企業評価論	3・4	4	
	OCA	2~4	2	政策イノベーション特殊講義	3・4	2	
	社会イノベーション特殊演習	2~4	2				
選択 B	心理系科目	イノベーション心理論	2~4	4	組織心理学	3・4	2
		認知心理学	2~4	4	意思決定論	3・4	2
		パーソナリティ心理学	2~4	2	経済心理学	3・4	2
		メディア心理学	2~4	4	ワークプレイス論	3・4	2
		異文化間心理学	2~4	2	対人コミュニケーション論	3・4	4
					認知言語学	3・4	4
	社会系科目				ヒューマンインターフェイス論	3・4	4
		イノベーション社会論	2~4	4	宗教社会論	3・4	4
		社会システム論	2~4	4	※生活福祉論	3・4	4
		日本社会文化論	2~4	4	社会人類学	3・4	2
		※アジア社会文化論	2~4	4	環境社会論	3・4	2
		アメリカ社会文化論	2~4	4	NGO・NPO論	3・4	2
		現代国際社会学	2~4	4			
		異文化間コミュニケーション論Ⅰ	2~4	2			
異文化間コミュニケーション論Ⅱ	2~4	2					
科目 学科共通				※心理社会学特殊講義	3・4	2	

注) ※印の授業科目は本年度休講である。

3 選択A・B
(続き)

《履修上の注意》

- ① 卒業に必要な単位数は、選択Aが32単位、選択Bが14単位である。
- ② 選択Aおよび選択Bに属する授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位は、**学部共通科目**の卒業要件単位として充当することができる。
- ③ 2016年度をもって「金融イノベーション論」は廃講となり、「金融イノベーション論Ⅰ」、「金融イノベーション論Ⅱ」が新設された。2016年度までに「金融イノベーション論」の単位を修得している場合、「金融イノベーション論Ⅰ」、「金融イノベーション論Ⅱ」を履修することはできない。
- ④ 2016年度をもって「異文化コミュニケーション論」は廃講となり、「異文化間コミュニケーション論Ⅰ」、「異文化間コミュニケーション論Ⅱ」が新設された。2016年度までに「異文化コミュニケーション論」の単位を修得している場合、「異文化間コミュニケーション論Ⅰ」、「異文化間コミュニケーション論Ⅱ」を履修することはできない。
- ⑤ 以下の科目は、特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については、【**授業に関すること**】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

日本経済論	マーケティング論	消費行動論
-------	----------	-------

4 OCA

選択A学科共通科目で2年次より開講される「OCA」とは、オフ・キャンパス・アクティビティの略語であり、企業や政府、地方公共団体、NPO / NGOなどの諸組織・諸機関において、就業体験（インターンシップ）を積むことにより、実社会への理解、社会において必要な能力・スキルへの理解を深めるとともに、将来のキャリア形成に役立つ実践的な経験を積むことを目的として置かれている科目である。

※ 登録方法については、【**授業に関すること**】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

5 コース制度

専門科目の選択Aおよび選択Bの中から所定の単位を修得した場合、卒業時にコース修了の認定が与えられる。詳細については、【**履修規定**】Ⅰ総説 **【C】**コース認定制度】および【**履修モデル**】を参照すること。

D 総合教養科目

1 規定単位数

高度に科学が細分化された21世紀に生きる人間にとって、その専門能力の養成は必要不可欠であるが、その専門能力も洗練された教養人としての健全な懐疑の精神と幅広い視野があってこそ正しい方向に発揮される。この認識の下に、多様な分野の授業科目が開設されているのが**総合教養科目**である。この科目区分の授業科目は**第11表**のとおりである。卒業に必要な単位数は12単位である。

なお、授業科目名の前に「全」と付いた科目は全学共通教育科目である。全学共通教育科目の詳しい説明は、【**全学共通教育科目**】の項に記載されている。

第11表 総合教養科目

授 業 科 目		学年配当	単位		授 業 科 目	学年配当	単位
短期学外演習〈自然〉		1~4	2	全	法学（含む日本国憲法）a	1~4	2
教養演習A	教養演習	1~4	4	全	法学（含む日本国憲法）b	1~4	2
教養演習B	カウンセリング	1~4	4	全	社会構造論Ⅰa〈自由と平等〉	1~4	2
	心理学研究法	1~4	4	全	社会構造論Ⅰb〈自由と平等〉	1~4	2
	社会調査演習	3・4	4	全	社会構造論Ⅱa〈社会と組織〉	1~4	2
全	※総合講座Ⅰ	1~4	2	全	社会構造論Ⅱb〈ネットワークと組織〉	1~4	2
全	総合講座Ⅱ〈アート・プロデュース/感動と価値の創造〉	1~4	2	全	※社会構造論Ⅲa	1~4	2
全	総合講座Ⅲ〈環境〉	1~4	2	全	※社会構造論Ⅲb	1~4	2
全	※総合講座Ⅳ	1~4	2	全	社会構造論Ⅳa〈日常生活と社会経済〉	1~4	2
全	総合講座Ⅴ〈余暇学（世田谷6大学コンソーシアム連携授業）〉	1~4	2	全	社会構造論Ⅳb〈日常生活と社会経済〉	1~4	2
全	総合講座Ⅵ〈中国文学入門（世田谷6大学コンソーシアム連携授業）〉	1~4	2	全	※社会構造論Ⅴa	1~4	2
全	※特別講座Ⅰ	1~4	2	全	※社会構造論Ⅴb	1~4	2
全	※特別講座Ⅱ	1~4	2	全	社会構造論Ⅵa〈現代日本と政治〉	1~4	2
全	成城学園を知る	1~4	2	全	※社会構造論Ⅵb	1~4	2
全	成城学Ⅰ〈柳田國男と民俗学〉	1~4	2	全	社会構造論演習a	1~4	2
全	※成城学Ⅱ	1~4	2	全	社会構造論演習b	1~4	2
全	※成城学Ⅲ	1~4	2	全	哲学入門a	1~4	2
全	※成城学Ⅳ	1~4	2	全	哲学入門b	1~4	2
全	成城学Ⅴ〈成城と自然〉	1~4	2	全	宗教学入門a	1~4	2
全	社会学入門a	1~4	2	全	宗教学入門b	1~4	2
全	社会学入門b	1~4	2	全	倫理学入門a	1~4	2
全	メディア論入門a	1~4	2	全	倫理学入門b	1~4	2
全	メディア論入門b	1~4	2	全	西洋思想入門a	1~4	2
全	現代社会論Ⅰa〈現代の宗教と国家〉	1~4	2	全	西洋思想入門b	1~4	2
全	現代社会論Ⅰb〈現代の宗教と社会〉	1~4	2	全	東洋思想入門a	1~4	2
全	現代社会論Ⅱa〈サブカルチャー史〉	1~4	2	全	東洋思想入門b	1~4	2
全	現代社会論Ⅱb〈サブカルチャー論〉	1~4	2	全	日本思想入門a	1~4	2
全	※現代社会論Ⅲa	1~4	2	全	日本思想入門b	1~4	2
全	※現代社会論Ⅲb	1~4	2	全	※思想・人間論Ⅰa	1~4	2
全	現代社会論Ⅳa〈戦後日本文化論〉	1~4	2	全	※思想・人間論Ⅰb	1~4	2
全	現代社会論Ⅳb〈戦後日本文化論〉	1~4	2	全	思想・人間論Ⅱa〈イメージを“よむ”〉	1~4	2
全	※現代社会論Ⅴa	1~4	2	全	思想・人間論Ⅱb〈イメージを“よむ”〉	1~4	2
全	※現代社会論Ⅴb	1~4	2	全	※思想・人間論Ⅲa	1~4	2
全	現代社会論Ⅵa〈平和論〉	1~4	2	全	※思想・人間論Ⅲb	1~4	2
全	現代社会論Ⅵb〈平和論〉	1~4	2	全	思想・人間論演習a	1~4	2
全	現代社会論Ⅶa〈カルチュラル・スタディーズ〉	1~4	2	全	思想・人間論演習b	1~4	2
全	現代社会論Ⅶb〈カルチュラル・スタディーズ〉	1~4	2	全	文学入門a	1~4	2
全	※現代社会論Ⅷa	1~4	2	全	文学入門b	1~4	2
全	※現代社会論Ⅷb	1~4	2	全	言語学入門a	1~4	2
全	※現代社会論演習a	1~4	2	全	言語学入門b	1~4	2
全	※現代社会論演習b	1~4	2	全	音楽入門a	1~4	2
全	国際関係論入門a	1~4	2	全	音楽入門b	1~4	2
全	国際関係論入門b	1~4	2	全	※表象文化論入門a	1~4	2
全	経済学入門a	1~4	2	全	※表象文化論入門b	1~4	2
全	経済学入門b	1~4	2	全	※表現文化論Ⅰa	1~4	2
全	政治学入門a	1~4	2	全	※表現文化論Ⅰb	1~4	2
全	政治学入門b	1~4	2	全	※表現文化論Ⅱa	1~4	2
全	情報社会論入門a	1~4	2	全	※表現文化論Ⅱb	1~4	2
全	情報社会論入門b	1~4	2	全	表現文化論Ⅲa〈映画の“いま”〉	1~4	2

履修規定

政策イノベーション学科

2015年度以前入学者用

第11表 総合教養科目（つづき）

	授 業 科 目	学年配当	単位		授 業 科 目	学年配当	単位
全	表現文化論Ⅲb〈映画の“いま”〉	1～4	2	全	地域空間論Ⅶb〈日本と東アジアの社会と文化〉	1～4	2
全	表現文化論Ⅳa〈民俗と作法の表現文化論〉	1～4	2	全	地域空間論Ⅶa〈中東の社会と文化〉	1～4	2
全	表現文化論Ⅳb〈伝統芸術文化論〉	1～4	2	全	地域空間論Ⅶb〈中東の社会と文化〉	1～4	2
全	※表現文化論Ⅴa	1～4	2	全	※地域空間論演習a	1～4	2
全	※表現文化論Ⅴb	1～4	2	全	※地域空間論演習b	1～4	2
全	表現文化論Ⅵa〈文学と地域文化〉	1～4	2	全	※数理の世界a	1～4	2
全	表現文化論Ⅵb〈文学と地域文化〉	1～4	2	全	※数理の世界b	1～4	2
全	表現文化論演習a	1～4	2	全	数理科学Ⅰa〈情報と論理〉	1～4	2
全	表現文化論演習b	1～4	2	全	数理科学Ⅰb〈情報と論理〉	1～4	2
全	歴史学入門a	1～4	2	全	※数理科学Ⅱa	1～4	2
全	歴史学入門b	1～4	2	全	※数理科学Ⅱb	1～4	2
全	日本近現代史a	1～4	2	全	物理の世界a	1～4	2
全	日本近現代史b	1～4	2	全	物理の世界b	1～4	2
全	ヨーロッパ近現代史a	1～4	2	全	化学の世界a	1～4	2
全	ヨーロッパ近現代史b	1～4	2	全	化学の世界b	1～4	2
全	アジア近現代史a	1～4	2	全	生命科学の世界a	1～4	2
全	アジア近現代史b	1～4	2	全	生命科学の世界b	1～4	2
全	アメリカ近現代史a	1～4	2	全	科学史a	1～4	2
全	アメリカ近現代史b	1～4	2	全	科学史b	1～4	2
全	※歴史文化論Ⅰa	1～4	2	全	※自然科学Ⅰa	1～4	2
全	※歴史文化論Ⅰb	1～4	2	全	自然科学Ⅰb〈自然と漁業・林業〉	1～4	2
全	歴史文化論Ⅱa〈江戸の文化〉	1～4	2	全	自然科学Ⅱa〈地球と環境〉	1～4	2
全	歴史文化論Ⅱb〈江戸の文化〉	1～4	2	全	自然科学Ⅱb〈地域と環境〉	1～4	2
全	歴史文化論Ⅲa〈グローバル・ヒストリーと西欧〉	1～4	2	全	自然科学Ⅲa〈地球科学〉	1～4	2
全	歴史文化論Ⅲb〈グローバル・ヒストリーと非西欧〉	1～4	2	全	自然科学Ⅲb〈地球科学〉	1～4	2
全	※歴史文化論Ⅳa	1～4	2	全	※自然科学Ⅳa	1～4	2
全	※歴史文化論Ⅳb	1～4	2	全	※自然科学Ⅳb	1～4	2
全	※歴史文化論Ⅴa	1～4	2	全	自然科学Ⅴa〈比較行動学〉	1～4	2
全	※歴史文化論Ⅴb	1～4	2	全	自然科学Ⅴb〈比較行動学〉	1～4	2
全	※歴史文化論演習a	1～4	2	全	数理・自然科学演習a	1～4	2
全	※歴史文化論演習b	1～4	2	全	数理・自然科学演習b	1～4	2
全	文化人類学入門a	1～4	2	全	こころと身体a	1～4	2
全	文化人類学入門b	1～4	2	全	こころと身体b	1～4	2
全	空間システム論入門a	1～4	2	全	※身体と運動・スポーツa	1～4	2
全	空間システム論入門b	1～4	2	全	※身体と運動・スポーツb	1～4	2
全	地域空間論Ⅰa〈EU論〉	1～4	2	全	心身論Ⅰa〈脳の機能と心の機能〉	1～4	2
全	地域空間論Ⅰb〈EU論〉	1～4	2	全	心身論Ⅰb〈精神疾患と脳〉	1～4	2
全	※地域空間論Ⅱa	1～4	2	全	心身論Ⅱa〈こころと発達〉	1～4	2
全	※地域空間論Ⅱb	1～4	2	全	心身論Ⅱb〈こころと社会〉	1～4	2
全	地域空間論Ⅲa〈東南アジアの社会と文化〉	1～4	2	全	心身論Ⅲa〈運動・スポーツと心のしくみ〉	1～4	2
全	地域空間論Ⅲb〈東南アジアの社会と文化〉	1～4	2	全	心身論Ⅲb〈運動・スポーツと身体のしくみ〉	1～4	2
全	※地域空間論Ⅳa	1～4	2	全	心身論Ⅳa〈食と健康〉	1～4	2
全	※地域空間論Ⅳb	1～4	2	全	心身論Ⅳb〈食と環境〉	1～4	2
全	※地域空間論Ⅴa	1～4	2	全	※心身論Ⅴa	1～4	2
全	※地域空間論Ⅴb	1～4	2	全	※心身論Ⅴb	1～4	2
全	地域空間論Ⅵa〈アフリカの社会と文化〉	1～4	2	全	心身論演習a	1～4	2
全	地域空間論Ⅵb〈アフリカの社会と文化〉	1～4	2	全	心身論演習b	1～4	2
全	地域空間論Ⅶa〈日本と東アジアの社会と文化〉	1～4	2				

履修規定

政策イノベーション学科

2015年度以前入学者用

第11表 総合教養科目（つづき）

国際交流科目				
区分		授業科目	学年配当	単位
英語等による 日本事情関係科目	全	Japan Studies I A 〈Introduction to Japanese Economy and Management〉	1～4	2
	全	Japan Studies I B 〈Introduction to Japanese Economy and Management〉	1～4	2
	全	※Japan Studies II A	1～4	2
	全	Japan Studies II B 〈Introduction to Japanese Society〉	1～4	2
	全	Japan Studies III A 〈Introduction to Anthropology of Japan〉	1～4	2
	全	Japan Studies III B 〈Introduction to Anthropology of Japan〉	1～4	2
	全	Japan Studies IV A 〈Introduction to Gender and Law in Japan〉	1～4	2
	全	Japan Studies IV B 〈Introduction to Gender and Law in Japan〉	1～4	2
	全	Japan Studies V A 〈Introduction to Japanese Literature〉	1～4	2
	全	Japan Studies V B 〈Introduction to Japanese Literature〉	1～4	2
	全	Japan Studies VI A 〈Introduction to Japanese Folklore〉	1～4	2
	全	Japan Studies VI B 〈Introduction to Japanese Folklore〉	1～4	2
	全	※Japan Studies VII A	1～4	2
	全	※Japan Studies VII B	1～4	2
	全	Japan Studies VIII A 〈Introduction to Japanese Cinema〉	1～4	2
	全	Japan Studies VIII B 〈Introduction to Japanese Cinema〉	1～4	2
英語等による 特定のテーマを 扱った科目	全	Special Topics I A 〈Cold Wars Old and New〉	1～4	2
	全	Special Topics I B 〈Cold Wars Old and New〉	1～4	2
	全	Special Topics II A 〈Gender Studies〉	1～4	2
	全	Special Topics II B 〈Gender Studies〉	1～4	2
	全	※Special Topics III A	1～4	2
	全	※Special Topics III B	1～4	2
	全	Special Topics IV A 〈Language, Culture and Communication〉	1～4	2
	全	Special Topics IV B 〈Language, Culture and Communication〉	1～4	2
データサイエンス科目				
		授業科目	学年配当	単位
基礎科目	全	データサイエンス入門Ⅰ	1～4	2
	全	データサイエンス概論	1～4	2
	全	データサイエンス入門Ⅱ	2～4	2
	全	データサイエンス応用	2～4	2
発展科目	全	データサイエンス・スキルアップ・プログラム	2～4	2
	全	データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2～4	2

注1) 各授業科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、授業科目名称には含まれない。

注2) ※印の授業科目は本年度休講である。

履修規定

政策イノベーション学科

2015年度以前入学者用

1 規定単位数 (続き)

《履修上の注意》

- ① 「短期学外演習〈自然〉」は、反復して履修することができる。ただし、**卒業要件単位として認められるのは2単位まで**である。
- ② 2017年度から、全学共通教育科目として通年（4単位）で開講していた授業科目は、前期a（2単位）、後期b（2単位）に分割して開講している。なお、2016年度までに通年科目の単位を修得している場合、同一名称のaまたはbの授業科目は履修できない。
(例：2016年度までに「社会学入門」の単位を修得している場合、「社会学入門a」または「社会学入門b」を履修できない)
- ③ 「総合講座V」および「総合講座VI」は、年度をかえて同一名称の授業科目を反復履修できる。ただし、**反復履修して修得した単位は卒業要件として認めない**。
- ④ 「成城学Ⅲ」と「成城学Ⅳ」は、セットで履修することになっている。なお、「成城学Ⅲ」または「成城学Ⅳ」のいずれかの単位をすでに修得している者で、本年度にもう一方の科目の履修を希望する場合は、Web履修登録期間締切日までに教務部に申し出ること。
- ⑤ 「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」は、「データサイエンス入門Ⅰ」「データサイエンス概論」の2科目を修得済みであり、かつ「データサイエンス入門Ⅱ」を修得済みであるか、同時履修（「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」が前期開講科目あるいは夏季集中講義である場合は、「データサイエンス入門Ⅱ」を前期に履修）していることが履修の条件となる。
- ⑥ 「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」は、「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」を修得済みであり、かつ「データサイエンス応用」を修得済みであるか、同時履修していることが履修の条件となる。
- ⑦ 2018年度に「Special Topics IVA」、「Special Topics IVB」が新設された。
- ⑧ 「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」及び「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」は、2018年度から学年配当が「3・4年」から「2～4年」に変更となった。
- ⑨ 全学共通教育科目の中には特別な履修登録手続きが必要な授業科目があるので、【授業に関することⅣ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を必ず参照すること。
- ⑩ **総合教養科目**に属する授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位は、**一般共通科目**の卒業要件単位として充当することができる。

2 教養演習 A

総合教養科目の1つとして少人数のゼミナール形式の授業として開講されるのが「教養演習」である。この授業科目は1～4年次までに開かれているが、主な対象として1年次生を設定している。クラスサイズは原則20人以下とし、少人数教育の利点を活かした教員と学生間、さらに学生相互間での議論を重視した授業を行う。学生一人ひとりの個性を育みながら、テーマに沿って学生の知的関心を広め、さらに深めることをねらいとしている。あわせて、議論とレポートの作成を通して、論理的な思考と日本語表現力を育成する。

「教養演習」は**反復・重複して履修することができるが、卒業要件単位として認められるのは4単位まで**である。

なお、履修に際しては特別な手続きが必要である。登録方法については、【授業に関することⅣ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

3 教養演習 B

社会調査士・認定心理士資格取得のために必要な科目が開設されているが、**卒業要件単位として認められるのは4単位まで**である。履修希望者は、社会調査士・認定心理士資格ガイダンス（4月上旬に実施。詳細は別途掲示する。）に必ず出席すること。

なお、履修に際しては特別な手続きが必要である。登録方法については、【授業に関することⅣ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

1 規定単位数

学部共通科目には、英語力のブラッシュアップが図れるような各種の英語科目、および英語以外の外国語科目が配置されている。

学部共通科目で卒業に必要な単位数は6単位であり、授業科目は第12表のとおりである。授業科目名の前に「全」と付いた科目は全学共通教育科目であり、詳しい説明は、【全学共通教育科目】の項に記載されている。

なお、学部共通科目の卒業要件6単位は、学部共通科目の中に配置されている授業科目のほか、基礎科目の選択A、選択B、選択C、および専門科目の選択A、選択Bに属する授業科目の中から、それぞれ卒業要件単位数を超えて修得した単位によっても充当することができる。

第12表 学部共通科目

	授 業 科 目	学年配当	単 位		授 業 科 目	学年配当	単 位
	※ TOEFL (ベーシック)	1~4	2	全	中国語選択 (上級) b	1~4	1
	TOEFL (アドヴァンスト)	1~4	2	全	韓国語選択 (初級) a	1~4	1
	※ TOEIC (ベーシック)	1~4	2	全	韓国語選択 (初級) b	1~4	1
	TOEIC (アドヴァンスト)	1~4	2	全	韓国語選択 (中級・ディプロム) a	1~4	1
	資格英語	2~4	2	全	韓国語選択 (中級・ディプロム) b	1~4	1
全	ビジネス英語a	1~4	1	全	ディプロム・コース中級 (独語) a	1~4	1
全	ビジネス英語b	1~4	1	全	ディプロム・コース中級 (独語) b	1~4	1
全	独会話選択a	1~4	1	全	ディプロム・コース上級 (独語) a	1~4	1
全	独会話選択b	1~4	1	全	ディプロム・コース上級 (独語) b	1~4	1
全	独語選択 (初級) Ia	1~4	1	全	ディプロム・コース中級 (仏語) a	1~4	1
全	独語選択 (初級) Ib	1~4	1	全	ディプロム・コース中級 (仏語) b	1~4	1
全	独語選択 (初級) IIa	1~4	1	全	ディプロム・コース上級 (仏語) a	1~4	1
全	独語選択 (初級) IIb	1~4	1	全	ディプロム・コース上級 (仏語) b	1~4	1
全	独語選択 (中級) a	1~4	1	全	海外短期語学研修 (英語・春季)	*	2
全	独語選択 (中級) b	1~4	1	全	海外短期語学研修 (英語・夏季)	1~4	2
全	独語選択 (上級) a	1~4	1	全	海外短期語学研修 (独語・春季)	*	2
全	独語選択 (上級) b	1~4	1	全	海外短期語学研修 (仏語・春季)	*	2
全	仏会話選択a	1~4	1	全	海外短期語学研修 (中国語・夏季)	1~4	2
全	仏会話選択b	1~4	1	全	海外短期語学研修 (英語・就業体験準備)	1~4	1
全	仏語選択 (初級) Ia	1~4	1	全	海外短期研修 (マレーシア・就業体験研修)	1~4	2
全	仏語選択 (初級) Ib	1~4	1	全	日本語A (上級・会話)	1~4	2
全	仏語選択 (初級) IIa	1~4	1	全	日本語A (上級・読解)	1~4	2
全	仏語選択 (初級) IIb	1~4	1	全	日本語A (上級・表現文型と語彙)	1~4	2
全	仏語選択 (中級) a	1~4	1	全	日本語A (上級・特別講座)	1~4	2
全	仏語選択 (中級) b	1~4	1	全	日本語A (中級・総合日本語)	1~4	6
全	仏語選択 (上級) a	1~4	1	全	日本語A (中級・特別講座)	1~4	2
全	仏語選択 (上級) b	1~4	1	全	日本語A (初級)	1~4	8
全	スペイン語選択 (初級) a	1~4	1	全	日本語B (上級・日本語聴読解)	1~4	1
全	スペイン語選択 (初級) b	1~4	1	全	日本語B (上級・日本語文章表現)	1~4	1
全	スペイン語選択 (中級・ディプロム) a	1~4	1	全	日本語B (上級・日本語会話)	1~4	2
全	スペイン語選択 (中級・ディプロム) b	1~4	1	全	日本語B (上級・日本語文法と漢字)	1~4	2
全	中国語選択 (初級) Ia	1~4	1	全	日本語B (上級・総合日本語)	1~4	2
全	中国語選択 (初級) Ib	1~4	1	全	日本語B (中級・日本語聴読解作文)	1~4	2
全	中国語選択 (初級) IIa	1~4	1	全	日本語B (中級・日本語会話)	1~4	2
全	中国語選択 (初級) IIb	1~4	1	全	日本語B (中級・日本語文法と漢字)	1~4	2
全	中国語選択 (中級) a	1~4	1	全	日本語B (中級・総合日本語)	1~4	2
全	中国語選択 (中級) b	1~4	1	全	日本語B (初級)	1~4	8
全	中国語選択 (上級) a	1~4	1				

注1) ※印の科目は本年度休講である。

注2) 海外短期語学研修のうち、学年配当が*印になっているものは、1~3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位認定がされる科目である。

《履修上の注意》

- ① 卒業に必要な単位数は、6単位である。
- ② 学部共通科目は、特別な履修手続きが必要である。登録方法については、【授業に関すること】
【IV特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ③ 「資格英語」は、TOEFLまたはTOEICの成績優秀者に対して単位認定を行う授業科目である。

1 規定単位数
(続き)

- ④ 2018年度から、通年(2単位)で開講していた全学共通外国語科目は、前期a(1単位)、後期b(1単位)に分割して開講する。2017年度までに通年科目の単位を修得している場合、同一名称のaまたはbの授業科目は履修できない。
(例:2017年度までに「ビジネス英語」の単位を修得している場合、「ビジネス英語a」および「ビジネス英語b」を履修できない。)
- ⑤ 2018年度から全学共通教育科目の英語科目の一部(例:「英語リスニング&スピーキング(初級)a」等)は、卒業要件単位数に含まれない科目となった。該当科目は【履修規定Ⅳ】卒業要件単位数に算入されない授業科目の「外国語科目」を参照のこと。
- ⑥ 2016年度に以下のように授業科目が変更された。なお、旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することはできない。

旧 授 業 科 目	新 授 業 科 目
独 語 選 択 (上 級)	独 語 選 択 (上 級) a
	独 語 選 択 (上 級) b
仏 語 選 択 (上 級)	仏 語 選 択 (上 級) a
	仏 語 選 択 (上 級) b
中 国 語 選 択 (上 級)	中 国 語 選 択 (上 級) a
	中 国 語 選 択 (上 級) b

- ⑦ 2018年度に以下のように授業科目が変更された。なお、旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することができない。

旧 授 業 科 目	新 授 業 科 目
独 語 選 択 (初 級) A	独 語 選 択 (初 級) I a
	独 語 選 択 (初 級) I b
独 語 選 択 (初 級) B	独 語 選 択 (初 級) II a
	独 語 選 択 (初 級) II b
仏 語 選 択 (初 級) A	仏 語 選 択 (初 級) I a
	仏 語 選 択 (初 級) I b
仏 語 選 択 (初 級) B	仏 語 選 択 (初 級) II a
	仏 語 選 択 (初 級) II b
中 国 語 選 択 (初 級) A	中 国 語 選 択 (初 級) I a
	中 国 語 選 択 (初 級) I b
中 国 語 選 択 (初 級) B	中 国 語 選 択 (初 級) II a
	中 国 語 選 択 (初 級) II b

- ⑧ 独語選択、仏語選択、中国語選択の履修に際しては、以下の条件を満たさなければならない。

授業科目(グレード)	履修の条件 (同一言語において1つ以上の条件を満たすこと)	備 考
独語選択(初級) I a・I b・II a・II b 仏語選択(初級) I a・I b・II a・II b 中国語選択(初級) I a・I b・II a・II b	・全学生履修可	教育上の効果を高めるために、I a・I b・II a・II bの同学年での履修を強く勧める。
独語選択(中級) a・b 仏語選択(中級) a・b 中国語選択(中級) a・b	・上記「選択(初級) I a」、「選択(初級) I b」、「選択(初級) II a」、「選択(初級) II b」の計4単位を修得した者 ・2013年度以前に全学共通外国語の「選択(初級)」または「会話選択(初級)」の単位を修得している者 ・その他、一定の語学能力があると認められた者	左記履修の条件を満たしていれば、a・bどちらかのみ履修可。
独語選択(上級) a・b 仏語選択(上級) a・b 中国語選択(上級) a・b	・上記「選択(中級) a」および「選択(中級) b」の計2単位を修得した者 ・その他、一定の語学能力があると認められた者	左記履修の条件を満たしていれば、a・bどちらかのみ履修可。

※上記の履修の条件については、2017年度以前に「選択(初級) A」を修得していた場合は、「選択(初級) I a」と「選択(初級) I b」を、「選択(初級) B」を修得していた場合は、「選択(初級) II a」、「選択(初級) II b」を修得しているものとみなす。
同様に、「選択(中級)」を修得していた場合は、「選択(中級) a」および「選択(中級) b」を修得しているものとみなす。

1 規定単位数
(続き)

⑨ 2018年度に以下のように授業科目の名称が変更された。なお、旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することができない。

旧 授 業 科 目	新 授 業 科 目
ディプロム・コース中級(独語)A	ディプロム・コース中級(独語)a
ディプロム・コース中級(独語)B	ディプロム・コース中級(独語)b
ディプロム・コース上級(独語)A	ディプロム・コース上級(独語)a
ディプロム・コース上級(独語)B	ディプロム・コース上級(独語)b
ディプロム・コース中級(仏語)A	ディプロム・コース中級(仏語)a
ディプロム・コース中級(仏語)B	ディプロム・コース中級(仏語)b
ディプロム・コース上級(仏語)A	ディプロム・コース上級(仏語)a
ディプロム・コース上級(仏語)B	ディプロム・コース上級(仏語)b

⑩ 「海外短期語学研修」、「海外短期研修」については以下のとおりである。

	授 業 科 目	学年配当	単位	備 考
全	海外短期語学研修(英語・春季)	*	2	研修内容等については、シラバスを参照のこと。 また、履修登録の方法については、 【 授業に関すること 】Ⅳ 特別な履修登録 手続きを必要とする授業科目】を参照 すること。
全	海外短期語学研修(英語・夏季)	1~4	2	
全	海外短期語学研修(独語・春季)	*	2	
全	海外短期語学研修(仏語・春季)	*	2	
全	海外短期語学研修(中国語・夏季)	1~4	2	
全	海外短期語学研修 (英語・就業体験準備)	1~4	1	
全	海外短期研修 (マレーシア・就業体験研修)	1~4	2	

- 一度単位の認定を受けた授業科目も再度履修することができ、同一年度に複数の授業科目を履修することもできる。ただし、認定された単位のうち卒業要件単位に算入することができるのはあわせて2単位までである。
 - 海外短期語学研修のうち、学年配当が*印になっているものは、1~3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位認定がされる科目である。研修への参加申し込みをもって、該当する授業科目への履修登録とする。なお、Campus Square for Web上では、研修に参加する年度は単位数が0の仮置き科目、その翌年度に2単位の科目を履修登録する。これらのCampus Square for Web上の履修登録はいずれも教務部が行う。履修登録された2単位は、研修の翌年度の履修科目登録上限単位数に含まれる。研修参加申し込み後は、研修自体がやむを得ず中止となった場合を除き、研修への実際の参加の可否にかかわらず、履修登録を取り消すことができないので注意すること。
 - やむを得ない理由により研修が中止となる場合があることを考慮し、履修科目登録上限単位数や卒業・進級要件単位数に注意して学修計画を立てておくこと。
 - 「海外短期語学研修(英語・就業体験準備)【1単位】」と「海外短期研修(マレーシア・就業体験研修)【2単位】」はセットで履修することになっている。
 - 「海外短期語学研修」および「海外短期研修」の成績評価は、他の授業科目とは異なり、合格であれば「合」(英文成績証明書は「P」)と表示される。
- ⑪ 「日本語A」、「日本語B」は、交換留学協定校からの受入交換留学生である者または、外国人留学生のうち所定の要件に該当する者のみ履修できる。
- ⑫ 2017年度をもって「選択英語」、「日本語コミュニケーションA」、「日本語コミュニケーションB」は廃講となった。なお、修得した単位は学部共通科目の単位として認められる。

1 規定単位数

一般共通科目で卒業に必要な単位数は4単位であり、授業科目は第13表～第16表のとおりである。

なお、一般共通科目の卒業要件単位4単位は、一般共通科目の中に配置されている授業科目のほか、総合教養科目に属する授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位を充当することができる。

2 スポーツ・ウエルネス教育科目

スポーツ・ウエルネス教育科目の授業科目は、第13表のとおりである。

第13表 スポーツ・ウエルネス教育科目（学年配当：1～4年次）

カテゴリー	系列	授業科目・種目、コース	
スポーツ・ウエルネス講義・演習科目 (半期2単位)	スポーツ文化	スポーツ・スタディーズⅠ〈身体と用具の変遷〉 ※スポーツ・スタディーズⅡ スポーツ・スタディーズⅢ〈スポーツのグローカリゼーション〉 ※スポーツ・スタディーズⅣ	
	ウエルネス文化	ウエルネス・スタディーズⅠ〈健康スポーツへの誘い〉 ウエルネス・スタディーズⅡ〈健康スポーツの心理〉 ウエルネス・スタディーズⅢ〈身体のリテラシー〉 ウエルネス・スタディーズⅣ〈健康スポーツの科学〉	
	身体表現文化	身体表現・スタディーズⅠ〈アスリートと身体表現〉 身体表現・スタディーズⅡ〈武道とジャパノロジー〉 身体表現・スタディーズⅢ〈身体コーディネーション論〉 身体表現・スタディーズⅣ〈舞踊と身体表現〉	
スポーツ・ウエルネス実技科目 (半期または集中1単位)	スポーツ文化	※オルタナティブスポーツ ゴルフ サッカー&フットサル ソフトボール 卓球 テニス バスケットボール バドミントン バレーボール フットサル	定時コース
		※サイクル・スポーツ スキー	集中コース
	ウエルネス文化	アクアエクササイズ エアロビクス&コンディショニング エアロビクス&ピラティス コンディショニング 水泳 ※トレーニング フィットネス ヨガ&ピラティス レクリエーション・スポーツ	定時コース
身体表現文化	剣道（古武道） ダンスパフォーマンス		

注1) 各授業科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、授業科目名称には含まれない。

注2) ※印の授業科目は本年度休講である。

《履修上の注意》

- ① スポーツ・ウエルネス教育科目は、特別な履修登録手続きが必要となるので【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② スポーツ・ウエルネス講義・演習科目の第1回目の授業は、第1体育館1階講義室または指定された教室でガイダンスを行う。
- ③ スポーツ・ウエルネス実技科目の第1回目の授業は、前期・後期ともに、第1体育館Aフロアでガイダンスを行う。なお、ガイダンスに出席するにあたり着替えは不要である。
- ④ スポーツ・ウエルネス実技科目は、前期・後期の半期開講科目である。後期開講科目についても前期開講科目と同様に4月の履修申し込み日および履修登録期間に手続きを終えなければならない。
- ⑤ 健康上の問題および心身に障がいのある履修希望者には、個別に対応する。希望者は履修登録期間内に教務部または科目担当専任教員まで申し出ること。
- ⑥ スポーツ・ウエルネス実技科目は一度単位を修得した種目も再履修することができ、同一種目が複数開講されている場合は複数の履修も可能である。

3 IT科目

IT科目の授業科目は、第14表のとおりである。授業科目の説明は【全学共通教育科目 Cリテラシー科目群 3 IT科目】の項、登録方法などについては、【授業に関すること IV特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

第14表 IT科目（学年配当：1～4年次）

授業科目	単位	授業科目	単位
コンピュータ・リテラシーA1	2	コンピュータ・リテラシーD	2
コンピュータ・リテラシーA2	2	コンピュータ・リテラシーE	2
コンピュータ・リテラシーB	2	※図書館活用法	2
※コンピュータ・リテラシーC	2		

注) ※印の授業科目は本年度休講である。

4 WRD

WRDの授業科目「WRD」は第15表のとおりである。授業科目の説明は【全学共通教育科目 Cリテラシー科目群 1 WRD】の項、登録方法などについては、【授業に関すること IV特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

第15表 WRD（学年配当：1～4年次）

授業科目	単位
WRD	4

5 キャリアデザイン科目

キャリアデザイン科目の授業科目は、第16表のとおりである。授業科目の説明は【全学共通教育科目 Eキャリアデザイン科目群】の項、登録方法などについては、特別な履修登録手続きが必要な授業科目であるため、【授業に関すること IV特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

第16表 キャリアデザイン科目

授業科目	学年配当	単位
キャリア形成概論Ⅰ	1・2	2
キャリア形成概論Ⅱ	1・2	2

注) ※印の授業科目は本年度休講である。

《履修上の注意》

「キャリア形成概論Ⅰ・Ⅱ」は3年次以降は履修することができない。

Ⅲ

政策イノベーション学科授業科目一覧

第17表 政策イノベーション学科授業科目一覧

分野・区分		学年配当	1 年			
外国語科目	必修	英語リーディングⅠ② 英語ベーシック・スキルズ②	英語オーラル・コミュニケーション②			
	選択必修					
基礎科目	必修	イノベーション概論②	科学技術と社会②	情報リテラシー②	データ分析入門②	
	選択 A	経済学④* 国際関係学④*	政策学②* 行政学②*	経営学④* 統計学④*	心理学④ 社会学④	社会心理学④
	選択 B					
	選択 C	*エコロジー論④ 生命倫理論④	比較文化論④ 生命の科学④	文明と社会④ 家族と社会の変動④	地域と文化④	
専門科目	必修					
	選択 A	政策系科目				
		戦略系科目				
		学科共通科目				
	選択 B	心理系科目				
		社会系科目				
学科共通科目						

注1) ○で囲まれた数字は単位数を表す。
 注2) *印の授業科目は本年度休講である。
 注3) 基礎科目選択Aの卒業要件単位数12単位のうち、*印のついた授業科目から8単位以上を選択すること。

履修規定

政策イノベーション学科

2015年度以前入学者用

2年	3年	4年	卒業要件 単位数
英語リーディングⅡ② 英語スタディー・スキルズ② 英語ライティング②			12
	英語セミナー A～O①		1
			8
			12
社会調査法④ 心理実験法④	メッセージ分析法④ 市場調査法④		4
			4
基礎ゼミナール（政策）② 基礎ゼミナール（戦略）②	ゼミナールⅠ④	ゼミナールⅡ④ 卒業研究④	16
イノベーション政策論④ 経済政策② 公共経済学② 科学技術論②	金融システム論② 金融イノベーション論Ⅰ② 日本経済論② 日本金融論②	開発政策論② 開発支援論② 国際法④ 地域政策論④	32
	イノベーション経済論④ ※公共政策論② 知的財産法② リテールファイナンス論②	金融イノベーション論Ⅱ② 比較イノベーション論② グローバルガバナンス論② 国際機構論④	
イノベーション戦略論④ 戦略論② 組織論② マーケティング論②	現代企業論④ 企業家史④ 組織イノベーション論④		
	人的資源論④ 新商品開発論② ベンチャービジネス論② 研究開発管理論②	消費行動論② ※トップマネジメント論② ※ロジスティクス論② 企業評価論④	
OCA②	社会イノベーション特殊演習②		
	政策イノベーション特殊講義②		
イノベーション心理論④ 認知心理学④ パーソナリティ心理学②	メディア心理学④ 異文化間心理学②		14
	組織心理学② 意思決定論② 経済心理学② ワークプレイス論②	対人コミュニケーション論④ 認知言語学④ ヒューマンインターフェイス論④	
イノベーション社会論④ 社会システム論④ 日本社会文化論④	※アジア社会文化論④ アメリカ社会文化論④ 現代国際社会学④	異文化間コミュニケーション論Ⅰ② 異文化間コミュニケーション論Ⅱ②	
	宗教社会論④ ※生活福祉論④ NGO・NPO論② ※心理社会学特殊講義②	社会人類学② 環境社会論②	

第17表 政策イノベーション学科授業科目一覧（つづき）

学年配当 分野・区分	1 年		
総合 教養 科目	短期学外演習〈自然〉②		
	【教養演習A】 教養演習④		
	【教養演習B】 カウンセリング④		心理学研究法④
	※総合講座Ⅰ②	現代社会論Ⅶa〈カルチュラル・スタディーズ〉②	宗教学入門a②
	総合講座Ⅱ〈アート・プロデュース／感動と価値の創造〉②	現代社会論Ⅶb〈カルチュラル・スタディーズ〉②	宗教学入門b②
	総合講座Ⅲ〈環境〉②	※現代社会論Ⅷa②	倫理学入門a②
	※総合講座Ⅳ②	※現代社会論Ⅷb②	倫理学入門b②
	総合講座Ⅴ〈余暇学（世田谷6大学コンソーシアム連携授業）〉②	※現代社会論演習a②	西洋思想入門a②
	総合講座Ⅵ〈中国文学入門（世田谷6大学コンソーシアム連携授業）〉②	※現代社会論演習b②	西洋思想入門b②
	※特別講座Ⅰ②	国際関係論入門a②	東洋思想入門a②
	※特別講座Ⅱ②	国際関係論入門b②	東洋思想入門b②
	成城学園を知る②	経済学入門a②	日本思想入門a②
	成城学Ⅰ〈柳田國男と民俗学〉②	経済学入門b②	日本思想入門b②
	※成城学Ⅱ②	政治学入門a②	※思想・人間論Ⅰa②
	※成城学Ⅲ②	政治学入門b②	※思想・人間論Ⅰb②
	※成城学Ⅳ②	情報社会論入門a②	思想・人間論Ⅱa〈イメージを“よむ”〉②
	成城学Ⅴ〈成城と自然〉②	情報社会論入門b②	思想・人間論Ⅱb〈イメージを“よむ”〉②
	社会学入門a②	法学（含む日本国憲法）a②	※思想・人間論Ⅲa②
	社会学入門b②	法学（含む日本国憲法）b②	思想・人間論演習a②
	メディア論入門a②	社会構造論Ⅰa〈自由と平等〉②	思想・人間論演習b②
	メディア論入門b②	社会構造論Ⅰb〈自由と平等〉②	文学入門a②
	現代社会論Ⅰa〈現代の宗教と国家〉②	社会構造論Ⅱa〈社会と組織〉②	文学入門b②
現代社会論Ⅰb〈現代の宗教と社会〉②	社会構造論Ⅱb〈ネットワークと組織〉②	言語学入門a②	
現代社会論Ⅱa〈サブカルチャー史〉②	※社会構造論Ⅲa②	言語学入門b②	
現代社会論Ⅱb〈サブカルチャー論〉②	※社会構造論Ⅲb②	音楽入門a②	
※現代社会論Ⅲa②	社会構造論Ⅳa〈日常生活と社会経済〉②	音楽入門b②	
※現代社会論Ⅲb②	社会構造論Ⅳb〈日常生活と社会経済〉②	※表象文化論入門a②	
現代社会論Ⅳa〈戦後日本文化論〉②	※社会構造論Ⅴa②	※表象文化論入門b②	
現代社会論Ⅳb〈戦後日本文化論〉②	※社会構造論Ⅴb②	※表現文化論Ⅰa②	
※現代社会論Ⅴa②	社会構造論Ⅵa〈現代日本と政治〉②	※表現文化論Ⅰb②	
※現代社会論Ⅴb②	※社会構造論Ⅵb②	※表現文化論Ⅱa②	
現代社会論Ⅵa〈平和論〉②	社会構造論演習a②	※表現文化論Ⅱb②	
現代社会論Ⅵb〈平和論〉②	社会構造論演習b②	表現文化論Ⅲa〈映画の“いま”〉②	
	哲学入門a②	表現文化論Ⅲb〈映画の“いま”〉②	
	哲学入門b②	表現文化論Ⅳa〈民俗と作法の表現文化論〉②	
		表現文化論Ⅳb〈伝統芸術文化論〉②	
	【国際交流科目・データサイエンス科目は、Ⅱ科目区分別履修方法 Ⅲ 総合教養科目を参照】		
学部 共通科目	※TOEFL（ベーシック）②	仏語選択（上級）b①	海外短期語学研修（英語・春季）②
	TOEFL（アドヴァンスト）②	スペイン語選択（初級）a①	海外短期語学研修（英語・夏季）②
	※TOEIC（ベーシック）②	スペイン語選択（初級）b①	海外短期語学研修（独語・春季）②
	TOEIC（アドヴァンスト）②	スペイン語選択（中級・ディプロム）a①	海外短期語学研修（仏語・春季）②
	ビジネス英語a①	スペイン語選択（中級・ディプロム）b①	海外短期語学研修（中国語・夏季）②
	ビジネス英語b①	中国語選択（初級）Ⅰa①	海外短期語学研修（英語・就業体験準備）①
	独会話選択a①	中国語選択（初級）Ⅰb①	海外短期研修（マレーシア・就業体験研修）②
	独会話選択b①	中国語選択（初級）Ⅱa①	日本語A〈上級・会話〉②
	独語選択（初級）Ⅰa①	中国語選択（初級）Ⅱb①	日本語A〈上級・読解〉②
	独語選択（初級）Ⅰb①	中国語選択（中級）a①	日本語A〈上級・表現文型と語彙〉②
	独語選択（初級）Ⅱa①	中国語選択（中級）b①	日本語A〈上級・特別講座〉②
	独語選択（初級）Ⅱb①	中国語選択（上級）a①	日本語A〈中級・総合日本語〉⑥
	独語選択（中級）a①	中国語選択（上級）b①	日本語A〈中級・特別講座〉②
	独語選択（中級）b①	韓国語選択（初級）a①	日本語A〈初級〉⑧
	独語選択（上級）a①	韓国語選択（初級）b①	日本語B〈上級・日本語聴読解〉①
	独語選択（上級）b①	韓国語選択（中級・ディプロム）a①	日本語B〈上級・日本語文章表現〉①
	仏会話選択a①	韓国語選択（中級・ディプロム）b①	日本語B〈上級・日本語会話〉②
	仏会話選択b①	ディプロム・コース中級（独語）a①	日本語B〈上級・日本語文法と漢字〉②
	仏語選択（初級）Ⅰa①	ディプロム・コース中級（独語）b①	日本語B〈上級・総合日本語〉②
	仏語選択（初級）Ⅰb①	ディプロム・コース上級（独語）a①	日本語B〈中級・日本語聴読解作文〉②
	仏語選択（初級）Ⅱa①	ディプロム・コース上級（独語）b①	日本語B〈中級・日本語会話〉②
	仏語選択（初級）Ⅱb①	ディプロム・コース中級（仏語）a①	日本語B〈中級・日本語文法と漢字〉②
	仏語選択（中級）a①	ディプロム・コース中級（仏語）b①	日本語B〈中級・総合日本語〉②
	仏語選択（中級）b①	ディプロム・コース上級（仏語）a①	日本語B〈初級〉⑧
仏語選択（上級）a①	ディプロム・コース上級（仏語）b①		
一般 共通科目	【スポーツ・ウエルネス教育科目は、Ⅱ科目区分別履修方法 Ⅲ 一般共通科目 2 スポーツ・ウエルネス教育科目 を参照】		
	コンピュータ・リテラシー A1②	※コンピュータ・リテラシー C②	※図書館活用法②
	コンピュータ・リテラシー A2②	コンピュータ・リテラシー D②	WRD④
	コンピュータ・リテラシー B②	コンピュータ・リテラシー E②	
	【キャリアデザイン科目は、Ⅱ科目区分別履修方法 Ⅲ 一般共通科目 5 キャリアデザイン科目 を参照】		
【国際交流科目は、Ⅳ卒業要件単位に算入されない授業科目を参照】			

注1) ○で囲まれた数字は単位数を表す。
注2) ※印の授業科目は本年度休講である。

2 年	3 年	4 年	卒業要件 単位数
	社会調査演習④		
※表現文化論Va② ※表現文化論Vb② 表現文化論Ⅵa〈文学と地域文化〉② 表現文化論Ⅵb〈文学と地域文化〉② 表現文化論演習a② 表現文化論演習b② 歴史学入門a② 歴史学入門b② 日本近現代史a② 日本近現代史b② ヨーロッパ近現代史a② ヨーロッパ近現代史b② アジア近現代史a② アジア近現代史b② アメリカ近現代史a② アメリカ近現代史b② ※歴史文化論Ⅰa② ※歴史文化論Ⅰb② 歴史文化論Ⅱa〈江戸の文化〉② 歴史文化論Ⅱb〈江戸の文化〉② 歴史文化論Ⅲa〈グローバル・ ヒストリーと西欧〉② 歴史文化論Ⅲb〈グローバル・ ヒストリーと非西欧〉② ※歴史文化論Ⅳa② ※歴史文化論Ⅳb② ※歴史文化論Ⅴa② ※歴史文化論Ⅴb② ※歴史文化論演習a② ※歴史文化論演習b② 文化人類学入門a② 文化人類学入門b② 空間システム論入門a② 空間システム論入門b②	地域空間論Ⅰa〈EU論〉② 地域空間論Ⅰb〈EU論〉② ※地域空間論Ⅱa② ※地域空間論Ⅱb② 地域空間論Ⅲa〈東南アジアの社会と文化〉② 地域空間論Ⅲb〈東南アジアの社会と文化〉② ※地域空間論Ⅳa② ※地域空間論Ⅳb② ※地域空間論Ⅴa② ※地域空間論Ⅴb② 地域空間論Ⅵa〈アフリカの社会と文化〉② 地域空間論Ⅵb〈アフリカの社会と文化〉② 地域空間論Ⅶa〈日本と 東アジアの社会と文化〉② 地域空間論Ⅶb〈日本と 東アジアの社会と文化〉② 地域空間論Ⅷa〈中東の社会と文化〉② 地域空間論Ⅷb〈中東の社会と文化〉② ※地域空間論演習a② ※地域空間論演習b② ※数理の世界a② ※数理の世界b② 数理学Ⅰa〈情報と論理〉② 数理学Ⅰb〈情報と論理〉② ※数理学Ⅱa② ※数理学Ⅱb② 物理の世界a② 物理の世界b② 化学の世界a② 化学の世界b② 生命科学の世界a② 生命科学の世界b② 科学史a② 科学史b②	※自然科学Ⅰa② 自然科学Ⅰb〈自然と漁業・林業〉② 自然科学Ⅱa〈地球と環境〉② 自然科学Ⅱb〈地球と環境〉② 自然科学Ⅲa〈地球科学〉② 自然科学Ⅲb〈地球科学〉② ※自然科学Ⅳa② ※自然科学Ⅳb② 自然科学Ⅴa〈比較行動学〉② 自然科学Ⅴb〈比較行動学〉② 数理・自然科学演習a② 数理・自然科学演習b② ことごとと身体a② ことごとと身体b② ※身体と運動・スポーツa② ※身体と運動・スポーツb② 心身論Ⅰa〈脳の機能と心の機能〉② 心身論Ⅰb〈精神疾患と脳〉② 心身論Ⅱa〈ことごとと発達〉② 心身論Ⅱb〈ことごとと社会〉② 心身論Ⅲa〈運動・スポーツと心のしくみ〉② 心身論Ⅲb〈運動・スポーツと身体のしくみ〉② 心身論Ⅳa〈食と健康〉② 心身論Ⅳb〈食と環境〉② ※心身論Ⅴa② ※心身論Ⅴb② 心身論演習a② 心身論演習b②	12
資格英語②			6
			4
合 計			125

IV

卒業要件単位に算入されない授業科目

以下の授業科目は、履修することが可能であるが、修得しても卒業要件単位には含まれないので注意すること。
各授業科目に関する説明は、【[全学共通教育科目](#)】の項を参照すること。

分野・区分	授 業 科 目	学年配当	単 位	授 業 科 目	学年配当	単 位
外国語科目	英語リスニング&スピーキング (初級) a	1~4	1	英語リーディング&ライティング (中級) b	1~4	1
	英語リスニング&スピーキング (初級) b	1~4	1	英語リーディング&ライティング (上級) a	1~4	1
	英語リスニング&スピーキング (中級) a	1~4	1	英語リーディング&ライティング (上級) b	1~4	1
	英語リスニング&スピーキング (中級) b	1~4	1	英会話選択a	1~4	1
	英語リスニング&スピーキング (上級) a	1~4	1	英会話選択b	1~4	1
	英語リスニング&スピーキング (上級) b	1~4	1	英文多読a	1~4	1
	英語リーディング&ライティング (初級) a	1~4	1	英文多読b	1~4	1
	英語リーディング&ライティング (初級) b	1~4	1	Academic Communication a	1~4	1
	英語リーディング&ライティング (中級) a	1~4	1	Academic Communication b	1~4	1
キャリアデザイン科目	スタート・プログラムⅠ〈ホスピタリティとサービス〉	1・2	2	※グローバルビジネス論	3・4	2
	スタート・プログラムⅡ〈企業提案〉	1・2	2	チャレンジ・プログラム	3・4	2
	スタート・プログラムⅢ〈企業との協働〉	1・2	2	時事英語Ⅰ	1~4	2
	ワークライフバランス論	2~4	2	時事英語Ⅱ	1~4	2
	※キャリアモデル・ケーススタディ	2~4	2	時事問題研究	2~4	2
	アドバンス・プログラム	2・3	2	※就業力実践Ⅰ	2~4	2
	業界企業分析論	2~4	2	※就業力実践Ⅱ	2~4	2
	職業選択論	2~4	2	※就業力実践Ⅲ	2~4	2
国際交流科目 【留学対策科目】	Academic SkillsⅠA 〈English Reading〉	1~4	1	Academic SkillsⅣA 〈English Speaking/Discussion〉	1~4	1
	Academic SkillsⅠB 〈English Reading〉	1~4	1	Academic SkillsⅣB 〈English Speaking/Discussion〉	1~4	1
	Academic SkillsⅡA 〈English Listening〉	1~4	1	Academic SkillsⅤA 〈English Presentation〉	2~4	1
	Academic SkillsⅡB 〈English Listening〉	1~4	1	Academic SkillsⅤB 〈English Presentation〉	2~4	1
	Academic SkillsⅢA 〈English Writing〉	1~4	1	※Academic SkillsⅥA	2~4	1
	Academic SkillsⅢB 〈English Writing〉	1~4	1	Academic SkillsⅥB 〈English Research〉	2~4	1
国際交流科目 【英語等による 地域研究科目】	European Studies A 〈Collections and Entertainment in Modern Europe〉	1~4	2	※Oceanian Studies A	1~4	2
	※European Studies B	1~4	2	※Oceanian Studies B	1~4	2
	North American Studies A 〈Immigration and Refugees in the United States, Past and Present〉	1~4	2	※Asian Studies A	1~4	2
	※North American Studies B	1~4	2	Asian Studies B 〈Exploring Contemporary Cultures and Societies in Asia〉	1~4	2
国際交流科目 【留学準備演習】	留学準備演習	1~4				

※印の科目は本年度休講である。

《履修上の注意》

- ① 外国語科目、キャリアデザイン科目のうち「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」および「時事英語Ⅰ・Ⅱ」、国際交流科目は、特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については、【[授業に関すること](#)】[IV](#)特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② 2018年度から、通年(2単位)で開講していた全学共通教育科目の外国語科目は、前期a(1単位)、後期b(1単位)に分割して開講する。2017年度までに通年科目の単位を修得している場合、同一名称のaまたはbの科目は履修できない。
(例：2017年度までに「英語リスニング&スピーキング(初級)」の単位を修得している場合、「英語リスニング

- &スピーキング（初級）a] および「英語リスニング&スピーキング（初級）b]」を履修できない。）
- ③ 「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」は、「キャリア形成概論Ⅰ・Ⅱ」（【履修規定】[F]一般共通科目）の項を参照）2科目4単位の修得が履修の条件となる。
 - ④ 「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」のうち、修得できる単位数は、1科目2単位までとする。
 - ⑤ 「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」は3年次以降は履修することができない。
 - ⑥ 「チャレンジ・プログラム」の履修を希望する者は、キャリアセンターへ申し出ること。
 - ⑦ キャリアデザイン科目の履修について、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が以下のとおり設けられている。
 - ・ 「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」について、「キャリア形成概論Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得した学生は、履修科目登録上限単位数を2単位を超えて履修登録することができる。
 - ・ 「成城大学就業力育成・認定プログラム」（詳細は【全学共通教育科目】[E]キャリアデザイン科目群）の項を参照）の受講申請をした学生は、前年までの成績（GPA等）が一定の基準を満たしている場合（1年次はキャリアセンターが行う学力考査等で一定の基準を満たしている場合）、2年次は8単位、3年次は4単位まで履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。ただし、他の特例措置（【履修規定】[I]総説[B]履修科目登録上限単位数 2 履修科目登録上限単位数）を参照）も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。
 - ⑧ 国際交流科目の履修について、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が以下のとおり設けられている。
 - ・ 国際交流科目のうち、「留学対策科目」、「英語等による地域研究科目」および「留学準備演習」の履修については、前年までの成績（GPA等）が一定の基準を満たしている場合（1年次は国際センターが行う学力考査等で一定の基準を満たしている場合）、各年次4単位まで履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。ただし、他の特例措置（【履修規定】[I]総説[B]履修科目登録上限単位数 2 履修科目登録上限単位数）を参照）も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。
 - ⑨ 2018年度に「Academic Skills VA」、「Academic Skills VB」、「Academic Skills VIA」、「Academic Skills VIB」の学年配当は「1～4」から「2～4」に変更された。

履修規定

心理社会学科

[2015年度以前入学者用]

I 総説	106	2) 必修	
A. 科目区分および卒業要件単位数	106	3) 選択A・B	
1) 科目区分		4) OCA	
2) 卒業要件単位数		5) コース制度	
B. 履修科目登録上限単位数	106	D. 総合教養科目	112
1) 履修科目登録上限単位数制度		1) 規定単位数	
2) 履修科目登録上限単位数		2) 教養演習A	
C. コース認定制度	107	3) 教養演習B	
D. 2年次から3年次への進級基準	107	E. 学部共通科目	117
		1) 規定単位数	
		F. 一般共通科目	120
		1) 規定単位数	
		2) スポーツ・ウエルネス教育科目	
		3) IT科目	
		4) WRD	
		5) キャリアデザイン科目	
II 科目区分別履修方法	108	III 心理社会学科授業科目一覧	122
A. 外国語科目	108		
1) 規定単位数			
2) 必修			
3) 選択必修			
4) TOEIC IPテスト			
5) 未修得科目の再履修			
B. 基礎科目	109		
1) 規定単位数			
2) 必修			
3) 選択			
C. 専門科目	110		
1) 規定単位数			
		IV 卒業要件単位に算入されない 授業科目	126

I 総説

A 科目区分および卒業要件単位数

1 科目区分

授業科目は、**外国語科目**、**基礎科目**、**専門科目**、**総合教養科目**、**学部共通科目**、**一般共通科目**の6つの科目区分から構成されている。

2 卒業要件単位数

卒業に必要な単位数は**125単位**であり、**第1表**に示す規定の単位数を修得しなければならない。

第1表 心理社会学科 卒業要件科目および単位数

科目区分		規定単位数	
外国語科目	必修	12	13
	選択必修	1	
基礎科目	必修	8	28
	選択A	12	
	選択B	4	
	選択C	4	
専門科目	必修	16	62
	選択A	32	
	選択B	14	
総合教養科目		12(注2)	12
学部共通科目		6	6(注3)
一般共通科目		4	4
合計		125	

(注1) **学部共通科目**の卒業要件単位6単位は、**学部共通科目**の中に配置されている授業科目のほか、**基礎科目**の選択A、選択B及び選択C、並びに**専門科目**の選択A及び選択Bに配置されている授業科目の中から、それぞれ卒業要件単位数を超えて修得した単位によっても充当することができる。

(注2) **総合教養科目**には、「教養演習B」として、社会調査士・認定心理士資格取得のために必要な科目が開設されているが、そのうち卒業要件単位として認められるのは4単位までである。

(注3) **一般共通科目**の卒業要件単位4単位は、**一般共通科目**の中に配置されている授業科目のほか、**総合教養科目**に配置されている授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位によっても充当することができる。

B 履修科目登録上限単位数

1 履修科目登録上限単位数制度

この制度は、各自が履修登録するに当たり、学問上の興味や知的関心、さらには時間的制約などを十分考慮して授業科目を選択し、いったん登録した科目は途中で放棄することなく最後まで単位の修得を目指して努力するように設けられたものである。

2 履修科目登録上限単位数

各学年毎の履修科目登録上限単位数は**47単位**とする。

- ① 「資格英語」の2単位は履修科目登録上限単位数（47単位）に含まれない。
- ② 学部を設置する審査委員会において、成績資料を個別に審査し、履修科目登録上限単位数を52単位まで認めることがある。希望者はWeb履修登録期限までに教務部で申請すること。
- ③ 以下に挙げる科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については【履修規定IV卒業要件単位数に算入されない授業科目】を参照すること。
 - ・ キャリアデザイン科目のうち卒業要件単位として認められない科目
 - ・ 国際交流科目のうち卒業要件単位として認められない科目

C コース認定制度

本学部学生は、2年次進級時に、政策、戦略、心理、社会のいずれの領域を自分の今後の専門領域とするかを申告する。この専門領域のことを本学部では「コース」と呼ぶ。

コース認定制度は、科目区分の「専門科目」の「選択A」及び「選択B」の中から、コース認定要件に示される所定の単位数を修得した場合に、卒業時に当該コースの修了を認定する制度である。各コースの認定要件は第2表のとおりである。また、認定要件を満たしていれば、申告によらず複数のコースについて認定する。

このコース認定制度は、学生諸君が自らの学習目標を明確に意識することにより、自己の学習意欲向上を図ることを目的としたものである。また、コース毎に収容定員が設定されるものではない。なお、ゼミナールへの配属は、申告したコースの別に関わらずに、学科別に選考を通じて行われる。

コース申告の手続きなどについては、1年次終了時までにはガイダンスを行う。

第2表 コース認定要件

コース	認定要件
心理コース	専門科目選択科目の心理系科目から20単位以上
社会コース	専門科目選択科目の社会系科目から20単位以上
政策コース	専門科目選択科目の政策系科目から20単位以上
戦略コース	専門科目選択科目の戦略系科目から20単位以上

D 2年次から3年次への進級基準

2年次から3年次へ進級するには、2年次終了までに第3表に示す所定の単位を修得していなければならない。

第3表 進級基準

授業科目			単位数	
			2014年度以降入学者	2013年度以前入学者
1年次必修科目	外国語科目	英語リーディングI	2	2
		英語ベーシック・スキルズ	2	2
		英語オーラル・コミュニケーション	2	2
	基礎科目	イノベーション概論	2	2
		科学技術と社会	2	2
		情報リテラシー	2	2
		データ分析入門	2	2
上記必修科目以外の1・2年次配当科目			17	7
合計			31	21

Ⅱ 科目区分別履修方法

A 外国語科目

1 規定単位数

社会イノベーション学部では、英語が必修科目となっており、聞く、話す、読む、書くの4つのスキルをバランスよく身につけることができるようなカリキュラムが組まれている。卒業に必要な単位数は第4表のとおりである。

第4表 外国語科目規定単位数

区分	学年配当	授業科目	規定単位数
必修	1	英語リーディングⅠ	2
		英語ベーシック・スキルズ	2
		英語オーラル・コミュニケーション	2
	2	英語リーディングⅡ	2
		英語スタディー・スキルズ	2
		英語ライティング	2
選択必修	3	英語セミナー A～O	1
計			13

2 必修

1年次には、「英語ベーシック・スキルズ」で、聞く、話す、読む、書くの4つのスキルをバランスよく身につけ、「英語リーディングⅠ」で十分な文法・語法能力に基づくインテンシヴ・リーディング（精読）、エクステンシヴ・リーディング（速読）の技術を学ぶ。さらにネイティブ・スピーカーの講師による「英語オーラル・コミュニケーション」で、本格的なコミュニケーション能力を身につける。

2年次には、「英語リーディングⅡ」で「英語リーディングⅠ」の発展学習を行うほか、ネイティブ・スピーカーの講師による「英語スタディー・スキルズ」では、ノート・テイキング、スピーチ、プレゼンテーション、ディスカッションなど、英米型の学習技法を習得する。また、「英語ライティング」では、さまざまな用途の英語文書の作成を学ぶ。

なお、**外国語科目**のうち1年次必修科目は、3年次への進級基準にも含まれており、3年次進級のためには同授業科目を修得している必要がある。

3 選択必修

3年次には、半期科目である「英語セミナー」が配置されており、ディスカッションから小論文の作成にいたるまで、ほぼすべてが英語で行われる。「英語セミナー」は社会・文化、メディア・イングリッシュ、国際ビジネス入門の大きく3つの特定テーマに、また、それぞれレベル1とレベル2に分けられる。履修登録の手続きなどについては、後日ガイダンスを行う。

4 TOEIC IP テスト

1年次から3年次までの各年次において、本学部学生には、年1回学内において実施するTOEIC IPテストの受験を義務づけている。これは学生諸君が自らの英語力を継続的にチェックすることにより、学習意欲の向上を図り、さらに社会に対して自らの英語力を広くアピールすることを目的として行われる。

なお、TOEIC IPテストの受験に代えて、学外で実施されるTOEIC Listening & Reading Testを受験することができる。その場合には、別途掲示する所定期日までに、テストのスコアカードを3号館4階社会イノベーション学部研究事務室に持参して申告する必要がある。TOEIC IPテストの受験手続きに関する情報は、別途掲示して通知する。また、TOEIC IPテスト等の受験手続きに関する問い合わせは、3号館4階社会イノベーション学部研究事務室にて受け付ける。

5 未修得科目の再履修

① 1年次の必修科目

再履修者対象の授業科目（1年次配当）を教務部で事前登録する。

② 2年次の必修科目

再履修者対象の授業科目を教務部で事前登録する。

③ 英語セミナー（3年次）

再履修者対象の英語セミナーを教務部で事前登録する。

B 基礎科目

1 規定単位数

基礎科目は、必修、選択A、選択B、選択Cの4区分から構成されている。それぞれの科目区分で卒業に必要な単位数は第5表のとおりである。

第5表 基礎科目規定単位数

科目区分		規定単位数
基礎科目	必修	8
	選択A	12
	選択B	4
	選択C	4
計		28

2 必修

基礎科目必修の授業科目は、第6表のとおりである。これらの授業科目は、イノベーションについてどのように考えるかということを理解すると同時に、必要な情報をどのように獲得し、加工するかという基礎的分析能力を身につけることを目的とする。なお、基礎科目の必修科目の単位は、3年次への進級基準にも含まれており、3年次進級のためには必ず同授業科目の単位を修得している必要がある。

第6表 基礎科目必修科目

授業科目	学年配当	単位
イノベーション概論	1	2
科学技術と社会	1	2
情報リテラシー	1	2
データ分析入門	1	2

《履修上の注意》

① 基礎科目必修科目が不合格の場合は、翌年度に再履修すること。

② 上記科目を再履修する場合は、特別な手続きが必要である。登録方法については、

【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

3 選択

基礎科目における選択科目は、第7表に示されており、選択A、選択B、選択Cの3つに分けられている。選択Aには、4年間のイノベーションに関する学修の基礎となるような授業科目が、選択Bには、分析方法に関する授業科目が配置されている。また、選択Cには、イノベーションを推進するに当たり、その社会的な影響面をより広い視野から検討し、イノベーションのもたらす便益とその問題点を深く考察する授業科目が配置されている。

3 選 択
(続き)

第7表 基礎科目選択科目

区 分	授 業 科 目	学年配当	単 位	備 考
選択A	心理学*	1~2	4	この区分内の授業科目から、12単位以上を選択すること。 なお、*印のついた科目から8単位以上を必ず選択すること。
	社会学*	1~2	4	
	社会心理学*	1~2	4	
	統計学*	1~2	4	
	経済学	1~2	4	
	国際関係学	1~2	4	
	政策学	1~2	2	
	行政学	1~2	2	
選択B	経営学	1~2	4	この区分内の授業科目から、4単位以上を選択すること。
	社会調査法	2~4	4	
	心理実験法	2~4	4	
	メッセージ分析法	2~4	4	
選択C	市場調査法	2~4	4	この区分内の授業科目から、4単位以上を選択すること。
	*エコロジー論	1~4	4	
	生命倫理論	1~4	4	
	比較文化論	1~4	4	
	生命の科学	1~4	4	
	文明と社会	1~4	4	
	家族と社会の変動	1~4	4	
地域と文化	1~4	4		

注) *印の授業科目は本年度休講である。

《履修上の注意》

- ① 「社会調査法」、「心理実験法」および「市場調査法」は、機材の関係上、履修者数について制限が行われる。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② 選択A、選択B、選択Cに属する授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位は、**学部共通科目**の卒業要件単位として充当することができる。

C 専門科目

1 規定単位数

専門科目は、必修、選択A、選択Bの3区分から構成されている。それぞれの科目区分で卒業に必要な単位数は第8表のとおりである。

第8表 専門科目規定単位数

科 目 区 分		規定単位数
専 門 科 目	必 修	16
	選 択 A	32
	選 択 B	14
計		62

2 必 修

専門科目必修の授業科目は、第9表のとおりである。

第9表 専門科目必修科目

授 業 科 目	学年配当	単 位
基礎ゼミナール (心理)	2	2
基礎ゼミナール (社会)	2	2
ゼミナール I	3	4
ゼミナール II	4	4
卒 業 研 究	4	4

《履修上の注意》

- ①「基礎ゼミナール」は2015年度から、「基礎ゼミナール（心理）」と「基礎ゼミナール（社会）」に変更された。卒業要件単位数を満たすためには、それぞれの科目を修得しなければならない（ただし、2014年度以前に「基礎ゼミナール」（4単位）を修得済の者は除く）。
- ②「ゼミナールⅠ」、「ゼミナールⅡ」および「卒業研究」は、原則として同一担当教員の指導の下で履修しなければならない。
- ③「ゼミナールⅠ」が不合格の者は、「ゼミナールⅡ」および「卒業研究」を履修することができない。
- ④ 卒業研究の提出要領については、【授業に関すること】区卒業研究】を参照すること。

3 選択A・B

専門科目における選択科目は、選択Aと選択Bに分けられる。

選択Aは、新製品やブランドを受け入れる消費者心理、イノベーションを生み出す個人の創造力とコミュニケーションの可能性を探る心理系科目、イノベーションと社会の関わり、宗教・文化・環境とイノベーションの関係など、社会的な問題を扱う社会系科目、および学科共通科目に分かれる。

選択Bは、科学技術政策や産業政策をはじめとするイノベーション促進のための国の政策や法制度のあり方を考える政策系科目、研究開発戦略、新ビジネスモデルの構築、新製品開発活動など企業戦略のあり方に迫る戦略系科目、および学科共通科目に分かれる。

選択Aおよび選択Bの授業科目は、第10表のとおりである。

第10表 専門科目選択科目

区分	授業科目	学年配当	単位	授業科目	学年配当	単位	
選択A	心理系科目	イノベーション心理論	2~4	4	組織心理学	3・4	2
		認知心理学	2~4	4	意思決定論	3・4	2
		パーソナリティ心理学	2~4	2	経済心理学	3・4	2
		メディア心理学	2~4	4	ワークプレイス論	3・4	2
		異文化間心理学	2~4	2	対人コミュニケーション論	3・4	4
					認知言語学	3・4	4
	社会系科目				ヒューマンインターフェイス論	3・4	4
		イノベーション社会論	2~4	4	宗教社会論	3・4	4
		社会システム論	2~4	4	※生活福祉論	3・4	4
		日本社会文化論	2~4	4	社会人類学	3・4	2
		※アジア社会文化論	2~4	4	環境社会論	3・4	2
		アメリカ社会文化論	2~4	4	NGO・NPO論	3・4	2
	科目 学科共通	現代国際社会学	2~4	4			
異文化間コミュニケーション論Ⅰ		2~4	2				
	異文化間コミュニケーション論Ⅱ	2~4	2				
選択B	政策系科目	OCA	2~4	2	※心理社会学特殊講義	3・4	2
		社会イノベーション特殊演習	2~4	2			
		イノベーション政策論	2~4	4	イノベーション経済論	3・4	4
		経済政策	2~4	2	※公共政策論	3・4	2
		公共経済学	2~4	2	知的財産法	3・4	2
		科学技術論	2~4	2	リテールファイナンス論	3・4	2
		金融システム論	2~4	2	金融イノベーション論Ⅱ	3・4	2
		金融イノベーション論Ⅰ	2~4	2	比較イノベーション論	3・4	2
		日本経済論	2~4	2	グローバルガバナンス論	3・4	2
		日本金融論	2~4	2	国際機構論	3・4	4
		開発政策論	2~4	2	不動産開発論	3・4	2
		開発支援論	2~4	2	都市開発論	3・4	2
	戦略系科目	国際法	2~4	4			
		地域政策論	2~4	4			
		イノベーション戦略論	2~4	4	人的資源論	3・4	4
		戦略論	2~4	2	新商品開発論	3・4	2
		組織論	2~4	2	ベンチャービジネス論	3・4	2
		マーケティング論	2~4	2	研究開発管理論	3・4	2
		現代企業論	2~4	4	消費行動論	3・4	2
科目 学科共通	企業家史	2~4	4	※トップマネジメント論	3・4	2	
	組織イノベーション論	2~4	4	※ロジスティクス論	3・4	2	
				企業評価論	3・4	4	
				政策イノベーション特殊講義	3・4	2	

注) ※印の授業科目は本年度休講である。

3 選択A・B (続き)

《履修上の注意》

- ① 卒業に必要な単位数は、選択Aが32単位、選択Bが14単位である。
- ② 選択Aおよび選択Bに属する授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位は、**学部共通科目**の卒業要件単位として充当することができる。
- ③ 2016年度をもって「異文化コミュニケーション論」は廃講となり、「異文化間コミュニケーション論Ⅰ」、「異文化間コミュニケーション論Ⅱ」が新設された。2016年度までに「異文化コミュニケーション論」の単位を修得している場合、「異文化間コミュニケーション論Ⅰ」、「異文化間コミュニケーション論Ⅱ」を履修することはできない。
- ④ 2016年度をもって「金融イノベーション論」は廃講となり、「金融イノベーション論Ⅰ」、「金融イノベーション論Ⅱ」が新設された。2016年度までに「金融イノベーション論」の単位を修得している場合、「金融イノベーション論Ⅰ」、「金融イノベーション論Ⅱ」を履修することはできない。
- ⑤ 以下の科目は、特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については、【**授業に関すること**】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

日本経済論	マーケティング論	消費行動論
-------	----------	-------

4 OCA

選択A 学部共通科目で2年次より開講される「OCA」とは、オフ・キャンパス・アクティビティの略語であり、企業や政府、地方公共団体、NPO / NGOなどの諸組織・諸機関において、就業体験（インターンシップ）を積むことにより、実社会への理解、社会において必要な能力・スキルへの理解を深めるとともに、将来のキャリア形成に役立つ実践的な経験を積むことを目的として置かれている科目である。

※ 登録方法については、【**授業に関すること**】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

5 コース制度

専門科目の選択Aおよび選択Bの中から所定の単位を修得した場合、卒業時にコース修了の認定が与えられる。詳細については、【**履修規定**】Ⅰ総説 Ⅲコース認定制度】および【**履修モデル**】を参照すること。

D 総合教養科目

1 規定単位数

高度に科学が細分化された21世紀に生きる人間にとって、その専門能力の養成は必要不可欠であるが、その専門能力も洗練された教養人としての健全な懐疑の精神と幅広い視野があってこそ正しい方向に発揮される。この認識の下に、多様な分野の授業科目が開設されているのが**総合教養科目**である。この科目区分の授業科目は**第11表**のとおりである。卒業に必要な単位数は12単位である。

なお、授業科目名の前に「全」と付いた科目は全学共通教育科目である。全学共通教育科目の詳しい説明は、【**全学共通教育科目**】の項に記載されている。

第11表 総合教養科目

授 業 科 目		学年配当	単位		授 業 科 目	学年配当	単位
短期学外演習〈自然〉		1~4	2	全	法学(含む日本国憲法) a	1~4	2
教養演習A	教養演習	1~4	4	全	法学(含む日本国憲法) b	1~4	2
教養演習B	カウンセリング	1~4	4	全	社会構造論 I a 〈自由と平等〉	1~4	2
	心理学研究法	1~4	4	全	社会構造論 I b 〈自由と平等〉	1~4	2
	社会調査演習	3・4	4	全	社会構造論 II a 〈社会と組織〉	1~4	2
全	※総合講座 I	1~4	2	全	社会構造論 II b 〈ネットワークと組織〉	1~4	2
全	総合講座 II 〈アート・プロデュース/感動と価値の創造〉	1~4	2	全	※社会構造論 III a	1~4	2
全	総合講座 III 〈環境〉	1~4	2	全	※社会構造論 III b	1~4	2
全	※総合講座 IV	1~4	2	全	社会構造論 IV a 〈日常生活と社会経済〉	1~4	2
全	総合講座 V 〈余暇学(世田谷6大学コンソーシアム連携授業)〉	1~4	2	全	社会構造論 IV b 〈日常生活と社会経済〉	1~4	2
全	総合講座 VI 〈中国文学入門(世田谷6大学コンソーシアム連携授業)〉	1~4	2	全	※社会構造論 Va	1~4	2
全	※特別講座 I	1~4	2	全	※社会構造論 Vb	1~4	2
全	※特別講座 II	1~4	2	全	社会構造論 VI a 〈現代日本と政治〉	1~4	2
全	成城学園を知る	1~4	2	全	※社会構造論 VI b	1~4	2
全	成城学 I 〈柳田國男と民俗学〉	1~4	2	全	社会構造論演習 a	1~4	2
全	※成城学 II	1~4	2	全	社会構造論演習 b	1~4	2
全	※成城学 III	1~4	2	全	哲学入門 a	1~4	2
全	※成城学 IV	1~4	2	全	哲学入門 b	1~4	2
全	成城学 V 〈成城と自然〉	1~4	2	全	宗教学入門 a	1~4	2
全	社会学入門 a	1~4	2	全	宗教学入門 b	1~4	2
全	社会学入門 b	1~4	2	全	倫理学入門 a	1~4	2
全	メディア論入門 a	1~4	2	全	倫理学入門 b	1~4	2
全	メディア論入門 b	1~4	2	全	西洋思想入門 a	1~4	2
全	現代社会論 I a 〈現代の宗教と国家〉	1~4	2	全	西洋思想入門 b	1~4	2
全	現代社会論 I b 〈現代の宗教と社会〉	1~4	2	全	東洋思想入門 a	1~4	2
全	現代社会論 II a 〈サブカルチャー史〉	1~4	2	全	東洋思想入門 b	1~4	2
全	現代社会論 II b 〈サブカルチャー論〉	1~4	2	全	日本思想入門 a	1~4	2
全	※現代社会論 III a	1~4	2	全	日本思想入門 b	1~4	2
全	※現代社会論 III b	1~4	2	全	※思想・人間論 I a	1~4	2
全	現代社会論 IV a 〈戦後日本文化論〉	1~4	2	全	※思想・人間論 I b	1~4	2
全	現代社会論 IV b 〈戦後日本文化論〉	1~4	2	全	思想・人間論 II a 〈イメージを“よむ”〉	1~4	2
全	※現代社会論 Va	1~4	2	全	思想・人間論 II b 〈イメージを“よむ”〉	1~4	2
全	※現代社会論 Vb	1~4	2	全	※思想・人間論 III a	1~4	2
全	現代社会論 VI a 〈平和論〉	1~4	2	全	※思想・人間論 III b	1~4	2
全	現代社会論 VI b 〈平和論〉	1~4	2	全	思想・人間論演習 a	1~4	2
全	現代社会論 VII a 〈カルチュラル・スタディーズ〉	1~4	2	全	思想・人間論演習 b	1~4	2
全	現代社会論 VII b 〈カルチュラル・スタディーズ〉	1~4	2	全	文学入門 a	1~4	2
全	※現代社会論 VIII a	1~4	2	全	文学入門 b	1~4	2
全	※現代社会論 VIII b	1~4	2	全	言語学入門 a	1~4	2
全	※現代社会論演習 a	1~4	2	全	言語学入門 b	1~4	2
全	※現代社会論演習 b	1~4	2	全	音楽入門 a	1~4	2
全	国際関係論入門 a	1~4	2	全	音楽入門 b	1~4	2
全	国際関係論入門 b	1~4	2	全	※表象文化論入門 a	1~4	2
全	経済学入門 a	1~4	2	全	※表象文化論入門 b	1~4	2
全	経済学入門 b	1~4	2	全	※表現文化論 I a	1~4	2
全	政治学入門 a	1~4	2	全	※表現文化論 I b	1~4	2
全	政治学入門 b	1~4	2	全	※表現文化論 II a	1~4	2
全	情報社会論入門 a	1~4	2	全	※表現文化論 II b	1~4	2
全	情報社会論入門 b	1~4	2	全	表現文化論 III a 〈映画の“いま”〉	1~4	2

履修規定

心理社会学科

2015年度以前入学者用

第11表 総合教養科目 (つづき)

	授 業 科 目	学年配当	単位		授 業 科 目	学年配当	単位
全	表現文化論Ⅲb〈映画の“いま”〉	1~4	2	全	地域空間論Ⅶb〈日本と東アジアの社会と文化〉	1~4	2
全	表現文化論Ⅳa〈民俗と作法の表現文化論〉	1~4	2	全	地域空間論Ⅶa〈中東の社会と文化〉	1~4	2
全	表現文化論Ⅳb〈伝統芸術文化論〉	1~4	2	全	地域空間論Ⅶb〈中東の社会と文化〉	1~4	2
全	※表現文化論Ⅴa	1~4	2	全	※地域空間論演習a	1~4	2
全	※表現文化論Ⅴb	1~4	2	全	※地域空間論演習b	1~4	2
全	表現文化論Ⅵa〈文学と地域文化〉	1~4	2	全	※数理の世界a	1~4	2
全	表現文化論Ⅵb〈文学と地域文化〉	1~4	2	全	※数理の世界b	1~4	2
全	表現文化論演習a	1~4	2	全	数理科学Ⅰa〈情報と論理〉	1~4	2
全	表現文化論演習b	1~4	2	全	数理科学Ⅰb〈情報と論理〉	1~4	2
全	歴史学入門a	1~4	2	全	※数理科学Ⅱa	1~4	2
全	歴史学入門b	1~4	2	全	※数理科学Ⅱb	1~4	2
全	日本近現代史a	1~4	2	全	物理の世界a	1~4	2
全	日本近現代史b	1~4	2	全	物理の世界b	1~4	2
全	ヨーロッパ近現代史a	1~4	2	全	化学の世界a	1~4	2
全	ヨーロッパ近現代史b	1~4	2	全	化学の世界b	1~4	2
全	アジア近現代史a	1~4	2	全	生命科学の世界a	1~4	2
全	アジア近現代史b	1~4	2	全	生命科学の世界b	1~4	2
全	アメリカ近現代史a	1~4	2	全	科学史a	1~4	2
全	アメリカ近現代史b	1~4	2	全	科学史b	1~4	2
全	※歴史文化論Ⅰa	1~4	2	全	※自然科学Ⅰa	1~4	2
全	※歴史文化論Ⅰb	1~4	2	全	自然科学Ⅰb〈自然と漁業・林業〉	1~4	2
全	歴史文化論Ⅱa〈江戸の文化〉	1~4	2	全	自然科学Ⅱa〈地球と環境〉	1~4	2
全	歴史文化論Ⅱb〈江戸の文化〉	1~4	2	全	自然科学Ⅱb〈地域と環境〉	1~4	2
全	歴史文化論Ⅲa〈グローバル・ヒストリーと西欧〉	1~4	2	全	自然科学Ⅲa〈地球科学〉	1~4	2
全	歴史文化論Ⅲb〈グローバル・ヒストリーと非西欧〉	1~4	2	全	自然科学Ⅲb〈地球科学〉	1~4	2
全	※歴史文化論Ⅳa	1~4	2	全	※自然科学Ⅳa	1~4	2
全	※歴史文化論Ⅳb	1~4	2	全	※自然科学Ⅳb	1~4	2
全	※歴史文化論Ⅴa	1~4	2	全	自然科学Ⅴa〈比較行動学〉	1~4	2
全	※歴史文化論Ⅴb	1~4	2	全	自然科学Ⅴb〈比較行動学〉	1~4	2
全	※歴史文化論演習a	1~4	2	全	数理・自然科学演習a	1~4	2
全	※歴史文化論演習b	1~4	2	全	数理・自然科学演習b	1~4	2
全	文化人類学入門a	1~4	2	全	こころと身体a	1~4	2
全	文化人類学入門b	1~4	2	全	こころと身体b	1~4	2
全	空間システム論入門a	1~4	2	全	※身体と運動・スポーツa	1~4	2
全	空間システム論入門b	1~4	2	全	※身体と運動・スポーツb	1~4	2
全	地域空間論Ⅰa〈EU論〉	1~4	2	全	心身論Ⅰa〈脳の機能と心の機能〉	1~4	2
全	地域空間論Ⅰb〈EU論〉	1~4	2	全	心身論Ⅰb〈精神疾患と脳〉	1~4	2
全	※地域空間論Ⅱa	1~4	2	全	心身論Ⅱa〈こころと発達〉	1~4	2
全	※地域空間論Ⅱb	1~4	2	全	心身論Ⅱb〈こころと社会〉	1~4	2
全	地域空間論Ⅲa〈東南アジアの社会と文化〉	1~4	2	全	心身論Ⅲa〈運動・スポーツと心のしくみ〉	1~4	2
全	地域空間論Ⅲb〈東南アジアの社会と文化〉	1~4	2	全	心身論Ⅲb〈運動・スポーツと身体のしくみ〉	1~4	2
全	※地域空間論Ⅳa	1~4	2	全	心身論Ⅳa〈食と健康〉	1~4	2
全	※地域空間論Ⅳb	1~4	2	全	心身論Ⅳb〈食と環境〉	1~4	2
全	※地域空間論Ⅴa	1~4	2	全	※心身論Ⅴa	1~4	2
全	※地域空間論Ⅴb	1~4	2	全	※心身論Ⅴb	1~4	2
全	地域空間論Ⅵa〈アフリカの社会と文化〉	1~4	2	全	心身論演習a	1~4	2
全	地域空間論Ⅵb〈アフリカの社会と文化〉	1~4	2	全	心身論演習b	1~4	2
全	地域空間論Ⅶa〈日本と東アジアの社会と文化〉	1~4	2				

履修規定

心理社会学科

2015年度以前入学者用

第11表 総合教養科目（つづき）

国際交流科目				
区分		授業科目	学年配当	単位
英語等による 日本事情関係科目	全	Japan Studies I A 〈Introduction to Japanese Economy and Management〉	1～4	2
	全	Japan Studies I B 〈Introduction to Japanese Economy and Management〉	1～4	2
	全	※Japan Studies II A	1～4	2
	全	Japan Studies II B 〈Introduction to Japanese Society〉	1～4	2
	全	Japan Studies III A 〈Introduction to Anthropology of Japan〉	1～4	2
	全	Japan Studies III B 〈Introduction to Anthropology of Japan〉	1～4	2
	全	Japan Studies IV A 〈Introduction to Gender and Law in Japan〉	1～4	2
	全	Japan Studies IV B 〈Introduction to Gender and Law in Japan〉	1～4	2
	全	Japan Studies V A 〈Introduction to Japanese Literature〉	1～4	2
	全	Japan Studies V B 〈Introduction to Japanese Literature〉	1～4	2
	全	Japan Studies VI A 〈Introduction to Japanese Folklore〉	1～4	2
	全	Japan Studies VI B 〈Introduction to Japanese Folklore〉	1～4	2
	全	※Japan Studies VII A	1～4	2
	全	※Japan Studies VII B	1～4	2
	全	Japan Studies VIII A 〈Introduction to Japanese Cinema〉	1～4	2
	全	Japan Studies VIII B 〈Introduction to Japanese Cinema〉	1～4	2
英語等による 特定のテーマを 扱った科目	全	Special Topics I A 〈Cold Wars Old and New〉	1～4	2
	全	Special Topics I B 〈Cold Wars Old and New〉	1～4	2
	全	Special Topics II A 〈Gender Studies〉	1～4	2
	全	Special Topics II B 〈Gender Studies〉	1～4	2
	全	※Special Topics III A	1～4	2
	全	※Special Topics III B	1～4	2
	全	Special Topics IV A 〈Language, Culture and Communication〉	1～4	2
	全	Special Topics IV B 〈Language, Culture and Communication〉	1～4	2
データサイエンス科目				
		授業科目	学年配当	単位
基礎科目	全	データサイエンス入門Ⅰ	1～4	2
	全	データサイエンス概論	1～4	2
	全	データサイエンス入門Ⅱ	2～4	2
	全	データサイエンス応用	2～4	2
発展科目	全	データサイエンス・スキルアップ・プログラム	2～4	2
	全	データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2～4	2

注1) 各授業科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、授業科目名称には含まれない。

注2) ※印の授業科目は本年度休講である。

履修規定

心理社会学科

2015年度以前入学者用

1 規定単位数 (続き)

《履修上の注意》

- ① 「短期学外演習〈自然〉」は、反復して履修することができる。ただし、卒業要件単位として認められるのは2単位までである。
- ② 2017年度から、全学共通教育科目として通年（4単位）で開講していた授業科目は、前期a（2単位）、後期b（2単位）に分割して開講している。なお、2016年度までに通年科目の単位を修得している場合、同一名称のaまたはbの授業科目は履修できない。
(例：2016年度までに「社会学入門」の単位を修得している場合、「社会学入門a」または「社会学入門b」を履修できない)
- ③ 「総合講座Ⅴ」および「総合講座Ⅵ」は、年度をかえて同一名称の授業科目を反復履修できる。ただし、反復履修して修得した単位は卒業要件として認めない。
- ④ 「成城学Ⅲ」と「成城学Ⅳ」は、セットで履修することになっている。なお、「成城学Ⅲ」または「成城学Ⅳ」のいずれかの単位をすでに修得している者で、本年度にもう一方の科目の履修を希望する場合は、Web履修登録期間締切日までに教務部に申し出ること。
- ⑤ 「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」は、「データサイエンス入門Ⅰ」「データサイエンス概論」の2科目を修得済みであり、かつ「データサイエンス入門Ⅱ」を修得済みであるか、同時履修（「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」が前期開講科目あるいは夏季集中講義である場合は、「データサイエンス入門Ⅱ」を前期に履修）していることが履修の条件となる。
- ⑥ 「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」は、「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」を修得済みであり、かつ「データサイエンス応用」を修得済みであるか、同時履修していることが履修の条件となる。
- ⑦ 2018年度に「Special Topics IVA」、「Special Topics IVB」が新設された。
- ⑧ 「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」及び「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」は、2018年度から学年配当が「3・4年」から「2～4年」に変更となった。
- ⑨ 全学共通教育科目の中には特別な履修登録手続きが必要な授業科目があるので、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を必ず参照すること。
- ⑩ 総合教養科目に属する授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位は、一般共通科目の卒業要件単位として充当することができる。

2 教養演習 A

総合教養科目の1つとして少人数のゼミナール形式の授業として開講されるのが「教養演習」である。この授業科目は1～4年次までに開かれているが、主な対象として1年次生を設定している。クラスサイズは原則20人以下とし、少人数教育の利点を活かした教員と学生間、さらに学生相互間での議論を重視した授業を行う。学生一人ひとりの個性を育みながら、テーマに沿って学生の知的関心を広め、さらに深めることをねらいとしている。あわせて、議論とレポートの作成を通して、論理的な思考と日本語表現力を育成する。

「教養演習」は反復・重複して履修することができるが、卒業要件単位として認められるのは4単位までである。

なお、履修に際しては特別な手続きが必要である。登録方法については、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

3 教養演習 B

社会調査士・認定心理士資格取得のために必要な科目が開設されているが、卒業要件単位として認められるのは4単位までである。履修希望者は、社会調査士・認定心理士資格ガイダンス（4月上旬に実施。詳細は別途掲示する。）に必ず出席すること。

なお、履修に際しては特別な手続きが必要である。登録方法については、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

1 規定単位数

学部共通科目には、英語力のブラッシュアップが図れるような各種の英語科目、および英語以外の外国語科目が配置されている。

学部共通科目で卒業に必要な単位数は6単位であり、授業科目は第12表のとおりである。授業科目名の前に「全」と付いた科目は全学共通教育科目であり、詳しい説明は、【全学共通教育科目】の項に記載されている。

なお、学部共通科目の卒業要件6単位は、学部共通科目の中に配置されている授業科目のほか、基礎科目の選択A、選択B、選択C、および専門科目の選択A、選択Bに属する授業科目の中から、それぞれ卒業要件単位数を超えて修得した単位によっても充当することができる。

第12表 学部共通科目

	授 業 科 目	学年配当	単位		授 業 科 目	学年配当	単位
	※ TOEFL (ベーシック)	1~4	2	全	中国語選択 (上級) b	1~4	1
	TOEFL (アドヴァンスト)	1~4	2	全	韓国語選択 (初級) a	1~4	1
	※ TOEIC (ベーシック)	1~4	2	全	韓国語選択 (初級) b	1~4	1
	TOEIC (アドヴァンスト)	1~4	2	全	韓国語選択 (中級・ディプロム) a	1~4	1
	資格英語	2~4	2	全	韓国語選択 (中級・ディプロム) b	1~4	1
全	ビジネス英語a	1~4	1	全	ディプロム・コース中級 (独語) a	1~4	1
全	ビジネス英語b	1~4	1	全	ディプロム・コース中級 (独語) b	1~4	1
全	独会話選択a	1~4	1	全	ディプロム・コース上級 (独語) a	1~4	1
全	独会話選択b	1~4	1	全	ディプロム・コース上級 (独語) b	1~4	1
全	独語選択 (初級) Ia	1~4	1	全	ディプロム・コース中級 (仏語) a	1~4	1
全	独語選択 (初級) Ib	1~4	1	全	ディプロム・コース中級 (仏語) b	1~4	1
全	独語選択 (初級) IIa	1~4	1	全	ディプロム・コース上級 (仏語) a	1~4	1
全	独語選択 (初級) IIb	1~4	1	全	ディプロム・コース上級 (仏語) b	1~4	1
全	独語選択 (中級) a	1~4	1	全	海外短期語学研修 (英語・春季)	*	2
全	独語選択 (中級) b	1~4	1	全	海外短期語学研修 (英語・夏季)	1~4	2
全	独語選択 (上級) a	1~4	1	全	海外短期語学研修 (独語・春季)	*	2
全	独語選択 (上級) b	1~4	1	全	海外短期語学研修 (仏語・春季)	*	2
全	仏会話選択a	1~4	1	全	海外短期語学研修 (中国語・夏季)	1~4	2
全	仏会話選択b	1~4	1	全	海外短期語学研修 (英語・就業体験準備)	1~4	1
全	仏語選択 (初級) Ia	1~4	1	全	海外短期研修 (マレーシア・就業体験研修)	1~4	2
全	仏語選択 (初級) Ib	1~4	1	全	日本語A (上級・会話)	1~4	2
全	仏語選択 (初級) IIa	1~4	1	全	日本語A (上級・読解)	1~4	2
全	仏語選択 (初級) IIb	1~4	1	全	日本語A (上級・表現文型と語彙)	1~4	2
全	仏語選択 (中級) a	1~4	1	全	日本語A (上級・特別講座)	1~4	2
全	仏語選択 (中級) b	1~4	1	全	日本語A (中級・総合日本語)	1~4	6
全	仏語選択 (上級) a	1~4	1	全	日本語A (中級・特別講座)	1~4	2
全	仏語選択 (上級) b	1~4	1	全	日本語A (初級)	1~4	8
全	スペイン語選択 (初級) a	1~4	1	全	日本語B (上級・日本語聴読解)	1~4	1
全	スペイン語選択 (初級) b	1~4	1	全	日本語B (上級・日本語文章表現)	1~4	1
全	スペイン語選択 (中級・ディプロム) a	1~4	1	全	日本語B (上級・日本語会話)	1~4	2
全	スペイン語選択 (中級・ディプロム) b	1~4	1	全	日本語B (上級・日本語文法と漢字)	1~4	2
全	中国語選択 (初級) Ia	1~4	1	全	日本語B (上級・総合日本語)	1~4	2
全	中国語選択 (初級) Ib	1~4	1	全	日本語B (中級・日本語聴読解作文)	1~4	2
全	中国語選択 (初級) IIa	1~4	1	全	日本語B (中級・日本語会話)	1~4	2
全	中国語選択 (初級) IIb	1~4	1	全	日本語B (中級・日本語文法と漢字)	1~4	2
全	中国語選択 (中級) a	1~4	1	全	日本語B (中級・総合日本語)	1~4	2
全	中国語選択 (中級) b	1~4	1	全	日本語B (初級)	1~4	8
全	中国語選択 (上級) a	1~4	1				

注1) ※印の科目は本年度休講である。

注2) 海外短期語学研修のうち、学年配当が*印になっているものは、1~3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位認定がされる科目である。

《履修上の注意》

- ① 卒業に必要な単位数は、6単位である。
- ② 学部共通科目は、特別な履修手続きが必要である。登録方法については、【授業に関すること】
【IV特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ③ 「資格英語」は、TOEFLまたはTOEICの成績優秀者に対して単位認定を行う授業科目である。

1 規定単位数
(続き)

- ④ 2018年度から、通年(2単位)で開講していた全学共通外国語科目は、前期a(1単位)、後期b(1単位)に分割して開講する。2017年度までに通年科目の単位を修得している場合、同一名称のaまたはbの授業科目は履修できない。
(例:2017年度までに「ビジネス英語」の単位を修得している場合、「ビジネス英語a」および「ビジネス英語b」を履修できない。)
- ⑤ 2018年度から全学共通教育科目の英語科目の一部(例:「英語リスニング&スピーキング(初級)a」等)は、卒業要件単位数に含まれない科目となった。該当科目は【履修規定Ⅳ】卒業要件単位数に算入されない授業科目の「外国語科目」を参照のこと。
- ⑥ 2016年度に以下のように授業科目が変更された。なお、旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することはできない。

旧 授 業 科 目	新 授 業 科 目
独 語 選 択 (上 級)	独 語 選 択 (上 級) a
	独 語 選 択 (上 級) b
仏 語 選 択 (上 級)	仏 語 選 択 (上 級) a
	仏 語 選 択 (上 級) b
中 国 語 選 択 (上 級)	中 国 語 選 択 (上 級) a
	中 国 語 選 択 (上 級) b

- ⑦ 2018年度に以下のように授業科目が変更された。なお、旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することができない。

旧 授 業 科 目	新 授 業 科 目
独 語 選 択 (初 級) A	独 語 選 択 (初 級) I a
	独 語 選 択 (初 級) I b
独 語 選 択 (初 級) B	独 語 選 択 (初 級) II a
	独 語 選 択 (初 級) II b
仏 語 選 択 (初 級) A	仏 語 選 択 (初 級) I a
	仏 語 選 択 (初 級) I b
仏 語 選 択 (初 級) B	仏 語 選 択 (初 級) II a
	仏 語 選 択 (初 級) II b
中 国 語 選 択 (初 級) A	中 国 語 選 択 (初 級) I a
	中 国 語 選 択 (初 級) I b
中 国 語 選 択 (初 級) B	中 国 語 選 択 (初 級) II a
	中 国 語 選 択 (初 級) II b

- ⑧ 独語選択、仏語選択、中国語選択の履修に際しては、以下の条件を満たさなければならない。

授業科目(グレード)	履修の条件 (同一言語において1つ以上の条件を満たすこと)	備 考
独語選択(初級) I a・I b・II a・II b 仏語選択(初級) I a・I b・II a・II b 中国語選択(初級) I a・I b・II a・II b	・全学生履修可	教育上の効果を高めるために、I a・I b・II a・II bの同学年での履修を強く勧める。
独語選択(中級) a・b 仏語選択(中級) a・b 中国語選択(中級) a・b	・上記「選択(初級) I a」、「選択(初級) I b」、「選択(初級) II a」、「選択(初級) II b」の計4単位を修得した者 ・2013年度以前に全学共通外国語の「選択(初級)」または「会話選択(初級)」の単位を修得している者 ・その他、一定の語学能力があると認められた者	左記履修の条件を満たしていれば、a・bどちらかのみ履修可。
独語選択(上級) a・b 仏語選択(上級) a・b 中国語選択(上級) a・b	・上記「選択(中級) a」および「選択(中級) b」の計2単位を修得した者 ・その他、一定の語学能力があると認められた者	左記履修の条件を満たしていれば、a・bどちらかのみ履修可。

※上記の履修の条件については、2017年度以前に「選択(初級) A」を修得していた場合は、「選択(初級) I a」と「選択(初級) I b」を、「選択(初級) B」を修得していた場合は、「選択(初級) II a」、「選択(初級) II b」を修得しているものとみなす。
同様に、「選択(中級)」を修得していた場合は、「選択(中級) a」および「選択(中級) b」を修得しているものとみなす。

1 規定単位数
(続き)

⑨ 2018年度に以下のように授業科目の名称が変更された。なお、旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することができない。

旧 授 業 科 目	新 授 業 科 目
ディプロム・コース中級(独語)A	ディプロム・コース中級(独語)a
ディプロム・コース中級(独語)B	ディプロム・コース中級(独語)b
ディプロム・コース上級(独語)A	ディプロム・コース上級(独語)a
ディプロム・コース上級(独語)B	ディプロム・コース上級(独語)b
ディプロム・コース中級(仏語)A	ディプロム・コース中級(仏語)a
ディプロム・コース中級(仏語)B	ディプロム・コース中級(仏語)b
ディプロム・コース上級(仏語)A	ディプロム・コース上級(仏語)a
ディプロム・コース上級(仏語)B	ディプロム・コース上級(仏語)b

⑩ 「海外短期語学研修」、「海外短期研修」については以下のとおりである。

	授 業 科 目	学年配当	単位	備 考
全	海外短期語学研修(英語・春季)	*	2	研修内容等については、シラバスを参照のこと。 また、履修登録の方法については、 【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録 手続きを必要とする授業科目】を参照 すること。
全	海外短期語学研修(英語・夏季)	1~4	2	
全	海外短期語学研修(独語・春季)	*	2	
全	海外短期語学研修(仏語・春季)	*	2	
全	海外短期語学研修(中国語・夏季)	1~4	2	
全	海外短期語学研修 (英語・就業体験準備)	1~4	1	
全	海外短期研修 (マレーシア・就業体験研修)	1~4	2	

- 一度単位の認定を受けた授業科目も再度履修することができ、同一年度に複数の授業科目を履修することもできる。ただし、認定された単位のうち卒業要件単位に算入することができるのはあわせて2単位までである。
 - 海外短期語学研修のうち、学年配当が*印になっているものは、1~3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位認定がされる科目である。研修への参加申し込みをもって、該当する授業科目への履修登録とする。なお、Campus Square for Web上では、研修に参加する年度は単位数が0の仮置き科目、その翌年度に2単位の科目を履修登録する。これらのCampus Square for Web上の履修登録はいずれも教務部が行う。履修登録された2単位は、研修の翌年度の履修科目登録上限単位数に含まれる。研修参加申し込み後は、研修自体がやむを得ず中止となった場合を除き、研修への実際の参加の当否にかかわらず、履修登録を取り消すことができないので注意すること。
 - やむを得ない理由により研修が中止となる場合があることを考慮し、履修科目登録上限単位数や卒業・進級要件単位数に注意して学修計画を立てておくこと。
 - 「海外短期語学研修(英語・就業体験準備)【1単位】」と「海外短期研修(マレーシア・就業体験研修)【2単位】」はセットで履修することになっている。
 - 「海外短期語学研修」および「海外短期研修」の成績評価は、他の授業科目とは異なり、合格であれば「合」(英文成績証明書は、「P」)と表示される。
- ⑪ 「日本語A」、「日本語B」は、交換留学協定校からの受入交換留学生である者または、外国人留学生のうち所定の要件に該当する者のみ履修できる。
- ⑫ 2017年度をもって「選択英語」、「日本語コミュニケーションA」、「日本語コミュニケーションB」は廃講となった。なお、修得した単位は学部共通科目の単位として認められる。

1 規定単位数

一般共通科目で卒業に必要な単位数は4単位であり、授業科目は第13表～第16表のとおりである。

なお、一般共通科目の卒業要件単位4単位は、一般共通科目の中に配置されている授業科目のほか、総合教養科目に属する授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位を充当することができる。

2 スポーツ・ウエルネス教育科目

スポーツ・ウエルネス教育科目の授業科目は、第13表のとおりである。

第13表 スポーツ・ウエルネス教育科目（学年配当：1～4年次）

カテゴリー	系列	授業科目・種目、コース	
スポーツ・ウエルネス講義・演習科目（半期2単位）	スポーツ文化	スポーツ・スタディーズⅠ〈身体と用具の変遷〉 ※スポーツ・スタディーズⅡ スポーツ・スタディーズⅢ〈スポーツのグローカリゼーション〉 ※スポーツ・スタディーズⅣ	
	ウエルネス文化	ウエルネス・スタディーズⅠ〈健康スポーツへの誘い〉 ウエルネス・スタディーズⅡ〈健康スポーツの心理〉 ウエルネス・スタディーズⅢ〈身体のリテラシー〉 ウエルネス・スタディーズⅣ〈健康スポーツの科学〉	
	身体表現文化	身体表現・スタディーズⅠ〈アスリートと身体表現〉 身体表現・スタディーズⅡ〈武道とジャパノロジー〉 身体表現・スタディーズⅢ〈身体コーディネーション論〉 身体表現・スタディーズⅣ〈舞踊と身体表現〉	
スポーツ・ウエルネス実技科目（半期または集中1単位）	スポーツ文化		※オルタナティブスポーツ ゴルフ サッカー&フットサル ソフトボール 卓球 テニス バスケットボール バドミントン バレーボール フットサル 定時コース
		※サイクル・スポーツ	スキー 集中コース
	ウエルネス文化	アクアエクササイズ エアロビクス&コンディショニング エアロビクス&ピラティス コンディショニング 水泳 ※トレーニング フィットネス ヨガ&ピラティス レクリエーション・スポーツ 定時コース	
	身体表現文化	剣道（古武道） ダンスパフォーマンス	

注1) 各授業科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、授業科目名称には含まれない。

注2) ※印の授業科目は本年度休講である。

《履修上の注意》

- ① スポーツ・ウエルネス教育科目は、特別な履修登録手続きが必要となるので【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② スポーツ・ウエルネス講義・演習科目の第1回目の授業は、第1体育館1階講義室または指定された教室でガイダンスを行う。
- ③ スポーツ・ウエルネス実技科目の第1回目の授業は、前期・後期ともに、第1体育館Aフロアでガイダンスを行う。なお、ガイダンスに出席するにあたり着替えは不要である。
- ④ スポーツ・ウエルネス実技科目は、前期・後期の半期開講科目である。後期開講科目についても前期開講科目と同様に4月の履修申し込み日および履修登録期間に手続きを終えなければならない。
- ⑤ 健康上の問題および心身に障がいのある履修希望者には、個別に対応する。希望者は履修登録期間内に教務部または科目担当専任教員まで申し出ること。
- ⑥ スポーツ・ウエルネス実技科目は一度単位を修得した種目も再履修することができ、同一種目が複数開講されている場合は複数の履修も可能である。

3 IT科目

IT科目の授業科目は、第14表のとおりである。授業科目の説明は【全学共通教育科目 Cリテラシー科目群 3 IT科目】の項、登録方法などについては、【授業に関すること IV 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

第14表 IT科目（学年配当：1～4年次）

授業科目	単位	授業科目	単位
コンピュータ・リテラシーA1	2	コンピュータ・リテラシーD	2
コンピュータ・リテラシーA2	2	コンピュータ・リテラシーE	2
コンピュータ・リテラシーB	2	※図書館活用法	2
※コンピュータ・リテラシーC	2		

注) ※印の授業科目は本年度休講である。

4 WRD

WRDの授業科目「WRD」は第15表のとおりである。授業科目の説明は【全学共通教育科目 Cリテラシー科目群 1 WRD】の項、登録方法などについては、【授業に関すること IV 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

第15表 WRD（学年配当：1～4年次）

授業科目	単位
WRD	4

5 キャリアデザイン科目

キャリアデザイン科目の授業科目は、第16表のとおりである。授業科目の説明は【全学共通教育科目 Eキャリアデザイン科目群】の項、登録方法などについては、特別な履修登録手続きが必要な授業科目であるため、【授業に関すること IV 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

第16表 キャリアデザイン科目

授業科目	学年配当	単位
キャリア形成概論Ⅰ	1・2	2
キャリア形成概論Ⅱ	1・2	2

注) ※印の授業科目は本年度休講である。

《履修上の注意》

「キャリア形成概論Ⅰ・Ⅱ」は、3年次以降は履修することができない。

Ⅲ

心理社会学科授業科目一覧

第17表 心理社会学科授業科目一覧

分野・区分		学年配当	1 年			
外国語科目	必修	英語リーディングⅠ② 英語ベーシック・スキルズ②	英語オーラル・コミュニケーション②			
	選択必修					
基礎科目	必修	イノベーション概論②	科学技術と社会②	情報リテラシー②	データ分析入門②	
	選択A	心理学④* 社会学④*	社会心理学④* 統計学④*	経済学④ 国際関係学④	政策学② 行政学②	経営学④
	選択B					
	選択C	*エコロジー論④ 生命倫理論④	比較文化論④ 生命の科学④	文明と社会④ 家族と社会の変動④	地域と文化④	
専門科目	必修					
	選択A	心理系科目				
		社会系科目				
		学科共通科目				
	選択B	政策系科目				
		戦略系科目				
学科共通科目						

注1) ○で囲まれた数字は単位数を表す。
 注2) *印の授業科目は本年度休講である。
 注3) 基礎科目選択Aの卒業要件単位数12単位のうち、*印のついた授業科目から8単位以上を選択すること。

履修規定

心理社会学科

2015年度以前入学者用

2年	3年	4年	卒業要件 単位数
英語リーディングⅡ② 英語スタディー・スキルズ② 英語ライティング②			12
	英語セミナー A～O①		1
			8
			12
社会調査法④ 心理実験法④	メッセージ分析法④ 市場調査法④		4
			4
基礎ゼミナール（心理）② 基礎ゼミナール（社会）②	ゼミナールⅠ④	ゼミナールⅡ④ 卒業研究④	16
イノベーション心理論④ 認知心理学④ パーソナリティ心理学②	メディア心理学④ 異文化間心理学②		32
	組織心理学② 意思決定論② 経済心理学② ワークプレイス論②	対人コミュニケーション論④ 認知言語学④ ヒューマンインターフェイス論④	
イノベーション社会論④ 社会システム論④ 日本社会文化論④	*アジア社会文化論④ アメリカ社会文化論④ 現代国際社会学④	異文化間コミュニケーション論Ⅰ② 異文化間コミュニケーション論Ⅱ②	
	宗教社会論④ *生活福祉論④ NGO・NPO論②	社会人類学② 環境社会論②	
OCA②	社会イノベーション特殊演習②		
	*心理社会学特殊講義②		
イノベーション政策論④ 経済政策② 公共経済学② 科学技術論②	金融システム論② 金融イノベーション論Ⅰ② 日本経済論② 日本金融論②	開発政策論② 開発支援論② 国際法④ 地域政策論④	14
	イノベーション経済論④ *公共政策論② 知的財産法② リテールファイナンス論②	金融イノベーション論Ⅱ② 比較イノベーション論② グローバルガバナンス論② 国際機構論④	
イノベーション戦略論④ 戦略論② 組織論② マーケティング論②	現代企業論④ 企業家史④ 組織イノベーション論④		
	人的資源論④ 新商品開発論② ベンチャービジネス論② 研究開発管理論②	消費行動論② *トップマネジメント論② *ロジスティクス論② 企業評価論④	
	政策イノベーション特殊講義②		

第17表 心理社会学科授業科目一覧（つづき）

学年配当 分野・区分	1 年		
総合 教養 科目	短期学外演習〈自然〉②		
	【教養演習A】 教養演習④		
	【教養演習B】 カウンセリング④		心理学研究法④
	※総合講座Ⅰ②	現代社会論Ⅶa〈カルチュラル・スタディーズ〉②	宗教学入門a②
	総合講座Ⅱ〈アート・プロデュース／感動と価値の創造〉②	現代社会論Ⅶb〈カルチュラル・スタディーズ〉②	宗教学入門b②
	総合講座Ⅲ〈環境〉②	※現代社会論Ⅷa②	倫理学入門a②
	※総合講座Ⅳ②	※現代社会論Ⅷb②	倫理学入門b②
	総合講座Ⅴ〈余暇学（世田谷6大学コンソーシアム連携授業）〉②	※現代社会論演習a②	西洋思想入門a②
	総合講座Ⅵ〈中国文学入門（世田谷6大学コンソーシアム連携授業）〉②	※現代社会論演習b②	西洋思想入門b②
	※特別講座Ⅰ②	国際関係論入門a②	東洋思想入門a②
	※特別講座Ⅱ②	国際関係論入門b②	東洋思想入門b②
	成城学園を知る②	経済学入門a②	日本思想入門a②
	成城学Ⅰ〈柳田國男と民俗学〉②	経済学入門b②	日本思想入門b②
	※成城学Ⅱ②	政治学入門a②	※思想・人間論Ⅰa②
	※成城学Ⅲ②	政治学入門b②	※思想・人間論Ⅰb②
	※成城学Ⅳ②	情報社会論入門a②	思想・人間論Ⅱa〈イメージを“よむ”〉②
	成城学Ⅴ〈成城と自然〉②	情報社会論入門b②	思想・人間論Ⅱb〈イメージを“よむ”〉②
	社会学入門a②	法学（含む日本国憲法）a②	※思想・人間論Ⅲa②
	社会学入門b②	法学（含む日本国憲法）b②	※思想・人間論Ⅲb②
	メディア論入門a②	社会構造論Ⅰa〈自由と平等〉②	思想・人間論演習a②
	メディア論入門b②	社会構造論Ⅰb〈自由と平等〉②	思想・人間論演習b②
	現代社会論Ⅰa〈現代の宗教と国家〉②	社会構造論Ⅱa〈社会と組織〉②	文学入門a②
	現代社会論Ⅰb〈現代の宗教と社会〉②	社会構造論Ⅱb〈ネットワークと組織〉②	文学入門b②
現代社会論Ⅱa〈サブカルチャー史〉②	※社会構造論Ⅲa②	言語学入門a②	
現代社会論Ⅱb〈サブカルチャー論〉②	※社会構造論Ⅲb②	言語学入門b②	
※現代社会論Ⅲa②	社会構造論Ⅳa〈日常生活と社会経済〉②	音楽入門a②	
※現代社会論Ⅲb②	社会構造論Ⅳb〈日常生活と社会経済〉②	音楽入門b②	
現代社会論Ⅳa〈戦後日本文化論〉②	社会構造論Ⅴa②	※表象文化論入門a②	
現代社会論Ⅳb〈戦後日本文化論〉②	社会構造論Ⅴb②	※表象文化論入門b②	
※現代社会論Ⅴa②	社会構造論Ⅵa〈現代日本と政治〉②	※表現文化論Ⅰa②	
※現代社会論Ⅴb②	社会構造論Ⅵb②	※表現文化論Ⅰb②	
現代社会論Ⅵa〈平和論〉②	社会構造論演習a②	※表現文化論Ⅱa②	
現代社会論Ⅵb〈平和論〉②	社会構造論演習b②	※表現文化論Ⅱb②	
【国際交流科目・データサイエンス科目は、Ⅱ科目区分別履修方法 Ⅲ 総合教養科目を参照】			
学部 共通 科目	※TOEFL（ベーシック）②	仏語選択（上級）b①	海外短期語学研修（英語・春季）②
	TOEFL（アドヴァンスト）②	スペイン語選択（初級）a①	海外短期語学研修（英語・夏季）②
	※TOEIC（ベーシック）②	スペイン語選択（初級）b①	海外短期語学研修（独語・春季）②
	TOEIC（アドヴァンスト）②	スペイン語選択（中級・ディプロム）a①	海外短期語学研修（仏語・春季）②
	ビジネス英語a①	スペイン語選択（中級・ディプロム）b①	海外短期語学研修（中国語・夏季）②
	ビジネス英語b①	中国語選択（初級）Ⅰa①	海外短期語学研修（英語・就業体験準備）①
	独会話選択a①	中国語選択（初級）Ⅰb①	海外短期研修（マレーシア・就業体験研修）②
	独会話選択b①	中国語選択（初級）Ⅱa①	日本語A〈上級・会話〉②
	独語選択（初級）Ⅰa①	中国語選択（初級）Ⅱb①	日本語A〈上級・読解〉②
	独語選択（初級）Ⅰb①	中国語選択（中級）a①	日本語A〈上級・表現文型と語彙〉②
	独語選択（初級）Ⅱa①	中国語選択（中級）b①	日本語A〈上級・特別講座〉②
	独語選択（初級）Ⅱb①	中国語選択（上級）a①	日本語A〈中級・総合日本語〉⑥
	独語選択（中級）a①	中国語選択（上級）b①	日本語A〈中級・特別講座〉②
	独語選択（中級）b①	韓国語選択（初級）a①	日本語A〈初級〉⑧
	独語選択（上級）a①	韓国語選択（初級）b①	日本語B〈上級・日本語聴読解〉①
	独語選択（上級）b①	韓国語選択（中級・ディプロム）a①	日本語B〈上級・日本語文章表現〉①
	仏会話選択a①	韓国語選択（中級・ディプロム）b①	日本語B〈上級・日本語会話〉②
	仏会話選択b①	ディプロム・コース中級（独語）a①	日本語B〈上級・日本語文法と漢字〉②
	仏語選択（初級）Ⅰa①	ディプロム・コース中級（独語）b①	日本語B〈上級・総合日本語〉②
	仏語選択（初級）Ⅰb①	ディプロム・コース上級（独語）a①	日本語B〈中級・日本語聴読解作文〉②
	仏語選択（初級）Ⅱa①	ディプロム・コース上級（独語）b①	日本語B〈中級・日本語会話〉②
	仏語選択（初級）Ⅱb①	ディプロム・コース中級（仏語）a①	日本語B〈中級・日本語文法と漢字〉②
	仏語選択（中級）a①	ディプロム・コース中級（仏語）b①	日本語B〈中級・総合日本語〉②
仏語選択（中級）b①	ディプロム・コース上級（仏語）a①	日本語B〈初級〉⑧	
仏語選択（上級）a①	ディプロム・コース上級（仏語）b①		
【スポーツ・ウエルネス教育科目は、Ⅱ科目区分別履修方法 Ⅳ 一般共通科目 2 スポーツ・ウエルネス教育科目 を参照】			
一般 共通 科目	コンピュータ・リテラシー A1②	※コンピュータ・リテラシー C②	※図書館活用法②
	コンピュータ・リテラシー A2②	コンピュータ・リテラシー D②	WRD④
	コンピュータ・リテラシー B②	コンピュータ・リテラシー E②	
	【キャリアデザイン科目は、Ⅱ科目区分別履修方法 Ⅳ 一般共通科目 5 キャリアデザイン科目 を参照】		
	【国際交流科目は、Ⅳ卒業要件単位に算入されない授業科目を参照】		

注1) ○で囲まれた数字は単位数を表す。
注2) ※印の授業科目は本年度休講である。

2 年	3 年	4 年	卒業要件 単位数
	社会調査演習④		
※表現文化論Va② ※表現文化論Vb② 表現文化論VIa〈文学と地域文化〉② 表現文化論VIb〈文学と地域文化〉② 表現文化論演習a② 表現文化論演習b② 歴史学入門a② 歴史学入門b② 日本近現代史a② 日本近現代史b② ヨーロッパ近現代史a② ヨーロッパ近現代史b② アジア近現代史a② アジア近現代史b② アメリカ近現代史a② アメリカ近現代史b② ※歴史文化論Ia② ※歴史文化論Ib② 歴史文化論IIa〈江戸の文化〉② 歴史文化論IIb〈江戸の文化〉② 歴史文化論IIIa〈グローバル・ ヒストリーと西欧〉② 歴史文化論IIIb〈グローバル・ ヒストリーと非西欧〉② ※歴史文化論IVa② ※歴史文化論IVb② ※歴史文化論Va② ※歴史文化論Vb② ※歴史文化論演習a② ※歴史文化論演習b② 文化人類学入門a② 文化人類学入門b② 空間システム論入門a② 空間システム論入門b②	地域空間論Ia〈EU論〉② 地域空間論Ib〈EU論〉② ※地域空間論IIa② ※地域空間論IIb② 地域空間論IIIa〈東南アジアの社会と文化〉② 地域空間論IIIb〈東南アジアの社会と文化〉② ※地域空間論IVa② ※地域空間論IVb② ※地域空間論Va② ※地域空間論Vb② 地域空間論VIa〈アフリカの社会と文化〉② 地域空間論VIb〈アフリカの社会と文化〉② 地域空間論VIIa〈日本と 東アジアの社会と文化〉② 地域空間論VIIb〈日本と 東アジアの社会と文化〉② 地域空間論VIIIa〈中東の社会と文化〉② 地域空間論VIIIb〈中東の社会と文化〉② ※地域空間論演習a② ※地域空間論演習b② ※数理の世界a② ※数理の世界b② 数理学Ia〈情報と論理〉② 数理学Ib〈情報と論理〉② ※数理学IIa② ※数理学IIb② 物理の世界a② 物理の世界b② 化学の世界a② 化学の世界b② 生命科学の世界a② 生命科学の世界b② 科学史a② 科学史b②	※自然科学Ia② 自然科学Ib〈自然と漁業・林業〉② 自然科学IIa〈地球と環境〉② 自然科学IIb〈地球と環境〉② 自然科学IIIa〈地球科学〉② 自然科学IIIb〈地球科学〉② ※自然科学IVa② ※自然科学IVb② 自然科学Va〈比較行動学〉② 自然科学Vb〈比較行動学〉② 数理・自然科学演習a② 数理・自然科学演習b② ことごとと身体a② ことごとと身体b② ※身体と運動・スポーツa② ※身体と運動・スポーツb② 心身論Ia〈脳の機能と心の機能〉② 心身論Ib〈精神疾患と脳〉② 心身論IIa〈ことごとと発達〉② 心身論IIb〈ことごとと社会〉② 心身論IIIa〈運動・スポーツと心のしくみ〉② 心身論IIIb〈運動・スポーツと身体のしくみ〉② 心身論IVa〈食と健康〉② 心身論IVb〈食と環境〉② ※心身論Va② ※心身論Vb② 心身論演習a② 心身論演習b②	12
資格英語②			6
			4
合 計			125

履修規定

心理社会学科

2015年度以前入学者用

IV

卒業要件単位に算入されない授業科目

以下の授業科目は、履修することが可能であるが、修得しても卒業要件単位には含まれないので注意すること。
各授業科目に関する説明は、【[全学共通教育科目](#)】の項を参照すること。

分野・区分	授 業 科 目	学年配当	単位	授 業 科 目	学年配当	単位
外国語科目	英語リスニング&スピーキング (初級) a	1~4	1	英語リーディング&ライティング (中級) b	1~4	1
	英語リスニング&スピーキング (初級) b	1~4	1	英語リーディング&ライティング (上級) a	1~4	1
	英語リスニング&スピーキング (中級) a	1~4	1	英語リーディング&ライティング (上級) b	1~4	1
	英語リスニング&スピーキング (中級) b	1~4	1	英会話選択a	1~4	1
	英語リスニング&スピーキング (上級) a	1~4	1	英会話選択b	1~4	1
	英語リスニング&スピーキング (上級) b	1~4	1	英文多読a	1~4	1
	英語リーディング&ライティング (初級) a	1~4	1	英文多読b	1~4	1
	英語リーディング&ライティング (初級) b	1~4	1	Academic Communication a	1~4	1
	英語リーディング&ライティング (中級) a	1~4	1	Academic Communication b	1~4	1
キャリアデザイン科目	スタート・プログラムⅠ〈ホスピタリティとサービス〉	1・2	2	※グローバルビジネス論	3・4	2
	スタート・プログラムⅡ〈企業提案〉	1・2	2	チャレンジ・プログラム	3・4	2
	スタート・プログラムⅢ〈企業との協働〉	1・2	2	時事英語Ⅰ	1~4	2
	ワークライフバランス論	2~4	2	時事英語Ⅱ	1~4	2
	※キャリアモデル・ケーススタディ	2~4	2	時事問題研究	2~4	2
	アドバンス・プログラム	2・3	2	※就業力実践Ⅰ	2~4	2
	業界企業分析論	2~4	2	※就業力実践Ⅱ	2~4	2
	職業選択論	2~4	2	※就業力実践Ⅲ	2~4	2
国際交流科目 【留学対策科目】	Academic SkillsⅠA 〈English Reading〉	1~4	1	Academic SkillsⅣA 〈English Speaking/Discussion〉	1~4	1
	Academic SkillsⅠB 〈English Reading〉	1~4	1	Academic SkillsⅣB 〈English Speaking/Discussion〉	1~4	1
	Academic SkillsⅡA 〈English Listening〉	1~4	1	Academic SkillsⅤA 〈English Presentation〉	2~4	1
	Academic SkillsⅡB 〈English Listening〉	1~4	1	Academic SkillsⅤB 〈English Presentation〉	2~4	1
	Academic SkillsⅢA 〈English Writing〉	1~4	1	※Academic SkillsⅥA	2~4	1
	Academic SkillsⅢB 〈English Writing〉	1~4	1	Academic SkillsⅥB 〈English Research〉	2~4	1
国際交流科目 【英語等による 地域研究科目】	European Studies A 〈Collections and Entertainment in Modern Europe〉	1~4	2	※Oceanian Studies A	1~4	2
	※European Studies B	1~4	2	※Oceanian Studies B	1~4	2
	North American Studies A 〈Immigration and Refugees in the United States, Past and Present〉	1~4	2	※Asian Studies A	1~4	2
	※North American Studies B	1~4	2	Asian Studies B 〈Exploring Contemporary Cultures and Societies in Asia〉	1~4	2
国際交流科目 【留学準備演習】	留学準備演習	1~4	2			

※印の科目は本年度休講である。

《履修上の注意》

- ① 外国語科目、キャリアデザイン科目のうち「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」および「時事英語Ⅰ・Ⅱ」、国際交流科目は、特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については、【[授業に関すること](#)】[IV](#)特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② 「2018年度から、通年（2単位）で開講していた全学共通教育科目の外国語科目は、前期 a（1単位）、後期 b（1単位）に分割して開講する。2017年度までに通年科目の単位を修得している場合、同一名称の a または b の科目は履修できない。
（例：2017年度までに「英語リスニング&スピーキング（初級）」の単位を修得している場合、「英語リスニング

&スピーキング（初級） a」および「英語リスニング&スピーキング（初級） b」を履修できない。）

- ③ 「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」は、「キャリア形成概論Ⅰ・Ⅱ」（【履修規定】E一般共通科目）の項を参照）2科目4単位の修得が履修の条件となる。
- ④ 「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」のうち、修得できる単位数は、1科目2単位までとする。
- ⑤ 「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」は3年次以降は履修することができない。
- ⑥ 「チャレンジ・プログラム」の履修を希望する学生は、キャリアセンターへ申し出ること。
- ⑦ キャリアデザイン科目の履修について、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が以下のとおり設けられている。
 - ・ 「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」について、「キャリア形成概論Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得した学生は、履修科目登録上限単位数を2単位を超えて履修登録することができる。
 - ・ 「成城大学就業力育成・認定プログラム」（詳細は【全学共通教育科目】Eキャリアデザイン科目群）の項を参照）の受講申請をした学生は、前年までの成績（GPA等）が一定の基準を満たしている場合（1年次はキャリアセンターが行う学力考査等で一定の基準を満たしている場合）、2年次は8単位、3年次は4単位まで履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。ただし、他の特例措置（【履修規定】I総説 B履修科目登録上限単位数 2履修科目登録上限単位数）を参照）も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。
- ⑧ 国際交流科目の履修について、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が以下のとおり設けられている。
 - ・ 国際交流科目のうち、「留学対策科目」、「英語等による地域研究科目」および「留学準備演習」の履修については、前年までの成績（GPA等）が一定の基準を満たしている場合（1年次は国際センターが行う学力考査等で一定の基準を満たしている場合）、各年次4単位まで履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。ただし、他の特例措置（【履修規定】I総説 B履修科目登録上限単位数 2履修科目登録上限単位数）を参照）も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。
- ⑨ 2018年度に「Academic Skills VA」、「Academic Skills VB」、「Academic Skills VIA」、「Academic Skills VIB」の学年配当は「1～4」から「2～4」に変更された。

2017年度以前 授業科目の新設・名称変更・廃講 一覧表 (2015年度以前入学者用)

授業科目の新設

新設年度	授 業 科 目 名	備 考		
2017年度	金融イノベーション論Ⅰ・Ⅱ	政策イノベーション学科：専門科目 選択A 政策系科目 心理社会学科：専門科目 選択B 政策系科目		
	異文化間コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ	政策イノベーション学科：専門科目 選択B 社会系科目 心理社会学科：専門科目 選択A 社会系科目		
	特別講座Ⅰ・Ⅱ 現代社会論Ⅰ～Ⅷ a・b 経済学入門 a・b 法学（含む日本国憲法） a・b 哲学入門 a・b 西洋思想入門 a・b 思想・人間論Ⅰ～Ⅲ a・b 言語学入門 a・b 表現文化論Ⅰ～Ⅵ a・b 日本近現代史 a・b アメリカ近現代史 a・b 文化人類学入門 a・b 地域空間論演習 a・b 物理の世界 a・b 科学史 a・b こころと身体 a・b 心身論演習 a・b	社会学入門 a・b 現代社会論演習 a・b 政治学入門 a・b 社会構造論Ⅰ～Ⅵ a・b 宗教学入門 a・b 東洋思想入門 a・b 思想・人間論演習 a・b 音楽入門 a・b 表現文化論演習 a・b ヨーロッパ近現代史 a・b 歴史文化論Ⅰ～Ⅴ a・b 空間システム論入門 a・b 数理の世界 a・b 化学の世界 a・b 自然科学Ⅰ～Ⅴ a・b 身体と運動・スポーツ a・b	メディア論入門 a・b 国際関係論入門 a・b 情報社会論入門 a・b 社会構造論演習 a・b 倫理学入門 a・b 日本思想入門 a・b 文学入門 a・b 表象文化論入門 a・b 歴史学入門 a・b アジア近現代史 a・b 歴史文化論演習 a・b 地域空間論Ⅰ～Ⅷ a・b 数理学Ⅰ～Ⅱ a・b 生命科学の世界 a・b 数理・自然科学演習 a・b 心身論Ⅰ～Ⅴ a・b	
	留学準備演習	身体表現・スタディーズⅣ	一般共通科目	
	統計学		基礎科目 選択A	
	社会イノベーション特殊演習		専門科目 選択A 学科共通科目	
	イノベーション心理論	経済心理学	政策イノベーション学科 専門科目 選択B 心理系科目 心理社会学科 専門科目 選択A 心理系科目	
	アメリカ社会文化論	現代国際社会学	政策イノベーション学科 専門科目 選択B 社会系科目 心理社会学科 専門科目 選択A 社会系科目	
	独語選択（上級） a・b 中国語選択（上級） a・b	仏語選択（上級） a・b	学部共通科目	
	スポーツ・スタディーズⅣ 身体表現・スタディーズⅢ	ウエルネス・スタディーズⅢ・Ⅳ	一般共通科目	
	2015年度	基礎ゼミナール（政策）	基礎ゼミナール（戦略）	政策イノベーション学科 専門科目 必修
		基礎ゼミナール（心理）	基礎ゼミナール（社会）	心理社会学科 専門科目 必修
日本金融論			政策イノベーション学科 専門科目 選択A 政策系科目 心理社会学科 専門科目 選択B 政策系科目	
総合講座Ⅴ・Ⅵ		Special Topics Ⅲ A・B	総合教養科目	
海外短期研修（マレーシア・就業体験研修）			学部共通科目	
スポーツ・スタディーズⅢ		身体表現スタディーズⅠ・Ⅱ	一般共通科目	
データサイエンス入門Ⅰ・Ⅱ データサイエンス概論 データサイエンス応用		データサイエンス・スキルアップ・プログラム データサイエンス・アドバンスド・プログラム	総合教養科目	

履修規定

科目新設等一覧表

2015年度以前入学者用

新設年度	授 業 科 目 名	備 考		
2014年度	開発支援論 国際法	日本経済論 国際機構論	不動産開発論 都市開発論	政策イノベーション学科 専門科目 選択A 政策系科目 心理社会学科 専門科目 選択B 政策系科目
	組織イノベーション論			政策イノベーション学科 専門科目 選択A 戦略系科目 心理社会学科 専門科目 選択B 戦略系科目
	生命の科学 文明と社会	家族と社会の変動 地域と文化		基礎科目 選択C
	ディプロム・コース中級（独語）A・B ディプロム・コース上級（独語）A・B ディプロム・コース中級（仏語）A・B ディプロム・コース上級（仏語）A・B		独語選択（初級）A・B 仏語選択（初級）A・B	学部共通科目
	アドバンス・プログラム			一般共通科目
2013年度	Japan Studies II A・B Japan Studies V～VIII A・B			総合教養科目
	中国語選択（初級）A・B	中国語選択（中級）	中国語選択（上級）	学部共通科目
	スポーツ・スタディーズ I・II ウエルネス・スタディーズ I・II Asian Studies A・B North American Studies A・B	図書館活用法 Academic Skills I～VI A・B European Studies A・B Oceanian Studies A・B		一般共通科目
2012年度	特別講座			総合教養科目
	時事英語 I			一般共通科目

授業科目の名称変更

変更年度	旧 授 業 科 目 名	新 授 業 科 目 名	備 考			
2016年度	パーソナリティ論	パーソナリティ心理学	政策イノベーション学科 心理社会学科	専門科目 専門科目	選択B	心理系科目
	メディアイノベーション論	メディア心理学			選択A	心理系科目
2014年度	金融システム論 I	金融システム論	政策イノベーション学科 心理社会学科	専門科目 専門科目	選択A	政策系科目
	文化心理学	異文化間心理学			選択B	心理系科目
	独会話選択 (中級)	独会話選択	学部共通科目	選択A	心理系科目	
	仏会話選択 (中級)	仏会話選択		選択B	心理系科目	
2013年度	現代社会論特別講義 I	Special Topics I A	総合教養科目			
	現代社会論特別講義 II	Special Topics I B				
	社会構造論特別講義 I	Japan Studies I A				
	社会構造論特別講義 II	Japan Studies I B				
	思想・人間論特別講義 I	Special Topics II A				
	思想・人間論特別講義 II	Special Topics II B				
	表現文化論特別講義 I	Japan Studies IV A				
	表現文化論特別講義 II	Japan Studies IV B				
	地域空間論特別講義 I	Japan Studies III A				
	地域空間論特別講義 II	Japan Studies III B				
2012年度	時事英語	時事英語 II	一般共通科目			

※旧名称の授業科目の単位を修得している場合は、新名称の授業科目を履修することができない。

授業科目の廃講

廃講年度	授 業 科 目 名	備 考			
2016年度	金融イノベーション論	政策イノベーション学科 心理社会学科	専門科目 専門科目	選択A 選択B	政策系科目 政策系科目
	異文化コミュニケーション論	政策イノベーション学科 心理社会学科	専門科目 専門科目	選択B 選択A	社会系科目 社会系科目
2016年度	特別講座	社会学入門	総合教養科目		
	メディア論入門	現代社会論 I～VIII			
	国際関係論入門	経済学入門			
	政治学入門	情報社会論入門			
	法学 (含む日本国憲法)	社会構造論 I～VI			
	哲学入門	宗教学入門			
	倫理学入門	西洋思想入門			
	東洋思想入門	日本思想入門			
	思想・人間論 I～III	文学入門			
	言語学入門	音楽入門			
	表象文化論入門	表現文化論 I～VI			
	歴史学入門	日本近現代史			
	ヨーロッパ近現代史	アジア近現代史			
	アメリカ近現代史	歴史文化論 I～V			
	歴史文化論特別講義 I・II	文化人類学入門			
	空間システム論入門	地域空間論 I～VIII			
	数理の世界	数理学 I・II			
	物理の世界	化学の世界			
	生命科学の世界	科学史			
	自然科学 I～V	数理・自然科学特別講義 I・II			
	こころと身体	身体と運動・スポーツ			
	心身論 I～V	心身論特別講義 I・II			

廃講年度	授 業 科 目 名	備 考
2015年度	イノベーション普及課程論	政策イノベーション学科 専門科目 選択B 心理系科目 心理社会学科 専門科目 選択A 心理系科目
	国際社会学	政策イノベーション学科 専門科目 選択B 社会系科目 心理社会学科 専門科目 選択A 社会系科目
	独語選択（上級） 仏語選択（上級） 中国語選択（上級）	学部共通科目
2014年度	基礎ゼミナール	両学科共通 専門科目 必修
2013年度	金融システム論Ⅱ	政策イノベーション学科 専門科目 選択A 政策系科目 心理社会学科 専門科目 選択B 政策系科目
	組織変革論	政策イノベーション学科 専門科目 選択A 戦略系科目 心理社会学科 専門科目 選択B 戦略系科目
	生命科学 文明論 家族と社会 地域文化研究Ⅰ（アジア） 地域文化研究Ⅱ（ヨーロッパ） 地域文化研究Ⅲ（アメリカ） 地域文化研究Ⅳ（イスラム）	総合教養科目
	独会話選択（初級） 仏会話選択（初級） 独語選択（初級） 仏語選択（初級）	学部共通科目
	キャリア形成論Ⅰ～Ⅳ	一般共通科目
2012年度	中国語選択（初級） 中国語選択（中級・ディプロム） 中国語選択（中級・講読）	学部共通科目

※修得した単位は各分野・区分の単位として認められる。
 ※廃講年度は、その授業科目が最後に開講された年度を示す。

全学共通教育科目

A	全学共通教育の理念	134
B	全学共通教育開設科目群	134
C	リテラシー科目群	134
	1) WRD	
	2) 外国語科目	
	3) IT 科目	
D	教養科目群	136
	1) 総合科目	
	2) 成城学	
	3) 系列科目	
E	キャリアデザイン科目群	140
F	国際交流科目群	144
G	データサイエンス科目群	146
H	スポーツ・ウェルネス教育科目	147

A 全学共通教育の理念

成城大学は、個性を尊重し、創造力に富む感性豊かな学生を育成するという建学の理念を掲げてきた。これらの理念に今日的な意味を与え、良質な教育を供給し、学生諸君の自主的活動の促進をはかるために、学部毎の専門科目と併行して、教養教育を中心とした全学共通教育カリキュラムを導入している。

全学共通教育の具体的な教育目標は以下のとおりである。

- (1) 多様化する社会、文化を理解できる素養を育てる
- (2) 批判的かつ創造的な思考力・判断力を培う
- (3) 主体的に学び、積極的にコミュニケーションをとる能力を養う

B 全学共通教育開設科目群

全学共通教育科目の開設科目群は、第1表に示されている。

なお、第1表に示される科目群・分野は、学部や入学年度によってカリキュラム上の位置づけ等が異なるので、自分の該当する学部・入学年度の履修規定を必ず確認すること。

第1表 全学共通教育科目

科目群	分野
リテラシー科目群	WRD
	外国語科目
	IT科目
教養科目群	総合科目
	成城学
	系列科目
キャリアデザイン科目群	
国際交流科目群	
データサイエンス科目群	
スポーツ・ウエルネス教育科目	スポーツ・ウエルネス講義・演習科目
	スポーツ・ウエルネス実技科目

《各学部カリキュラム上の位置づけ》

学部	分野
経済	自由設計科目
文芸	共通科目
法	基礎部門
社会イノベーション	総合教養科目、学部共通科目または一般共通科目

C リテラシー科目群

リテラシー科目群は、全学共通教育の理念に基づき、大学における学習および社会生活において必要なコミュニケーションをとる能力を身につけるための科目群である。具体的には、大学における様々な学習の基礎となる知識の理解力、創造的な思考力、的確な判断力を培うための科目、国際化する社会の中で、国際的なレベルでのコミュニケーションに対応する能力を養うための科目、高度情報社会の中で、情報を的確に処理し、主体的に情報を創造し発信する能力を身につけるための科目などによって構成されている。

なお、リテラシー科目群は、以下のとおり3つの分野に分かれる。

1 WRD

高等学校までの勉学は一定のプログラムに従って提供される知識の受容を中心とするが、大学の勉学は自分で問題の所在を明らかにし、自発的に思考をめぐらし、しかもその結果を自らの言葉として表現することを基本とする。こうした大学での学びの姿勢を修得するのが、「WRD」である。

「WRD」（ワードと読む）とは、「Write書く、Read読む、Debate議論する」の頭文字である。これらの行為は、どの学問においても土台となるものである。最近では、高等学校までの学習において、これらの基礎訓練を積んでいないことが多い。「WRD」は、以上のような実践的訓練をする場でもある。

第2表 WRD

授 業 科 目	学年配当	単 位
WRD	1～4	4

2 外国語科目

外国語科目は、学生の国際的コミュニケーション能力を高めるために、各学部設置の外国語科目に加えて設置されるものである。

大学入学以前に既習の英語については、聴く・話す・読む・書くの技能向上を目指すクラス、卒業後に必要となるビジネス英語を集中的に学ぶクラス、多読による読解力養成を目的とするクラスがある。

その他の外国語は、初歩文法を学ぶクラスから、高度なコミュニケーション能力を養成するクラスまで段階を追ったクラス編成となっている。ディプロム・コースは各外国語の資格認定試験突破を目標に授業が展開される。

外国語科目の開設科目は、第3表に示されている。

第3表-1 外国語科目 (学年配当：1～4年次)

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
英語リスニング&スピーキング (初級) a	1	独語選択 (上級) a	1
英語リスニング&スピーキング (初級) b	1	独語選択 (上級) b	1
英語リスニング&スピーキング (中級) a	1	仏会話選択 a	1
英語リスニング&スピーキング (中級) b	1	仏会話選択 b	1
英語リスニング&スピーキング (上級) a	1	仏語選択 (初級) I a	1
英語リスニング&スピーキング (上級) b	1	仏語選択 (初級) I b	1
英語リーディング&ライティング (初級) a	1	仏語選択 (初級) II a	1
英語リーディング&ライティング (初級) b	1	仏語選択 (初級) II b	1
英語リーディング&ライティング (中級) a	1	仏語選択 (中級) a	1
英語リーディング&ライティング (中級) b	1	仏語選択 (中級) b	1
英語リーディング&ライティング (上級) a	1	仏語選択 (上級) a	1
英語リーディング&ライティング (上級) b	1	仏語選択 (上級) b	1
英会話選択 a	1	スペイン語選択 (初級) a	1
英会話選択 b	1	スペイン語選択 (初級) b	1
ビジネス英語 a	1	スペイン語選択 (中級・ディプロム) a	1
ビジネス英語 b	1	スペイン語選択 (中級・ディプロム) b	1
英文多読 a	1	中国語選択 (初級) I a	1
英文多読 b	1	中国語選択 (初級) I b	1
Academic Communication a	1	中国語選択 (初級) II a	1
Academic Communication b	1	中国語選択 (初級) II b	1
独会話選択 a	1	中国語選択 (中級) a	1
独会話選択 b	1	中国語選択 (中級) b	1
独語選択 (初級) I a	1	中国語選択 (上級) a	1
独語選択 (初級) I b	1	中国語選択 (上級) b	1
独語選択 (初級) II a	1	韓国語選択 (初級) a	1
独語選択 (初級) II b	1	韓国語選択 (初級) b	1
独語選択 (中級) a	1	韓国語選択 (中級・ディプロム) a	1
独語選択 (中級) b	1	韓国語選択 (中級・ディプロム) b	1

注) 本年度の休講科目については学科ごとの【履修規定】Ⅲ 授業科目一覧】を参照すること。

第3表-2 外国語科目 (ディプロム・コース) (学年配当：1～4年次)

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
ディプロム・コース中級 (独語) a	1	ディプロム・コース中級 (独語) b	1
ディプロム・コース上級 (独語) a	1	ディプロム・コース上級 (独語) b	1
ディプロム・コース中級 (仏語) a	1	ディプロム・コース中級 (仏語) b	1
ディプロム・コース上級 (仏語) a	1	ディプロム・コース上級 (仏語) b	1

《英語到達目標》

①「英語リスニング&スピーキング」「英語リーディング&ライティング」

初級：TOEIC 600—700点、英検2級程度

中級：TOEIC 700—800点、英検準1級程度

上級：TOEIC 800—990点、英検1級程度

- ②「英会話選択」—受講者のレベルや要請に応じて、中級～上級のレベルを目指す。
- ③「ビジネス英語」—受講者のレベルや要請に応じて、初級～上級のレベルを目指す。
- ④「英文多読」—受講者のレベルや要請に応じて、中級～上級のレベルを目指す。
- ⑤「Academic Communication」—上級、それもかなり上位のレベルを目指す。

《ディプロム・コース到達目標》

- ① 中級（独語・仏語）：独検・仏検の4～3級の合格。
- ② 上級（独語・仏語）：独検・仏検の（準）2級～準1級の合格。

3 IT 科目

IT科目は、主としてパソコンを用いて、様々なデータを処理する手法とその応用を学ぶ科目である。基礎的なパソコンの操作方法はもちろん、全学共通教育の理念に基づいて、パソコンを用いてコミュニケーション能力（情報受信発信能力）やプレゼンテーション能力（表現能力）を身につけることを目的とする。

具体的には、ワープロソフトを用いた文書作成方法や、表計算ソフトを用いたデータ処理、インターネットを活用した情報収集と整理など、パソコンの基本的な活用の手法を学ぶ科目、その応用科目として、パソコンを用いて統計学的なデータ処理を行う手法を学ぶ科目、パソコンを用いて画像や映像を加工・編集したり、ウェブページを制作することを通じて、情報の整理や表現の手法を学ぶ科目が設置されている。

また、「図書館活用法」では、近年の情報を巡る環境や情報媒体の変化に対応した図書館利用リテラシー能力の修得を目指す。

IT科目の開設科目は、第4表に示されている。

第4表 IT科目（学年配当：1～4年次）

授 業 科 目	単 位
コンピュータ・リテラシーA 1	2
コンピュータ・リテラシーA 2	2
コンピュータ・リテラシーB	2
コンピュータ・リテラシーC	2
コンピュータ・リテラシーD	2
コンピュータ・リテラシーE	2
図書館活用法	2

注) 本年度の休講科目については学科ごとの【履修規定】Ⅲ授業科目一覧】を参照すること。

D 教養科目群

教養科目群は、「現代社会において生活を営む市民として必要な教養を身につける」ことを目標に設置される。近年、学問は専門という名の下に細分化しており、これらを統括的に捉える眼を養うために、現代社会の多様なあり方を積極的に学び、思考訓練をすることはきわめて重要である。現代における「教養」を志向するのが成城大学の教養科目群である。

1 総合科目

総合科目は、特定の主題に関する諸現象を、学際的・総合的に分析・把握する能力を養うとともに、教養科目・専門科目を問わず、学習の動機づけを行う講義である。コーディネーターである教員が、学生の自発的な学習を支援するよう、講義の方向づけを行う。

総合科目の開設科目は、第5表に示されている。

第5表 総合科目（学年配当：1～4年次）

授 業 科 目	単 位
総合講座 I	2
総合講座 II 〈アート・プロデュース／感動と価値の創造〉	2
総合講座 III 〈環境〉	2
総合講座 IV	2
総合講座 V 〈余暇学（世田谷6大学コンソーシアム連携授業）〉	2
総合講座 VI 〈中国文学入門 （世田谷6大学コンソーシアム連携授業）〉	2
特別講座 I	2
特別講座 II	2

注1) 各授業科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、授業科目名称には含まれない。
注2) 本年度の休講科目については学科ごとの【履修規定】Ⅲ授業科目一覧】を参照すること。

2 成 城 学

成城学は、成城学園に関するもの、成城という地域の歴史や地理に関するもの、成城の民俗誌に関するもの、成城の自然（史・誌）に関する内容で構成される。

成城学には、講義形式を中心とするものと、学生参加型の授業形式のもの（成城フィールド・スタディー）とがある。

成城学の開設科目は、第6表に示されている。

第6表 成城学（学年配当：1～4年次）

授 業 科 目	単 位
成城学園を知る	2
成城学Ⅰ〈柳田國男と民俗学〉	2
成城学Ⅱ	2
成城学Ⅲ	2
成城学Ⅳ	2
成城学Ⅴ〈成城と自然〉	2

注1) 各授業科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、授業科目名称には含まれない。

注2) 本年度の休講科目については学科ごとの【履修規定】Ⅲ授業科目一覧】を参照すること。

3 系 列 科 目

系列科目は、9つの学問分野による分類の下に、各分野を概観し基礎知識を提供する「基幹科目」と各分野の最新の話題や特殊事項の研究を志向する「展開科目」から構成されており、各科目間は重層構造を持っている。学問分野という視点、時間（歴史）と空間（地域）という視点や、関心のある主題という視点など、受講生の様々な関心や興味に合わせた組み合わせで受講することによって、幅広い教養の獲得だけにとどまらず、所属学部の専門的研究を補う広い視野を確保できるよう工夫がなされている。また、教養科目群のコンセプトである現代における「教養」を志向すべく、現代に特化した内容を中心とした科目が配置されている。系列科目の開設科目は、第7表に示されている。

《系列の概要》

系 列 名	概 要
現代社会論系列	複雑化する現代社会の事象に目を向け、それらの諸相を解析する能力を身につける新しい学問領域の科目で構成される。
社会構造論系列	政治や経済など、社会の構成と機能を理解する上で、必要な学問の枠組みを学ぶ科目で構成される。
思想・人間論系列	人間のあり方・世界のあり方について、先人がどのような問いをたて、どのような解を得てきたか、彼らの思考の筋道を辿り、現代人の新たな考察への手がかりを得られる科目で構成される。
表現文化論系列	人間生活の根幹をなす多種多様な表現の基底にある歴史的背景・生活環境を視野に入れ、さらに現代における複雑化した表現の諸相を考察する科目で構成される。
歴史文化論系列	過去と対話することによって、現代に至る人間の営みを照射し、受講生が歴史を自ずから再構成する方法を身につけることができる科目で構成される。
地域空間論系列	国際化する社会を理解するための方法や、地理的空間を科学的に考えるための知識と、世界各地域の社会や文化の諸相について学ぶ科目によって構成される。
数理科学系列	自然科学は数学の言葉で書かれている。科学技術文明を生きる者として数理の感覚を身につける科目、自然や社会、芸術に隠された数学的秩序を探る科目で構成される。
自然科学系列	現代科学技術文明を形成する科学の方法・発展過程をあとづけ、その功罪を考察する科目と、身近な現象・自然環境を科学的視点からとらえる科目で構成される。
心身論系列	人間の身体機能や精神構造、さらに人間相互のかかわりを理解するための知識と、心身の健康を維持するための知識を学ぶ科目で構成される。

第7表 系列科目 (学年配当: 1~4年次)

系列	授 業 科 目 名	単 位	系列	授 業 科 目 名	単 位	
現代社会論系列	基 幹	社会学入門 a	2	思想・人間論系列	哲学入門 a	2
		社会学入門 b	2		哲学入門 b	2
		メディア論入門 a	2		宗教学入門 a	2
		メディア論入門 b	2		宗教学入門 b	2
	展 開	現代社会論 I a 〈現代の宗教と国家〉	2		倫理学入門 a	2
		現代社会論 I b 〈現代の宗教と社会〉	2		倫理学入門 b	2
		現代社会論 II a 〈サブカルチャー史〉	2		西洋思想入門 a	2
		現代社会論 II b 〈サブカルチャー論〉	2		西洋思想入門 b	2
		現代社会論 III a	2		東洋思想入門 a	2
		現代社会論 III b	2		東洋思想入門 b	2
		現代社会論 IV a 〈戦後日本文化論〉	2		日本思想入門 a	2
		現代社会論 IV b 〈戦後日本文化論〉	2		日本思想入門 b	2
		現代社会論 V a	2		思想・人間論 I a	2
		現代社会論 V b	2		思想・人間論 I b	2
		現代社会論 VI a 〈平和論〉	2		思想・人間論 II a 〈イメージを“よむ”〉	2
		現代社会論 VI b 〈平和論〉	2		思想・人間論 II b 〈イメージを“よむ”〉	2
		現代社会論 VII a 〈カルチュラル・スタディーズ〉	2		思想・人間論 III a	2
		現代社会論 VII b 〈カルチュラル・スタディーズ〉	2		思想・人間論 III b	2
		現代社会論 VIII a	2		思想・人間論演習 a	2
		現代社会論 VIII b	2		思想・人間論演習 b	2
現代社会論演習 a	2	文学入門 a	2			
現代社会論演習 b	2	文学入門 b	2			
社会構造論系列	基 幹	国際関係論入門 a	2	表現文化論系列	言語学入門 a	2
		国際関係論入門 b	2		言語学入門 b	2
		経済学入門 a	2		音楽入門 a	2
		経済学入門 b	2		音楽入門 b	2
	展 開	政治学入門 a	2		表象文化論入門 a	2
		政治学入門 b	2		表象文化論入門 b	2
		情報社会論入門 a	2		表現文化論 I a	2
		情報社会論入門 b	2		表現文化論 I b	2
		法学 (含む日本国憲法) a	2		表現文化論 II a	2
		法学 (含む日本国憲法) b	2		表現文化論 II b	2
		社会構造論 I a 〈自由と平等〉	2		表現文化論 III a 〈映画の“いま”〉	2
		社会構造論 I b 〈自由と平等〉	2		表現文化論 III b 〈映画の“いま”〉	2
		社会構造論 II a 〈社会と組織〉	2		表現文化論 IV a 〈民俗と作法の表現文化論〉	2
		社会構造論 II b 〈ネットワークと組織〉	2		表現文化論 IV b 〈伝統芸術文化論〉	2
		社会構造論 III a	2		表現文化論 V a	2
		社会構造論 III b	2		表現文化論 V b	2
		社会構造論 IV a 〈日常生活と社会経済〉	2		表現文化論 VI a 〈文学と地域文化〉	2
		社会構造論 IV b 〈日常生活と社会経済〉	2		表現文化論 VI b 〈文学と地域文化〉	2
		社会構造論 V a	2		表現文化論演習 a	2
		社会構造論 V b	2		表現文化論演習 b	2
社会構造論 VI a 〈現代日本と政治〉	2					
社会構造論 VI b	2					
社会構造論演習 a	2					
社会構造論演習 b	2					

全学共通教育科目

第7表 系列科目（つづき）（学年配当：1～4年次）

系列	授業科目名	単位	系列	授業科目名	単位		
歴史文化論系列	基幹	歴史学入門 a	2	数理科学系列	数理の世界 a	2	
		歴史学入門 b	2		数理の世界 b	2	
		日本近現代史 a	2		展開	数理科学 I a 〈情報と論理〉	2
		日本近現代史 b	2			数理科学 I b 〈情報と論理〉	2
		ヨーロッパ近現代史 a	2	基幹	数理科学 II a	2	
		ヨーロッパ近現代史 b	2		数理科学 II b	2	
		アジア近現代史 a	2		展開	物理の世界 a	2
		アジア近現代史 b	2			物理の世界 b	2
	アメリカ近現代史 a	2	化学の世界 a	2			
	アメリカ近現代史 b	2	化学の世界 b	2			
	展開	歴史文化論 I a	2	基幹	生命科学の世界 a	2	
		歴史文化論 I b	2		生命科学の世界 b	2	
		歴史文化論 II a 〈江戸の文化〉	2		科学史 a	2	
		歴史文化論 II b 〈江戸の文化〉	2		科学史 b	2	
		歴史文化論 III a 〈グローバル・ヒストリーと西欧〉	2	展開	自然科学 I a	2	
		歴史文化論 III b 〈グローバル・ヒストリーと非西欧〉	2		自然科学 I b 〈自然と漁業・林業〉	2	
		歴史文化論 IV a	2		自然科学 II a 〈地球と環境〉	2	
		歴史文化論 IV b	2		自然科学 II b 〈地域と環境〉	2	
	歴史文化論 V a	2	展開	自然科学 III a 〈地球科学〉	2		
	歴史文化論 V b	2		自然科学 III b 〈地球科学〉	2		
歴史文化論演習 a	2	自然科学 IV a		2			
歴史文化論演習 b	2	自然科学 IV b		2			
地域空間論系列	基幹	文化人類学入門 a	2	展開	自然科学 V a 〈比較行動学〉	2	
		文化人類学入門 b	2		自然科学 V b 〈比較行動学〉	2	
		空間システム論入門 a	2		数理・自然科学演習 a	2	
		空間システム論入門 b	2		数理・自然科学演習 b	2	
	展開	地域空間論 I a 〈EU論〉	2	基幹	こころと身体 a	2	
		地域空間論 I b 〈EU論〉	2		こころと身体 b	2	
		地域空間論 II a	2		身体と運動・スポーツ a	2	
		地域空間論 II b	2		身体と運動・スポーツ b	2	
		地域空間論 III a 〈東南アジアの社会と文化〉	2	展開	心身論 I a 〈脳の機能と心の機能〉	2	
		地域空間論 III b 〈東南アジアの社会と文化〉	2		心身論 I b 〈精神疾患と脳〉	2	
		地域空間論 IV a	2		心身論 II a 〈こころと発達〉	2	
		地域空間論 IV b	2		心身論 II b 〈こころと社会〉	2	
		地域空間論 V a	2		心身論 III a 〈運動・スポーツと心のしくみ〉	2	
		地域空間論 V b	2		心身論 III b 〈運動・スポーツと身体のしくみ〉	2	
		地域空間論 VI a 〈アフリカの社会と文化〉	2		心身論 IV a 〈食と健康〉	2	
		地域空間論 VI b 〈アフリカの社会と文化〉	2		心身論 IV b 〈食と環境〉	2	
		地域空間論 VII a 〈日本と東アジアの社会と文化〉	2		心身論 V a	2	
		地域空間論 VII b 〈日本と東アジアの社会と文化〉	2		心身論 V b	2	
		地域空間論 VIII a 〈中東の社会と文化〉	2		心身論演習 a	2	
		地域空間論 VIII b 〈中東の社会と文化〉	2		心身論演習 b	2	
地域空間論演習 a	2						
地域空間論演習 b	2						

注1) 系列の欄に示されている基幹は基幹科目、展開は展開科目を指す。
 注2) 各授業科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、授業科目名称には含まれない。
 注3) 本年度の休講科目については学科ごとの【履修規定】Ⅲ 授業科目一覧を参照すること。

E キャリアデザイン科目群

キャリアデザイン科目群は、大学卒業後、ひいては将来の人生設計に欠かせない職業観に関する知識を学習する科目群である。働くことの意義や、適職を見つけるための方法などを学びながら、自分のキャリア（＝人生）を発見し構築していくことを主たる目的とする科目群である。

キャリアデザイン科目群の開設科目は、第8表に示されている。

第8表 キャリアデザイン科目【2017年度以降入学者用】

テ ー マ 等	授業科目名	学年 配当	単 位	授業 形式	科 目 概 要
<p>「キャリア形成概念の理解」～自らのキャリアを様々なテーマを基にして考える～</p> <p>キャリア形成において重要なことは、自身の現状に応じて必要なことを必要なタイミングで学び、経験を積むというプロセスを経ていくことである。本授業科目は、成城大学におけるキャリア教育のスタート科目として位置付け、履修者はキャリア形成の過程の中で「自分と他者と社会」について考え、大学で学ぶ意味、働く意味と目的、自分の強みやキャリアの在りかたを段階的に追究し意味づけができるようになることを目指す。</p> <p>キャリア形成において、「自己理解」「他者理解」「社会理解」は重要な段階・流れであり、(1) 自分と今とこれまで、(2) 自分をとりまく社会について、(3) これからの自分の在り方について、を総合的に考察し、自らのキャリアを形成していく上で必要な考え方を複数のテーマと関連付けながら学ぶ。</p>	キャリア形成Ⅰ 〈コミュニケーション〉	1～4	2	講義 演習	<p>サブタイトル：コミュニケーションとキャリア形成</p> <p>現代社会において欠かすことのできない「コミュニケーション能力」について、キャリア形成の観点から考察・理解する。キャリアを形成していく上で必要なコミュニケーション・スタイルを学ぶとともに、他者との関係性について理解を深め、自身のキャリア形成の気付きに繋げる。また、自分の歩んできた道をふり返り、これからのあり方を考える。その際には、自分の強みを整理・理解すること、将来を想像し、目標を設定して行動を起こすことの重要性を学ぶ。授業では、ペア・グループワークを用いて理解促進に繋げていく。</p>
	キャリア形成Ⅱ 〈リーダーシップ〉	1～4	2	講義 演習	<p>サブタイトル：リーダーシップとキャリア形成</p> <p>組織・集団においてそこに属するメンバーは、それぞれの場面や状況に応じて「リーダーシップ」を求められるが、そこで求められるリーダーシップは様々であり、あらゆるパターンが存在する。キャリア形成の過程において、他者との関わり、他者への影響力を理解することは重要であり、それらの類型等を講義を通じて受講生が理解し、結果として求められるリーダーシップを学ぶことで自身のキャリア形成の一助となることを狙いとす。</p> <p>本授業科目では、様々なリーダーシップのパターンを学ぶとともに、状況に応じてリーダーシップを体感しながら学びを深めていく。</p>
	キャリア形成Ⅲ 〈ワークライフバランス〉	1～4	2	講義 演習	<p>サブタイトル：ワークライフバランスとキャリア形成</p> <p>人口減少やデュアル・キャリア世帯（夫と妻がともに生涯を通じたキャリアを築こうとする世帯）の増加など社会やライフスタイルの変化を背景に、子育て世代をはじめ様々な状況にある誰もが安心して働き、能力を発揮できるワーク・ライフ・バランス（WLB）やダイバシティマネジメントへの取組みが必要とされている。本授業ではWLBなどが必要とされる背景を理解し、関連の法律や実際に行われている国・企業・働く一人ひとりの具体的取組について学び、WLBに関する基本的知識を習得することを目的とする。また、授業への参加を通じて将来就業を継続する中で自らが直面するであろうWLBに関する課題を認識しそれを解決するための自らの基本的な考え方を獲得することでキャリア形成の一助とする。</p>
	キャリア形成Ⅳ 〈チームワーク・協働〉	1～4	2	講義 演習	<p>サブタイトル：チームワーク・協働とキャリア形成</p> <p>昨今の「仕事の現場」において、チームワーク、協働を必要としない場面は皆無に等しい。チームにおける自身の役割を認識し、果たすべき役割を責任を持って担っていくことが重要である。本授業科目では、キャリア形成の観点からチームにおける協働とは何かを理解するとともに、それを担うことで自身のキャリア形成にどのような影響をもたらすのかをケースをもとに学ぶ。また、職場におけるチームワークを実践している方をゲストに招いて、その実状を理解する。</p>

第8表 キャリアデザイン科目【2017年度以降入学者用】(つづき)

テ ー マ 等	授業科目名	学年 配当	単 位	授業 形式	科 目 概 要
グループワーク、グループディスカッション形式	プロジェクト演習 〈ホスピタリティとサービス〉 〈企業提案〉 〈企業との協働〉	1・2	2	演習	PBL (Project Based Learning) 基礎科目として開講。前期に学んだ「キャリア形成概念の理解」を基礎として、演習形式で複数のテーマに取り組む。学生はそれぞれ設定されたテーマに基づいてグループ毎に課題に取り組み、課題発見、調査・研究、企画構想・構築から提案に繋げていくといった一連のプロセスを経て、キャリア形成において重要な「チームワーク(協働)」を学ぶ。
キャリア形成・選択のための多様な視点の獲得と 業界・企業理解	業界企業分析	2~4	2	講義 演習	業界や企業とは何かを総合的に学ぶとともに、業界間の結びつきや属する企業等について多角的に考察することで、わが国における各種業界の競争、企業行動について現実をよりよく理解し、将来の進路や方向性を判断する材料を得ることを目標とする。また、業界・企業の調査・研究方法についても具体的に学ぶ。 授業では多様な業界からゲスト・スピーカーを迎えるとともに、履修者自らも調査・研究に取り組む。
キャリア形成・選択のための職業選択の理解	職業選択	2~4	2	演習	世の中には数え切れないほどの種類の仕事(職業)があるが、働き方も人それぞれで、また、社会も日々変化しているため、新たな仕事の登場や既存の仕事が変化することが常に起こっている。この授業科目では、働きざま・働きがいについて考えるとともに、「職業選択」を興味・価値観・能力といった要素と、社会状況・環境の視点から追究し、また、社会人が実際にどのように職業を選択しキャリアを構築したか、ゲストを招き経験談を聞きながら「キャリア」を総合的に考察する。
	時事英語Ⅰ	1~4	2	講義	時事英語の入門編として開講する。初級段階の学生を対象として、英語学習の教材として時事問題をトピックとした新聞記事、インターネットニュースを扱う。最終的には自分の意見を英語で表現し、受講生の間で意見交換をすることができるよう、実践的な英語力を強化する。
	時事英語Ⅱ	1~4	2	講義	時事英語の中級編として開講する。中級段階の学生を対象として、最近の海外のメディアで報道された重要なニュースを扱ったテキストを用いて、教育、経済、政治、宗教、社会、女性など様々なトピックについて学習する。 ※英字新聞を一度も読んだことのない学生、初級レベルの英語力の学生は、「時事英語Ⅰ」の授業を受講した後に本授業を受講することが望ましい。
	時事問題研究	2~4	2	講義	社会人として必要不可欠な時事問題を多角的に学ぶとともに、理解の仕方や解釈の仕方を総合的に学ぶ。具体的には新聞記者を毎回ゲストスピーカーとして招き、リアルタイムのニュースについて考察する。
グループワーク、グループディスカッション形式	キャリア・プランニング・プログラムⅠ	3・4	2	演習	「プロジェクト演習」の発展科目として開講。「社会を生き抜く基礎力」を理解し、その向上を目指す。これまで学んできた「キャリアデザイン科目」をベースに、現実的な課題に対してチームで解決に向けて取り組むことで、結果として求められる力を理解・修得する。
グループワーク、グループディスカッション形式	キャリア・プランニング・プログラムⅡ	3・4	2	演習	「プロジェクト演習」の最終段階の授業科目として開講。受講生は、これまで学んできた「キャリア形成」について整理・統合し、外部評価委員会委員や外部ゲストの協力も得ながら、実践的な課題に取り組み、「成城の就業力。」を理解・修得する。

注1) 各授業科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、授業科目名称には含まれない。

注2) 本年度の休講科目については学科ごとの【履修規定Ⅱ】科目区分別履修方法」と【履修規定Ⅳ】卒業要件単位に算入されない授業科目】を参照すること。

第8表の2 キャリアデザイン科目【2016年度以前入学者用】

	テーマ等	授業科目名	学年 配当	単 位	授業 形式	科 目 概 要
就業 力 基 礎 科 目	キャリア形成 概念の理解	キャリア形成概論Ⅰ	1・2	2	講義 演習	自らのキャリアを考え始めるスタート科目と位置付け、(1) 自分の今とこれまで(自己分析・自己理解)、(2) 自分をとりまく社会について、(3) これからの自分の在り方を総合的に考察し、自らのキャリアを形成していく上で必要な考え方を学ぶ。
		キャリア形成概論Ⅱ	1・2	2	講義 演習	自分をとりまく社会の現状や変化を理解するとともに、社会における自分のあり様を探り、自己のキャリア形成を考え、自身の方向付けをしていく。キーワードは「グローバルな視点」、「企業」、「働くということ」。授業は、「講義」と「実習(ディスカッション)」を繰り返しながら理解を深めていく。
	グループワーク、 グループディス カッション形式 展開	スタート・プログラムⅠ 〈ホスピタリティとサービス〉	1・2	2	演習	サービスとホスピタリティの違いを理解し、真の「おもてなし」にはどのような資質・態度・姿勢が求められるか自分なりに解釈し普段の生活のなかで自然に発揮できるようになると共に真の「おもてなし」がキャリア形成にどのように関係するか自分なりに意味づけることを目指す。
		スタート・プログラムⅡ 〈企業提案〉	1・2	2	演習	企業に対して新たな提案をしていくことをとおして、企業における仕事の捉え方や考え方、また、企画がどのように提案され、実行に移されていくかを実践的に学ぶ。
		スタート・プログラムⅢ 〈企業との協働〉	1・2	2	演習	インターネットを活用した新しい「ビジネスサービス」を商品と捉えて、その開発を考える。また、「企業のリアルを知る」と題して「大手」、「ベンチャー(中小)」、「起業」の3つの視点から企業の現状を学ぶ。
	就業 力 発 展 科 目	勤労観醸成	ワークライフ バランス論	2~4	2	講義
キャリアモデル・ ケーススタディ			2~4	2	演習	社会で活躍する方々をキャリアモデル(事例)として取り上げることで、具体的なキャリア形成の在り方を学ぶ。また、過去の企業家(起業家)も事例として取り上げる。
アドバンス・ プログラム			2・3	2	演習	「スタート・プログラム」、「チャレンジ・プログラム」の中間に位置するグループワーク中心の演習科目である。企業をはじめとして、学外の3団体に協力を得ながら社会を生き抜く基礎力の向上を3段階で支援する。時には現場に出向き社会人の振る舞いを体感し、社会に出ることに興味関心を持つことも趣旨のひとつである。 3段階のプロジェクトには、テーマとミッション・ゴールを設定するが、3つのテーマには一貫性があり、段階的に到達目標を設定していく。履修者は社内のプロジェクトと同形式の経験をやる中で、チームでも個人でも、成功体験と失敗体験を繰り返しながらビジネスの在り方を体感することで勤労観を醸成する。
職業観醸成		業界企業分析論	2~4	2	講義	業界や企業とは何かを総合的に学ぶとともに、業界間の結びつきや属する企業等について多角的に考察する。
		職業選択論	2~4	2	演習	職業を選択する上で考えなければならないことを具体的に学ぶとともに、社会人がどのように職業選択をし、達成したのかを総合的に考察する。
		グローバル ビジネス論	3・4	2	講義	国によって異なるビジネスカルチャーや各国のビジネスの在り方、グローバルビジネスが今日直面している課題を学ぶことで、グローバルに仕事をしていくということの意味や国際社会に通用する実践的ビジネススキルを習得する。
	チャレンジ・ プログラム	3・4	2	演習	キャリアデザイン科目で学んできたことをベースにして、学生提案型のプロジェクト演習とする。グループを構成し、自らテーマを設定の上、企画立案することで、就業力の総合的なレベルを外部の有識者等に確認していただく。	

第8表の2 キャリアデザイン科目【2016年度以前入学者用】(つづき)

	テーマ等	授業科目名	学年 配当	単 位	授業 形式	科 目 概 要
就 業 力 強 化 科 目		時事英語 I	1~4	2	講義	時事英語の入門編として開講する。初級段階の学生を対象として、英語学習の教材として時事問題をトピックとした新聞記事、インターネットニュースを扱う。最終的には自分の意見を英語で表現し、受講生の間で意見交換をすることができるよう、実践的な英語力を強化する。
		時事英語 II	1~4	2	講義	時事英語の中級編として開講する。中級段階の学生を対象として、最近の海外のメディアで報道された重要なニュースを扱ったテキストを用いて、教育、経済、政治、宗教、社会、女性など様々なトピックについて学習する。 ※英字新聞を一度も読んだことのない学生、初級レベルの英語力の学生は、「時事英語 I」の授業を受講した後に本授業を受講することが望ましい。
		時事問題研究	2~4	2	講義	社会人として必要不可欠な時事問題を多角的に学ぶとともに、理解の仕方や解釈の仕方を総合的に学ぶ。
		就業力実践 I	2~4	2	講義	現代経済の問題点や考え方を学び、就業するに当たって最低限知っておくべき経済知識を学ぶ。
		就業力実践 II	2~4	2	講義	全ての仕事の基本となる「会計」について、どのような観点が必要なかを入門的な観点から学ぶ。
		就業力実践 III	2~4	2	講義	「法律とは何か」を示し、社会において最低限知っておくべき法律的知識を学ぶ。

注1) 各授業科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、授業科目名称には含まれない。

注2) 本年度の休講科目については学科ごとの【履修規定Ⅱ】科目区分別履修方法と【履修規定Ⅳ】卒業要件単位に算入されない授業科目を参照すること。

〈成城大学就業力育成・認定プログラム〉

- ① 「成城大学就業力育成・認定プログラム」は、正課（授業科目）と正課外（授業科目以外のプログラム）の連携による総合的なプログラムとなっており、所定の条件を満たすことで「就業力ディプロマ」、「EMS認定」を授与するが、本件については、別途1年次は「キャリアガイダンス」、2年次は「就業力ガイダンス」で説明する。
- ② 2~4年次の「成城大学就業力育成・認定プログラム」受講者を対象に4月に「就業力ガイダンス」を実施するので、プログラム受講者（就業力ディプロマ・EMS認定希望者）は必ず出席すること。詳細については別途通知する。

国際交流科目群は、グローバル化の進む社会への対応力を身につけるための科目群である。「留学対策科目」では、留学時に必要とされるレベルの英語の基礎技能（TOEFL、IELTS試験対策を含む）を、「英語等による地域研究科目」では、世界の地域事情について、「英語等による日本事情関係科目」では、日本の政治・経済・社会・文化等について、「英語等による特定のテーマを扱った科目」では、グローバルな話題性のあるテーマについて、それぞれ英語で留学生と共に学ぶことができる。特に、就学中に留学・海外就学体験を希望する者は、***「成城国際教育プログラム（SIEP）」に参加し準備することが推奨される。

***詳細・登録方法等については、年度初めに実施される説明会に参加するほか、国際センターに直接問い合わせること。

第9表 国際交流科目

区分	授業科目	学年配当	単位
留学対策科目	Academic Skills I A 〈English Reading〉	1～4	1
	Academic Skills I B 〈English Reading〉	1～4	1
	Academic Skills II A 〈English Listening〉	1～4	1
	Academic Skills II B 〈English Listening〉	1～4	1
	Academic Skills III A 〈English Writing〉	1～4	1
	Academic Skills III B 〈English Writing〉	1～4	1
	Academic Skills IV A 〈English Speaking/Discussion〉	1～4	1
	Academic Skills IV B 〈English Speaking/Discussion〉	1～4	1
	Academic Skills V A 〈English Presentation〉	2～4	1
	Academic Skills V B 〈English Presentation〉	2～4	1
	Academic Skills VI A	2～4	1
	Academic Skills VI B 〈English Research〉	2～4	1
英語等による地域研究科目	European Studies A 〈Collections and Entertainment in Modern Europe〉	1～4	2
	European Studies B	1～4	2
	North American Studies A 〈Immigration and Refugees in the United States, Past and Present〉	1～4	2
	North American Studies B	1～4	2
	Oceanian Studies A	1～4	2
	Oceanian Studies B	1～4	2
	Asian Studies A	1～4	2
	Asian Studies B 〈Exploring Contemporary Cultures and Societies in Asia〉	1～4	2
英語等による日本事情関係科目	Japan Studies I A 〈Introduction to Japanese Economy and Management〉	1～4	2
	Japan Studies I B 〈Introduction to Japanese Economy and Management〉	1～4	2
	Japan Studies II A	1～4	2
	Japan Studies II B 〈Introduction to Japanese Society〉	1～4	2
	Japan Studies III A 〈Introduction to Anthropology of Japan〉	1～4	2
	Japan Studies III B 〈Introduction to Anthropology of Japan〉	1～4	2
	Japan Studies IV A 〈Introduction to Gender and Law in Japan〉	1～4	2
	Japan Studies IV B 〈Introduction to Gender and Law in Japan〉	1～4	2
	Japan Studies V A 〈Introduction to Japanese Literature〉	1～4	2
	Japan Studies V B 〈Introduction to Japanese Literature〉	1～4	2
	Japan Studies VI A 〈Introduction to Japanese Folklore〉	1～4	2
	Japan Studies VI B 〈Introduction to Japanese Folklore〉	1～4	2
	Japan Studies VII A	1～4	2
	Japan Studies VII B	1～4	2
Japan Studies VIII A 〈Introduction to Japanese Cinema〉	1～4	2	
Japan Studies VIII B 〈Introduction to Japanese Cinema〉	1～4	2	

第9表 国際交流科目（つづき）

区分	授業科目	学年配当	単位
英語等による特定のテーマを扱った科目	Special Topics I A 〈Cold Wars Old and New〉	1～4	2
	Special Topics I B 〈Cold Wars Old and New〉	1～4	2
	Special Topics II A 〈Gender Studies〉	1～4	2
	Special Topics II B 〈Gender Studies〉	1～4	2
	Special Topics III A	1～4	2
	Special Topics III B	1～4	2
	Special Topics IV A 〈Language, Culture and Communication〉	1～4	2
	Special Topics IV B 〈Language, Culture and Communication〉	1～4	2
海外短期語学研修	海外短期語学研修（英語・春季）	*	2
	海外短期語学研修（英語・夏季）	1～4	2
	海外短期語学研修（独語・春季）	*	2
	海外短期語学研修（仏語・春季）	*	2
	海外短期語学研修（中国語・夏季）	1～4	2
	海外短期語学研修（英語・就業体験準備）	1～4	1
海外短期研修	海外短期研修（マレーシア・就業体験研修）	1～4	2
受け入れ留学生科目	日本語 A 〈上級・会話〉	1～4	2
	日本語 A 〈上級・読解〉	1～4	2
	日本語 A 〈上級・表現文型と語彙〉	1～4	2
	日本語 A 〈上級・特別講座〉	1～4	2
	日本語 A 〈中級・総合日本語〉	1～4	6
	日本語 A 〈中級・特別講座〉	1～4	2
	日本語 A 〈初級〉	1～4	8
	日本語 B 〈上級・日本語聴読解〉	1～4	1
	日本語 B 〈上級・日本語文章表現〉	1～4	1
	日本語 B 〈上級・日本語会話〉	1～4	2
	日本語 B 〈上級・日本語文法と漢字〉	1～4	2
	日本語 B 〈上級・総合日本語〉	1～4	2
	日本語 B 〈中級・日本語聴読解作文〉	1～4	2
	日本語 B 〈中級・日本語会話〉	1～4	2
	日本語 B 〈中級・日本語文法と漢字〉	1～4	2
	日本語 B 〈中級・総合日本語〉	1～4	2
日本語 B 〈初級〉	1～4	8	
留学準備演習	留学準備演習	1～4	2

注1) 各授業科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、授業科目名称には含まれない。

注2) 本年度の休講科目については学科ごとの【履修規定Ⅱ】科目区分別履修方法と【履修規定Ⅳ】卒業要件単位に算入されない授業科目を参照すること。

注3) 海外短期語学研修のうち、学年配当が*印になっているものは、1～3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位認定がされる科目である。

全学共通教育科目

G データサイエンス科目群

商品開発、マーケティング、サービス産業における集客力の向上などのビジネスのみならず、医療、災害への危機管理など様々な領域で、発生・収集したデータを理解し、それを有効に活用できる人材が求められている。データサイエンス科目群は、IBM東京基礎研究所の協力を得て、ビッグデータなどの多種多様な情報を効果的に活用するための知識と技能を学習する科目群である。学習する内容は、文理融合的で実践的・実務的なものとなっており、学生諸君は、この科目群を系統的に学ぶことで、さらに視野を広げ、卒業後どのような分野に進んでも活かせるデータ分析力を身につけることができる。

データサイエンス科目群の開設科目は、第10表に示されている。

第10表 データサイエンス科目

	授業科目	学年 配当	単位	講義 形式	内容等	履修条件	DS基礎力 ディプロマ 取得要件	EMS ディプロマ 取得要件
基礎 科目	データサイエンス 入門Ⅰ	1~4	2	講義	データサイエンスの入門講義。データサイエンスに関わる基礎的な知識を得るもので、本プログラム全体の基礎をなす講義である。データに関する基礎知識と共に、データの所在・発生源、データ取得、データの活用領域などを学ぶ。		○	○
	データサイエンス 概論	1~4	2	講義	データサイエンスの実践例について学ぶための概念的講義。企業や行政におけるデータサイエンスのさまざまな実践例について幅広く学び、理解を深める。		○	○
	データサイエンス 入門Ⅱ	2~4	2	講義 演習	データサイエンスの入門講義・演習。データサイエンスを支える統計についての知識を得る。代表的な統計学の解析手法や、テキストデータのように数値化されていないデータを加工する手法など、実践的な知識を習得するとともに、実際にデータに対して適応できる能力を演習により身につける。		○	○
	データサイエンス 応用	2~4	2	講義 演習	問題発見・解決の技術を学ぶ応用的講義・演習。講義に加えて、演習を行う。問題を発見し、データサイエンスを通じて解決方法を提示するコンサルティング的能力を実践的に学ぶ。			○
発展 科目	データサイエンス・ スキルアップ・ プログラム	2~4	2	演習	グループワークによる演習プログラム。指定課題に沿って、データを分析し、ディスカッションの上、プレゼンテーション資料を作成する。実務者等を招待し、プレゼンテーションを行い、講評を受ける。	「データサイエンス入門Ⅰ」「データサイエンス概論」の2科目を修得済みであり、かつ「データサイエンス入門Ⅱ」を修得済みであるか、同時履修している者	○	○
	データサイエンス・ アドバンスド・ プログラム	2~4	2	演習	グループワークによる演習プログラム。データから問題を創造的に発見し、解決方法を見つけ出す。データを分析し、ディスカッションの上、プレゼンテーション資料を作成する。実務者等を招待し、プレゼンテーションを行い、講評を受ける。	「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」を修得済みであり、かつ「データサイエンス応用」を修得済みであるか、同時履修している者		○

注1) 本年度の休講科目については学科ごとの【履修規定】Ⅱ科目区分別履修方法を参照すること。

〈データサイエンス基礎力育成・認定プログラム〉

- ① 「データサイエンス基礎力育成・認定プログラム」は、理論科目と実践科目とを総合したプログラムとなっており、第10表に示される所定の授業科目を履修して単位を修得し、要件を満たすことにより「データサイエンス (DS) 基礎力ディプロマ」、「EMSディプロマ」が授与される。本件については、1年次の4月に開催される「データサイエンス科目ガイダンス」で説明する。
- ② 「データサイエンス基礎力育成・認定プログラム」の対象者は2015年度以降入学者となる。ただし、2014年度以前入学者についても、授業科目の履修については認められる。

H スポーツ・ウエルネス教育科目

スポーツ・ウエルネス教育科目は全学共通教育科目として位置づけ、以下の教育目標の下に設置されるものである。

- (1) 「ウエルネス」とは、身体的健康、精神的健康、そして他者や自然との良好な関係を築くという意味での社会的健康からなる新しい健康概念である。この科目では「ウエルネス」へのアプローチとして、身体的、精神的健康状態を維持・増進するために必要な科学的知識の理解を深めるとともに、様々なスポーツや運動などの身体活動、身体表現を通して自己や他者と向き合い、また自然と共に生きていくための能力を養う。
- (2) グローバルな文化現象であるスポーツの成り立ち、歴史、現代的意味や社会的価値について様々な理論的知識を学ぶ。また、実際にスポーツ・運動を実践しながら、他者や自然との良好なコミュニケーションに必要な知識、スキルを獲得する。
- (3) 運動やスポーツを主体的に楽しみ、生涯にわたって豊かな「スポーツライフ」と「ウエルネスライフ」をマネジメントするための基盤を形成する。

※ スポーツ・ウエルネス教育科目は、従来の体育実技科目を発展させた科目である。

1 スポーツ・ウエルネス講義・演習科目

スポーツ・ウエルネス講義・演習科目とは、講義、スポーツや身体運動、身体表現の実践、健康状態を知るための測定などを融合した演習形式での授業である。「スポーツ・スタディーズ」では、スポーツ文化やスポーツ社会に関する多様な学問的知識を獲得していく。「ウエルネス・スタディーズ」では、基礎的な健康科学の諸理論を学ぶ。「身体表現・スタディーズ」では、スポーツや武術、ダンスを身体を媒体とした表現行為として学ぶ。

第11表 スポーツ・ウエルネス講義・演習科目（学年配当：1～4年次）

系列	授業科目	単位
スポーツ文化	スポーツ・スタディーズⅠ〈身体と用具の変遷〉	2
	スポーツ・スタディーズⅡ	2
	スポーツ・スタディーズⅢ〈スポーツのグローカリゼーション〉	2
	スポーツ・スタディーズⅣ	2
ウエルネス文化	ウエルネス・スタディーズⅠ〈健康スポーツへの誘い〉	2
	ウエルネス・スタディーズⅡ〈健康スポーツの心理〉	2
	ウエルネス・スタディーズⅢ〈身体のリテラシー〉	2
	ウエルネス・スタディーズⅣ〈健康スポーツの科学〉	2
身体表現文化	身体表現・スタディーズⅠ〈アスリートと身体表現〉	2
	身体表現・スタディーズⅡ〈武道とジャパノロジー〉	2
	身体表現・スタディーズⅢ〈身体コーディネーション論〉	2
	身体表現・スタディーズⅣ〈舞踊と身体表現〉	2

注1) 各授業科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、授業科目名称には含まれない。

注2) 本年度の休講科目については学科ごとの【履修規定】Ⅱ科目区分別履修方法を参照すること。

2 スポーツ・ウェルネス実技科目

スポーツ・ウェルネス実技科目とは、実際にスポーツや運動の実践をとおして、身体的・精神的な健康の維持・増進を図る授業である。スポーツや運動の基礎的なスキル、方法、ルール、マナーを学びながら、スポーツの楽しさにふれ、人間の営為にとって欠かすことのできないアナログな身体コミュニケーションの重要性を理解し、学年、学部、年齢、ジェンダー、国籍を超えたクラス編成の中で、他者との友好的な関係を作るための本質的なスキルを獲得し、共生社会の一員となるための基礎的な姿勢を身につけることができる。また、生涯にわたって豊かなスポーツ文化を享受するための知識、スキル、方法を獲得することができる。

第12表 スポーツ・ウェルネス実技科目（学年配当：1～4年次）種目表

	種 目		系 列
定時コース (半期1単位)	オルタナティブスポーツ ゴルフ サッカー&フットサル ソフトボール 卓球	テニス バスケットボール バドミントン バレーボール フットサル	スポーツ文化
集中コース (1単位)	サイクル・スポーツ	スキー	
定時コース (半期1単位)	アクアエクササイズ エアロビクス&コンディショニング エアロビクス&ピラティス コンディショニング 水泳	トレーニング フィットネス ヨガ&ピラティス レクリエーション・スポーツ	ウェルネス文化
	剣道（古武道）	ダンスパフォーマンス	身体表現文化

※ 定時コースは、学園内の施設および近隣の外部施設を利用して、毎週1回、半期開講科目として行う。

※ 集中コースは、キャンパス以外の施設を利用し、シーズンの特徴を活かして、集中的に技能を習得しようとするもの。主に長期休暇を利用して行う。

授業実施にあたっての注意事項

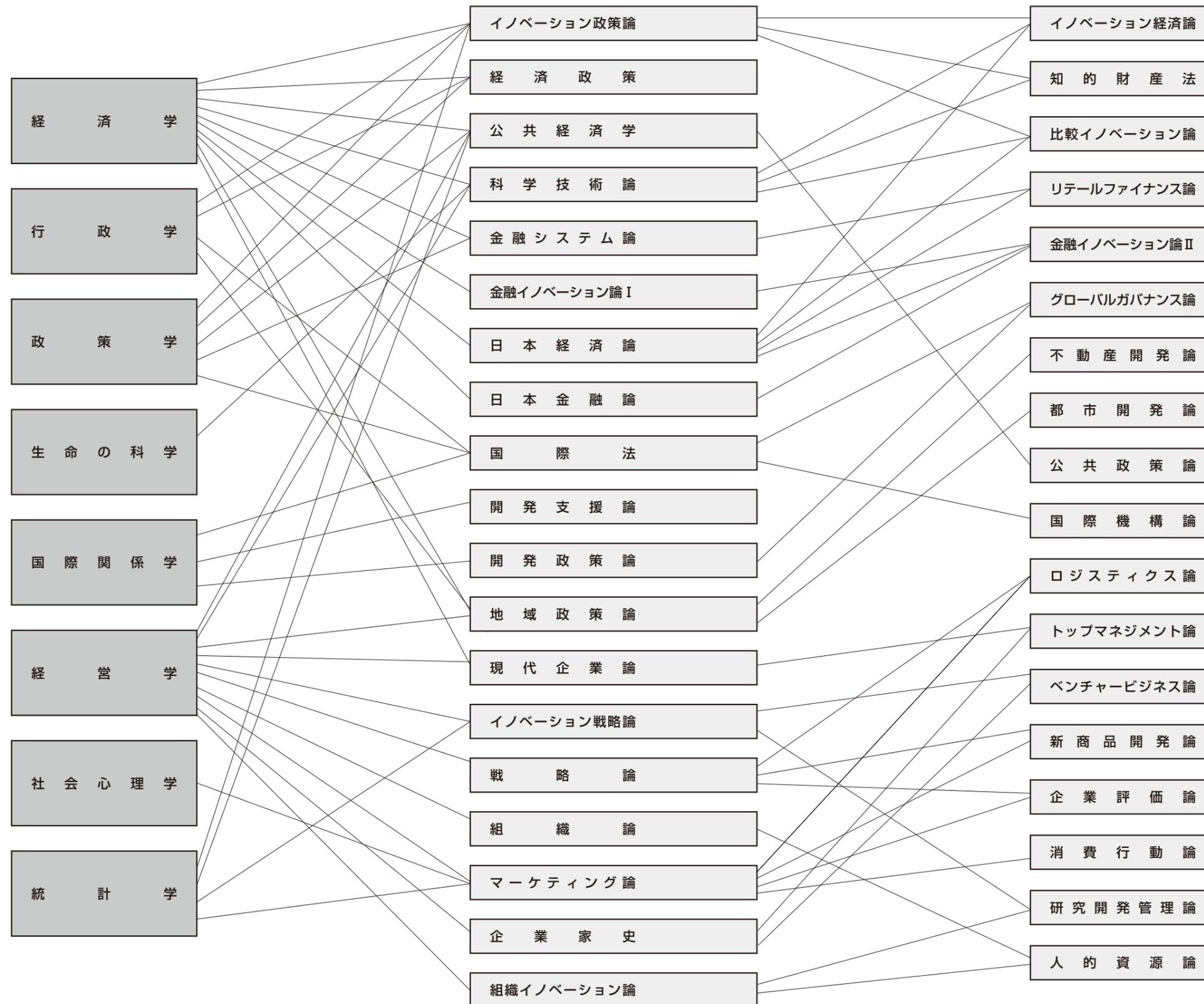
- ① 気象条件等により、実施場所等が変更になる場合があるので、第1体育館玄関中の掲示板の指示を確認すること。
- ② 実技の服装は運動専用で作られたものを使用すること。
- ③ 体育館・トレーニングセンターでは室内専用のシューズを使用すること。
- ④ 更衣は第1体育館更衣室を使用する。ロッカーは、ダイヤル式暗証番号（4桁）を入力する。
- ⑤ トレーニングセンターではロッカー室を使用する。
- ⑥ 盗難防止のため、多額の現金、宝飾品などは持参しない。
- ⑦ 体育館内での飲食、喫煙、土足は厳禁とする。

履修系統図

社会イノベーション学部
(政策イノベーション学科及び心理社会学科) …………… 150

社会イノベーション学部（政策イノベーション学科及び心理 社会学科）履修系統図

基礎科目（選択）並びに専門科目（選択科目）（政策系科目及び戦略系科目）

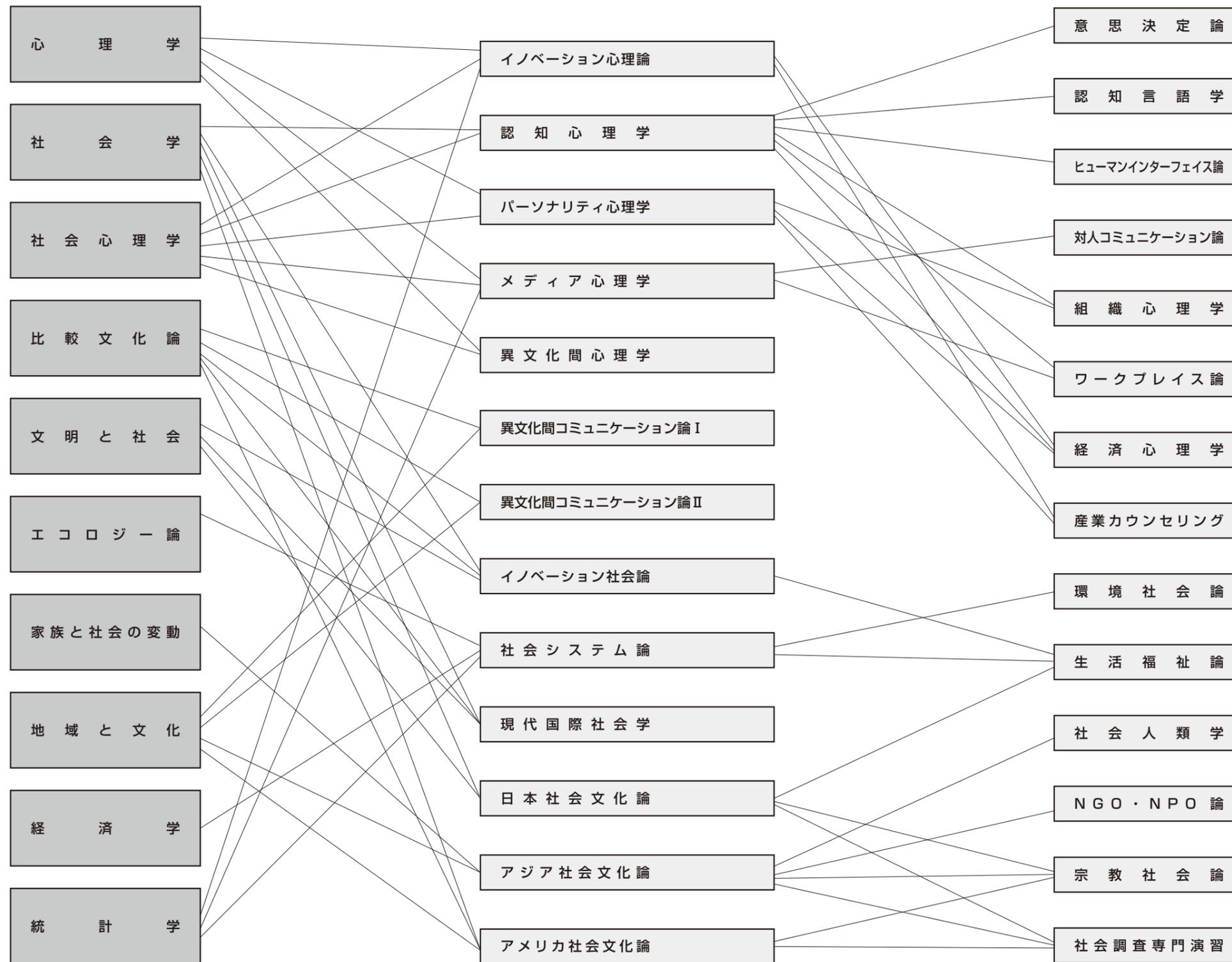


履修系統図

履修系統図

社会イノベーション学部（政策イノベーション学科及び心理 社会学科）履修系統図

基礎科目（選択）並びに専門科目（選択科目）（心理系科目及び社会系科目）



履修系統図

履修系統図

履修モデル

政策コース	156・160
戦略コース	157・161
心理コース	158・162
社会コース	159・163

履修モデル 政策コース 政策イノベーション学科に所属するA君の場合

将来は経済系の官庁に勤め、知識立国という新しい視点から新産業の育成に携わりたいと考えている。

〈政策レベルにおけるイノベーション・システムについて学ぶ〉
 日本が継続的に発展するためには、イノベーションをいかに生み出していくかが重要となる。そして、その鍵を握っているのが、政策レベルでのイノベーション・システムの確立である。政策コースでは、国のイノベーション政策の方向性、科学技術の動向、イノベーション遂行のための資金問題、国際的な技術移転などに関する知識を深めるとともに、企業レベルでのイノベーションの遂行、社会レベルでのイノベーションの普及についてもしっかり学ぶ。

	基礎科目	専門科目		
履修モデル	必修科目 イノベーション概論 科学技術と社会 情報リテラシー データ分析入門 選択 A 経済学 国際関係学 政策学 選択 C 生命の科学	しっかりと基礎を培う 「イノベーション概論」などの必修科目に加え、「経済学」、「国際関係学」、「政策学」などの基礎を学ぶ。 2年次からコースを選択	外国語科目 必修英語 English I : Skills for Learning [a]・[b] English I : Social Interaction English I : Academic Interaction English I : Reading and Writing [a]・[b] 一般共通科目 コンピュータ・リテラシー A1・A2 テニス 総合教養科目 教養演習	
	選択 A 行政学 社会学 選択 B 社会調査法 政策イノベーションを中心に、より深い認識を 専門科目はイノベーション政策やそれを支える金融システムに関する授業科目を中心に履修。また、企業のイノベーションやイノベーションと個人・社会の関わり、さらには社会の変容などについても認識を深める。	政策 イノベーション政策論 科学技術論 金融システム論 経済政策 戦略 イノベーション戦略論 社会 イノベーション社会学 現代国際社会学 ゼミナール 基礎ゼミナール（政策） 基礎ゼミナール（戦略）	外国語科目 必修英語 English II : Public Speaking English II : Presentation and Discussion English II : Academic Reading and Writing [a]・[b] English II : Business Reading and Writing [a]・[b] 学部共通科目 English for International Communication 仏語選択（初級） a・b 総合教養科目 生命科学の世界 a・b	関連分野の教養の幅を広げる
		政策 イノベーション経済論 金融イノベーション論 I・II 戦略 現代企業論 心理 イノベーション心理論 社会 環境社会学論 ゼミナール ゼミナール I	総合教養科目 言語コミュニケーション演習 学部共通科目 English for Academic Settings 仏語選択（中級） a・b	
		政策 知的財産法 戦略 ベンチャービジネス論 心理 メディア心理学 ゼミナール ゼミナール II 卒業研究 卒業研究	総合教養科目 地域空間論 IV a・b 卒業研究例 「イノベーション・システムと産業創造」	

めざす将来

政策、企業戦略、社会へとイノベーションの循環を達成し、それを基盤に新しい産業の創造を企画・立案できる能力を備えた人材。

さらに広がるキャリアプラン
 国家公務員、地方公務員、シンクタンク、NGO・NPO職員など

2016年度以降入学者

履修モデル 戦略コース 政策イノベーション学科に所属するBさんの場合

競争企業から一歩先行く新製品の開発プロジェクトリーダーを目指す。

〈企業を進化させる戦略的イノベーションにアプローチ〉

現代企業が成長し、事業を拡大していくためには、つねに競争企業から一歩先を行く新製品の開発が必要となる。もちろん、そうした新製品は技術的なものばかりではなく、マーケットニーズに対応した商品やサービスも含まれる。戦略コースでは、企業を持つ技術やブランドといった経営資源と顧客ニーズについて正しく把握し、企業を進化させるために必要な戦略的イノベーションの基本的な考え方から実践的な方法論までを学ぶ。

	基礎科目	専門科目	
1年	<p>必修科目 イノベーション概論 科学技術と社会 情報リテラシー データ分析入門</p> <p>選択 A 経済学 経営学 社会心理学</p> <p>選択 C 地域と文化</p>		<p>■外国語科目 必修英語 English I : Skills for Learning [a]・[b] English I : Social Interaction English I : Academic Interaction English I : Reading and Writing [a]・[b]</p> <p>■総合教養科目 自然科学 I a・b 心身論</p> <p>■一般共通科目 エアロビクス</p>
2年	<p>選択 B 市場調査法</p> <p>イノベーション戦略関連科目を重点的に学習 専門科目では企業の戦略関連科目を中心に学習し、理論から実践的手法までを学ぶ。また、国の政策や社会への普及も理解するとともに、プロジェクト運営という視点から「組織心理学」も履修する。</p>	<p>戦略 イノベーション戦略論 戦略論、マーケティング論 現代企業論</p> <p>心理 イノベーション心理論</p> <p>社会 社会システム論、現代国際社会学</p> <p>ゼミナール 基礎ゼミナール（戦略） 基礎ゼミナール（政策）</p>	<p>■外国語科目 必修英語 English II : Public Speaking English II : Presentation and Discussion English II : Academic Reading and Writing [a]・[b] English II : Business Reading and Writing [a]・[b]</p> <p>■学部共通科目 English for International Communication</p> <p>■総合教養科目 社会構造論 VI a・b 表象文化論入門 a・b</p>
		<p>政策 イノベーション政策論</p> <p>戦略 企業評価論 企業家史、新商品開発論 研究開発管理論、消費行動論 トップマネジメント論</p> <p>社会 異文化間コミュニケーション論 I・II</p> <p>ゼミナール ゼミナール I</p>	<p>■総合教養科目 言語コミュニケーション演習</p> <p>■学部共通科目 English for Academic Settings English for Practical Proficiency</p> <p>■一般共通科目 水泳 トレーニング</p>
4年		<p>政策 知的財産法</p> <p>戦略 ベンチャービジネス論</p> <p>心理 組織心理学、異文化間心理学</p> <p>ゼミナール ゼミナール II</p> <p>卒業研究 卒業研究</p>	<p>■学部共通科目 ビジネス英語 a・b</p> <p>卒業研究例 「企業成長における革新的イノベーションと漸新的イノベーションの役割」</p>

市場調査法で顧客ニーズを学ぶ
選択科目で基礎的な考え方を養うとともに、顧客ニーズの分析手法として「市場調査法」を履修。

2年次からコースを選択

関連分野の教養の幅を広げる

履修モデル

めざす将来

企業のシーズと市場のニーズ両面について詳しい知識を持ち、それらを踏まえてイノベティブな新製品の開発をリードし、新製品が社会に与える影響なども考慮できる人材。

さらに広がるキャリアプラン 企業の経営企画担当者、製品開発のプロジェクトリーダー、ベンチャービジネス経営者、事業コンサルタント、ベンチャーキャピタリストなど

履修モデル 心理コース 心理社会学科に所属するCさんの場合

イノベーションの普及過程を正しく理解した、情報戦略に詳しい**広告・広報担当者**を目指す。

〈個人とイノベーションの関係を体系的に学ぶ〉
 心理コースでは、イノベーションの認知や個人における創造性の開発など、イノベーションと人間の心理や行動との関わりを取り扱う。個人のパーソナリティがイノベーションの生成や受容に与える影響、ブランドの与える波及効果・心理的効果、さらにはイノベーションを生み出す組織内での課題解決コミュニケーションや人間関係。イノベーションと個人に関わるこうした諸テーマを体系的・発展的に考察できる能力を育む。

履修モデル

	基礎科目	専門科目	
1年	<p>必修科目 イノベーション概論 科学技術と社会 情報リテラシー データ分析入門</p> <p>選択A 心理学 社会心理学 経済学</p> <p>選択C 家族と社会の変動</p>	<p>心理・社会の基礎を学ぶ 「イノベーション概論」「科学技術と社会」の必修科目に加え、「心理学」「社会心理学」の基礎を学ぶ。</p> <p>2年次からコースを選択</p>	<p>■外国語科目 必修英語 English I : Skills for Learning [a]・[b] English I : Social Interaction English I : Academic Interaction English I : Reading and Writing [a]・[b]</p> <p>■総合教養科目 自然科学 I a・I b 心身論</p> <p>■一般共通科目 コンピュータ・リテラシー A1, A2</p>
2年	<p>選択B 市場調査法 心理実験法</p> <p>マーケットへのアプローチ方法を習得 市場性の有無や広告効果の測定などのノウハウを身につけるため、「市場調査法」「心理実験法」を履修する。</p>	<p>心理 イノベーション心理論 認知心理学 メディア心理学 パーソナリティ心理学 異文化間心理学</p> <p>社会 イノベーション社会論</p> <p>ゼミナール 基礎ゼミナール (心理) 基礎ゼミナール (社会)</p>	<p>■外国語科目 必修英語 English II : Public Speaking English II : Presentation and Discussion English II : Academic Reading and Writing [a]・[b] English II : Business Reading and Writing [a]・[b]</p> <p>■総合教養科目 表象文化論入門 a・b 教養演習</p>
3年	<p>新製品の普及過程と広告など情報戦略を履修する。 イノベーションの普及プロセス、メディア環境の変化とユーザーへの影響、新しい製品の受容、製品購入にいたるまでの過程などに関連した科目を履修。さらに、「知的財産法」などの授業科目で広告・広報の仕事に求められる知識を養う。</p>	<p>政策 イノベーション政策論</p> <p>戦略 マーケティング論 新商品開発論 消費行動論</p> <p>心理 ヒューマンインターフェイス論 意思決定論、組織心理学</p> <p>社会 生活福祉論 異文化間コミュニケーション論 I・II</p> <p>ゼミナール ゼミナール I</p>	<p>■総合教養科目 言語コミュニケーション演習</p> <p>■学部共通科目 中国語選択 (初級) I a・I b, (初級) II a・II b English for Practical Proficiency</p> <p>■一般共通科目 ゴルフ エアロビクス&コンディショニング</p>
4年		<p>心理 ワークプレイス論</p> <p>政策 知的財産法</p> <p>ゼミナール ゼミナール II</p> <p>卒業研究 卒業研究</p>	<p>■学部共通科目 中国語選択 (中級) a・b</p> <p>卒業研究例 「新製品の普及と広告メディアに関する一考察」</p>

めざす将来

新製品受容の心理過程、メディアの影響、消費者の意思決定などの知識に根ざした、**広告・広報活動を行う能力を持った人材。**

さらに広がるキャリアプラン
 広告・広報関連業務担当者、企業における人事管理（人的資源管理）担当者、企業内教育および総務担当者など

履修モデル 社会コース 心理社会学科に所属するD君の場合

アジアに興味があり、将来はシンクタンクでアジアにおける経済計画や開発についての仕事に就きたい。

〈社会・文化とイノベーションの関係を幅広い視野から探求する〉
 社会コースでは、イノベーションと社会との関わり、宗教・文化・環境とイノベーションの関係などにアプローチ。イノベーションが社会の在り方をどのように変化させるのか、地域の社会意識、社会構造、文化そのものにどのような影響を及ぼすのか、また逆に宗教や文化がイノベーションにどのような影響を与えるのか。こうした問題を実証的に学ぶことによって、より広い、よりグローバルな視野からイノベーションと社会の関係を探究する。

	基礎科目	専門科目	
1年	必修科目 イノベーション概論 科学技術と社会 情報リテラシー データ分析入門 選択A 社会学 社会心理学 国際関係学 選択C 文明と社会	2年次から コースを選択	外国語科目 必修英語 English I : Skills for Learning [a]・[b] English I : Social Interaction English I : Academic Interaction English I : Reading and Writing [a]・[b] 総合教養科目 教養演習
2年	選択B 社会調査法 イノベーションとグローバル社会を総合的に学ぶ グローバル化の問題と多様な社会の理解をめざし、多様な社会系科目を選択。また、実際にどのような経済計画や開発を行うかを学ぶための科目、さらに国際化や開発に伴う問題点やバランスのとれた社会の在り方を考えるための授業科目も履修する。	社会 イノベーション社会論 社会システム論 アジア社会文化論 現代国際社会学 政策 イノベーション政策論 ゼミナール 基礎ゼミナール(社会) 基礎ゼミナール(心理)	外国語科目 必修英語 English II : Public Speaking English II : Presentation and Discussion English II : Academic Reading and Writing [a]・[b] English II : Business Reading and Writing [a]・[b] 学部共通科目 English for International Communication 中国語選択(初級)Ia・Ib、(初級)IIa・IIb 一般共通科目 コンピュータ・リテラシーA1・A2
3年		政策 イノベーション経済論、開発政策論 戦略 イノベーション戦略論 心理 認知心理学 メディア心理学 社会 異文化間コミュニケーション論I・II 環境社会論、宗教社会論 ゼミナール ゼミナールI	総合教養科目 言語コミュニケーション演習 学部共通科目 English for Academic Settings 中国語選択(中級)a・b 総合教養科目 社会構造論IV a・b 一般共通科目 サッカー&フットサル テニス
4年		戦略 組織論 社会 生活福祉論 NGO・NPO論 ゼミナール ゼミナールII 卒業研究 卒業研究	卒業研究例 「アジアの社会と開発に関する一試論」

履修モデル

教養科目で幅広い知識を吸収

生きた英語能力を培う
 海外での活動を考え、外国語科目に加えて「English for International Communication」「English for Academic Settings」を履修する。

めざす将来

人間に対する基本的な知識をもち、グローバル化の問題と多様な社会のあり方を理解し、経済計画や開発についての実務能力を持った人材。

さらに広がるキャリアプラン
 国連等国際機関での活動従事者、ジャーナリスト、NGO・NPO職員など

履修モデル 政策コース 政策イノベーション学科に所属するE君の場合

将来は経済系の官庁に勤め、知識立国という新しい視点から新産業の育成に携わりたいと考えている。

〈政策レベルにおけるイノベーション・システムについて学ぶ〉
 日本が継続的に発展するためには、イノベーションをいかに生み出していくかが重要となる。そして、その鍵を握っているのが、政策レベルでのイノベーション・システムの確立である。政策コースでは、国のイノベーション政策の方向性、科学技術の動向、イノベーション遂行のための資金問題、国際的な技術移転などに関する知識を深めるとともに、企業レベルでのイノベーションの遂行、社会レベルでのイノベーションの普及についてもしっかり学ぶ。

履修モデル

	基礎科目	専門科目	
1年	<p>必修科目 イノベーション概論 科学技術と社会 情報リテラシー データ分析入門</p> <p>選択 A 経済学 国際関係学 政策学</p> <p>選択 C 生命の科学</p>	<p>しっかりと基礎を培う 「イノベーション概論」などの必修科目に加え、「経済学」、「国際関係学」、「政策学」などの基礎を学ぶ。</p> <p>2年次からコースを選択</p>	<p>■外国語科目 必修英語 英語リーディングⅠ 英語ベーシック・スキルズ 英語オーラル・コミュニケーション</p> <p>■一般共通科目 コンピュータ・リテラシーA1・A2 テニス</p> <p>■総合教養科目 教養演習</p>
2年	<p>選択 A 行政学 社会学</p> <p>選択 B 社会調査法</p> <p>政策イノベーションを中心に、より深い認識を 専門科目はイノベーション政策やそれを支える金融システムに関する科目を中心に履修。また、企業のイノベーションやイノベーションと個人・社会の関わり、さらには社会の変容などについても認識を深める。</p>	<p>政策 イノベーション政策論 科学技術論 金融システム論 経済政策</p> <p>戦略 イノベーション戦略論</p> <p>社会 イノベーション社会論、現代国際社会学</p> <p>ゼミナール 基礎ゼミナール（政策） 基礎ゼミナール（戦略）</p>	<p>■外国語科目 必修英語 英語リーディングⅡ 英語スタディー・スキルズ 英語ライティング</p> <p>■学部共通科目 TOEFL（ベーシック） 仏語選択（初級）Ⅰa・b、Ⅱa・b</p> <p>■総合教養科目 生命科学の世界 a・b</p> <p>関連分野の教養の幅を広げる</p>
3年		<p>政策 イノベーション経済論 金融イノベーション論Ⅰ・Ⅱ</p> <p>戦略 現代企業論</p> <p>心理 イノベーション心理論</p> <p>社会 環境社会論</p> <p>ゼミナール ゼミナールⅠ</p>	<p>■外国語科目 選択必修英語 英語セミナー</p> <p>■学部共通科目 TOEIC（アドヴァンスト） 仏語選択（中級）a・b</p>
4年		<p>政策 知的財産法</p> <p>戦略 ベンチャービジネス論</p> <p>心理 メディア心理学</p> <p>ゼミナール ゼミナールⅡ</p> <p>卒業研究 卒業研究</p>	<p>■総合教養科目 地域空間論Ⅳ a・b</p> <p>卒業研究例 「イノベーション・システムと産業創造」</p>

めざす将来

政策、企業戦略、社会へとイノベーションの循環を達成し、それを基盤に新しい産業の創造を企画・立案できる能力を備えた人材。

さらに広がるキャリアプラン
 国家公務員、地方公務員、シンクタンク、
 NGO・NPO職員など

2015年度以前入学者

履修モデル 戦略コース 政策イノベーション学科に所属するFさんの場合

競争企業から一歩先行く新製品の開発プロジェクトリーダーを目指す。

〈企業を進化させる戦略的イノベーションにアプローチ〉

現代企業が成長し、事業を拡大していくためには、つねに競争企業から一歩先を行く新製品の開発が必要となる。もちろん、そうした新製品は技術的なものばかりではなく、マーケットニーズに対応した商品やサービスも含まれる。戦略コースでは、企業の持つ技術やブランドといった経営資源と顧客ニーズについて正しく把握し、企業を進化させるために必要な戦略的イノベーションの基本的な考え方から実践的な方法論までを学ぶ。

	基礎科目	専門科目	
1年	<p>必修科目 イノベーション概論 科学技術と社会 情報リテラシー データ分析入門</p> <p>選択 A 経済学 経営学 社会心理学</p> <p>選択 C 地域と文化</p>		<p>■ 外国語科目 必修英語 英語リーディング I 英語ベーシック・スキルズ 英語オーラル・コミュニケーション</p> <p>■ 総合教養科目 自然科学 I a・b 心身論</p> <p>■ 一般共通科目 エアロビクス</p>
2年	<p>選択 B 市場調査法</p> <p>イノベーション戦略関連科目を重点的に学習 専門科目では企業の戦略関連科目を中心に学習し、理論から実践的手法までを学ぶ。また、国の政策や社会への普及も理解するとともに、プロジェクト運営という視点から「組織心理学」も履修する。</p>	<p>2年次からコースを選択</p> <p>戦略 イノベーション戦略論 戦略論、マーケティング論 現代企業論</p> <p>心理 イノベーション心理論</p> <p>社会 社会システム論、現代国際社会学</p> <p>ゼミナール 基礎ゼミナール（戦略） 基礎ゼミナール（政策）</p>	<p>■ 外国語科目 必修英語 英語リーディング II 英語スタディー・スキルズ 英語ライティング</p> <p>■ 学部共通科目 TOEFL（ベーシック）</p> <p>■ 総合教養科目 社会構造論 VI a・b 表象文化論入門 a・b</p>
		<p>政策 イノベーション政策論</p> <p>戦略 企業評価論 企業家史、新商品開発論 研究開発管理論、消費行動論 トップマネジメント論</p> <p>社会 異文化間コミュニケーション論 I・II</p> <p>ゼミナール ゼミナール I</p>	<p>■ 外国語科目 選択必修英語 英語セミナー</p> <p>■ 学部共通科目 TOEIC（アドヴァンスト） 仏語選択（中級） a・b</p> <p>■ 一般共通科目 水泳 トレーニング</p>
4年		<p>政策 知的財産法</p> <p>戦略 ベンチャービジネス論</p> <p>心理 組織心理学、異文化間心理学</p> <p>ゼミナール ゼミナール II</p> <p>卒業研究 卒業研究</p>	<p>■ 学部共通科目 ビジネス英語</p> <p>卒業研究例 「企業成長における革新的イノベーションと漸新的イノベーションの役割」</p>

履修モデル

幅広い視野と創造力を養う

めざす将来

企業のシーズと市場のニーズ両面について詳しい知識を持ち、それらを踏まえてイノベティブな新製品の開発をリードし、新製品が社会に与える影響なども考慮できる人材。

さらに広がるキャリアプラン 企業の経営企画担当者、製品開発のプロジェクトリーダー、ベンチャービジネス経営者、事業コンサルタント、ベンチャーキャピタリストなど

履修モデル 心理コース 心理社会学科に所属するGさんの場合

イノベーションの普及過程を正しく理解した、情報戦略に詳しい**広告・広報担当者**を目指す。

〈個人とイノベーションの関係を体系的に学ぶ〉
 心理コースでは、イノベーションの認知や個人における創造性の開発など、イノベーションと人間の心理や行動との関わりを取り扱う。個人のパーソナリティがイノベーションの生成や受容に与える影響、ブランドの与える波及効果・心理的効果、さらにはイノベーションを生み出す組織内での課題解決コミュニケーションや人間関係。イノベーションと個人に関わるこうした諸テーマを体系的・発展的に考察できる能力を育む。

履修モデル

	基礎科目	専門科目	
1年	<p>必修科目 イノベーション概論 科学技術と社会 情報リテラシー データ分析入門</p> <p>選択A 心理学 社会心理学 経済学</p> <p>選択C 家族と社会の変動</p>	<p>心理・社会の基礎を学ぶ 「イノベーション概論」「科学技術と社会」の必修科目に加え、「心理学」「社会心理学」の基礎を学ぶ。</p> <p>2年次からコースを選択</p>	<p>■外国語科目 必修英語 英語リーディングⅠ 英語ベーシック・スキルズ 英語オーラル・コミュニケーション</p> <p>■総合教養科目 自然科学Ⅰa・Ⅰb 心身論</p> <p>■一般共通科目 コンピュータ・リテラシーA1・A2</p>
2年	<p>選択B 市場調査法 心理実験法</p> <p>マーケットへのアプローチ方法を習得 市場性の有無や広告効果の測定などのノウハウを身につけるため、「市場調査法」「心理実験法」を履修する。</p>	<p>心理 イノベーション心理論 認知心理学 メディア心理学 パーソナリティ心理学 異文化間心理学</p> <p>社会 イノベーション社会論</p> <p>ゼミナール 基礎ゼミナール（心理） 基礎ゼミナール（社会）</p>	<p>■外国語科目 必修英語 英語リーディングⅡ 英語スタディー・スキルズ 英語ライティング</p> <p>■総合教養科目 表象文化論入門a・b 教養演習</p>
3年	<p>新製品の普及過程と広告など情報戦略を履修する。 イノベーションの普及プロセス、メディア環境の変化とユーザーへの影響、新しい製品の受容、製品購入にいたるまでの過程などに関連した科目を履修。さらに、「知的財産法」などの授業科目で広告・広報の仕事に求められる知識を養う。</p>	<p>政策 イノベーション政策論</p> <p>戦略 マーケティング論 新商品開発論 消費行動論</p> <p>心理 ヒューマンインターフェイス論 意思決定論、組織心理学</p> <p>社会 生活福祉論 異文化間コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ</p> <p>ゼミナール ゼミナールⅠ</p>	<p>■外国語科目 選択必修英語 英語セミナー</p> <p>■学部共通科目 中国語選択（初級）Ⅰa・Ⅰb、（初級）Ⅱa・Ⅱb ビジネス英語a・b</p> <p>■一般共通科目 ゴルフ エアロビクス&コンディショニング</p>
4年		<p>心理 ワークプレイス論</p> <p>政策 知的財産法</p> <p>ゼミナール ゼミナールⅡ</p> <p>卒業研究 卒業研究</p>	<p>■学部共通科目 中国語選択（中級）a・b</p> <p>卒業研究例 「新製品の普及と広告メディアに関する一考察」</p>

めざす将来

新製品受容の心理過程、メディアの影響、消費者の意思決定などの知識に根ざした、**広告・広報活動を行う能力を持った人材。**

さらに広がるキャリアプラン
 広告・広報関連業務担当者、企業における人事管理（人的資源管理）担当者、企業内教育および総務担当者など

2015年度以前入学者

履修モデル 社会コース 心理社会学科に所属するH君の場合

アジアに興味があり、将来はシンクタンクでアジアにおける経済計画や開発についての仕事に就きたい。

〈社会・文化とイノベーションの関係を幅広い視野から探求する〉
 社会コースでは、イノベーションと社会との関わり、宗教・文化・環境とイノベーションの関係などにアプローチ。イノベーションが社会の在り方をどのように変化させるのか、地域の社会意識、社会構造、文化そのものにどのような影響を及ぼすのか、また逆に宗教や文化がイノベーションにどのような影響を与えるのか。こうした問題を実証的に学ぶことによって、より広い、よりグローバルな視野からイノベーションと社会の関係を探究する。

	基礎科目	専門科目	
1年	<p>必修科目 イノベーション概論 科学技術と社会 情報リテラシー データ分析入門</p> <p>選択A 社会学 社会心理学 国際関係学</p> <p>選択C 文明と社会</p>	<p>2年次から コースを選択</p>	<p>■外国語科目 必修英語 英語リーディングⅠ 英語ベーシック・スキルズ 英語オーラル・コミュニケーション</p> <p>■総合教養科目 教養演習</p>
2年	<p>選択B 社会調査法</p> <p>イノベーションとグローバル社会を総合的に学ぶ グローバル化の問題と多様な社会の理解をめざし、多様な社会系科目を選択。また、実際にどのような経済計画や開発を行うかを学ぶための科目、さらに国際化や開発に伴う問題点やバランスのとれた社会の在り方を考えるための授業科目も履修する。</p>	<p>社会 イノベーション社会論 社会システム論 アジア社会文化論 現代国際社会学</p> <p>政策 イノベーション政策論</p> <p>ゼミナール 基礎ゼミナール(社会) 基礎ゼミナール(心理)</p>	<p>■外国語科目 必修英語 英語リーディングⅡ 英語スタディー・スキルズ 英語ライティング</p> <p>■学部共通科目 TOEIC(ベーシック) 中国語選択(初級)Ⅰa・Ⅰb、(初級)Ⅱa・Ⅱb</p> <p>■一般共通科目 コンピュータ・リテラシーA1、A2</p>
3年		<p>政策 イノベーション経済論、開発政策論</p> <p>戦略 イノベーション戦略論</p> <p>心理 認知心理学 メディア心理学</p> <p>社会 異文化間コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ 環境社会論 宗教社会論</p> <p>ゼミナール ゼミナールⅠ</p>	<p>■外国語科目 選択必修英語 英語セミナー</p> <p>■学部共通科目 TOEIC(アドヴァンスト) 中国語選択(中級)a・b</p> <p>■総合教養科目 社会構造論Ⅳa・b</p> <p>■一般共通科目 サッカー&フットサル テニス</p>
4年		<p>戦略 組織論</p> <p>社会 生活福祉論 NGO・NPO論</p> <p>ゼミナール ゼミナールⅡ</p> <p>卒業研究 卒業研究</p>	<p>卒業研究例 「アジアの社会と開発に関する一試論」</p>

履修モデル

教養科目で幅広い知識を吸収

生きた英語能力を培う
海外での活動を考え、外国語科目に加えて「TOEIC(ベーシック)」「TOEIC(アドヴァンスト)」を履修する。

めざす将来

人間に対する基本的な知識をもち、グローバル化の問題と多様な社会のあり方を理解し、経済計画や開発についての実務能力を持った人材。

さらに広がるキャリアプラン
国連等国際機関での活動従事者、ジャーナリスト、NGO・NPO職員など

社会調査士資格

1 社会調査士資格とは

社会調査に関する基礎的な知識・技能、相応の応用力と倫理観を身に付けた人に対して与えられる資格である。資格の認定は、日本教育社会学会、日本行動計量学会、日本社会学会の三学会を基盤とする一般社団法人社会調査協会（以下、「社会調査協会」という）が行う。

2 資格取得の条件

社会調査士の資格を取得するためには、社会調査協会が標準カリキュラムとして認定した科目の単位を修得し、学士の学位を取得した上で、社会調査協会に対して資格認定の申請を行う必要がある。

※ 申請手続きの詳細は、社会調査協会のホームページで確認すること。

【標準カリキュラム】

科目区分		備考
A	社会調査の基本的事項に関する科目	必ず修得すること。
B	調査設計と実施方法に関する科目	必ず修得すること。
C	基本的な資料とデータの分析に関する科目	必ず修得すること。
D	社会調査に必要な統計学に関する科目	必ず修得すること。
E	多変量解析の方法に関する科目	どちらか1つで可。
F	質的な調査と分析の方法に関する科目	
G	社会調査を実際に経験し学習する科目	必ず修得すること。

3 本学部での対応科目

本学部での開講科目では、以下の科目が標準科目として対応している。

※ 2015年度以前開講の認定科目については、社会調査協会のホームページで確認すること。

【認定科目一覧】

標準カリキュラム	本学部開講科目	備考
A 社会調査の基本的事項に関する科目	社会調査法	社会調査法の単位により、A・B双方を修得することになる。
B 調査設計と実施方法に関する科目		
C 基本的な資料とデータの分析に関する科目	情報リテラシー	
D 社会調査に必要な統計学に関する科目	データ分析入門	
E 多変量解析の方法に関する科目	市場調査法 コンピュータ・リテラシーC	いずれか1科目
G 社会調査を実際に経験し学習する科目	社会調査演習 【2015年度以前入学者】 社会調査専門演習 【2016年度以降入学者】	

4 問い合わせ

〔一般社団法人社会調査協会事務局〕

〒113-0033 東京都文京区本郷5-25-18 メゾン鈴博3F

TEL&FAX : 03-6273-9784

ホームページ : <http://jasr.or.jp/>

〔学部問い合わせ先〕

社会イノベーション学部研究事務室

〒157-8511 世田谷区成城6-1-20

TEL : 03-3482-9764

E-Mail : ninno121@seijo.ac.jp